

平成19年度

大学院生による授業評価実施報告書

平成20年9月

鳴門教育大学 大学院学校教育研究科

授業担当者は常に自らが実施した授業を反省し、そこでの反省点をフィードバックして次年度以降の授業改善の一助とする。その際、学生自身による授業評価は自らの授業の成果や問題点を浮き彫りにする上でこれ以上ない情報を提供してくれるものであり、大学教員の授業改善にとって今や不可欠なものとなっている。

2000 年度より本学大学院で全国に先駆けて開始された「大学院生による授業評価」も 2007 年度で 8 回目を迎えた。本報告書はこの 2007 年度に実施された評価結果およびその結果に対する授業担当者の分析・考察をまとめたものである。昨年度実施された「大学院生による授業評価」はこれまでの形式を踏襲した。すなわち、「授業内容」、「教員の授業の進め方」、「学生自身の授業への取り組み」、「授業の満足度」に関する 17 の質問項目を 5 段階評価した後、「学生自身が授業に臨む際の問題意識・期待」、「授業と教員の実践力育成のかかわり」、「授業の良かった点・改善点」について自由記述する方式である。私自身、自らの授業に対する、さまざまな意見や評価を目にして、授業者の立場では気がつかない授業の効果や問題点を常に関心を感じ参考にしている。学生自身による評価は、概ね授業担当者にとって傾聴すべき提言を含む貴重な「声」となっていると見えるであろう。

ただし、すでに馴染みとなった感のある「大学院生による授業評価」は、現在そのあり方が再検討されるべき時期に至っている。本学大学院には 2008 年度より「教職大学院」が開設されたが、この教職大学院での授業評価はいかにあるべきかが検討されなければならないし、同時にそれは既設大学院の授業評価のあり方の再考も促すことになるであろう。既設大学院でも 2008 年度から新カリキュラムが実施されているだけに、「大学院生による授業評価」も質問項目を含めて今後その実施方法を見直す必要があるかもしれない。しかし、いずれにしても、「大学院生による授業評価」が今後も大学教員の授業改善の一方途として継続・拡充されていくことは間違いないであろう。本報告書が本学大学院の授業改善において役立つことを願ってやまない。

最後に、本報告書を作成するに当たり、授業評価において積極的に協力してくれた大学院生並びに本事業の実施に協力いただいた関係各位に厚くお礼申し上げる次第である。

2008 年 9 月

大学院学校教育研究科教務委員会
大学院生による授業評価専門部会主査

原田 昌博

目次

1 部

比較教育社会学研究 伴 恒信	1
発達健康心理学研究 山崎 勝之	4
教育認知心理学研究 皆川 直凡	7
教職研究 佐竹 勝利	10
教育リーダーシップ研究 大西 宏	13
学級経営改善研究 久我 直人	16
教育工学研究 川上 綾子	19
道徳教育指導論研究 兼松 儀郎	22
臨床心理面接研究Ⅱ 栗飯原良造	25
学校精神保健学演習 今田 雄三	28
臨床心理学研究Ⅱ 葛西真記子・中津 郁子	31
臨床心理面接演習 葛西真記子・佐藤 亨	34
教育課題探究（臨床心理学基礎研究） 小坂 浩嗣・末内 佳代	37
臨床心理査定演習Ⅱ 佐藤 亨	40
幼年期教育学研究 橋川喜美代	43
幼年発達心理研究 田村 隆宏	46
幼年発達と幼児教育内容論 塩路 晶子	49
特別支援教育学習支援演習 島田 恭仁	52
特別支援教育学研究論Ⅰ 八幡ゆかり	55
特別支援教育学研究論Ⅱ 大谷 博俊	58

2 部

文化間教育総論 小西 正雄・太田 直也	61
現代の諸課題と学校教育 小西 正雄	64
教育課題探究（現代社会と総合学習） 近森 憲助・西村 宏・藤村 裕一・村川 雅弘	67
環境教育特論Ⅰ（基礎） 西村 宏・近森 憲助・香西 武・工藤 慎一	70
地球惑星物質学特論 西村 宏・村田 守	73
現代の子どもと学校教育 谷村 千絵	76
言語教育基礎論Ⅰ 原 卓志・茂木 俊伸	79
国語科授業研究 幾田 伸司	82
国語科教材開発研究 余郷 裕次	85
日本語音声表現研究 永田 良太	88
現代日本語研究 茂木 俊伸	91

英語科教育特論Ⅰ 伊東 治己	94
教育課題探究(英語科/英語教育基礎論) 太田垣正義・前田 一平・藪下 克彦	97
英語科教育特論Ⅲ 太田垣正義	100
英米文化研究Ⅱ 前田 一平	103
英語科教育演習Ⅱ 山森 直人	106
歴史学研究Ⅰ 大石 雅章	109
地理学研究Ⅰ 木原 克司	112
哲学・倫理学研究 齋木 哲郎	115
地理学研究Ⅱ 立岡 裕士	118
現代の諸課題と社会認識教育 西村 公孝	121
社会科授業研究 梅津 正美	124
社会科教育学研究 草原 和博	127
歴史学研究Ⅲ 原田 昌博	130
歴史学研究Ⅱ 町田 哲	133

3 部

数学科教育学研究 齋藤 昇・秋田 美代	137
解析学研究 成川 公昭	140
代数学演習 平野 康之	143
教育課題探究(数学教育の課題と探究) 秋田 美代・齋藤 昇	146
数学科教材開発研究 秋田 美代・齋藤 昇	149
数学科教材開発演習 秋田 美代・齋藤 昇	152
数理科学研究 鳥巢伊知郎	155
有機化学特論 今倉 康宏	158
分子生物学特論 清水 宏次	161
電磁気学特論 松川 徳雄	164
無機化学特論 村田 勝夫	167
地球科学特論Ⅰ 村田 守・香西 武・西村 宏	170
エネルギー・物質と環境特論 栗田 高明	173
教育課題探究(理科) 香西 武・佐藤 勝幸・本田 亮・武田 清	176
進化生物学特論 工藤 慎一	179
物理化学特論 武田 清	181
物性物理学特論 本田 亮	184

4 部

音楽劇総合演習 草下 實	187
--------------	-----

声楽発声法 頃安 利秀	190
楽曲分析研究 松岡 貴史	193
ピアノ演奏基礎演習 村澤由利子・森 正	196
学校教材ピアノ伴奏法 村澤由利子	199
音楽科教育研究 長島 真人	202
指揮法基礎演習 山田 啓明	205
塑造制作演習 長岡 強	208
美術科教育学研究 橋本 泰幸	211
油画制作演習 鈴木 久人	214
映像デザイン演習 内藤 隆	217
石彫制作演習 野崎 窮	220

5 部

体育・スポーツ心理学研究 賀川 昌明	223
運動生理学研究 田中 弘之	226
学校保健学研究 吉本佐雅子	229
スポーツ社会学研究 木原 資裕	232
スポーツ社会学演習 木原 資裕	235
学校体育経営研究 藤田 雅文	238
スポーツ・バイオメカニクス研究 松井 敦典	241
スポーツ・トレーニング研究 南 隆尚	244
情報処理研究 菊地 章	247
エネルギー工学研究 木下 凱文	250
画像情報処理研究 伊藤 陽介	253
木質材料加工法演習 米延 仁志	256
家庭科教育学研究 鳥井 葉子	259
生活経営学研究 渡邊 廣二	262
住生活学研究 金 貞均	265
食生活学研究 西川 和孝・前田 英雄	268
衣生活学研究 福井 典代	271

附属教育研究施設等

体育授業計画研究 坂本 和丈	275
版面制作演習 武市 勝	278
情報応用演習 曾根 直人	280
数学科授業研究 服部 勝憲	283

第1部

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評価実施日	平成 19 年 7 月 23 日			
授業科目名	比較教育社会学研究	学期・曜日・時限	前 期	月 曜 日	4 時 限	
授業区分	1. 教職基礎科目 ②. 専門科目					
担当教員名	伴 恒信	回答者数	12 名			

1 アンケート [1] の集計と分析について

(5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない)
 (2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 --- 未記入)

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	7	3	2			
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	6	3	2	1		
3	授業の内容には一貫性があった。	7	3	2			
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。						
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	4	7	1			
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	9	3				
7	授業の進む速さは適切であった。	6	4	2			
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	6	5	1			
9	受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。	8	4				
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	4	6	1	1		
11	視聴覚機器の使用は適切であった。	9	2	1			
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。	7	4	1			
13	受講生に分かりやすく説明した。	8	3	1			
14	教員の声は聞き取りやすかった。	9	3				
15	板書の文字は見やすかった。	4	7	1			
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7	5				
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	7	5				

<分 析>

本授業に対するすべての質問項目において、平均値 4.1 から 4.8 までと 4 を上回り、高い評価を得られている。ことに、授業全体の満足度を示す項目 17 「この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。」については、5 と 4 の評価のみでしかも 6 割の受講生が最高の 5 の評価をしている。受講生の四分之三が 5 の評価をしている項目は、「授業をよく準備し、熱心に教えた。」「教員の声は聞き取りやすかった。」「視聴覚機器の使用は適切であった。」で、教員の授業への取り組みの姿勢は極めて良く評価してくれているようである。

幅広い諸外国の最新の教育事情を扱うことを本授業の特色ともしているため、既存のテキストなどはなく、「教科書や参考書の使い方は適切であった。」の項目については評価が 4.1 と最も低くなっているものの、「配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。」の項目は 4.5 とそれを補っている。本授業の評価項目から項目 10 を外すべきであったかもしれない。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが、具体的にお書きください。

<分 析>

「世界の国々の教育制度について学んでみたいと考えたため」「諸外国との教育文化の比較というグローバルな視点から日本の教育を見つめたいと考えておりました」「道徳教育について各国の考え方が知ることができる」「各国の道徳教育を知り、それらを日本の道徳教育と比較し、現場に出たときに役立つ何かがあればとの期待をもって受講した。」などの問題意識や期待が述べられていたが、結果として「世界と日本を比較することで、今のそして今後の教育展開を考えることができました。」と感想を述べたものもあった。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

本授業の目的ではないので、評価項目より除外。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

「発表する機会があり、あた、それによって様々な国のことを知ることができ、まさに教育を比較することができた。大変ためになった。」「自由度の高い発表はとても楽しかった。」など、主体的な発表による授業参加が好評を得たが、「授業発表の後、伴先生の話がもう少し聞けたらと思いました。」「先生の知識が幅広かったので、生徒にある程度の予備知識がないと難しい点もあったと思います。が、大変面白かったです。ありがとうございました。」と発表後の時間が十分に取れずに消化不良の部分もあったかに思う。なかには具体的に、「受講者の発表の内容について、日本との比較にしぼって考察し、意見をまとめたものを発表するというので、それをもとに討議する形にしてはどうでしょうか。」との提案もあった。

また、パワーポイント等を活用したことで、「パワーポイントなどで、分かりやすかったです。」「映像を用いて楽しく学びました。」「パワーポイントを使って説明したこと。口頭だけより理解度が増す。」と楽しく理解できたとの感想が多数寄せられた。

5 本授業の成果と今後の課題について

これまでの受講生の意見や感想で、ほとんど全て言い尽くされているように思われる。ここ数年、受講者の主体的な関心と取り組みを如何に促すかに腐心してきたが、今回はそれなりの成果をあげることができたようである。来年度は、受講生らの提案を加味しながらさらに改善をはかりたい。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

	評価実施日	平成 19 年 7 月 24 日	
授業科目名	発達健康心理学研究	学期・曜日・時限	前期 火曜日 4 時限
授業区分	1. 教職基礎科目 (2) 専門科目		
担当教員名	山崎 勝之	回答者数	12 名

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
 [2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入]

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	9	3				
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	2	7	3			
3	授業の内容には一貫性があった。	10	2				
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	7	5				
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	8	4				
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	11	1				
7	授業の進む速さは適切であった。	4	5	3			
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	6	4	2			
9	受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。	12					
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。						
11	視聴覚機器の使用は適切であった。	9	3				
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。	10	2				
13	受講生に分かりやすく説明した。	7	5				
14	教員の声は聞き取りやすかった。	9	3				
15	板書の文字は見やすかった。	4	3	3	2		
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7	3	2			
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	7	5				

<分 析>

まず、17番は、全員が5と4の評価に入り、受講生には満足できる授業となったことが全体評価の分析として強調される。また、9番は全員5評価で、授業者が目指した、受講生の積極的な授業参加の意図はよく伝わったと思われる。この評定と比較して、16番の受講者の主体的、積極的な取り組みには、5と4の評価が多いものの、3評価が少しあったことには注意を要する。

また、板書の文字は相変わらずそれほど見やすいものではなかったようだが、視聴覚機器を多用し、板書の必要を最低限にとどめたことから、板書をほとんど利用する必要がない授業構成・進行となり、この評価項目自体がこの授業には合わないのかもしれない。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

受講者は、心理学、発達、健康への学びを深化したかったことが主たる問題意識や期待であったようだ。この点においては、本授業内容はほぼ完璧にその期待に沿った内容で構成されていたことから、受講者の構えと授業内容には齟齬はなかったものと判断される。

ただ、このアンケート部分の記述は全般的に簡素で、詳細な分析を必要としないほどである。結局、シラバスに書かれていたことを期待し、ほぼその通りの授業内容が展開されたことから、当然のことながら、シラバス記載の内容に期待をもって受講した受講生には、その点において多くを記述することへの動機づけが低かったということであろうか。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

本授業は、学校での新たな教育的実践が主たる授業テーマであった。このことから、教師の実践力の育成に役立つ内容であったと確信するし、その方向での評価も記述されていた。

ただ、この授業で紹介される学校における予防プログラムは、これまでの学校教育にはない斬新なもので、この点において、ほとんどの受講生には、これまでの学校教育で展開される実践力とは異質な実践力のあり方にふれることになり、それを自分にもものにまで高められたかどうかは定かではない。しかし、このような新教育にふれることによって、学校教育のあり方を根本的に見直す機会になったようで、授業者が目指す、偏見にとらわれずにすべてを白紙の上から考え直す思考力を刺激し、育成できたのではないかと考えている。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

授業の良かった点が多数記述されていて授業者は安堵したが、わずか2点しか指摘されていない改善点に、今後の授業改善を真摯に考えると、その材料の少なさに不安を覚える。

記載された改善点は、中学校を主体とする内容を増やしてほしいことと、話すペースを落としてほしいときがあった、ということであった。なるほど、この指摘はその通りであったかもしれない。受講者のニーズは広いことから、焦点がずれない程度に誕生から中学生までの話題を広く扱えばよいと感じている。

いずれにしても、授業への討議に積極的に参加でき、自ら考えることができた点は好評で、この要素は、授業中だけではなく、インターネットを通じて授業外にまで展開できたことはなおさら良かったようである。

5 本授業の成果と今後の課題について

本授業は、学校において児童・生徒の適応と健康を守る、これまでにない、新たな予防教育をその理論面から実践面に至るまで紹介することを眼目に展開された。また、受講生への独創力、討議力、思考力を高めることが最重要と位置づけ、そのための授業方法を多彩に取り入れながら展開された。

このような授業をやりはじめて数年たつが、この路線は着実に整備され、大きな成果を得つつあると感じる。大学の授業は決して単なる知識の提供であってはいけない。この短い授業時間が終わったのちも、色褪せることなく続く創造性を培うことが最大の使命であろう。このことがいかに達成されるのか、されたのか？ この点を常に最重要課題をとらえ、授業の改善は行い続けたい。

しかし、考えられるだけのことをやっている今、次にやれることは何だろうか。その一つは、授業におけるピア活動の質を高めることであろうか。今は小グループを構成して、適切な討議と発表の機会を提供しているが、このグループの構成と活動には心理学上の専門知識をさらに適用することができる余地が多分にあり、今後の改善点としたい。

それに、受講生のきめ細かい個人の授業へのニーズを把握し、それに合わせて授業内容や展開を微修正する余裕と時間ももてればと考える。さらには、大学の授業は、授業者の専門的な研究活動の高まりがその質を保証することから、授業の内容によっては授業者の独創的な見解の注入が乏しい側面もみられるので、自らの研究活動もさらに高めるといった姿勢も忘れないようにしたい。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評価実施日	平成 19 年 7 月 25 日		
授業科目名	教育認知心理学研究	学期・曜日・時限	前期 水曜日 2 時限		
授業区分	1. 教職基礎科目 ② 専門科目				
担当教員名	皆川直凡	回答者数	22 名		

1 アンケート [1] の集計と分析について

(5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない)
 (2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 --- 未記入)

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	10	11	1			
2	授業概要や授業中に紹介された参考書は役に立った。	8	11	2	1		
3	授業の内容には一貫性があった。	16	5	1			
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	8	10	2	1		
5	授業開始時や途中の成績評価の方法の説明は、具体的であった。	12	8	1	1		
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	18	4				
7	授業の進む速さは適切であった。	10	10	1	1		
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	5	8	9			
9	受講生に授業への参加（小課題，質問など）をよく促した。	8	7	6	1		
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	—	—	—	—	—	—
11	プレゼンテーション機器の使用は適切であった。	16	4	2			
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。	15	6	1			
13	受講生に分かりやすく説明した。	8	12	2			
14	教員の声は聞き取りやすかった。	11	7	4			
15	スクリーンに提示される文字は見やすかった。	13	6	2	1		
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	10	11	1			
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	8	13	1			

<分 析>

授業の内容についての4項目では、4以上の評価者が大半を占め、平均評価値は4.2～4.7であった。また、この4項目で最低値3・2・3・2を付けたのは同じ評価者である。大半の評価者（22名中21名）がかなり高い満足度を示したとみてよいであろう。教員の授業の進め方についての項目のうち、項目番号8・9以外の8項目については、4以上の評価者が大半を占め、平均評価値は4.3～4.8であった。この領域で、1ないし2項目で評価値2を付けた評価者は2名であった。大半の評価者（20名）がかなり高い満足度を示したとみてよいであろう。なお、項目8と9では、評定値3がやや多く、平均評定値は3.8と4.0であった。このように、受講生の理解度の確認と授業への参加促進の取り組みについては満足度が相対的に低く、改善する必要がある。受講生の授業への取り組みについての項目では、4以上の評価者が大半を占め、平均評価値は4.4であった。また、受講生の授業全体への満足度についての項目では、4以上の評価者が大半を占め、平均評価値は4.3であった。この2項目で最低値3を付けたのは同じ評価者である。大半の評価者（22名中21名）がかなり高い満足度を示したとみてよいであろう。ただし、両項目とも、評価4が5よりも多いことから、働きかけの工夫において、改善の余地はある。なお、全16項目の受講生別平均評価値は、4.5以上が10名、4.0～4.4が8名、3.5～3.9が3名、3.0～3.4が1名であった。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

受講生から、以下のような問題意識や期待が寄せられた。なお、受講生間で同趣旨とみられる記述は集約して示し、末尾のかっこ内に、それぞれの人数を示した。

- ・ 認知心理学（認知の過程）について、理解を深めたい（深く学びたい）。（3名）
- ・ 認知の過程について、基本的なところから学びたい（知りたかった）。（3名）
- ・ 学習支援の具体的方法を学ぶには認知心理学が必要だと思った。（1名）
- ・ 学びや認知的処理に関する基本的な知識を得たかった。（1名）
- ・ 教育現場で生かすことのできる知識を身につける。（3名）
- ・ 心理学の知識を深化させたい。（1名）
- ・ 教育活動における心理学的な意味合い、技法の習得のため。（1名）
- ・ 子どもの認知の仕方や程度など、未知の分野についての知識を得たかった。（1名）
- ・ 心理学について、基礎から応用まで幅広く学びたいと思った。（1名）
- ・ 修士論文を作成する上での教養を身につけたいと思った。（1名）
- ・ 心理学と教育との関わりについて考えたいと思った。（1名）

これらの記述を総合すると、受講動機は大きく、基礎知識習得志向と応用実践力修得志向に区分される。ただし、一人で複数の記述をおこなった受講生もあり、その場合は、両方の受講動機が記述されていた。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

「評価番号5」の受講生の記述は、以下のようにまとめられる。

- ・ 子どもの情緒を活性化する手法が紹介されていたように思うから。
- ・ 認知の過程について知っておくことは子どもを知ることにも役立つと思った。
- ・ 実際、現場で活用し応用することができる内容であったため。
- ・ 記憶のシステムや読解のメカニズムなどがわかったので、そういう働きが弱い子どもへの支援が考えられると思ったから。
- ・ 教育と関わる内容であり、小学校現場で応用できるものであった。

「評価番号4」の受講生の記述は、以下のようにまとめられる。

- ・ 実践するために覚えておくべき基本的事項が学べた。
- ・ 児童生徒がどのように意欲喚起するのか、そのために教師はどのように行動すればいいのか、というところをよく理解できたから。
- ・ 基本的な事項が取り上げられていたので、どのように生かすかを考えることができた。
- ・ 授業内容を自分でさらに深化・研究していくことが必要と考えられるため。

「評価番号3」の受講生の記述は、以下のようにまとめられる。

- ・ 理論を学んだ。

「評価番号2」の受講生の記述は、以下のようにまとめられる。

- ・ 具体例があまりなかった。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

「良かった点」の記述は、以下のようにまとめられる。

- ・パワーポイントだったので、わかりやすかった。
- ・空欄のあるプリントも、集中力が切れないで良かった。
- ・パワーポイント見やすかった。
- ・配付資料がとても丁寧で、わかりやすかったし、今後、活用しうるものであった。
- ・最後に行った活動（俳句の創作）は、特に担当教員の特徴を表して良かった。

「改善してほしい点」の記述は、以下のようにまとめられる。

- ・後半になると、スライドの文字（＝プリントの空欄の文字）がなかなか書き写せないことがあった。
- ・穴埋めのプリントは、括弧があったほうが良かった。
- ・プレゼンテーションと配付資料が一致していないことがあり、時々記入に困ることがあった。
- ・生徒同士のディスカッションを取り入れても良かったと思う。
- ・プロジェクター・配布資料・教員の話がすべてが同じであった点に改善が求められる。
- ・最初と最後に同じ活動（俳句の創作）を行うようにしたら、受講生自身の感受性や創造性の変化（成長）が見られて、おもしろいと思った。

5 本授業の成果と今後の課題について

授業の内容については、認知心理学の基礎知識をおさえ、授業担当者自身の教育実践例の紹介を交えて、教育への応用可能性を明示することができた。また、受講生の知的好奇心や教育実践への意欲を高め、知識を深めることができた。授業の方法については、プレゼンテーション機器と配布資料を有機的に結合させ、多くの受講生にわかりやすい授業を行うことができた。一方、受講生の授業への参加促進の取り組みについては、必ずしも十分とはいえなかった。この点を中心に改善をはかることを今後の課題とする。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評価実施日	平成 19年 7 月 25 日		
授業科目名	教職研究	学期・曜日・時限	前期 水 曜日 1 時限		
授業区分	1. 教職基礎科目 ②. 専門科目				
担当教員名	佐竹 勝利	回答者数	17 名		

1 アンケート[1]の集計と分析について

(5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない)
 (2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 ---- 未記入)

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	11	6				
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	13	3	1			
3	授業の内容には一貫性があった。	13	4				
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	15	1	1			
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	8	7	2			
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	8	6	3			
7	授業の進む速さは適切であった。	9	8				
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	11	5	1			
9	受講生に授業への参加（質問，発言，討議など）をよく促した。	15	2				
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	11	5	1			
11	ディスカッションは授業の内容を深めるのに有効であった。	15	2				
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。	12	4	1			
13	受講生に分かりやすく説明した。	11	5	1			
14	教員の声は聞き取りやすかった。	13	3	1			
15	教員のコメントは適切であった。	15	2				
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	9	7	1			
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	15	1	1			

<分 析>

まず、4, 9, 11, 17 の項目は 15 人が 5 と応えており、平均値をとったところ 4.82 または 4.88 と高かった。ただ、11 と 15 は本授業の特徴となる内容で、独自の項目として設定したものである。これらが高い評価であったのは幸いであった。さらに、後述するように、実践性（4）が高く評価されており、そして授業全体として（17）も受講生の満足できるものであったと言えよう。評価が低いのは 5 と 6 の項目であるが、まず成績評価の方法がわかりにくかったようだし、授業がよく準備されていて熱心に教えたとは言えないようだ。ただし、平均値で見ると 5 が 4.35, 6 が 4.29 で、決して低いとは言えず、評価項目の中では相対的に低いのである。しかし、次年度は留意したい。6 については院生の工夫によるディスカッション中心の進め方であったため、このような評価になったのかもしれない。ただ、前述のように、15 が高いので悲観することはないだろう。

なお、全体の平均値は 4.74 であり、ここ 4 年間で最も高い。これは後述するような受講生のパフォーマンスが素晴らしく、17 の評価とともに好結果となった大きな原因だとも思われる。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分析>

現職教員が受講生の7割を占めるため、記述には「教師としての幅を広げたい」「教育実践や教師としての姿勢を見直す」「教育生活のふりかえり」「原点を再確認するという構え」「もう一度教職論についていろいろな角度から見直しと今後の実践に役立てる」といった振り返りや見直しの意識が圧倒的に多かった。さらに、「教職の根本をなすものは何か」「現代の教育課題に対する理解を深める」「校種や所属県が違う様々な人から、現場の実態を」理解するなど期待も見られた。特に後者と同様の記述は多く、様々な情報交換が期待されている。ストレートの院生からは「現職の先生方とお話しするよい機会」であるという期待が大きい。共通するものとして、教職についての「いろいろな知識を得たい」というものもあった。

ディスカッションを行うとシラバスに書いてあったために「討論することで新しい答えが出そうな」「積極的にディスカッションに参加しようと思った」というような期待もいくつか見られた。これも本授業の特徴である。

後述のように、これらの期待にほぼ応じられたと思われる。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分析>

この項目について平均値をとったところ、4.82という高得点であった（昨年4.6）。これは上の期待に応えるものであったからではないかと思われる。記述については、「先生の講義では最新のデータをもとに具体的に説明をしていただき、ためになった。また、課題発表と討議では現職の方の思いや創意工夫にふれるとともに諸課題についてじっくり考えたことが必ず実践に役立つと思う。」というものが全体の評価を代表するように思われる。他には、「自分の経験ともてらし合わせて考えることができ、これからの実践に役立つと感じた。」「校種、地域を越えて様々な立場の人が交流する場を提供してくれた授業なので。」など同様の内容であった。

ストレート院生のものと思われるが、「現場の事情をリアルに聞くことができたので、自分が現場に出たときに役立てることができる。心構えができました。」「現職の方とディスカッションする機会が多く、現場の話などが多く聞けたため。」というようにそれなりに積極的な評価をしている。他方、「まだ働いていないので分からないから「3」にした。」というものがあつたが、一理あるものの、もう少し踏み込んで受講して欲しかったと思う。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

まず、よかった点については、「それぞれのテーマで、いろいろな方法で討議できたので楽しく参加できました。有り難うございました。」「現職、ストレートといろいろな立場の人の意見を聞くことができたのはよかった。」「皆さん、自由なスタイルで発表されていらっしゃったので、聞いていて楽しかったです。」「現職の方の個性や実践をもとにした発表は興味深く刺激になった。」「(ストレート院生?)「参加者の授業に対して前向きな姿勢が刺激になった授業でした。」等々である。「授業の雰囲気が大変よかった」というものもいくつか見られた。

さらに嬉しくなるような評価もあった。「是非多くの方に受けていただきたい講義である。」「とてもよかったと思う。今後この1回だけでなく、5年後、10年後もう一度参加して皆と是非討議してみたいと思える講義であった。」

改善して欲しい点は以下の通りである。「残念なのはどうしても時間不足になってしまうこと。もっと時間があれば。」「現職さんが多いので、討議内容が自分の経験や自籍校の状況を説明するだけになりやすかった。問題に対する、解決方法や課題を見いだせるようにできたらもっとよかったと思います。」「時間不足とそれに伴う深まりにかけの点が問題であった。「パワーポイントなどの活用」というのもあったが、変化を持たせるためには1つの方法であろう。ビデオを見せた受講生がいたが、それなりに興味深かった。

別の点から印象に残る記述があった。「途中指摘して下さった文献をしっかりと読み込んで授業にのぞむことは大切で耳の痛かった者もいたのではないだろうか。」という指摘である。これは、ストレートの院生で簡単な予習をしていれば分かることを、知らないのが当然のような発言をしたので、一度だけ苦言を呈したことがあったが、それについての記述であろう。当該院生が気付いていればよいと思う。

5 本授業の成果と今後の課題について

本授業は、例年、最初の数回、佐竹がテキストを使って講義をし、後の時間は、テキストにある教職をめぐる課題を院生の希望により割り当てて、院生は話題提供者として、資料を使いつつディスカッションを行い、毎時間の最後に佐竹がコメントする、という手順で進めている。今年も同様であったが、特に印象に残ったのは、これまでにはなかったパフォーマンスがあったことである。これまでは話題提供者が討議課題を提案して、それを巡って受講生間の意見交換を行うものであったが、今年は、グループディスカッション、学級歌を作る、ホワイトボードを使った説明、ビデオによる紹介、等々が取り入れられ、極めて活発であった。そのため、4にあるように、雰囲気がよかった、楽しかった、刺激になった、興味深い、などの評価が見られる。実践性についても評価は高いが、それも他の受講生の工夫を今後取り入れるなどの思いが持てたことも影響しているかもしれない。受講生の状況によるかもしれないが、今後も続けたいものである。

また、今年は最後のコメントの時間が例年よりも確保されていたからか、15の評価が例年よりも高かった。

なお、人数の関係で、話題提供者になったのは現職教員の院生のみであったが、これについての不満や意見は見られなかった。

今後の課題としては、ディスカッション中心だとそれぞれの実践紹介に重点が置かれがちであるので、内容を深めるためにどうすればよいかである。まずは、最後のコメントの時間が取れる時間配分と、そのコメントによってさらに内容が深まるような工夫や、ディスカッション中でも必要に応じて内容を深める工夫が求められよう。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評価実施日	平成 19 年 7 月 20 日		
授業科目名	教育リーダーシップ研究	学期・曜日・時限	前 期 金 曜 日 3 時 限		
授業区分	1. 教職基礎科目 (2) 専門科目				
担当教員名	大 西 宏	回答者数	15 名		

1 アンケート [1] の集計と分析について

(5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない)
 (2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 ---- 未記入)

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	8	7				
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	5	8	2			
3	授業の内容には一貫性があった。	9	5	1			
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	6	8	1			
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	8	3	4			
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	13	1	1			
7	授業の進む速さは適切であった。	10	3	2			
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	12	2	1			
9	受講生に授業への参加（質問，発言，討議など）をよく促した。	11	4				
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	—	—	—	—	—	—
11	視聴覚機器の使用は適切であった。	—	—	—	—	—	—
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。	12	3				
13	受講生に分かりやすく説明した。	11	3	1			
14	教員の声は聞き取りやすかった。	13	1	1			
15	板書の文字は見やすかった。	8	5	2			
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	9	5	1			
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	10	5				

<分 析>

評価の平均は 4.58 となっているので、全体的に本授業は肯定的に評価されている。項目 6・12 において高い評価を得られているのは、授業準備に多くの時間をかけ、適切な資料も多く配布して授業を進めたことが理解されたものと思われる。テキストの使用や参考書の紹介は余りしなかったため、項目 2 の評価は低くなっている。また、途中何回か提出させたレポートについて、個々に具体的な評価をして返さなかったことが項目 5 の低い評価につながったものと思われる。評価の方法については今後の課題としたい。昨年度の評価アンケートで、大学院生から、学校現場の経験がない受講生には理解し難い内容も少しあった、もう少し現職院生との意見交換を希望するとの指摘があったので、本年度はかなりそのことも考慮しながら授業を進めたので、項目 8・9・12 の項目で高い評価を得たようである。項目 1・4・17 の評価からみて、授業内容の有用性は十分理解されていると思われる。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

受講生の主な回答

- ・学校現場で実質的にリーダーシップを取らなくてはいけない立場になってきた。リーダーとしての心構えや知識を身につける、又、その役割を考える時間としたい。
- ・将来的に有効な、幅広いリーダーシップについての知識や考え方を知る事が出来ると思った。
- ・管理職だけでなく、ミドル層、若手層にもリーダーシップが必要と思った。
- ・まもなく管理職登用試験を受ける身であり、年齢的にも中堅としてのリーダーシップが必要となり、その能力向上を果たすつもりで受講した。
- ・ミドルリーダーとして身に付けなければならないことを学習しようと思った。

以上の回答から、教育改革が進んでいる学校において、管理職やミドルリーダーはどうあるべきか。また、諸問題解決のためにどうリーダーシップを発揮すればよいのか等々、多くの受講生から積極的な研究意欲が伺える。特に、現職院生からリーダーシップの発揮の必要性を強く感じている内容の記述が多い。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

受講生の主な回答

- ・リーダーという立場を通して、一貫して学校の組織を見直す授業であり、具体的に置籍校で自分がミドルリーダーとして出来ることは何かを考えることができたことが有意義であった。
- ・学校経営という視点は少し早いですが、学級経営という視点で見るととても役にたつと思う。
- ・ストレートなのでまだまだ分からないことが多かったが、学校ではこのようなことが必要だと言うことは感じられた。
- ・現職院生さんがたくさんいたので、参考になることをたくさん教えてもらうことができた。
- ・予想していたとおり、現代の教育課題に関する知識が深まり、具体的にどう考え行動すればよいか考える際のヒントを得られた。
- ・ミドルリーダーとして、どのような意識を持ちどのような力量を伸ばしたらよいか、様々な角度から学ぶことができた。現場に活かせる内容であった。
- ・配布されたプリントやワークシートなどはよくまとまっており、また、現場のことを考慮された内容であった。置籍校でも取り入れてみたい実践事例を聞くこともできた。

以上の回答から、学校現場での経験を踏まえて、具体的な事例と関連づけて授業を進めたことや、グループでの演習、討議などを取り入れて、実践力の育成を意識した授業を心がけたことがかなり好評を得ているようである。学校経験のないストレート院生への配慮をしたことも理解を得ているようである。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

受講生の主な回答

- ・小中高の現職先生、ストレート院生、他県の方々の実践や考えが交流でき、それをうまく先生がまとめてくれたりして、これからの学校が目指さなければならない方向が見えてきたと思う。
- ・現職の方の意見をたくさん聞いてよかった。ストレートへの配慮もしながら授業を進めていただけた。
- ・特に改善してほしいところはありません。レジュメも適時配布され、受講生の考えや意見を聞いてくれながら進めてくれたので参考になった。
- ・かなりストレート院生に配慮して授業を進めていた、院生のレポートをよく読んで内容をつかんでいたのですすがだなど感心しました。
- ・グループで議論したり演習できたこと、技量や校種を配慮したグループ編成だったことが良かった。
- ・概論でなくもっと難しい内容でも良いと思う。ストレート院生に余り配慮しなくても良いのではないか。
- ・データや資料から見いだせる研究知をもう少し学びたかった。
- ・ロールプレイのようなものを取り入れた授業をすればストレート院生が理解しやすいかな。

以上の回答から、毎時間、授業レジュメや資料を提供したり、理論講義だけでなく、現場での体験や事例に対応するグループ討議や演習を取り入れて進めた授業が好評を得ている。また、昨年度の反省から、学校経験の少ないストレート院生の立場を配慮して授業を進めたことも概ね理解されている。しかし一方で、もう少し研究知の深まりを期待する声やストレート院生への配慮についての提案や苦言もある。来年度の授業に対する検討課題としたい。

5 本授業の成果と今後の課題について

本授業は、今進められている大きな教育改革の中で、学校経営に関わるそれぞれの立場に（主にはミドルリーダーの立場）求められるリーダーシップの在り方を、文献研究や事例分析を通して明らかにし、実践に結びつく資質・能力の向上を図ることをねらいとして進めてきた。

受講生の2/3が現職教員であり、リーダーシップに関する問題意識も高く、授業にもかなり積極的であり、グループ討議や演習では進んで体験や事例を発表しあって、互いに研究を深めていたようである。このことがストレート院生にも良き刺激となり授業理解に役立っていた。今回の授業評価から、授業内容については概ね好評を得ており、その有用性も十分に理解されていると考えられる。

しかしながら、成績評価の方法や説明について、また、授業での実践力の育成と理論研究等のバランスについての提言もあることから、このことについては今後の授業で検討していく必要がある。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評 価 実 施 日	平成 20年 4 月 23 日		
授業科目名	学級経営改善研究	学期・曜日・時限	後 期 水 曜 日 1 時 限		
授業区分	1. 教職基礎科目 ② 専門科目				
担当教員名	久我 直人	回答者数	23 名		

1 アンケート [1] の集計と分析について

- | | | |
|-------------|--------------|-------------|
| 5 まったくそう思う | 4 かなりそう思う | 3 どちらともいえない |
| 2 あまりそう思わない | 1 まったくそう思わない | 無 未記入 |

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	16	7				
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。						
3	授業の内容には一貫性があった。	18	4	1			
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	20	3				
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	10	9	3	1		
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	22	1				
7	授業の進む速さは適切であった。	14	9				
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	17	6				
9	受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。	14	8	1			
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	11	8	4			
11	視聴覚機器の使用は適切であった。						
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。	19	4				
13	受講生に分かりやすく説明した。	21	2				
14	教員の声は聞き取りやすかった。	21	2				
15	板書の文字は見やすかった。	18	4	1			
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	15	7	1			
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	20	3				

<分 析>

- 学級経営を展開する上で求められる教師の力量（特に「省察力」）について、事例をもとに展開したことが、受講者にとって理解しやすかったと考える
- 受講者相互が、小集団で討議する場面を設定した。特に現職とストレートが互いの意見を言えるようにグルーピングしたのも効果的だったと考える
- 受講者から収集した事例も多く取り上げ、授業を展開したことで、強い動機付けができたと考える
- 受講者からの事例を質的に分析し、冊子にまとめたものを授業で用い、共有の財産としたことも意欲的で、自己の学修がより効果的に内実化した理由と考える。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

- 学級経営に関する今日的課題は、学級崩壊等深刻なものであり、それだけ現職院生、ストレートマスターにとって関心の高いものになっていると考える
- ストレートマスター；授業や現職院生との学修を通して、学級経営に求められる実践力を身につけたいという高いニーズが読み取れる
- ストレートマスター；現職院生からの紹介等を受けて本授業を受講したことが読み取れる
- 現象院生；学級経営における現場での悩みを解決する糸口を求めていることが読み取れる
- 現職院生；勘と経験でやってきた学級経営を、より教師として求められる力量や在り方を明確にして学級経営を改善していきたい、と考えていることが読み取れる
- 学級経営は、教師にとって中核的な仕事であり、そこでも力量を高めたいという考えが読み取れる
- 学級崩壊が起らないようにするための方法を学びたいという気持ちが読み取れる
- 子どもを読み解く目を養うためという子ども理解の視点を求める考えが読み取れる

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

- 授業者の実践事例をもとにした授業構成が、「実践へつながる」という受講者の「納得」を伴った受け止めにつながったととらえられる
- 事例について、現職院生、ストレートマスターを同じ小グループにして討議させたことによって、複眼的な分析が進み、事例解釈力が高まったととらえられる
- 受講理由（「実践的な問題の理解と対応の仕方」）に応える内容、という受け止めがなされていることがとらえられる
- 授業者は、2つの意図を持って集団討議を展開した。
その一つは、現職院生には、初任者等の若手を指導するミドルリーダーとして、ストレートマスターの意見や問いに対応できるようにすること、さらにストレートマスターは、ベテラン教師に実践上の課題や問いを言葉にして問えるようにすることであった。現場での若手とベテランのコミュニケーション場面を想定して、その応答力を高めることを意図した。また、もう一つの意図は、「円卓」の考え方をもとにストレート、現職の経験等の違いをリセットして同じ教育者として、討議を深めることであった。
この二つの意図を受講者が良く理解し、討議にすすんで参加したことが、内実のある学修に結びつき、評価に結びついたと考える。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

- 授業内容が、単なる「How to」ではなく、「教師としての在り方」を議論することによって、「机上の空論ではない」実践に根ざした知見という受け止めが、受講者になされたにとらえられる
- 実践のなかから事例を分析し、教師に求められる「省察力」の内容と構造を明示したことにより、省察力豊かな教師の子ども理解の視点、文脈の読み取り方、そして対応行動の特性をより明確に受講者に受け止められたと考えられる
- 上記「3, 4つ目の○」で述べた授業者が意図した討議の方法について「(現職院生とストレートマスターが共存する) 鳴門教育大学のよさを最大限に活用した授業」という評価をされた
- 受講者の授業感想を毎時間とり、そのキーワードをプリントにまとめて次時に紹介する等、受講者の学修の様子や声を大切に授業を進めたことが、受講者にとって学修の内実を深める結果になったにとらえられる
- 討議の場をさらに多く持ちたいという意見があったことから、現職とストレートの討議の場が有効であることがとらえられ、今後の授業改善に生かしたい。

5 本授業の成果と今後の課題について

- 「学級経営」の実践事例をもとに、教師の「省察力」に焦点を当てた学修内容が、受講者にとって、納得性の高いものであることがとらえられた
- 特に、学級経営に成功している教師が発揮している「省察力」の内容と構造を取り上げることにより、教師としての在り方や子どもものとりえ方の特徴を明確にできたことが受講者の実践的な思考を促すことにつながった
- 上記内容を現職院生とストレートマスターとの討議を交えて学修を進めることにより、学習者の自主性や内発的動機を生み、授業が活性化されたと考える
- 受講者からの事例をもとに「教師の省察力」の抽出を試みたことによって、受講者の当事者意識をさらに高めることができたと考える
- そもそも授業は、授業者と受講者の学修内容をもとにしたかかわりで産み出されるものであるが、受講者の真摯な授業への取組と積極的な事例の提供と討議により、本授業ができあがったと考える。今後も受講者の積極的な参加を促し、学修の内実を受講者に実感できる授業を構想することが大切にとらえた

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評 価 実 施 日	平成 19 年 7 月 18 日		
授業科目名	教育工学研究	学期・曜日・時限	前 期 水 曜 日 2 時 限		
授業区分	1. 教職基礎科目 (2) 専門科目				
担当教員名	川上 綾子	回答者数	14 名		

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
 [2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入]

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	5	9				
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	5	8	1			
3	授業の内容には一貫性があった。	7	6	1			
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	3	10	1			
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	6	5	3			
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	10	4				
7	授業の進む速さは適切であった。	6	7	1			
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	3	8	3			
9	受講生に授業への参加（質問，発言，討議など）をよく促した。	8	5	1			
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	-	-	-	-	-	-
11	視聴覚機器の使用は適切であった。	8	6				
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。	11	2	1			
13	受講生に分かりやすく説明した。	6	7	1			
14	教員の声は聞き取りやすかった。	7	7				
15	板書の文字は見やすかった。	-	-	-	-	-	-
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	9	2			
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	6	8				

<分 析>

全般的には肯定的な評価を得られたと思われる（全体平均 4.38）。しかし、昨年度の結果と比較して、評価番号5の選択者数に対して評価番号4あるいは3の選択者数の割合が相対的に増えたことにより、評定平均値の下がった項目があった。(4)・(8)などがそれにあたる。授業の内容自体は昨年度と大きくは変わっていないため、授業の進め方や受講生の特性などが影響した結果であると考え、いずれも極めて重要な項目であり、今後、他の担当授業も含めて改善を図りたい。

一方、昨年度のアンケート結果を受けて、今年度、特に改善に努めた項目(9)については、評価が上がっていた。今後もこの点(受講生に授業への参加を促すこと)に留意しつつ、それを項目(8)や(13)、ひいては(17)の評価の向上へつなげていきたい。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

本授業に対する今年度の受講生の問題意識や期待を、主な回答を例にあげつつまとめると、以下の3点になる。

①教育工学という学問分野に対する興味・関心

- ・教育工学の分野がどのように行われているのか興味を持ち受講した。
- ・教育工学という学問の概要理解
- ・学校現場にいるときから「教育工学」に興味を持っており、それについて専門的な知識を得たいと考えたから。
- ・教育工学がどのようなもので教育にどう役立つのか知りたくて受講した。

②授業実践への示唆

- ・授業設計の手助け
- ・学校教育の中で実践してきたことの意義の確認と今後の実践におけるヒント
- ・授業の改善や新たな指導方法の開発につながる知識や理論の学習

③修士論文等の自分の研究への示唆

- ・自分の研究に生かすことができる考えや知識を得るため
- ・研究方法の習得を期待し受講した。
- ・授業研究の方法や内容についての知識をふやしたかった。
- ・修論のアプローチの仕方を得たいと思い受講した。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

ここでの回答は全般的に肯定的なものがあげられていた。主な記述例とともにまとめると次のようになる。

①授業実践への応用可能性

- ・授業分析の方法や学習効果、評価等について知ることができ、実践に応用できる内容であった。
- ・授業を組み立てるときに何が必要か・何が重要かという点について、参考になることが多かったから。
- ・自分で授業研究を行っていくときにどう考えていけばいいのか示してくれたから。
- ・本当に実際の指導に直結する内容を多く含んでいたため、実に「タメ」になった。現職、および教職を目指す者には「必修」としてもよいような講義だった。
- ・動機づけ、スキーマ、ルーブリック、社会的構成主義など、教師が授業実践を行う上で大変参考になり、自分の実践を見直す機会を与えていただいた。
- ・「実践力」をどう捉えるかによって異なるが、実践事例としてはすぐに使えるかどうかはわからないが本授業で学んだことは教師としてもっていて（知っていて）しかるべき内容であると思う。参考になった。

②紹介した実践例の有用性

- ・現場に戻ったときに試してみようと思う実践例が数多く紹介された。
- ・授業を開発・構成していく上において、有益となる事例、理論の紹介が数多くあった。
- ・具体的な例の呈示により、自分の実践にいかせる考えのヒントを与えてもらった。

③視点の広がり

- ・授業を様々な視点で観られるようになったことが私にとって役立つ内容だと感じたからです。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

受講生の回答のうち、「良かった点」に相当するものは、

- ・グループでの話し合いで他の人の考え方を聞いたのがよかった。
- ・用意してくださった資料がうまくまとめられていてわかりやすかった。
- ・毎回の授業準備の御苦労が伺える授業内容であった。
- ・毎回の授業をふり返りながら本時の授業に入ってくくださったので理解しやすかった。また、グループで考える場、個人で考える場を設けてくださったので、かなり意欲的・主体的に授業に臨めた。
- ・毎回のようにプリントやパワーポイントを用いていたのでわかりやすかった。
- ・授業の準備（計画から資料まですべて）がきちんとなされているのがすばらしいと思った。ていねいかつわかりやすい指導がなされ、参加しやすく毎回楽しみな授業であった。

「改善してほしい点」及び「アイデア」に相当するものとしては、

- ・PPTスライドの重要部が抜けていてメモすることになるが、であれば提示の際、「もんだメソッド」は有効であると思う。
- ・現職教員が行っている具体的事例の紹介（教育工学的見地からの分析）
- ・教室の視聴覚機器について：ビデオ等のリモコンは設置しておいてほしい。（筆者補足：ビデオのリモコンがなかったために、二カ国語放送のビデオを副音声のみで流すことができず、英語と日本語の両方が流れることになってしまったため）

などの反応がよせられた。PPTスライドの提示方法、事例分析の取り入れ等、今後工夫していきたい点である。

5 本授業の成果と今後の課題について

本授業では、例年、学校での授業実践（授業を行う側、受ける側）に関わる受講生の経験を引き出せるような課題提示や発問を行い、それについて発言したりグループで討論したりする機会を設けて、各自の経験や知識、並びにそれを基盤とする彼ら自身の考え方等と、学問上の理論やアプローチとを関連づけられるよう図っている。トピックに絡めて現職院生の修士論文研究や教員研修での実践研究例を取り上げるのも、実践と研究とが結びついてひとつの形を成したものとして分かりやすい例になるだろうとの思いからである。そのような授業者のねらいに基づく本授業の内容や方法は、概ね肯定的な評価を得られたと考える。

また、昨年の授業評価を受けて今年度は、授業中、頻繁に発言を求めたり、授業の最後には質問や意見を受け付ける時間を取るなどして、受講生の授業への積極的な参加を促すよう努めた。上記1の評価項目(9)の評定結果が昨年度より向上したのは、その成果が現れたのではないかと思う。

ただ、(4)「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」、(8)「受講生の理解度を確認しながら授業を進めた」の評定平均値が、最高評価5の選択者数の割合が減じたために昨年度より低くなっていたことは、授業内容及び方法の双方について十分な満足感を得られなかった受講生が一定数存在したことを示している。全授業（15時間分）を通した内容構成と毎時間の授業設計に、さらに改善を重ねる必要がある。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

	評 価 実 施 日	平成 19年 7月 17日		
授業科目名	道徳教育指導論研究	学期・曜日・時限	前期 火曜日 2時限	
授業区分	1. 教職基礎科目 ② 専門科目			
担当教員名	兼 松 儀 郎	回答者数	12名	

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
[2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入]

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	4	7	1			
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	3	9				
3	授業の内容には一貫性があった。	5	7				
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	6	6				
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	7	3	2			
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	8	4				
7	授業の進む速さは適切であった。	6	6				
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	4	7	1			
9	受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。	8	4				
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	3	5	4			
11	視聴覚機器の使用は適切であった。	6	6				
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。	7	4	1			
13	受講生に分かりやすく説明した。	7	4		1		
14	教員の声は聞き取りやすかった。	10	1		1		
15	板書の文字は見やすかった。	8	2	1	1		
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	6				
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	7	5				

<分 析>

1項目を除いて、平均値は4.00以上であった。

特に平均値の高い項目をあげると、「6 授業をよく準備し、熱心に教えた。」(4.67)、「9 受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。」(4.67)、「14 教員の声は聞き取りやすかった。」(4.67)「17 この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。」(4.58)である。

平均値が4.00未満の項目は、「10 教科書や参考書の使い方は適切であった。」(3.92)である。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

主な内容は次のとおりである。

- 道徳教育の実践の基礎となる見方や考え方を理解したいと思った。
- 道徳教育の理論や考え方について、校種間の接続も踏まえた話が聞けると思った。
- 道徳教育の理論を学びたく思った。
- 「道徳」と「教育」のつながりについて知りたかった。
- 高等学校における道徳教育をどのようにとらえるか、知りたく思った。
- 現職高校教員として、高等学校の道徳教育の在り方について興味をもち、受講した。
- 道徳教育の具体的内容について知りたくて受講した。
- 将来、道徳教育が私の職業において必要となるので受講した。
- これからの道徳教育について学習したかった。
- どのような道徳教育がよいのか、考えたかった。
- 道徳教育に関する専門的知識を自分の研究に生かしたく思った。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

主な理由は次のとおりである。

- ディスカッションやグループごとの提案は有効だった。
- 発表や討論により、実践とのつながりが整理できた。
- 現職教員の道徳教育の考え方を知ることができた。
- 学校現場に即した授業であった。
- 学校現場の現状と、道徳の理論を重ね合わせて考えられるようになった。
- 授業内容が具体的であった。
- 高等学校における教育活動のうち、どの部分が道徳教育となるのか、また、何をすることが道徳教育となるのか、などについて考えることができたようになった。
- 非常にタイムリーな話題や教員経験や行政経験を踏まえた説明は、現職教員にとって役立つ内容であった。
- 道徳教育においておさえるべき価値等が詳しく述べられた。
- 豊富な資料があり、分かりやすかった。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

【良かった点】

- とてもいねいに教えてもらえた。これまで道德教育の手法にとらわれている研究会に参加することに多かった私にとって、うれしい時間だった。
- 校種別討論は、他の人の考え方や意見が分かり、発表することもあり、とてもよかった。
- 資料が非常に充実している。資料の内容は授業と深く関係しており、理解を深める上で役立った。
- 受講者の反応に合わせて授業が進められたので、とても分かりやすかった。

【改善してほしい点】

- グループディスカッションの回数を増やし、さらに話し合いの内容を深めたいと思った。
- 今回以上に学校現場で役立つような実践的内容をお願いしたい。

5 本授業の成果と今後の課題について

【成果】

- 受講生が小・中・高の現職教員及びストレートマスターから構成されていることから、特に本年度は学校段階間の接続の観点から、道德教育の現状や課題を整理することができた。
- 現職の高校教員が例年よりも多く受講していることを踏まえ、文部科学省や独立行政法人教員研修センターの最新の動向を見ながら、高等学校における道德教育の在り方について考えさせることができた。
- 受講生による発表や討論を大幅に取り入れたことは、道德教育の現状をとらえながら今後の在り方について具体的に理解を深めるのに効果的であった。
- 道德教育の指導の改善を図るためには、道德教育に関する基礎的知識や道德性の発達理論を習得しながら探究していくことが重要であることについて認識させることができた。
- 昨年度の反省を踏まえ、配布資料については、過多とならないように精選できた。

【今後の課題】

- 発表や討論を取り入れたことは好評ではあったが、大学院レベルの授業として、議論の内容をもとに論点を整理し、理論化への道を拓く手法についても指導を深める必要がある。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評価実施日	平成 19 年 7 月 19 日			
授業科目名	臨床心理面接研究Ⅱ	学期・曜日・時限	前 期	金 曜 日	2 時 限	
授業区分	1. 教職基礎科目 ②. 専門科目					
担当教員名	教育臨床講座 栗飯原 良造	回答者数	44 名			

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
 [2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	18	17	6	3	0	0
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	17	11	16	0	0	0
3	授業の内容には一貫性があった。	26	15	3	0	0	0
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	13	18	9	4	0	0
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	19	9	12	3	1	0
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	31	11	1	1	0	0
7	授業の進む速さは適切であった。	19	22	2	1	0	0
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	17	18	6	2	1	0
9	受講生に授業への参加（質問，発言，討議など）をよく促した。	25	11	6	1	1	0
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	14	9	19	2	0	0
11	視聴覚機器の使用は適切であった。	22	18	3	1	0	0
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。	28	12	4	0	0	0
13	受講生に分かりやすく説明した。	26	14	1	3	0	0
14	教員の声は聞き取りやすかった。	12	22	6	4	0	0
15	板書の文字は見やすかった。	24	17	3	0	0	0
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	15	21	5	3	0	0
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	24	15	0	4	1	0

<分 析>

- ・ [4] 教師の実践力の育成、[5] 成績評価、[10] 教科書や参考書の使い方、[14] 教師の声に関する評価が3点台であった。[4] に関しては受講生の心構えによるところが大きく、[5] はシラバス、授業1回目に提示している。[10] ではとくに教科書は使わずに資料を使っている。
- ・ [14] は教員の声が小さいこと、エアコンの音が大きいことも影響しているので、マイク使用を考える必要がある。ただし、いずれも平均3.8以上で概ねは良好である。
- ・ 評価1,2を付けた受講生は5名おり、他の項目にも低い評点を付けている。このうち3名は授業を受ける自分の姿勢を評点2としているので、いかに授業準備ができるかを考える必要がある。
- ・ 他の項目は平均4.0以上であり、授業の準備、教える熱心さ、資料に対しては4.5以上であり好評である。この授業科目は本教員が初めて担当し、概ね受講生には好評であったと思われる。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

- ・ 「面接に臨む姿勢を学びたい」「面接での注意点を知りたい」「実際の面接と講義を通して見直したい」「受容、共感、傾聴を学びたい」とカウンセリングの基本技法と理論を実践に結びつける意識が強かった。大学院2年生としては、事例を体験しているので相応しい心構えであり、本講義の主眼になっているので妥当であると思われる。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

- ・ 「児童が教師の言葉をどうとらえるかがわかった」「教育現場で役立つと思える技法や考え方を学んだ」「カウンセリングの要素が教育現場で役立つとわかった」「子どもや保護者の気持ちがわかった」「生徒や保護者の話をきくときの心構えや技法がわかった」「保護者面談と面接との共通部分がわかった」と、カウンセリングと生徒指導とはまったく異なるものであるという認識は減らすことができたと思われる。
- ・ 本講義では、教師は教師としての役割を果たすために必要な隠し味であると「カウンセリング技法と理論」を位置づけて欲しいと考えていたことが受講生に伝わったと思われる。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

- ・「エアコンの音が大きく教員の声が聞こえにくい」との意見があり、マイク使用を考える。
- ・「受講生数に対して部屋が小さい」に対しては、ロールプレイをするには窮屈であり大きな部屋に変更できるといいと思う。
- ・「ロールプレイをもっと取り入れて欲しい」との要望には、やはりロールプレイを行うには部屋が小さいので、大きい部屋に変更することを考える。
- ・「大学院1年の後期に受けたい」という希望があり、実際に事例を持った受講生の意見であると思われる。
- ・「本講座を大学院1年で受け、さらに大学院2年ではさらに事例に即した深い内容を学びたい」という希望は授業日程もあるが、期待に沿える方法を考えたい。

5 本授業の成果と今後の課題について

- ・初回授業としては受講生に好評であったと思われるが、指摘された問題点を謙虚に受け止めて改善していく必要がある。
- ・受講生の中で基礎学習を終えた者と終えていない少数者とが混在しているので、いかに基礎レベルから実践レベルまでを含めた授業をするかが課題である。
- ・今後改善する点は
 - ① 講義内容を縮小して、受講生の理解度を高め、ロールプレイを増やす。
 - ② 演習科目を新設する。
 - ③ 少人数制、希望別クラス編成をする。があると思われる。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評価実施日	平成 20 年 2 月 8 日		
授業科目名	学校精神保健学演習	学期・曜日・時限	後期 金曜日 2時限		
授業区分	1. 教職基礎科目 (2) 専門科目				
担当教官名	今 田 雄 三	回答者数	66 名		

1 アンケート [1] の集計と分析について

5 まったくそう思う	4 かなりそう思う	3 どちらともいえない
2 あまりそう思わない	1 まったくそう思わない	無 未記入

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	45	20	1			
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	-	-	-	-	-	-
3	授業の内容には一貫性があった。	51	12	2	1		
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	34	22	9			
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	41	22	3			
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	63	3				
7	授業の進む速さは適切であった。	39	18	9			
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	41	24	1			
9	受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。	56	6	3			1
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	-	-	-	-	-	-
11	視聴覚機器の使用は適切であった。	55	9	2			
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。	51	14				
13	受講生に分かりやすく説明した。	49	17	1			
14	教官の声は聞き取りやすかった。	31	28	7			
15	板書の文字は見やすかった。	27	21	15	1		2
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	37	28	1			
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	54	11		1		

<分 析>本授業では毎回実際の精神保健に関する事例を提示し、受講者全員が課題について考察し個人演習用紙に記入した上で、少人数のグループに分かれてディスカッションを行い、グループの見解を集約して全体へ発表するという形式を採用した。また発表の後、その回に取り上げた事例に関連する精神疾患や精神的問題についての概説を行った。さらに次回の授業では、必ず前回の事例演習の記載を集計し、受講者の着眼点の傾向を提示したり、疑問点として挙げられた事柄については補足して説明する等、受講者へのフィードバックを行った。

受講生の大半が授業に主体的、積極的に取り組み、授業は満足できるものであったと回答していた。全ての質問項目において評価の平均点は4点を上回っており、本授業は非常に高い評価を得られたものとする。

なお3「どちらともいえない」との回答がやや多かった項目のうち、(4)「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」については、今後授業内で精神保健と教師の実践力の育成との関連をより明確に提示する等の対応・工夫を行い、また(7)「授業の進む速さは適切であった」、(14)「教員の声は聞き取りやすかった」、(15)「板書の文字は見やすかった」などの点については反省し改善を心がけたい。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

「精神保健・精神医学の実践的な知識を得ること」「事例を見立てる能力の向上」「学校と精神保健関連諸機関との連携について知りたい」と回答した者が多かった。他には「具体的な事例について知りたい」「様々な支援の方法を身につけたい」「事例を通して心理臨床の力量を高めたい」「学校現場に帰った時の実践的な対応の力をつけたい」「立場の異なる受講生との意見交換の場」といった各自のニーズや問題意識と関連した回答もみられた。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

「医療・心理などの専門機関との連携について知ることができた」「生徒理解につながった」「実際のケースとどうかかわるのかを考えることができた」「身近な事例が取り上げられていたのがよかった」「精神保健の知識を得ることができた」などと評価する意見が多かった。

なお一部には「学校ではなく病院での事例が中心なのは期待と違った」「臨床心理士としての実践力の育成についてなら非常に役立つ内容だったが、教師の実践力と問われると自分には判断出来ない」「教育大学とはいえ院生の進路もさまざま、『教師の実践力』に限定した質問項目を設けているの院生の多様性を大学側が限定しているようで如何なものか」などの意見も寄せられた。

今後とも授業内容と教師の実践力の育成との関連をより明確に提示する等の対応・工夫を行うようにしたい。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点，改善してほしい点を具体的にお書きください。また，この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

「充実した授業だった」「興味を持って授業に臨めた」「しっかり授業の準備がなされていた」「演習用紙に毎回コメントをもらえるのがうれしかった。学習意欲が高められた」などの回答が多く寄せられた。

なお「難しいと思うがグループ討論の時間をもう少し長くして欲しかった」「事例のプライバシーへの配慮の問題があるとは思いますが、持ち帰れる資料があった方がよかった」などの意見も寄せられた。

今後更に受講者のニーズに合わせた授業の内容・方法を工夫することも必要であろう。

5 本授業の成果と今後の課題について

本授業は、具体的な事例を毎回提示し、まず受講生一人一人が、診断や見立て、具体的な支援の方向性、事例本人や家族の心理等について、「自分はどうか考えるか?」「どう対応するか?」という点について個人演習を行い、次に小グループに分かれて各自の意見を述べ合い、グループとしての見解を集約して全体に発表するという形式で行った。また個人演習に対してきめ細かくフィードバックを行った。こうした授業実践を通して、学校精神保健の知識の習得と、心理的な困難を抱えた事例に関わる際に求められる実践力の養成に高い効果が得られたものと思われる。

今後は、個別の事例を検討することを通して、学校精神保健の知識を習得するのみにとどまらず、より普遍的な「現場での支援・実践力」と関連させ、発展的な授業内容となるように演習課題等を工夫していきたい。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評 価 実 施 日	平成 19 年 7 月 9 日
授業科目名	臨床心理学研究Ⅱ	学期・曜日・時限	前期 月曜日 2 時限
授業区分	1. 教職基礎科目 ②. 専門科目		
担当教員名	葛西真記子 中津郁子	回答者数	35 名

1 アンケート [1] の集計と分析について

〔 5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない 〕
〔 2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入 〕

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	10	25				
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	7	15	13			
3	授業の内容には一貫性があった。	15	17	3			
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	8	16	9	2		
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	9	14	10	2		
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	18	15	2			
7	授業の進む速さは適切であった。	14	20	1			
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	10	16	9			
9	受講生に授業への参加（質問，発言，討議など）をよく促した。	3	14	16	2		
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	8	10	17			
11	視聴覚機器の使用は適切であった。	16	17	2			
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。	18	16	1			
13	受講生に分かりやすく説明した。	18	16	1			
14	教員の声は聞き取りやすかった。	23	12				
15	板書の文字は見やすかった。	19	15	1			
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	11	22	2			
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	16	19				

<分 析>

- ・ 評価項目のうちで平均点が4.5以上の上位項目は、「授業をよく準備し熱心に教えた」「声が聞き取りやすかった」「板書の文字は見やすかった」「授業は自分自身にとって満足できるものであった」
- ・ 全体として平均点は高く、ほとんどの項目が4.0以上であった。
- ・ 平均点が他の項目より低かったのは、「テキスト・参考書は役に立った」「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」「授業への参加を促した」「教科書や参考書の使い方」であったが、いずれも3.5以上あり、十分満足のいく結果であったと思われる。しかし、これらの項目に関しては今後改善していきたいと考える。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>大体、以下の3点位に集約された

①臨床家になるための基礎作り

- ・ カウンセリングの基礎的なものがどういふものかを受講しようと思った。
- ・ 精神分析を学びたい。
- ・ カウンセリングの実践力を育成する一助としたい。
- ・ 臨床心理士になるために心がけることを学びたい。専門性を身につけたい。
- ・ 客観的に自分自身をみたり、面接の内容を考えたりする。

②ケースを担当する上に活かす

- ・ 心理面接を行う上でのポイントなどを学ぶとともに自分が担当しているケースについても振り返る。
- ・ 面接場面におけるThとClのかかわりについて、専門的に話が聞きたいと思った。
- ・ 心理の現場に携わる人の生の声が聞きたいと思った。
- ・ 知識を増やしたいと思った。

③親への支援を学びたい

- ・ 発達障害をもつ子どもの親への支援という視点から育児・子どもの育ちについて学ぶ。
- ・ 子育て支援に対する社会のサポート体制のあり方について知りたいと思った。
- ・ 母親への支援をよく理解していきたい。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

①教師の実践力の育成に役立つとする意見では大体以下のようなようだった。

- ・ カウンセリングとはということがわかり、現場で使えると思う。
- ・ 就学前の子どもの様子などを知ることができた。
- ・ 母親の子育ての不安などについての知識は今後、学校現場で母親理解に役立つと思う。
- ・ 児童臨床では保護者の心理状況などを知ることによってアプローチの方法が探せると思った。
- ・ 教師も教育相談などを受ける機会が多いので活かせる内容であると思う。
- ・ 教師ではないが、この授業を通して、考えたり感じたりすることは多く、勉強に対してやらなきゃという意欲がわいた。
- ・ 倫理問題はとても身近で一生付き合っていく問題になると思った。改めて思い起し重要さに気づかせてもらえて良かった。

②教師の実践力の育成に役立つたないという意見は以下のようなようだった。

- ・ 面接場面におけるThとClの関係は直接教師の実践力に役立つものではない。
- ・ 心理学の基礎ということもあり、直接的な結びつきが見え難い。つきつめて考えれば共通点はあるのだろうが、それに気付くまでを各自に任せている限り役立つとは言えないと思う。
- ・ 前半は面接を行う上で考えさせられることが多くあったが、後半は子育て支援にたずさわっていないためピンとこなかった。
- ・ 教員ではないが、直接的に即座に教師が実践する際に役立つとは思わなかった。

現職の教員であるなしに関わらず、以上のような様々な意見が見られた。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

①全体的には、「もっと聞きたい」「よく準備されていてわかりやすかった」「考えが広がった、臨床のヒントがいっぱいあった」「臨床家としてさまざまな人と関わっていくという面で役に立つ」など、授業に対して前向きな意見が多かった。また、ケースを担当するものは、「面接を行う上で役立った」と回答していた。

②改善点としては、「事前オリエンテーションの充実」「パワーポイント用資料だと書き込みづらい。字が小さい」「ケースをもつ直前に聞きたかった。ケースを持つと同時に受講し混乱した」という意見が見られていた。検討したい。

また、以下のようなアイデアもいただいたので、検討していきたい。

- ・ 臨床心理士が備えておくべき態度を学ぶ時に、あえて間違ったモデルを作ってみてそれをどういうふうに改めるか討議してみてもおもしろいと思います。
- ・ 話し合いや実践を少しまぜると変化がついてなおいと思われる。
- ・ 子育て支援について、実際の様子をみたかった。
- ・ 面接のビデオを講義の中で見て議論したい。

5 本授業の成果と今後の課題について

前年までは教員一人で行っていた授業であったが、今年度は二人で担当した。内容的な関連に関して今後検討していきたいが、全体としては、積極的に評価された結果だと思われた。例えば、授業への準備や内容、学校現場での活かし方やつながり等である。これらの点については来年度もこのような側面を維持していきたいと考える。

改善点として、開講時期、演習の併設等が考えられる。また、さらに、資料の充実や事前指導の充実、講義スタイルの再考なども今後の課題となるだろう。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評価実施日	平成 19 年 7 月 25 日		
授業科目名	臨床心理面接演習	学期・曜日・時限	前期	水曜日	2時限
授業区分	1. 教職基礎科目 2. 専門科目				
担当教員名	葛西真記子, 佐藤 亨		回答者数	10名	

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5. まったくそう思う 4. かなりそう思う 3. どちらともいえない]
 [2. あまりそう思わない 1. まったくそう思わない 無 未記入]

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	4	5	1			
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	3		6	1		
3	授業の内容には一貫性があった。	7	3				
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	5	3	2			
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	2	4	4			
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	5	4	1			
7	授業の進む速さは適切であった。	5	5				
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	6	3	1			
9	受講生に授業への参加（質問，発言，討議など）をよく促した。	9	1				
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	3		6	1		
11	視聴覚機器の使用は適切であった。	6	4				
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。	5	3	2			
13	受講生に分かりやすく説明した。	8	2				
14	教員の声は聞き取りやすかった。	7	3				
15	板書の文字は見やすかった。	3		7			
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	8	2				
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	10					

<分 析>

授業内容については概ね肯定的な評価を得ており、特に「自分にとって満足できるものであった」かどうかという問いには、全員が満足できるものであったと回答している。一方、やや評価が低かったのは教科書に関する項目であるが、それはこの授業が、自分たちが行った面接場面のロールプレイを録画したのを見ながら、参加メンバーでディスカッションを行うという形態を取っており、教科書等を使用しなかったためである。また、自分たちがディスカッションを行うという形態であったため、ほとんどの学生が積極的に授業に参加した旨答えており、参加者にとって意味のある授業であったと考えられる。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

多くの学生が、カウンセラーとしての実践的なスキルや能力の向上を上げており、臨床心理士養成コースのカリキュラムの中で、実際の面接を行う前のトレーニングとして本授業を設定していることを考えると、ほとんどの学生がこちらの意図した問題意識を持って本授業に取り組んだことが認められた。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

「教師の実践力の育成」という意味で回答した学生に関しては、そもそも本授業が教師の実践力の育成を目指したものでないために、「教師育成を目指したものでない」旨回答した学生もいた一方で、「カウンセリング技術」や「カウンセリングマインド」が教師として役に立つ旨回答した学生もいた。また、「教師の実践力」を「カウンセラーの実践力」と読み替えて回答した学生も多く、それらの学生に関しては「実践的な力を身につけることができた」旨の回答がほとんどであり、本授業の目的が達成されていると考えられた。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

良かった点としては「少人数で中身の濃い指導を受けることができた」、「みんなの色々な意見が聞けた」といった点を上げている学生がいた。また、改善点としては「先生とのロールがあればよいかと思った」といったことが述べられていた。ただ、この項目に記入していない学生が多く、この結果だけでは特に改善点を明らかにすることはできなかった。

5 本授業の成果と今後の課題について

本授業は、臨床心理士を養成していく過程の中で、実際の面接を実施する前のトレーニングの一環として行っているもので、学生も実践力の向上という授業の目的に沿った課題意識を持って取り組んでいることが認められた。また、教師としての実践力をカウンセラーとしての実践力と読み替えたと思われる回答からは、多くの学生が実践力が育ったと感じていることが認められ、本授業の所期の目標は達成できていると考えられる。今後は、さらに実践力を伸ばすための授業の在り方について、工夫を重ねていく必要があると思われる。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

	評 価 実 施 日	平成 19 年 7 月 30 日	
授業科目名	教育課題探求(臨床心理学 基礎研究)	学期・曜日・時限	前 期 月 曜日 5 時限
授業区分	①. 教職基礎科目 2. 専門科目		
担当教官名	小坂浩嗣, 末内佳代	回答者数	6 6 名

1 アンケート [1] の集計と分析について

5 まったくそう思う
4 かなりそう思う
3 どちらともいえない
2 あまりそう思わない
1 まったくそう思わない
無 未記入

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	25	28	12	1	0	0
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	16	18	26	1	2	3
3	授業の内容には一貫性があった。	30	24	10	1	1	0
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	35	22	8	1	0	0
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	19	22	23	1	1	0
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	36	23	6	1	0	0
7	授業の進む速さは適切であった。	33	23	9	1	0	0
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	23	29	9	4	1	0
9	受講生に授業への参加（質問，発言，討議など）をよく促した。	44	15	6	0	1	0
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	17	13	29	2	1	4
11	視聴覚機器の使用は適切であった。	18	23	22	0	3	0
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。	32	24	6	3	0	0
13	受講生に分かりやすく説明した。	32	25	7	0	2	0
14	教官の声は聞き取りやすかった。	46	17	1	2	0	0
15	板書の文字は見やすかった。	41	18	6	0	0	1
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	34	25	5	2	0	0
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	34	20	8	3	1	0

<分 析>

質問全体の平均が 4.213 で総合的によい評価が得られた。観点別では、授業の内容については 4.126、教員の授業の進め方については 4.225、学生の授業への取り組みについては 4.379、授業全体への満足度については 4.258であった。特に学生の授業への取り組みについては、授業形態の一部に毎週課題を提示し、その課題に基づいて次時の授業では小グループによるディスカッションするという授業方法を取り入れたことが、受講者に高い評価を受け、受講者の授業に対する満足度の高さに要因になったことが窺えた。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

全般に、学校現場での生徒指導等の教育実践やスクールカウンセリングに対する関心が非常に高かった。また、「教師として実践に役立つことを期待した」「現場での実践力をつけるために」「生徒指導や教育相談の理論と実践力を身に付けるため」になど教育実践力の向上を期待する受講者が多かった。

一方、臨床心理士養成にかかわって、「学校現場の実状について、教師とSCがどのように連携するのか知りたかった」「教育現場における心理臨床活動のあり方」など将来の学校臨床心理士としての職業や立場等を想定した問題意識を高く持って授業に臨んだ受講生も多かった。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

学校現場に関連した事例研究論文を現職と非現職の混合した10人程度の小グループでディスカッションした授業形態が評価された。また、教師としての教育実践について省察し今後の実践に役立ったとする意見も多かった。

その一方、現職以外の受講者からは、学校現場の事例に接し、多角的視点からのディスカッションをする機会が得られたことから、多くの気づきを得て学ぶことが多かったとの意見が大半を占めた。反面、学校事例に偏っているとの意見もあった。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点，改善してほしい点を具体的にお書きください。また，この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

心理臨床的教育実践の事例検討については，討議の時間配分や話し合う観点の明確化や意見・感想のフィードバックによって話し合いを深めるなどの授業方法の改善を求める意見があった。

5 本授業の成果と今後の課題について

総合的によい評価が得られた。特に，受講者の授業に対する関心・意欲が高く，今後の研究課題や学校現場の実践的課題について，受講者が主体的に探求できるように授業形態を工夫したことが評価されたと考えられる。しかし，教師や心理臨床家としてのより高い資質と実践力の育成を目指すならば，本授業でのねらいを明確化し受講生とともに教員側が参加した討議計画を立てるなどの改善・工夫を加える必要がある。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評 価 実 施 日	平成20年2月21日
授業科目名	臨床心理査定演習Ⅱ	学期・曜日・時限	後期 月曜日 3時限
授業区分	1. 教職基礎科目 2. 専門科目		
担当教員名	佐藤 亨	回答者数	45名

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
 [2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入]

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	11	21	9	4	0	0
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	16	26	2	1	0	0
3	授業の内容には一貫性があった。	22	17	4	2	0	0
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	6	11	20	5	1	2
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	7	25	13	0	0	0
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	26	17	2	0	0	0
7	授業の進む速さは適切であった。	12	13	13	6	1	0
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	15	20	10	0	0	0
9	受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。	19	19	7	0	0	0
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	10	26	8	1	0	0
11	視聴覚機器の使用は適切であった。	22	19	4	0	0	0
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。	24	19	2	0	0	0
13	受講生に分かりやすく説明した。	16	24	5	0	0	0
14	教員の声は聞き取りやすかった。	22	20	3	0	0	0
15	板書の文字は見やすかった。	18	18	8	1	0	0
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	17	23	5	0	0	0
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	16	19	10	0	0	0

<分 析>

ほとんどの項目で、3分の2以上の受講生が4以上の評価をしており、おおむね高い評価を得ている。その中で比較的评价が低かったのは、項目4の教師の実践力の育成に役に立ったかという項目であるが、これはもともとこの授業が教師の実践力育成ではなく、臨床心理士としての実践力養成を目的としていることを考えるとやむを得ないものである。むしろ検討の必要があるのは項目7の授業の進む速さについてであり、半数近くの受講生が3以下の評価となった。これは、本授業が月曜日に開講されていたために、祝日及び入試等の関係で休みになることが多く、学期末ぎりぎり補講等を行って必要な内容を実施したことによると考えられる。今後は、休みの状況等を勘案しつつ授業を進めていくことが必要であろう。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

この項目に記載した人のほとんどが、ロールシャッハの実施法や解釈法を学びたくて受講した旨記載しており、受講生のニーズに沿った形で実施できたと考えられる。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

この項目に記載した人の多くが、教育現場でロールシャッハテストを実施することはほとんどないと思われる旨記載している。これは、もともと本授業が教師の実践力育成ではなく、臨床心理士としての実践力養成に主眼を置いていることからやむを得ないと思われる。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点，改善してほしい点を具体的にお書きください。また，この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

改善点としては，やはり授業の進め方についての意見が多かった。休日や入試に伴う休みが多かったために，最後に補講等を行って必要な内容を実施したために，レポートの提出期限までに余裕がない状態になってしまったためもう少し余裕を取ってほしいという意見が多く見られた。また，前半部よりも後半部に時間をかけてほしいという意見や，そもそも後期だけでは時間が足りず，前期後期の通年でやってほしいという意見も見られた。

一方，良かった点としては，わかりやすかった旨記載している受講生が多く，ロールシャッハテストについての理解を深めることはできたと思われる。

5 本授業の成果と今後の課題について

本授業の目的であるロールシャッハテストについての理解を深めることはできたと考えられる。ただし，後期のみでテストの実施からスコアリング，解釈まで実施しようとするとかかなり厳しい日程となる上，月曜日は祝日や入試の関係で休みとなることが多く，学期末に集中して実施するような形になり，全体の時間配分等については今後検討する必要があると思われる。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

	評価実施日	平成 19年 7月 30日			
授業科目名	幼年期教育学研究	学期・曜日・時限	前期 月 曜日 4 時限		
授業区分	1. 教職基礎科目 ② 専門科目				
担当教員名	橋川 喜美代	回答者数	7 名		

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
 [2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入]

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	2	5				
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	4	3				
3	授業の内容には一貫性があった。	5	2				
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	5	1	1			
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	3	3	1			
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	5	2				
7	授業の進む速さは適切であった。	5	1	1			
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	4	2	1			
9	受講生に授業への参加（質問，発言，討議など）をよく促した。	6	1				
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	3	3				1
11	視聴覚機器の使用は適切であった。	4	3				
12	配布された資料・文献等は，授業内容を理解する上で役に立った。	5	2				
13	受講生に分かりやすく説明した。	3	4				
14	教員の声は聞き取りやすかった。	6	1				
15	板書の文字は見やすかった。	5	2				
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	3				
17	この授業は，自分自身にとって満足できるものであった。	4	3				

<分 析>

人数が少ないこともあるが、全体的に見て、評価が5と4に集中しており良好だと思われる。5が最も多かったのは、設問9「受講生に授業への参加（質問，発言，討議など）をよく促した」と、設問14「教員の声は聞き取りやすかった」であった。5が最も少なかったのは、設問1「授業概要で紹介された授業計画が理解しやすく、適切であった」であり、理解しやすい書き方を工夫していきたい。設問4の「教育の実践力に役立つ内容であった」については、どちらともいえないという回答があることから、高く評価されたと楽観せず、今後も改善を図る必要がある。

最大の課題と考えてきた設問16「授業に主体的・積極的に取り組んだ」が、今年度は比較的成功したように思われる。主体的な学習態度への喚起が授業への満足度にも直結していることから、今後も工夫していきたい。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

回答された問題意識や期待は、以下の通りであった。

- ①様々な保育の実践が知りたかった。
- ②保育の種類にはどんなものがあるのか、どんな保育が日本に合うのか知りたかった。
- ③幼児期の保育・教育について、知らない事がたくさんあったので受講しようと思った。
- ④日本だけでなく世界の幼児教育についても知りたかった。
- ⑤今まで学んだことのない分野だったので、ひとつでも多く新しいことを知りたかった。
- ⑥保育の質の向上を学び、自分の保育を見る視野を広げたいと思った。
- ⑦実際の保育現場が見られると思い受講した。
- ⑧現場では、なかなか理論を勉強する機会がなく、無秩序に混在した事柄を整理したり、新しい知識を身につけたいと思い受講した。

回答では、自身の学習を深めたいといった観点が多く見られた。授業者として留意すべき点としては、漠然と新しいことを学びたいという思いから実践と理論を結びつけ専門性を深めたいといったもので多岐にわたるといえる点である。こうした期待を十分考慮して、次年度への準備を整えたい。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

平均値は4.6であり、3の評価が一人であった。5の評価（7人中5人）の回答は、以下の通りであった。

- ①保育園に行き、実際の保育を見ることで新しい発見があった。同じ子どもでも視点が変わると違って見えることが面白かった。
- ②保育園での観察参加によって、附属幼稚園や自分が通っていた幼稚園との保育や保育内容の違いが学べた。
- ③実際に、幼児期の教育が日本や世界ではどのように異なっているのかが、少し分かってきた。
- ④世界の保育の一例を学び、日本との違いを考えるきっかけとなった。自分に足りないところに気づき、何を学ぶべきかが分かった。
- ⑤今まで頭の中でバラバラだった経験をまとめ、分類することができた。また、経験の中でおそらくこうではないかと感覚的に把握していたことが、授業によってやはりそうだったのだと納得できた。また、同じような結果がデータとして出ていることも分かった。このような知識は現場での実践に大きな自信となり得る。

本授業の受講者が殆ど現職教員でないために、質問と評価にズレも見られるが、実際の保育園での保育観察や、世界の幼児教育の一端を学ぶことで、新しい発見や学びがあり、それが実践力に繋がると回答している者が多かった。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

改善してほしい点や、授業に取り入れられるアイデアの記入はないが、この授業で良かった点として、以下の回答があった。

- ①物事に対して深く考え、自分の意見をしっかり持ち、それを表現することの大切さを教えられた。
- ②考えさせられる場面が多かったことが良かった。
- ③実際に保育園に行き観察できたことが良かった。
- ④自分が知っている保育とは違ったものの発見や驚きがあった。

前年度までの「他の受講生の意見や考えを聞く」機会にとどまらず、本授業が受講者の考えを引き出し、意見をきちんと表現することの重要性に気付かせた点を評価されたのは嬉しいことである。とはいえ、ストレート・マスターが多く、話し合いが深まらないことや、歴史的な文献や実践記録の紹介が評価されていない点に留意しておく必要があるだろう。

5 本授業の成果と今後の課題について

全体的に昨年よりも受講者が減っているため、評価結果から受講生は概ね満足していると安心することはできない。毎年、受講生の顔ぶれや知識の習熟度の違いが大きく、授業計画の調整に迫られることも反省点として残されたままである。さらに、「受講生の主体性」を引き出すための資料や説明の工夫は今後も検討していく必要がある。

また例年、良かった点にもあがっている保育園での観察実習は、実践力を育成する上で欠かせないものであるが、受け入れ側との調整、場所や時間の制約などを考えれば問題も負担も大きい。その一方で、昨年までと異なり、受講生の中に同じ子どもでも見方によって違って見えることに気付いており、子どもとの積極的なかわりに加え、その質的なものにまで深めていくにはこうした機会は止められないと改めて認識することができた。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評 価 実 施 日	平成 19年 7 月 26 日		
授業科目名	幼年発達心理研究	学期・曜日・時限	前 期 木 曜 日 4 時 限		
授業区分	1. 教職基礎科目 ②. <u>専門科目</u>				
担当教員名	田村 隆宏	回答者数	24 名		

1 アンケート〔1〕の集計と分析について

(5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない)
 (2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 --- 未記入)

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	11	10	3			
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	8	9	6			1
3	授業の内容には一貫性があった。	13	11				
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	8	13	3			
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	12	11	1			
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	15	9				
7	授業の進む速さは適切であった。	13	9	2			
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	10	11	3			
9	受講生に授業への参加（質問，発言，討議など）をよく促した。	13	10	1			
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	5	16	2			1
11	視聴覚機器の使用は適切であった。	12	11	1			
12	配布された資料・文献等は，授業内容を理解する上で役に立った。	10	11	2			1
13	受講生に分かりやすく説明した。	14	8	2			
14	教員の声は聞き取りやすかった。	14	8	2			
15	板書の文字は見やすかった。	9	10	4			1
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7	13	3	1		
17	この授業は，自分自身にとって満足できるものであった。	14	8	1	1		

<分 析>

全項目について4「かなりそう思う」以上の評価が多かったことから、各項目に関わる目標は概ね達成されたと考えられる。ただし、項目2では評価値3が若干多く、授業中に紹介したテキスト・参考書の適切性が問われている。この点については今後、テキスト、参考書をさらに吟味する必要がある。次に3の評価値が多かった項目15は、板書の文字の見やすさに関わるものである。講義ではパワーポイントで提示したが、この提示方法について、見やすくなるようさらに吟味する必要がある。項目16、項目17では、1名のみであったものの評価値2が見られた。項目16は受講生自らの授業に対する主体性、積極性に関わるものである。今後はさらに授業に対して主体的、積極性をもって臨むよう工夫を心がける。項目17は授業に対する満足度であるが、この点についても、受講生のニーズに見合う満足度の高い内容を目指したい。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

主なコメントは「乳幼児の発達過程・成長過程を学びたかった」、「教育の一貫性を考え、幼児期の発達について知りたいと思った」、「幼児期に関する知識がなかったので、知識を深めたいと思った」、「子どもの言語発達について知りたかったから」、「乳幼児の心理を勉強したい」、「自分自身がまだまだ理論的にも実践的にも乏しい子どもの発育、発達学をより細かく学べることを期待していた」、「障害児教育専攻なので、健常児の発達を勉強したい」、「大学では言語学を学んでいたが、子どもの基本的な発達の仕方とはどういうものであるのかについて学びたかった」、「様々な分野、見地から幼児・児童を捉えた知識、指導方法論の習得」、「子どもがどのように世界を捉えているかに疑問を持った」、といったものであった。

それぞれ、乳幼児の心身面の一般的な発達過程についての知識を深めたい、という点で共通している。今年度の授業内容では、概ね受講生の問題意識や期待に添うものであったと考えられるが、今後はさらに最新の研究成果の中でも、保育、教育現場で役立つものを重点化して、講義内容に盛り込みたい。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

主なコメントとしては4、5の評定を下した者は「子どもの発達を知ることによって、正しい支援を行う手助けとなると感じた」、「今まで表面的にしか幼児を理解していなかったが、この講義を受け、もっと深く幼児のことを知ることができた」、「講義で紹介された子どもの発達段階や成長過程を知るとは教育実践力には欠かせないものだと思う」、「乳幼児の発達に関する内容であったが、児童、生徒の発達にもつながると思った」、「現場で多分こうだろうと思う事柄が授業を聴いていて、まとまったり、つながったり、分類できたりすることがあった。理論に裏づけられたことによって、自信を持って現場で実践することができる」といった内容が中心であった。講義の内容としても、乳幼児の一般的に発達過程を紹介しながら、現場の保育・教育と関連づけることを心がけたので、授業者の目論見は概ね達成されたものと考えられる。

ただし3の評定をした者から、「実践力に結びつく前の基礎的内容が多かった」というコメントが見られた。少数意見ではあるものの、講義内容が保育・教育実践と直接的に関連するものと受け止められなかった受講生がいたことは、今後の講義内容では、より保育・教育実践と直接的な関連性が認識できるものを目指す必要があることを示唆している。この点について、さらに工夫していきたい。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

良かった点としては、「難しい理論をわかりやすい言葉に直して説明していたいたのがよかった」、「一方的な講義だけでなく、グループ発表があったのでよかった」、「話すテンポもよく、声も聞きやすかった」といったものが中心的であった。今後も、内容をわかりやすく説明する点、グループ発表を取り入れる点、適度なテンポ、声の大きさと話す点について留意した講義を展開したい。

改善すべき点としては、「グループ発表で用いた材料が難しいので、先生からも説明してほしい」、「討論はもっと院生の方が積極的に発問すべきだと思う。一部の院生だけで盛り上がっていた感じがした」、「討論があまり活発になれなかった」といったコメントが寄せられた。発表に用いた材料が難しかった点については、今後十分な説明を加えるなどの工夫が必要であると考えられる。受講生の方で討論が一部の者だけで盛り上がり、それ以外の者は活発に参加していなかった点については、今後、講義者側のリードのあり方をさらに工夫し、討論がすべての受講者が活発に参加できるように促したい。

5 本授業の成果と今後の課題について

[1] の評定値の結果では、すべての項目において、4、5が大部分を占めていたことから、授業に求められる基本的な課題は概ねクリアしていると考えられる。特に受講生のニーズとして中心的であった「乳幼児の基本的な発達段階、成長過程を知りたい」については、概ね応えられたのではないかと考えられる。また、保育・教育実践に役立つ内容を心がけていたことから、[3] のコメントでも肯定的な意見が多かった。ただし、1名だけであるが否定的な意見も見られたことから、内容をさらに保育・教育実践に役立つことを認識しやすいものに洗練させていくことも必要になるものと思われる。

今後の課題として、第1点目は主としてグループ発表で課した材料が難しかったということで、これに対して、講義者から十分に説明を加えるなど、受講生の理解が深まるための工夫が不可欠であると考えられる。第2点目としては、講義後の討論で、一部の受講生だけが積極的に参加し、それ以外の受講生は活発な討論ができなかったということである。これに対しては、授業者があまく先導し、受講生全員が討論に参加できるように工夫する必要があるものと考えられる。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評価実施日	平成19年 7 月 20 日
授業科目名	幼年発達と幼児教育内容論	学期・曜日・時限	前期 金曜日 4 時限
授業区分	1. 教職基礎科目 ② 専門科目		
担当教員名	塩路 晶子	回答者数	6 名

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
 [2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入]

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。		4	2			
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。						
3	授業の内容には一貫性があった。	3	1	2			
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	1	4	1			
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	3	3				
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	5	1				
7	授業の進む速さは適切であった。	3	2	1			
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	3	2	1			
9	受講生に授業への参加（質問，発言，討議など）をよく促した。		4	2			
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。						
11	視聴覚機器の使用は適切であった。	5	1				
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。	4	1	1			
13	受講生に分かりやすく説明した。	2	3	1			
14	教員の声は聞き取りやすかった。	3	3				
15	板書の文字は見やすかった。		3	3			
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	3	2			
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	1	4		1		

<分 析>

項目(12)(11)にあるように、講義中に配布した資料・文献、視聴覚教材等は、受講生の内容理解に寄与するものであったようである。

改善しなければならない主な点としては、項目(15)によると、板書の文字が見にくいようであるので、もう少し改善したい。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

受講生の授業への期待は、①専門的な立場から見た（保幼小の連携も含めた）現在の幼児教育のあり方や問題点を理解したい、②諸外国の教育・保育の内容を理解したい、③幼児教育についての知識がないので身につけたい、というようなことである。

今後も、幅の広い受講生の期待にこたえることができるような授業構成を工夫していきたい。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

・教育実践とのつながりについて

「具体的な実践例が、文章だけでなく映像等も通じて多く提示され、分かりやすかった」などという意見が挙げられ、受講生の実践力の育成に少しは寄与できたようである。また、「現場で直接役立つテクニク的なものをねらう授業ではないが、自分の経験や感覚的なものをまとめたリ系統づけたりできてよかった」といった意見もあり、「実践を単なるHow Toに終始しない」という講義担当教員のねらいとするところへの評価もあった。

・諸外国の保育教育内容について

「諸外国の理論や実践を知ることができてよかった」などの意見が挙げられた。

・今後はさらに、日本の（小学校との連携も含めた）幼児教育や諸外国の幼児教育の保育内容についての具体的事例や理論を提示するにあたって、受講生自身が自ら課題を持ち、考えることができるようなものを工夫していきたい。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

・良かった点

「視聴覚教材なども見ることができた」「配布資料が多く、何度も見返したり読み返したりできた」といった意見が挙げられた。

・改善点及びアイデア

「もっと視聴覚教材が見たい」「いろいろ作業をしたほうが理解を深めることができる」といった意見にみられるように、学生の理解を深めるための授業方法上の工夫がより必要である。また、ここでも「板書が読みにくい」という意見があり、なるべく改善していきたい。

5 本授業の成果と今後の課題について

本講義がめざしていた「子どもの生活や遊びを中心にした保育」の日本と諸外国（主にアメリカ）の保育内容を歴史的・現代的な観点から学ぶ、という目的は概ね達成されたと考えている。特に諸外国の保育内容等は受講生にとって、興味深い内容であったようである。期末レポートを見ると、講義において取り上げた具体的実践や理論の中から、受講生一人ひとりの経験や課題意識を対象化し、多様な観点から深めることが概ねできていたと評価できる。

本講義の今後の課題としては、基本的には講義のスタイルをとりつつも、幅の広いニーズをもつ受講生がより主体的に講義に参加できるように、授業方法上の工夫をしていきたい。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

	評価実施日	平成	20年	2月	4日
授業科目名	特別支援教育学習支援演習	学期・曜日・時限	後期	月曜日	4時限
授業区分	1. 教職基礎科目 2. 専門科目				
担当教員名	島田 恭仁	回答者数	23名		

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
 [2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入]

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	1	10	8	3	1	0
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	2	10	10	1	0	0
3	授業の内容には一貫性があった。	7	13	3	0	0	0
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	3	14	4	1	1	0
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	4	9	6	3	1	0
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	5	12	4	2	0	0
7	授業の進む速さは適切であった。	3	12	8	0	0	0
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	4	12	5	2	0	0
9	受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。	0	9	6	7	1	0
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	2	7	12	1	1	0
11	視聴覚機器の使用は適切であった。	-	-	-	-	-	-
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。	4	12	7	0	0	0
13	受講生に分かりやすく説明した。	3	15	4	0	1	0
14	教員の声は聞き取りやすかった。	4	11	7	1	0	0
15	板書の文字は見やすかった。	3	10	8	2	0	0
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	14	5	0	1	0
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	2	12	6	2	1	0

<分 析>

問3で23名中20名が、5または4の高い評定を行ったことから、授業内容に一貫性をもたせることができたと言える。LD・ADHD・高機能自閉症の認知特性に関する心理学的な研究を紹介した上で、集団参加が難しいアスペルガー障害の事例を挙げ、3人ずつのグループで個別指導計画を作成する演習を行ったことの成果だと考えられる。また問6・13・16の評価から、授業の準備、説明のし方は適切だったと言え、問4の評価から、多くの受講生が教師の実践力の育成に役立ったと感じていることが分かった。

しかしながら、問9では5または4の評価が少なく、相対的に2や1の評価が多かったことから、授業への参加の促しは不足していたことが分かった。今年度は、演習を行うための下準備として、認知特性に関する研究の紹介を入念に行ったためだと考えられる。次年度は、演習にもっとウェイトをかけて、個別指導計画に準拠した教材作成なども取り入れるようにしたい。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

「発達障害児の心理特性について学びたかった」という趣旨の回答をした院生が5名いた。今回の授業では、LD・ADHD・高機能自閉症の児童の心理特性について、認知心理学的な観点から詳述し、さらにWISC-Ⅲのアセスメント結果に基づく個別指導計画の立案を、演習の中で行ったため、これらの院生のニーズには応えることができたと思われる。

また「発達障害児に対する具体的な指導法について学びたかった」という趣旨の回答をした院生が8名いた。今回の授業では、少人数のグループを編成して、個別指導計画の立案に関する演習を行ったため、これらの院生のニーズにも応えることができたと思われる。ただし、演習の回数が十分に取れなかったため、立案した計画に即して、教材を作成したり、指導の手順を考案したりする所までは進めなかった。従って、今後は、アセスメント・個別指導計画・教材作成・指導、という一連の流れをフルに体験できるように、演習のし方に工夫をこらしたい。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

「教師の実践力の育成に役立つ内容であったか？」という問いに対して、5または4の評価を行った院生17名の内、「検査結果に基づいて個別指導計画を立てるなど、実践的な知識を得ることができたから」という趣旨の回答を行った院生が8名、「基礎的で基本的な知識を得ることができたから」という趣旨の回答を行った院生が3名いた。

これらの意見から、WISC-Ⅲのアセスメント結果に基づく個別指導計画の立案を、演習の中で行ったことが、教師としての実践力の育成に役立つことが分った。また、授業中に紹介した技法が、心理学的指導法の基礎・基本であり、学校において実用的に用い得る有効な方法であることについて、理解を促すことができたと思われる。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

この問いに回答した院生数は少なかったが、「後半で行ったような演習を、もっと時間をかけて、ゆっくりとして欲しい」という趣旨の回答を行った院生が4名いた。従って、今後は、アセスメント・個別指導計画・教材作成・指導、という一連の流れをフルに体験できるような演習になるように工夫をこらしたい。

また、1名だけではあるが、「グラフを書き写すのが大変なので、プリントを利用して欲しい」という意見があった。しかしながら、この点に関しては、グラフを見ただけでは、実験結果や検査結果の詳細な点が把握しにくい事を考慮して、あえて書き写すように指示してきた。次年度には、このような意図を事前に説明すると共に、データを精選して板書の数を減らす、大きく書く等、見やすくするための工夫を行いたい。

5 本授業の成果と今後の課題について

今年度の成果の1つは、LD・ADHD・高機能自閉症の認知特性に関する心理学的な研究を紹介した上で、3人ずつのグループ編成を行い、具体的な事例を取り挙げて個別指導計画を作成する演習を行った点にある。そのため、授業内容に一貫性があり、教師の実践力の育成に役立つ内容であったという印象をもつ院生が多かったのだと考えられる。また、授業の準備、説明のし方は適切だったという肯定的な評価を多く得ることもできた。

さらに、今年度の授業の第2の成果は、「後半で行ったような演習を、もっと時間をかけて、ゆっくりとして欲しい」という趣旨の要望が、院生の側から出された点にある。改善点に関する要望は、ともすれば、不備な点を改めて欲しいという旨の否定的な意見が多くなりがちであるが、授業中に興味をもったことについて、もっと時間をかけて行いたいという、前向きな要望が出されるようになった点は評価できる。

今後の課題としては、アセスメント・個別指導計画・教材作成・指導、という一連の流れを体験できるように、演習内容を充実させるための工夫を行いたい。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評価実施日	平成19年 7月24日		
授業科目名	特別支援教育学研究論 I	学期・曜日・時限	前期 火曜日	4時限	
授業区分	1. 教職基礎科目 ②. 専門科目				
担当教員名	八幡 ゆかり	回答者数	15名		

1 アンケート [1] の集計と分析について

(5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない)
 (2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 --- 未記入)

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	7	6	2			
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	6	8	1			
3	授業の内容には一貫性があった。	9	6				
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	11	4				
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	10	5				
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	13	2				
7	授業の進む速さは適切であった。	5	9	1			
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	7	7	1			
9	受講生に授業への参加（質問，発言，討議など）をよく促した。	13	2				
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	—	—	—	—	—	—
11	視聴覚機器の使用は適切であった。	6	9				
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。	11	4				
13	受講生に分かりやすく説明した。	9	5	1			
14	教員の声は聞き取りやすかった。	11	3	1			
15	板書の文字は見やすかった。	4	5	5			1
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	10	5				
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	12	3				

<分 析>

全ての項目にわたって5と4の評価が最も多く、また、5が4の評価を上回っていた。本学で重視している項目4「教師の実践力の育成に役立つ」については、5が11人（約73%）、4が4人（約27%）であった。したがって、同項目について、本授業の内容が効果があったと考えられた。また、本授業で目的においた「受講生が主体的に取り組む」ことに関連した項目16の設問について、全員が自己評価が高く、5が10人（約67%）、4が5人（約33%）であった。このことから、本授業の目的が達成されたと考えられた。そして、授業全体の満足度を問う項目17について、5が12人（80%）、4が3人（20%）であったことから、本授業の趣旨および実施内容等が適切であったと考えられた。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

回答内容から、以下の3つに大別でき、受講動機が異なることが判明した。

1. シラバスを参考にした回答。特別支援教育の歴史的背景を学び、これまでの問題を知り、今後の課題を明らかにし、よりよい支援の在り方を考えたい。
2. 特別支援教育に関する基本的知識を総合的に学び、現状について理解したい。
3. 現在の障害児・者の教育問題や生活問題を知りたい。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

5と4の評価ごとに以下、示す。

5の評価の内訳は、次のとおりであった。

1. 自分が教師になったとき、どのような授業をして何を教えたいか明確になった。
2. 学校という組織における自分の役割がわかった。
3. 歴史や現状と課題を知り、今後どうすべきか詳しく学び、自身の考えを深めることができた。
4. 学んだ内容は、実践における知識レベルとして役立つ。
5. 内容が实际的であり、現場教師の意識の問題や制度上の問題など具体的に把握できて、役立った。
6. 文献の読み取り方を知ることができた。
7. 差別問題や人権問題を考えることができ、障害理解を深めることができた。

4の評価の内訳は、次のとおりであった。

1. 現状を理解できたので、現場で生活場面の啓発をしていきたい。
2. 歴史的な背景がよく学習できた。
3. 問題を意識して、見定めることの重要性を学べた。
4. 講義をとおして知らなかったことを学び、考えることができた。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

良かった点として、次のことが挙げられた。

1. 受講生に投げかけた質問や考えをその都度、フィードバックしてくれ、授業の流れを受講生に合わせてくれた。
2. ディスカッションが多く、他の人の意見を聞くことができ非常に勉強になった。
3. 先生の説明が分かりやすかった。
4. 熱意あふれる授業であった。
5. 問題意識をもつことができ、自分の考えをもって他の人と話し合うことができた。

改善してほしい点について、次のことが挙げられた。

1. 授業の初めに、授業の進め方の見通しを示してほしい。
2. 早口で、聞き逃すことがあったので、もう少しゆっくり話してほしい。
3. ビデオを見ると、テレビ画面が小さかった。

5 本授業の成果と今後の課題について

本授業の成果として、本学が重視している「教育実践力の育成」に役立ったといえる。その根拠として、設問4に関する受講者の評価が5と4とに占められていたこと〔5が11人（約73%）、4が4人（約27%）〕が挙げられる。また、その評価理由の記述内容から、教育実践力として求められている、「問題に関する洞察力」、「見通しをもった実践の取り組み」といったことの重要性について受講生が理解できたと考えられた。そして、本授業で重視した「受講生が主体的に取り組む」、という目的についても、受講生全員が設問16について、高い値の自己評価〔5が10人（約67%）、4が5人（約33%）〕を示しており、成果があったといえる。このような高い自己評価を導くのに効果があったのは、受講生に授業への参加をよく促し、グループで話し合う場を常に設定したことが挙げられる。この方法が受講生に受け入れられたと言えるのは、設問9「受講生に授業への参加をよく促した」の評価として5が13人（約87%）、4が3人（約13%）であったことや、授業の良かった点として、グループでの話し合い、ディスカッションが挙げられていたことによる。

今後も、今年度の成果を踏まえて受講生の実態に即して進めていきたい。また、改善点として挙げられたこと（教師の話し方、授業の見通し）に留意したい。なお、改善点として挙がっていた「テレビ画面が小さい」、ということについては、大学側に施設設備の改善をお願いしたい。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評 価 実 施 日	平成 19年	7月	17日
授業科目名	特別支援教育学研究論Ⅱ	学期・曜日・時限	前 期	火曜日	2時限
授業区分	1. 教職基礎科目 2. 専門科目				
担当教員名	大谷 博俊	回答者数	12名		

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
 [2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入]

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	4	8				
2	授業概要や授業中に紹介された資料・文献等は役に立った。	8	4				
3	授業の内容には一貫性があった。	11	1				
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	7	5				
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	10	1	1			
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	12					
7	授業の進む速さは適切であった。	2	5	4	1		
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	5	6	1			
9	受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。	8	4				
10	文献や資料等の使い方は適切であった。	8	4				
11	視聴覚機器の使用は適切であった。	9	3				
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。	7	5				
13	受講生に分かりやすく説明した。	6	6				
14	教員の声は聞き取りやすかった。	8	4				
15	板書の文字は見やすかった。	3	1	6			2
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7	5				
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	8	4				

<分 析>

受講生の授業に対する満足度は高い。授業内容に一貫性があり、授業で使用した文献等の資料が適切で、受講生への説明を丁寧に行ったためであると考えられる。また、受講生に対して質問を行ったり、討議を求めたりするなど参加を促したことも満足度を高めたのではないかと考える。受講生の講義に対する意欲・関心が高く、講義内容とうまくマッチしたためであることも予想される。一方、講義進度に関しては、検討を要すると考える。受講生の持つ知識、経験によっては、補足の資料を準備する、あるいは基本的事項が記されている教科書等の資料を紹介することなどが必要になる場合もあるかもしれない。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

受講生の意見は主に次の2点に集約される。①特別支援教育に関する知識を学びたい、②障害のある子どもへの実践に即した支援方法を学びたい。

これらのことから、受講生は特別支援教育の実践に関わる支援の方法、そのベースとなる障害児の特性等の知識を身につけ、今後の自らの教育的対応に活かしたいと考え、本講義を受講したのだと推察する。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

受講生の意見は主に次の2点に集約される。①教育現場に即応した課題を取り上げ、それらに関する種々の子どもへのアプローチを知ることができた。②文献の知識を得ただけでなく、それらに対する自分の考えをまとめ、グループ、あるいは全体での討議により深めることができた。

これらのことから、受講生は特別支援教育の実践上の課題を知ること、そしてその対応方法について知ることを望んでおり、それらと講義内容とが一致することが大切であると感じた。また、講義の形式として、個人の考えをまとめ、発表する、あるいはグループや全体で討議するなど計画的に取り入れることが大切であると感じた。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点，改善してほしい点を具体的にお書きください。また，この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

受講生の意見は主に次の3点に集約される。①資料を読み込む時間が足りない、授業の展開が早いなど授業進度に関わること、②個々の考えを深めるための個人課題の設定、グループでの討議など授業展開の工夫に関すること、③講義内容に即した資料等の準備、受講生への配慮など教員の教授態度に関することである。

これらのことから、授業展開の工夫が大切であることを感じた。また、教員としての姿勢の大切さについても改めて感じた。

5 本授業の成果と今後の課題について

本講義では、特別支援教育の実践を強く意識し、教育的課題となるであろうと予想される事柄を中心に内容を構成した。また、受講生の知識、経験の違いを考慮すると共に、講義内容の深化を図ることをねらって、個人の課題とグループでの討議、グループ討議を基にした全体討議を取り入れた。これらの点は、受講生にも高く評価されており、本講義の成果であったと考える。

今後は授業展開および進度について、資料の分量と作業時間、講義計画等の面から検討し、さらによりよい授業を提供したいと考えている。

第 2 部

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評価実施日	平成 19年 7月 27日		
授業科目名	文化間教育総論	学期・曜日・時限	前期	金曜日	3時限
授業区分	1. 教職基礎科目 ② 専門科目				
担当教員名	小西正雄、太田直也		回答者数	18 名	

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
 [2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	10	6	2			
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	6	10	2			
3	授業の内容には一貫性があった。	10	6	1	1		
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	6	9	2	1		
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	9	5	3	1		
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	16	1	1			
7	授業の進む速さは適切であった。	11	5	1	1		
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	6	8	3	1		
9	受講生に授業への参加（質問，発言，討議など）をよく促した。	3	4	8	3		
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	**	**	**	**	**	**
11	視聴覚機器の使用は適切であった。	14	3		1		
12	配布された資料・文献等は，授業内容を理解する上で役に立った。	11	6		1		
13	受講生に分かりやすく説明した。	11	4	2	1		
14	教員の声は聞き取りやすかった。	15	3				
15	板書の文字は見やすかった。	**	**	**	**	**	**
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	12	1			
17	この授業は，自分自身にとって満足できるものであった。	11	6		1		

<分 析>殆どの項目で5もしくは4を多数得ているので、良好な結果と言えるであろう。中には悪意に満ちた評価を下した受講生もいた。6に示されているように、担当者は十分な準備をして授業に臨み、誠実に授業を展開したつもりである。彼らの悪意が何に起因しているのかは不明であるが、このような受講生を相手にアンケート調査を行うことについては、一種の虚しさを禁じえない。ただ8に関しては担当者も幾分か反省が必要かもしれない。講義中、各項目のまとめの時間を設けたつもりであるが、不足していたのであろう。次年度の注意事項としたい。9については、本年度の重点項目と考えていただけに、アンケート結果は意外であった。昨今の受講生は、全体に対して発言を求めるというやり方ではなく、毎回一人ひとりを指名するなどしないと発言できないのであろうか。発言機会を強く求める一方で、やや消極的でもあるように思われる。次年度は「内気な」受講生が発言できるような雰囲気作りに努めたい。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

以下の回答が大勢を占めた。

- ・ 「異文化理解」というものを考えるきっかけにしたかった。
- ・ 自分自身の異文化理解についての知識が非常に浅薄であると感じていたので、自分の理解を深め、整理したいと考えていたため。

教育現場における異文化理解の重要性が語られる一方で、いかに「適当に」扱われているかを示しているように思われる。しかし、多くの受講生が高い問題意識を持って受講していたことは実に喜ばしい。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

例えば「学校現場のことを照らし合わせながら話を進めていたし、示唆も提示されていた」という、実践力育成に役立つという回答が多かったが、狭義の実践力を超えた事柄を挙げて高い評価を下した回答も非常に多かった。これは、本講義の意図が十分に理解されたことを意味していると言えるであろう。以下の回答があった。

- ・ 多様な視点・考え方を示していただき、それをもとに自分で熟考することができた。
- ・ 問題意識の持ち方を考えさせてくれたので良かった。
- ・ 人間の見方について考えることの多い時間でした。
- ・ 考え方の幅が広がった。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

良かった点としては以下の回答があった。

- ・ 「異文化理解」の難しさを改めて実感した。しかしそれへのアプローチのヒントを与えていただき、大変参考になった。
- ・ 納得できたことがたくさんあった。とても頭を使って疲れたが、受講して良かった。

改善点は以下の通りである。

- ・ 時数がもう少し欲しかった。
これに応えるには、本講義を通年科目にせねばならないが、無理であろう。
- ・ パワーポイントの（データの印刷物）配布がどの回にもあると助かります。
パワーポイントの使用に関しては非常に高く評価された。毎回プリントアウトしたものを配布するのは引用文献の著作権等の問題もあり、不可能と思われる。

5 本授業の成果と今後の課題について

異文化理解、現代の文化論に関する基本事項はすべて講義内で扱った。レポートや試験に示された受講生の理解度の高さを考慮すれば、授業の目的はほぼ達成されたと考えて良いと思われる。「教師がしっかりとした考えを持って臨むことの必要性を感じた」と文化理解、実践力育成といった事を超越したコメントもあり、担当者としては極めて嬉しい結果となった。

今後の課題に関しては、時数の増加、プリント配布といった要望を別とすれば、受講生の発言機会をいかに設けるかが重要となる。今年度も同じ課題を持っていたのであるが、さらなる工夫が必要となるようである。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評価実施日	平成 19年 7月 24日		
授業科目名	現代の諸課題と学校教育	学期・曜日・時限	前期	火曜日	3時限
授業区分	2. 専門科目				
担当教員名	小西正雄	回答者数	18名		

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
 [2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入]

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	14	4	0	0	0	0
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	8	6	4	0	0	0
3	授業の内容には一貫性があった。	13	5	0	0	0	0
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	10	7	1	0	0	0
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	11	5	2	0	0	0
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	15	3	0	0	0	0
7	授業の進む速さは適切であった。	11	6	1	0	0	0
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	6	8	4	-0	0	0
9	受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。	6	9	3	0	0	0
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	-	-	-	-	-	-
11	視聴覚機器の使用は適切であった。	13	4	1	0	0	0
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。	12	6	0	0	0	0
13	受講生に分かりやすく説明した。	15	3	0	0	0	0
14	教員の声は聞き取りやすかった。	14	4	0	0	0	0
15	板書の文字は見やすかった。	9	4	5	0	0	0
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	10	3	0	0	0
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	13	5	0	0	0	0

<分 析>

授業中の態度等からも、受講生が非常な関心をもって授業に臨んでくれているのは十分に看取できたので、おおむね予想通りの結果である。設問9については、受講生の発表の時間を2回設定したが、必ずしも積極的な参加ではなかったため、少々困惑する結果である。次年度からは、特別に発表の機会を設けるのではなく、随時発言を促すようにしてみることも考慮。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

学校教育の中に問題がないか、既成概念にとらわれず真理を探究したいとして受講したという声が現職では一般的であった。シラバスの趣旨がよく伝わっている。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

「実践力の育成というよりは、物を見る視点や考え方を見直すいい機会になったと思う」という感想に代表されるように、受講生は（少なからぬ大学教員も含めて）、実践力を、何か直接的な技法のように狭く考えている傾向がある。しかし「物を見る視点や考え方」を欠いてはいくら指示発問が系統的でも空虚な授業になる。そう言う点に気づかされたという感想が多かった。「教師自身が確かなものを精選する力がついた」…という感想もその一例。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点，改善してほしい点を具体的にお書きください。また，この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

「現場がない」という意味不明の記述が1例あったほかは，かなり好意的な感想ばかりであった。「願わくば学校を改善し，運営している立場の人間に現在この講義を受けてもらい，果たしてどのようなコメントが返ってくるのか，興味がある」「現職の方には多くの方に受けていただきたい」の感想のように，現職教員にとってかなり警鐘をならした内容だったのが好評である。来年度からは現職の多くが高度学校教育実践専攻に所属し，多くの実務的授業の履修が義務づけられているので，この修士課程の授業を受ける機会が少なくなってしまうのが，返す返すも残念なことである。

5 本授業の成果と今後の課題について

いかにして多くの現職教員にこの講義を受講してもらおうか…である。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評 価 実 施 日	平成 19年 7月 23日
授業科目名	教育課題探究(現代社会と総合学習)	学期・曜日・時限	前期 月曜日 5時限
授業区分	①. 教職基礎科目 2. 専門科目		
担当教員名	近森憲助, 西村 宏, 藤村裕一, 村川雅弘	回答者数	39 名 (受講者数55名)

1 アンケート [1] の集計と分析について

5 まったくそう思う	4 かなりそう思う	3 どちらともいえない	
2 あまりそう思わない	1 まったくそう思わない	無	未記入

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	14	20	4	1	0	0
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	8	20	10	1	0	0
3	授業の内容には一貫性があった。	8	14	10	5	2	0
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	19	15	5	0	0	0
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	17	15	4	3	0	0
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	19	17	3	0	0	0
7	授業の進む速さは適切であった。	18	14	4	3	0	0
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	13	13	11	2	0	0
9	受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。	15	18	4	2	0	0
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	10	15	12	2	0	0
11	視聴覚機器の使用は適切であった。	21	12	3	0	0	0
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。	17	14	7	1	0	0
13	受講生に分かりやすく説明した。	12	22	4	1	0	0
14	教員の声は聞き取りやすかった。	24	14	1	0	0	0
15	板書の文字は見やすかった。	19	16	4	0	0	0
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	15	20	3	1	0	0
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	19	16	3	1	0	0

<分 析> 上記評価の項目別平均値に関して、最も低いものは「問3」の3.54、最も高いものは「問14」の4.59であった。また全平均値は4.18と算出された。項目別平均値が最も低い「問3」は、「授業の内容には一貫性があった」かどうかを聞くものであるが、今年度は上記の担当教員4人がそれぞれの専門的立場に基礎を置いたオムニバス方式の授業展開を行なったことで、これら4つの講義内容に関連性が見出せないと感じた学生がいたものと思われる。しかし、授業者のあいだでは、わが講座の基本姿勢である「人間学」を基礎にすえて、そこから専門領域に関連した事項を眺めるといふスタンスで授業を進めたつもりであり、その点では奥深くには、或いは話の端々には人間とはどうあるべきかを忍ばせた授業構成となっていたはずである。しかし、各教員の講義の表面のみをなぞると一見一貫性が欠けているような印象を与えたとすれば、所期の「人間学」を共通点として据えるという目的が見えにくかったのだろうと推測でき、今後、授業を構築する上での反省点となるものと考えている。しかし、全平均で見ると、4.18との評価が下されていることから、概ね本授業の所期の目的は達成できているものと判断できる。直接評価とは関係ない事柄だが、このアンケートの回答者数が39名で、全受講者数55名に対して回答率がよくないのは、最終授業日に教員採用試験関連行事が重なったための不可避的事由によるものであり、受講生および担当教員の怠慢に由来するものではないことを付記しておく。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分析> 自由記述の意見をすべて掲げることはできないが、受講者の生の声として、意見のうちから代表的な意見を回答者の表現のままで以下に記す。

- ・情報教育に対してもっと知識がほしかったので受講した。
- ・総合学習でどのように授業を確立していけばいいのかなどの力をつける
- ・教師になったときに実践できる知識や技術を得る。
- ・現場では見えにくい、外側から見た、現在の教育の客観的な状況を理解することに期待した。
- ・総合学習について、現在の様子を知りたいと思っていた。
- ・現代社会のさまざまな事について学びたかったため。
- ・総合学習の可能性について
- ・全くプラン想定出来なかった
- ・必修なので受講しましたが、実際の講義をうけてみると、大変興味深くて、とても充実した講義でした。
- ・教職課程において重要な授業だと思ったからです。
- ・総合学習の重要性を学びたいと思い、取り組んだ。
- ・総合的な学習の各分野について深めたい。他の受講生の意見を聞いてみたい。
- ・現代社会の様々な問題が総合学習とどう結びつくのかなと思いつつ授業にのぞみました。現代社会のある側面をどう扱うのか期待していました。
- ・教科以外についてどういう教育・考え方があるのかということ具体的を知りたかった。
- ・総合学習と現代社会の関係性について考えるきっかけとして受講しようと思った。
- ・総合の授業をあまり受けていないのでどんなものか興味があった。

以上の回答記述から判断すると、大多数の受講者が「総合学習」についての近い将来の方向性について知ろうとする意識を基礎に持っているが、では具体的にどう対処すればよいかという点で、暗中模索的になっているため、それを打開する窮余の策として受講している様子を掴むことができるように思われる。概してこのような視点で受講した学生にとっては、「人間学」に基礎を置いた講義を展開した授業者の意図をあまり明確に伝えきれなかったし、総合学習から少し外れていると感じる点を生じさせたことは否めない。ノウハウよりも人間そのものの生き方につながる内容に触れたつむりの授業者の意図と受講者の必要とした内容にやや乖離があったようにも見える。この点は今後内容を練り、オムニバスながら内容に連関を持たせる方向への改善点としたい。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分析> この設問についても記述されている内容の代表的なものを、語句や文字の修正は施さずにできる限りそのまま引用して記す。

- ・情報教育について、どのように取り組むか。 ・リアルな情報が得ることができたから
- ・少しむずかしかった気がする。 ・内容が現代の問題に則している。 ・事例等を詳しく考えた
- ・村川先生の授業では実践例をとりあつかっていたので役立ちました。
- ・実際に総合学習の先進校の学校などを紹介していただき勉強になった。ディスカッションなどもとりいれてくれたので自分のこととして考えることができた
- ・はば広く学習することができた。 ・実践に対して、啓発できるものであった。
- ・専門的すぎる内容もあった。
- ・ディベートや、実践的な講義が多く、楽しくも自分の力になったと思う。
- ・4人の先生で授業を回していたので分かりにくかった。
- ・実践に活かすことができる非常に重要なものであった。
- ・即実践につながるものから、考える土台となるものまで、幅広い内容であった。普段考えないような、地球の生命の歴史など刺激のあるものだった。
- ・教科教育の講義ではないので、実践力になるとは思わなかった。
- ・身近な問題が多かったのでとても役に立つ内容であった。
- ・藤村先生の情報教育のテーマが教師として子どもに接する時に深いところまで考えられると思った。
- ・教科書を教えることはとても大切なことではあるが、その他にもいろいろなことを考えないといけないということを知ることができた。
- ・それぞれの先生で具体的な話を聞いたりできた。

以上から内容を十分に理解し吟味しながら授業を聴講した学生にとっては、比較的自らの意識改革につながったようであるが、少数であるものの、「むずかしい」とか「専門的すぎる」とかいった記述も見られ、大学院の授業を学部並の授業と勘違いしている受講生が何人かいることが逆に気にはなった。大学院は、難解で回答の出ない問題提起を授業の中で行い、受講者はこれに対して調査などをしてこなすものであることを周知する必要があるように感じた。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分析> 回答されていた内容について語句や文字に修正を加えずそのまま羅列して記す。

- ・各先生思考しやすい内容で授業が展開されていた。
- ・藤村先生の授業は出席していた生徒全員が授業に参加していた。非常にみりよくのある授業だった。
- ・クーラーをもっときかせてほしい。
- ・授業の一番はじめに評価方法を提示すべき!!
- ・教師間の連携を。
- ・ディベートなどがみなさんの意見が聞けて大変よかったです。
- ・現場に出た時に行かせる授業内容であり、いい勉強になった。
- ・発表や討議などがよかった。
- ・討論があったのでとても良かった。
- ・それぞれの先生が特有のことをしていてとてもたのしかったです。

この設問に対しては、各自が異なる次元での感想を述べているため、統一的な分析は不可能である。しかし、回答は短いながら、それぞれに重要な指摘を含んでいたりするので以下に授業者として必要なものに対しては簡単にコメントを述べて分析に代える。

「授業の一番はじめに評価方法を提示すべき」であるとの意見があった。シラバスには評価方法が記載されているのでそちらを参照すればよいが、授業が進行するにつれて受講者の様子を見ながら授業者の間で最終的な評価法をどうするかについても随時相談を行い、現状に応じた対応としているので、受講者の意向を汲み取る意図もあり、また「授業は生き物」であるため、臨機応変に対応する必要もあり、完全に当初のシラバス記載の規定路線に厳密に従った内容とはできない場合も生じることはお許し願いたい。さらに言うならば、大学院の授業であるので、最終評価を目的に受講するのではなく、授業内容を把握しながら講義を楽しむくらいの心意気での受講が望ましい。

「教師間の連携を」するようとのコメントもみられた。これについては前年度中にシラバスを作成する段階で授業者が相談の上各自の持ち分を考え、通底する「人間学」を逸脱しない範囲での講義となっているかどうかの検討を行った上で、それを大幅に外れない範囲で各教員の専門に応じて授業内容や方法などはアレンジしているものであり、「人間学」追及という大きな目標は見失わないような配慮をする努力は行なっているつもりである。

「クーラーをもっときかせてほしい」とのコメントも見られたが、受講者だけでなく授業者にとっても、この点は同感であった。設定温度はエネルギー問題などを基礎にして27度に規定されているからと言って、制御盤上の設定温度がそのまま室内の気温を反映するものではなく、室内気温は設定値よりもほぼ2~3度以上も高い状態であるという事実が把握されていないのは紋切り型の典型のような対応である。このへんは授業の進行能率などにも配慮して、寒暖計などを設置し実質的な室温での制御が可能ないようにすべきであると思われる。

以上のような点以外は、概ね良好な評価が記述されていたので、ほぼ満足できる授業が展開できたものと判断できる。

5 本授業の成果と今後の課題について

最上部の分析にも記載したが、全体を通じての学生の評価点は、平均として4.18であり、所期の目的は達したと考えている。受講者による意見の中には「内容が難しい」との記述が見られたのには、いささか驚きを感じている。当然のこととはいえ、この授業は曲がりなりにも大学院の「教育課題探究」であり、学部授業とは全く方針も内容も違った次元で展開されるのが当然で、学部1年次生向けの基礎基本を説くような内容からは大きくかけ離れた内容であることは、シラバスにより学部時代の授業の内容と比較すれば明らかである。即ち、当初から断りがなくとも、理解に苦しむほど難解な点については自分で書籍を調査するなり、オフィスアワーを利用して教員の部屋を訪問して質問するなどの手立てが準備されている上、十分な資料や書籍を備えた図書館も併設されている。受講者はこの点に配慮してほしいものである。

ただ、「おもしろい」という評価を与えている受講者も数多くいて、同じ授業を聴講しても聴き方如何によって大きく教育効果が異なるものであることが、「教育課題探究」といった類のいわゆる「問題提起」を多く含んだ授業を展開する際には一般の教科教育の授業とは違った側面であることが知られた。今後、大学院の授業で50名を超えるような不特定多数の受講者を相手に講義を展開する際には、ある意味で注意すべき点が見えたようにも感じた。

最後に、授業者間の連携についてであるが、わが講座の設立からの基本理念である「人間学」追求という通底する考え方から逸脱するような授業展開はなされていないが、授業内容を深く理解することなく表面的な事柄だけに着目する傾向が、最近の受講者には見られることがわかり、精一杯授業を展開した授業者としては、やや落胆せざるを得ない状況であったことを付記しておく。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評価実施日	平成 19 年 7 月 12 日
授業科目名	環境教育特論I (基礎)	学期・曜日・時限	前期 木曜日 4 時限
授業区分	1. 教職基礎科目 (2) 専門科目		
担当教員名	西村 宏, 近森憲助, 香西 武, 工藤慎一	回答者数	16 名

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う	4 かなりそう思う	3 どちらともいえない
[2 あまりそう思わない	1 まったくそう思わない	無 未記入

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	9	6	1	0	0	0
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	8	7	1	0	0	0
3	授業の内容には一貫性があった。	8	7	1	0	0	0
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	8	5	3	0	0	0
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	8	5	3	0	0	0
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	13	3	0	0	0	0
7	授業の進む速さは適切であった。	12	4	0	0	0	0
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	9	6	1	0	0	0
9	受講生に授業への参加（質問，発言，討議など）をよく促した。	10	5	1	0	0	0
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	7	5	3	1	0	0
11	視聴覚機器の使用は適切であった。	11	5	0	0	0	0
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。	10	5	1	0	0	0
13	受講生に分かりやすく説明した。	10	5	1	0	0	0
14	教員の声は聞き取りやすかった。	15	1	0	0	0	0
15	板書の文字は見やすかった。	9	7	0	0	0	0
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	8	7	1	0	0	0
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	10	3	3	0	0	0

<分 析>

回答者 16 人中 4 人は外国人留学生である。設問項目ごとの平均値のうち最小は「問 10」で 4.13, 最大は「問 14」で 4.94, 全体の平均値は 4.53 と算出される。「問 10」に関しては、授業科目の特質とでもいえるもので、既に何年か前に発行された教科書や参考書などは、その時点での環境科学や環境教育に対する所見や考え方が述べられたもので、歴史的事実を復習する場合には役立つかもしれないが、教育現場でいわゆる時々刻々と変化する環境科学的基礎に基づいた「総合学習」を目指すためには、それだけでは不十分である。そのため授業時間ごとに up-to-date な事項を中心に授業の概要と参考文献などを、留学生にも配慮して日本語及び英語 2 ヶ国語での資料を準備することとし、最新の情報が得られるように配慮したことが、少々低い評価値になった理由と思われる。この「問 10」以外は、すべての「問」において「3」以上の評価が得られ、中でもほとんどが「5」ないし「4」である。このことから、前もって意図した授業の目標が概ね達成できたものと判断できる。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分析> 16人すべての記述を羅列的に示すのが最もよいのだが、すべて網羅できないので、いくつかの代表的な回答を以下に示す。

- ・修論で環境問題を取り扱う予定であるが、もともと環境問題への知識が少ないと感じていた。
- ・環境教育に対する漠然としたイメージの具体化と、教育を行う上で絶対に落とせない基礎基本を学ぶ。
- ・My expect from the course was to know how Japanese people to look after their environmental and some topics as earth evolution, environmental pollution.
- ・The lesson will serve as an eye opener to the understanding of wider issues in education and as basis for tailoring all lessons in science to the relationship with the surrounding.
- ・I expected to heighten my environmental awareness and consciousness. The contents discussed helped me to achieve this goal.
- ・学校での授業に役立てるため。
- ・現代の環境問題をどう考えるか？
- ・現場に帰ったときに、実践として役立つ知見を得ようと思い授業に参加した。
- ・現在の諸課題のうち「環境」は大きな存在であり、教育においても重要なので、これに対する視野を拓け知識を得るため。
- ・I expected to be introduced to current environmental concept and issues and how these are being perceived in the field of education.
- ・環境教育を学校で実践する際のひとつの手がかりになればいいと思いました。
- ・総合的な学習の時間の取組みにいつも疑問と今ひとつふみこめない課題を感じており、その手がかりになるものを得たいと考えた。
- ・環境問題自体とても広く、多方面にわたっているので、理系から文系まで含めた総合的視点と専門的知識を得たいと思った。

これらを総合的に分析すると、総合学習を行うについて現場で有用な基礎知識を得ること、自らが環境に関する内容の修士研究を行う際のバックグラウンドを得るための主要な動機であることがわかった。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分析> この設問についても、具体的に記述された意見をできる限り忠実に掲げる。

- ・身近な問題を多くとりあげ、すぐに実践できそうな内容だった。ひとつの問題から多くのつながりを見つけそれが自分たちの生活につながるというシンプルな形が良かった。
- ・具体的事例から普遍的内容へと展開する授業でしたので環境教育を行う上で何に気をつけ何を取り上げればよいか非常に分かりやすく、また、教材作成の役に立ちそうな例の紹介もあり大変役に立った。
- ・I consider the course was useful to foster the practical competence for teacher because the contents of this class help us to understand our responsibility about environmental education.
- ・I think that this course fostered the practical competence because it helps the teacher to connect with real life situations. It helped me recognize the importance of using everyday situations in our lessons.
- ・環境について広く知ることができ知識面でも役立った。また具体的な実践事例も紹介してもらったため役立った。
- ・環境教育を子どもたちに行うためには教師がもっと現状を理解しなければいけないと思った。
- ・環境について取り上げる際役立つと思うし、共生というキーワードは理科でも社会でもつかえる。
- ・専門的・学術的内容が主であったので、実際の授業というよりも人間として環境についての知見を拓けるようなものであった。
- ・具体的な事例をもとに考察したためイメージしやすく自分も主体的に考えることができた。
- ・The course introduced us to practical ways of creating environmental awareness among students through activities.
- ・環境という大きなテーマからどのような考えがもてるのか、またどのような点に注意するかを知ることができた。
- ・環境教育の授業を考える視点を少し見出すことができたから。
- ・具体的に例を示していただいたり我々が討論や作業をすることで期待通りの内容が得られた。

これらの意見から、比較的实践面でも役立つことができるまでに理解されているものと判断できる。しかし、一部では、やや専門的に過ぎると感じている学生もいる。ただ、大学院では、専門的な内容となることは止むを得ないといえる側面があることも理解してもらおうようなオリエンテーションを授業当初に強調しておく必要を感じる。この問題については、バイリンガル授業の問題とあわせて、何らかの具体的対策を試行するつもりである。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分析> この設問に関してもできる限り意見をそのまま記載する。

・英語がとても苦手なので、英語・日本語混合の授業にとまどいました。グループでディスカッションする時も、外国人の方が多かったので英語中心で話が進み、困ってしまいました。これも慣れなんだろうが、もう少し何かあればうれしく思います。

・良かった点：日本語・英語で2度説明がありますので、日本語では難しい内容でも英語で聴くと分かりやすいことがよくあり、理解を進める上で役立ちました。

改善してほしい点：成績評価の方法を明示してほしいことくらいで他にはありません。

・I like so much the class. I enjoyed every topic and the teacher explanation was very clear. The teachers always showed concern at the understanding of the students, especially by foreigner students.

・From the point of view of foreign students, this is so far the only course in the university in which the professors are sensitive to the presence of foreigners in class. Both the handouts and the presentation are in English. The course gives a base on environmental education that doesn't depend on whether you have a science background or not to understand.

・The lesson was good in many ways. 1) The professors encouraged discussion and theme work and ensure that the content to fully understood by all. 2) A relaxing and good teaching-learning atmosphere was created by the professors. 3) Students could easily relate to the explanations provided by the professors.

・留学生の人に対しても授業が十分理解できるよう英語でのせつめいもしており、とてもよかったと思う。

・環境と人間の共存のためにはなにが必要なのか？深く考えさせられた。

・日本語と英語を併用した授業でとてもおもしろかった。留学生の方への配慮もしっかりとされているところも好感を覚えた。

・全体的な一貫性がつかみきれなかったようにも思う。

・The methodology used encouraged students active participation. It built on students' previous knowledge about the environment and broadened these perspectives.

・実際に行われている環境教育の実践をとりあげ分析するなどの授業があってもよかった。

・日本語のあと英語で話してもらったので聞き逃したことをもう一回聞いて良かった。

・情報(インターネット)や国際比較などもっとダイナミックなアクセスもあってもいい。

これらの意見をあわせ考えると、いわゆるバイリンガルの授業については、学生に概ね良好な印象をもって受け止められていることが明らかとなった。この授業は「基礎」とタイトルに書かれていることを失念している学生もいたようで、実践や教材に関しては、「特論II」を受講すれば実践にも言及していることを、次年度からは宣伝する必要を感じる。そのためにシラバスが準備されているのだが・・・。

5 本授業の成果と今後の課題について

当初シラバスに記載した授業項目の順序を、教員の出張などの都合により入れ替えたりして実施したので、受講生にはやや戸惑いがあったかもしれない。しかし、(1)～(17)までの質問に対する回答と自由記述の内容を見る限りでは、留学生をも対象としたいいわゆるバイリンガル授業は、日本人院生及び外国人留学生ともに好意的に受け止められていることが明らかとなった。絶対的な受講生の数は16人と少ないので、留学生受講者の割合は25%に達しているため、日本語と英語の両方を用いた授業は避けることができない。これが学生に与える影響を少しばかり懸念していたが、その懸念は払拭され、日本人受講者にとってもむしろ歓迎的に受け取られていることがわかった。

授業の初めには、この授業は「基礎」であることを先ず断ってから授業を始めているのだが、実践的内容を期待して受講している学生もいるので、実践的内容については「特論II」の授業を受講することを勧めるようにしたい。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

	評 価 実 施 日	平成 19 年 7 月 30 日
授業科目名	地球惑星物質学特論	学期・曜日・時限
授業区分	1. 教職基礎科目 (2) 専門科目	
担当教員名	西村 宏, 村田 守	回答者数
		4 名

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
 [2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入]

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	4	0	0	0	0	0
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	4	0	0	0	0	0
3	授業の内容には一貫性があった。	4	0	0	0	0	0
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	3	1	0	0	0	0
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	4	0	0	0	0	0
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	4	0	0	0	0	0
7	授業の進む速さは適切であった。	4	0	0	0	0	0
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	4	0	0	0	0	0
9	受講生に授業への参加（質問，発言，討議など）をよく促した。	4	0	0	0	0	0
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	4	0	0	0	0	0
11	視聴覚機器の使用は適切であった。	4	0	0	0	0	0
12	配布された資料・文献等は，授業内容を理解する上で役に立った。	4	0	0	0	0	0
13	受講生に分かりやすく説明した。	4	0	0	0	0	0
14	教員の声は聞き取りやすかった。	4	0	0	0	0	0
15	板書の文字は見やすかった。	4	0	0	0	0	0
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	2	0	0	0	0
17	この授業は，自分自身にとって満足できるものであった。	4	0	0	0	0	0

<分 析> この授業は，自然系理科コース修士大学院生向けに開講されている専門科目である。受講者が4人と少ないのは，時間帯が他の授業と重なっているという物理的に避けられない事情にもよっていて，今年受講していない大学院生から来年の受講や，長期履修学生にあっては再来年の受講は可能か確かめられた。もちろん本授業は学年指定を行なっているわけではないので，どの学年の大学院学生でも受講可能である旨を答えた。もうひとつ付け加えるべきことは，この回答を提出した4人のほかに，単位は不必要なので受講登録はしないのだが，本授業で取り扱う内容が知りたいとのことで，授業に出席している院生や受講生も2人いた。

4人なので統計的処理はふさわしくないこと，および受講者の人数が少ないことから，低い評価をすると誰がその評価をしたのかがすぐに明らかになるとの思いから，ほとんど全員が各項目ともに5の評価を与えているのが分かる。従って，これほど受講者の少ない科目については，学生による授業評価を行なう意味がないのかもしれない。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分析>

回答者数が4人なので、自由記述の回答が記入されているものについてはすべて羅列する。

- ・ブラックホールはなぜできるのか。
- ・地球惑星について、どのようなことがわかっているのか最新の情報を知りたかった。
- ・太陽系惑星の深い話に興味があり、成り立ちなど期待していた。その理論など現在の問題意識に興味をもっていた。
- ・内容に興味関心を持つことができた。

これらの記述からは、私たちが実際に住んでいて足元にあるはずの地球に関しても、それほど詳細に情報が得られていないことがわかる。その反面、現職の教員や今後教員になろうと志している院生は地球ひいては太陽系の存在そのものに深い興味をもっていることがわかった。授業では、シラバスに挙げたように、「元素と原子」に関する基礎的な構成粒子の話から説き始め、「自然界の力」、「古典的宇宙観」、「観測される宇宙」、「ビッグバンモデル」、「星の誕生と進化」、「星の内部での元素合成」および「太陽系始原物質」について順を追いながら、基礎的なところから説き起こし、歴史的経緯を踏まえた上で、現在の太陽系の物質に関する描像を解説する内容とした。

ただ、この内容をシラバスに掲載してあるにもかかわらず、受講者が4人とどまっているという事実は、修士課程の院生、特に実験系の課題研究と修士論文に向けての勉学・研究に非常に時間を割かれることが大きな要因のひとつであると思われるので、致し方ないことかもしれない。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分析>

これについても回答をすべて「そのまま」で記す。

- ・生徒によくわかりやすいように説明がくわしかった。
- ・学校で、どんな教材にできるのか考えることができた。
- ・教師の実践力として深く解りやすく教えるという意味では大きな力となると思います。
- ・専門性の高い内容であったこと。教育の現場で役立つ内容を教えてくれた。

これらの意見・回答から、講義内容が実践現場でも役立つものとして位置づけてくれていることがわかり、かなり専門的な内容ではあっても、話の仕方如何によって、また受講者の受け止め方如何で、現場で役立てることができる内容として吸収できている状況がわかった。従って、受講者が多数にのぼる場合に比べて、大学院の授業では、少数で当事者たちの反応と顔色を見ながら授業を進めることができるのが、よい結果につながるかもしれない。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

この設問についても、回答をそのままに記す。

- ・ブラックホールのでき方についてよくわかった。
- ・たくさんの資料があり、とてもわかりやすかった。カラー資料はとても参考になった。
- ・先生の声ははっきりと聞こえ、深く理解させてくれるよう真剣に教えてくださったことに大きな満足感を得られました。
- ・わかりやすく内容の濃いものだった。

これらの評価は、受講者人数が少ないことに起因して個人が特定される危惧に由来するお世辞を半分として差引勘定をしても、一応、内容的にも授業の仕方についても、また配付資料についても、満足できるものと感じられていることがわかり、ひとまず安心できた。

あまりに受講者数が多い授業である場合には、ここに配付する資料を、授業時に提示するパワーポイント画像すべてにわたるのは準備の点で困難さが伴う場合も生じるが、少人数の場合にはその点で、少しの時間で資料準備が可能となり、受講者に与えた効果はかなり好意的に受け取られたように思われる。

5 本授業の成果と今後の課題について

数少ない回答ではあるが、授業者のかねてから目指している「説明は易しく、内容は高く」という考え方は間違っていないことが明確になった授業であったと判断している。高い内容を、受講者にわかりやすく説明を易くするためには、授業者による資料準備と予習が欠かせないこともわかったので、今後も本授業においては、この心構えを忘れないようにして行きたいと考えている。

ただ、時間割上の開講コマには、他の教科や教職に授業が多数混在していることもあって、受講者の数が減少している状況に配慮し、今後は開講のコマを移動するという試みも一度は試行してみる必要があるかもしれない。幸い平成20年度以降は、抜本的にカリキュラムも変更される予定となっているので、それを機に時間割上のコマを調整してみたいと考えている。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評価実施日	平成 19 年 7 月 24 日		
授業科目名	現代の子どもと学校教育	学期・曜日・時限	前 期 火 曜 日 4 時 限		
授業区分	1. 教職基礎科目 ②. 専門科目				
担当教員名	谷村千絵	回答者数	24 名		

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
 [2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入]

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	10	12	1			1
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	11	11	1			1
3	授業の内容には一貫性があった。	13	11				
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。						
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	13	9	2			
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	19	5				
7	授業の進む速さは適切であった。	19	5				
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	14	8	2			
9	受講生に授業への参加（質問，発言，討議など）をよく促した。	14	8	2			
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。						
11	視聴覚機器の使用は適切であった。	12	11	1			
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。	10	12	3			
13	受講生に分かりやすく説明した。	16	8				
14	教員の声は聞き取りやすかった。	17	6	1			
15	板書の文字は見やすかった。	9	10	5			
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	9	12	3			
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	12	12				

<分 析>

大まかに見て5，4のよい評価が出ているが，いくつか懸念されることもある。（15）板書の文字の見やすさは24名中5名が3＝どちらともいえない，を選択している。板書を丁寧に，見やすく書くよう，努力したい。また，（12）配布した資料，文献等の有効性について，3名が3＝どちらともいえない，を選択している。資料の読解，意味づけについて，理解不十分だった学生がいることが分かったので，理解を徹底するようにしたい。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>たくさんの意見があったが、抜粋して表記する。

- ・ 現代の子どものかかえる問題や、親や、学校のかかえる問題について知る。
- ・ 子どもとは何か。今まで何の疑問ももっていなかったが、この講義をきっかけに考えるようになった。子どもの見方や考え方が多面的なものに変わったと思う。大人になるとはどういうことなのか？新しい子ども観。
- ・ 昔の子どもより今の子どもが悪くなってしまったのか、昔とどう変わったのか、子どもをどうとらえたらよいのかを知りたくて受講した。
- ・ 歴史という観点から学校教育を含めた様々なものを整理し、分析する点に興味を覚えた。
- ・ 子ども、メディア、社会という三つの柱を中心に据えているところに興味をもった。
- ・ 教育において子どもとどのように関わっていけばよいか、これまでの子ども像や社会の変化（教育・メディア）について考えてみたいと思った。
- ・ 現職教員として子ども理解を深めるためにさまざまな専門的知識を得たいと考えて参加。メディアについても同様に興味があった。
- ・ 学校現場を離れている機会に、「学校」「教師」あるいは「教育」を外から見てみたいと思った。
- ・ 修士論文のテーマとリンクする部分があったので。
- ・ 今の子どもたちがどう？という視点での先生の考えや理論を聴けたらと思い受講した。
- ・ 現在の社会や学校の中で子ども観は、メディアの力も影響し、偏っているところがある。教師として、子どもたちと関わる者として、子どもというものについて考える視点を得たい。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

- ・ 現場に帰り、子どもと接するとき「このごろの子は」のような一面的なとらえ方をせず、社会的文化的背景も考えながら、ゆったりと子どもをみられるように思う。
 - ・ 子ども観は、社会の状況や未来への期待を多く含むものであることを学ぶことができた。目の前の子どもに向かい合うことの大切さ。
 - ・ 子どもを知る、という意味で教育に携わる人には是非、受講してもらいたい内容
 - ・ 生徒指導や生徒のメンタルケアを行うとき、子ども側の視点に立って対処することができるという点で、実践力の育成に役立つ。
 - ・ 子どもの考えや育った環境を知ることによって教師として柔軟な対応ができると考える。保護者に対しても同様である。
 - ・ 学校現場にいると意外と足元が見えなかったり、社会の中から孤立したような状態になったりする。子どもについて様々な角度、視点から見直したことは、現場で子どもを見たり、教育課程を組んだりする場面において役立つと思う。教師は時々、頭をやわらかくして、発想を豊かに柔軟に保っておくべきだ。
 - ・ 子どもはやはりかけがいのない存在ということを確認できた。皆さんの指摘された「5年後の学校」が一つでも実現されているように現場に戻ってがんばる。
 - ・ 戦後の年表を通して、今の子どもたちがどう形成されていったか、という今の子どもたちを見る目を違った角度から見ることができた。毎回、参考文献を紹介され、勉強になった。
 - ・ 「今の子どもは変わってしまった」、「理解できない」というマスコミや学校現場の声に対し、本当にそうかな、という視点で、社会の変化で子ども観が変わっているのでは、と考えて子どもたちと接することができる。
- 生の子どものたちと関わる教師に、自分なりの子ども観を持っている必要があるのは当然のことで、社会やメディアと子どもの見方の関係をあらためて考え直したということで、実践の「もと」になる大切な部分に触れることができたと思う。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

- ・ 様々な意見を聞いてよかったので、もっと話し合いをしたい。
- ・ 意見をいう場がたくさん設けられており、現職の先生方の貴重な意見が聞けたのが勉強になった。
- ・ このまま続けて行ってほしい。
- ・ 熱心に教えて下さって感謝です。
- ・ 年表にして、視覚的にも分かりやすかった。
- ・ 授業の進み方がとてもよかった。
- ・ 学生の討論、主体的な活動の機会が多く楽しかった。
- ・ 機会があるごとに本の紹介があり、自分の幅を広げることにつながった。
- ・ いろいろな視点から「子ども」を見ることができたのでよかったと思う。
- ・ 時代と共に変わる部分を子ども・社会・学校などで分けて考え、みんなの経験なども引き出しながら流れを追っていった点、勉強になった。
- ・ 年表を作った授業は時系列で分かりやすかった。が、ノートの整理が難しく、他項目と照らし合わせに苦勞した。
- ・ 年表が多くて、分かりやすいのですが、ノートには書き写しにくかった。ワークシートのようなものがあつたら・・・と途中で思った。
- ・ 個人的には、「今の」というところに重点をおいていたので、歴史的な背景をもう少し削ってでも今の子どもをどう見るか、今の学校をどう見るか、という見方や考えを聞かせて頂きたかった。
- ・ 歴史の表は素晴らしいと思うがスペース的にノートに描き表しにくいように感じた。専用の用紙を用意するなど、より良くてきる点があるとすればそこだと思う。
- ・ 参考文献がたくさん紹介され、ありがたかった。受講生も積極的に授業に参加できる手だてがたくさんあり、楽しい授業だった。

5 本授業の成果と今後の課題について

受講の動機を見ると、今日の「子ども」や「学校」について、一面的な理解では飽きたらず、根本的なところで問いかけようとしている学生が、本講義に関心をもっていただけられた。講義では、私たち子ども観を問い直しつつ、メディア、社会、学校という三つの文脈において、戦後の子どもを巡るさまざまな変化を概観した。この方法は、子どもや学校をとりまく複雑な現象にアプローチするために試みているものであるが、3、4の自由記述欄の解答からは、そうした複雑な現象の中にこそ子どもや学校が存在していることや、「子ども観」は歴史的に相対的なものであること、絶対的な正解がない場合でも、現実に向き合って考えることに重要性や可能性があることなどが、共有できたように思われる。受講生の積極的な授業参加に支えられ、授業として大きな成果があったと思う。

教育の実践力育成を目指す講義ではないので該当するアンケート項目(4)は外したが、もし何かあればと思い自由記述欄は外さなかった。それぞれの実践への結びつけ方が語られており、大変参考になった。

本講義の課題として、年表作成に関してノートの取りにくさを指摘する意見が複数あった。ワークシート作成というアイデアも提示されていたので、来年度に積極的に活かしたい。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評価実施日	平成 20 年 1 月 30 日			
授業科目名	言語教育基礎論 I	学期・曜日・時限	後 期 水 曜 日 2 時 限			
授業区分	1. 教職基礎科目 ②. 専門科目					
担当教員名	原 卓志 ・ 茂木 俊伸		回答者数	4 名		

1 アンケート [1] の集計と分析について

(5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない)
 (2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 --- 未記入)

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	4					
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	2	1	1			
3	授業の内容には一貫性があった。	1	2		1		
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	2	1	1			
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	4					
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	3	1				
7	授業の進む速さは適切であった。	2	1	1			
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	1	1	1	1		
9	受講生に授業への参加（質問，発言，討議など）をよく促した。	3	1				
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	3	1				
11	視聴覚機器の使用は適切であった。	4					
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。	2	2				
13	受講生に分かりやすく説明した。	2	1	1			
14	教員の声は聞き取りやすかった。	4					
15	板書の文字は見やすかった。	4					
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	1				
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	3	1				

<分 析>

全項目の平均は4.56であった。全体的には高い評価を得たものの、評価に幅が見られる項目として、2・3・4・7・8・13があった。
 項目2については、授業中に配付した資料には明記しておいたが、詳しく紹介する時間がなかったことが原因として考えられる。項目3・4については、初回の説明をより丁寧に行う必要がある。項目7・8・13に関しては、理解しやすい話題を精選していく中に、やや、専門性に傾きがちな話題があったことに原因がある。ディスカッション時に、TTで授業を担当する教員同士の質疑に時間が割かれたという反省点とともに今後の課題としていきたい。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

本授業は、「ことばそのものを考えるための基礎論」であり、英語学・英語科教育担当教員による言語教育基礎論Ⅱと合同で実施している。このことをふまえて、次のような受講動機が述べられている。

- 言語に対して、常に一定の立場、あるいはスタンスを取りきれない自分自身にいらだちと焦りを感じるが多々ある。どういう距離をとり、ことばと接するべきなのかという疑問に対するヒントが多く感じられる授業だと考え、受講した。
- 言語の意味というものを考えることが、これまであまりなかった。また、苦手な部分でもあるので、少しでも知識を身に付けようとして。
- 英語と国語はおなじ「ことば」を扱う分野であるため、一つのテーマについて議論することができると考えました。また、英語教育と国語教育という、友に教育に携わる者として、授業をどうするか、という実践について協力できることがあるのではないかと思いました。
- 国語と英語、言語教育のよりよい関係性を見出せると思い受講した。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

受講生からは、次のような意見があった。

- やはり、語彙・文法について、しっかりとした裏付けを取り、わかりやすく説明することを習慣化するという意味で、これからの現場の実践に有効であると思える。
- 語彙・文法・教育など、様々な角度から考えることができたため。
- 「実践」と発表内容（提供された話題）のつながりが明確であった回は、今後の実践に活かそうとすぐに思えました。本来ならば、理論を自分なりにかみ砕いて実践にどう活かせるかを考えるべきなのでしょうが、やはり、実践のイメージがわからない内容は、難解でした。
- 実際の現場でも役立つよう、実践に即した内容だったから。また自分自身の問題意識に対して、丁寧に教員の方々が対応して下さったこと。

本授業科目開設の意図は、言語教育の土台作りとしての言語認識・言語研究にあった。しかしながら、これまでの授業を通して、日常生活のことばを題材として言語認識・言語研究を話題とするだけでは、受講生の一人一人がそれを授業実践に結びつけられないという実態が浮かび上がってきた。そこで、話題提供においては、その話題が教育実践にどのように結び付くのかをできるだけわかりやすく述べるように努めてきた。受講生の回答は、我々の努力の現れであるとともに、さらなる改善を求める声であると解釈される。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

良かった点としては、次のような回答がある。

○国語、英語の両面から考えることができること。

○様々な分野から情報が得られたこと。

改善すべき点については、次のような意見があった。

○言語教育基礎論Ⅱ（分析者注：言語教育基礎論Ⅰと合同授業である）については、専門分野外のこと（英文法）は、基盤がないため、聞いていても分からないことが多かった。できたら、もう少しレベルを下げても話してほしい。

○ディスカッションの方法を変えてはどうでしょうか？ 一人一分以内で、提供された話題について意見を述べてから、議論に入るなどして、ディスカッションの時に一部の人しか話さない状況を改善すればいいと思います。ほかにも、ディスカッションメモを印刷して配布するなど、意見の交流が生まれるような場作りが大切だと思います。

改善すべき点として、提供する話題（英文法）のレベルを下げしてほしいという意見がある。授業担当者全員で、改めて協議検討すべき問題である。

ディスカッションについては、指摘された問題点について改善策を講じていきたいと考えている。

5 本授業の成果と今後の課題について

昨年度の評価分析から、本年度は「言語理解」と「言語教育」との有機的な関連付けを図るための具体的な方策を模索しつつ、本授業を展開することを課題とした。

授業担当者が取り上げる話題においては、それが教育実践にどのように結び付くのか、ことばの教育に携わる者にとって、ことばの何に注意し、何を理解しておかなければならないのか、どのように分析すれば、ことばの姿が見えてくるのかなど、かなり詳しく説明した（つもりである）。その結果としての、評価であると受け止められる。今後も、努力していきたい。

本授業の問題点として、受講学生数が少ないことが挙げられる。授業評価では、かなり高い評価を受け、受講生も授業に満足しているにもかかわらず、言語教育基礎論ⅠとⅡをあわせて10名前後の受講生（聴講のみ学生を含めて）しか集まらないのはどうしてなのか。ここに、本授業の最大の課題があるのではないかと考え、この原因について考え、解決に向けて努力していきたい。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評 価 実 施 日	平成 19 年 7 月 24 日		
授業科目名	国語科授業研究	学期・曜日・時限	前 期 火 曜 日 2 時 限		
授業区分	1. 教職基礎科目 ②. 専門科目				
担当教員名	幾 田 伸 司	回答者数	8 名		

1 アンケート [1] の集計と分析について

(5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない)
 (2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 --- 未記入)

番 号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	4	2	2			
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	4	2	2			
3	授業の内容には一貫性があった。	4	2	2			
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	4	2	2			
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	3	1	4			
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	5	3				
7	授業の進む速さは適切であった。	3	4	1			
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	3	4	1			
9	受講生に授業への参加（質問，発言，討議など）をよく促した。	2	4	2			
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	3	2	3			
11	視聴覚機器の使用は適切であった。			3	1		4
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。	5	3				
13	受講生に分かりやすく説明した。	3	5				
14	教員の声は聞き取りやすかった。	5	3				
15	板書の文字は見やすかった。	5	3				
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	4	1			
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	4	2	1	1		

<分 析>

評価方法の明示を除く項目において、4以上の評価が70%以上を占めた。（視聴覚機器は使用しなかったため、この項目の評価は除く。）この結果から、授業についての全体的評価はおおむね良好であったと言える。ただし、評価方法については3評価が半数であり、この点については、さらに徹底する必要があると考える。

本講義では国語教育史を主題とした。このテーマについては、受講者自身の専門と照らしてのの興味・関心の有無、既有知識の多寡などが、講義への主体的取り組み度合いや満足度に大きく作用すると思われる。満足度において半数が5評価をつけている一方で、2評価もあったことは、講義の主題と受講者の興味とがうまく適合しなかったことに、主要因があると考えられる。授業実践をとらえる際に歴史的視点を持つことは重要ではあるが、次年度以降のテーマ設定については、再検討したい。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分析>

受講者から寄せられた意見は、次のようなものであった。

- ・特に「書く」力について、先人はどう考えていたのか等をたどりたいと思った。
- ・現場の取り組みのヒントになるものが得られるか。
- ・学部の時と違う観点から国語の授業について考えたかった。
- ・いろいろなことが知りたくてさまざまな主義主張を知ろうとしたり、試してみたりしたが、つまみ食いの域を出られなかった。そのため、詳しいことを知るには、さまざまな主義主張を対比的に進めるとシラバスにあった本講義が、効果的であろうと考えた。
- ・国語科における教育史をまったく知らずにアイデアを提案してきたが、長い歴史の中で必ず実践された方がいるはずで、その成果から学べると思ったから。

国語科教育における先人の実践や思考の跡から何事かを得たいという視点が明確なこれらの受講者については、満足度においても肯定的な評価が得られている。一方、問題意識が明確にならないまま受講した受講者もいたようであったが、授業実施中には授業者自身がそのことに気づけていなかった。授業の中で、興味・関心を喚起する手だてをもっと講じるべきであった。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分析>

受講者から寄せられた意見は、次のようなものであった。

- ・これまでにどのようなことが論議されてきたのかがわかり、今後、誰のどの考え方を参考にすればよいかがあった。
- ・国語の授業をするためとても大事な内容だった。
- ・実際に模擬授業を行ったり、教材を用いてワークショップ的に行ったため、非常に具体的でわかりやすかった。している時には問題に思わなかったことが、受ける立場に立ってみて見えてくることがあった。
- ・論争がどう授業に活かされているのかよく理解できなかった。
- ・戦後の対立要素が明確になることで、現在の問題点とリンクできたように思う。また、60年間の歴史をふり返り、先人も同じ悩みを共有し手だてを講じていたのかと思うと、嬉しくもあった。
- ・先人の過ちと成果に学ぶことができた。

国語教育史を学ぶことは、直接的には実践力の育成に関わらないように感じられるのではないかという危惧もあった。しかし、自身や現在の実践を検討する視点として、多くの受講者が内容に意義を感じてくれたようである。場合によっては、実際の教材に即しての教材分析や模擬授業を取り入れたことも、先人の主張や方法論への理解をうながすためには有効であったと思われる。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

受講者からは、次のような意見が寄せられた。

- ・現職の先生方が多いときや、まじめな人が多いときには、具体的な授業をしてみる（今回は受けてみるでしたが）のはどうでしょう。例えば、私の担当の思想をもとに授業している例をそのままぞって見る、その後、授業をしてみた側と受けてみた側との意見交流をするなど。
- ・少し理解するのが難しいところも、分かりやすく日常でのことを例にしながらの説明がよかった。
- ・もう少し受講生に話をさせてはどうか。

演習は後期に行うことを想定していたため、前期の授業は意図的に講義を中心として進めた。しかし、受講生をまじえて議論する場を、臨機応変にもう少し提供すべきであったかと思う。受講者のコメントから考えて、互いの意見を交換しながら思索を深めたり、場合によっては受講者による模擬授業を行ったりする必要もあったようである。

また、授業内で受講者が質疑や発言を行う場合、どうしても問題意識が高く、知識量も豊富な現職院生の発言が多くなる傾向が見られた。結果として、それによってより議論が深まった面はあるのだが、ストレートマスターがもっと発言できるような手だてを講じるべきであった。

5 本授業の成果と今後の課題について

先人の思想や実践を鑑として、自身や現在の授業を考える際の手がかりを得るといふ本授業の主旨は、おおむね肯定的に受容されたと考えている。この点に、本授業の成果が認められる。

ただし、授業テーマについては、個々の授業者の興味や既有知識に差があったようである。特に、現職院生とストレートマスターとでは、既有知識についての差が大きかったと考える。次年度以降、テーマの再考も含めて検討したい。

授業の進め方については、授業者の準備、説明等のパフォーマンスはおおむね肯定的に評価された。しかし、模擬授業やディスカッションなど、授業内において受講者が主導する活動をもっと採用すべきであった。後期との差異化を意識して講義形式に中心をおいたためでもあるが、この点についても検討したいと考えている。

課題としては、評価基準の明示が不徹底であったことが挙げられる。授業者としては提示したつもりではあっても、受講者の意識と乖離していたようである。改善していきたい。

本授業の内容は、知識としてではなく、実践を見る目として生かしていかなければならない。その意味で、具体的実践にあたりながら演習を行うことは不可欠である。本授業ではその活動を後期に設定しているのだが、前期においてもそうした活動を設定しておくことが必要であったようである。そのためには、授業内容の精選、受講者の活動をあらかじめ設定してのシラバス策定といったことも必要であろう。テーマとともに、次年度に向けての検討材料としたい。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評価実施日	平成 19 年 7 月 30 日		
授業科目名	国語科教材開発研究	学期・曜日・時限	前 期	月曜日	2 時限
授業区分	1. 教職基礎科目 ②. 専門科目				
担当教員名	余 郷 裕 次	回答者数	19 名		

1 アンケート [1] の集計と分析について

(5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない)
 (2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 --- 未記入)

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	15	4				
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	15	4				
3	授業の内容には一貫性があった。	17		2			
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	12	7				
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	9	2	6	1		1
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	14	4	1			
7	授業の進む速さは適切であった。	13	6				
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	12	7				
9	受講生に授業への参加（質問，発言，討議など）をよく促した。	13	6				
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	13	5				1
11	視聴覚機器の使用は適切であった。	—	—	—	—	—	—
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。	12	7				
13	受講生に分かりやすく説明した。	16	3				
14	教員の声は聞き取りやすかった。	18	1				
15	板書の文字は見やすかった。	14	5				
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	11	8				
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	15	3	1			

<分 析>

すべての評価項目について、5の評価が一番多かった。この結果は、現職院生が同じ授業者の立場から、好意的な評価をしてくれたものと考えられる。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

本講義は、「最近絵本の読み聞かせや朝読がさかんになってきているので、絵本とどのように向き合えばいいのか知りたくて受講しました。」のように、絵本とその読み聞かせに興味・関心を抱く受講者には、ぴったりの講義内容であったと考える。

しかし、「国語科の物語読解について、何かヒントになるものがないかと考えて受講した。」というように、国語科の教科書教材の研究・開発のみを期待して受講した学生には、期待はずれの講義内容であった。

「絵本について深く知ってみたいと思い、前回受講した方からのすすめもあって受講した。」という大半の期待を満足させながら、絵本の読み聞かせが、教科書の物語読解にいかに関連するかの講義も心がけたい。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

「現場に帰ったら、初日から毎日子どもたちに読み聞かせようと思えました。またどのように読んだらよいか、どんな場面でどの絵本を選んだらよいか見えてきたような気がします。」、「絵本の読み聞かせや音読を続けることで、人と息を合わせることができるなど、学級経営に役立つこともたくさん教えていただいた。」、「読み聞かせそのものが、子どもとのコミュニケーションとなるという点で役立つと思った。」など、「教育の実践力の育成に役立つ内容であった」ことを裏付ける具体的な記述があった。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

「現場の教員は、みなさんにとっていいと思わせる内容だった。文句なし！最後に絵本のリストまでくださいました。すばらしいです！」と絶賛するものから、「たくさんの絵本に出会うことができたのが自分にとってプラスになった。また、その絵本について話し合う機会がもてたのがよかった。」など、授業の良かった点を指摘している。

しかし、「教科書教材の事業に音読をどのように位置づけるかということについて、もう少し時間を割いて欲しかったです。」という改善点も指摘された。

5 本授業の成果と今後の課題について

「国語科教材開発研究」は、受講生がかなり満足出来るレベルにあり、受講生が期待している実践力育成にも対応できていると考えている。

しかし、絵本とその読み聞かせの教育的な効果について、国語科の授業といかに関連するのかについての講義内容を開発し、実践する必要性を感じた。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

	評 価 実 施 日	平成 19 年 7 月 27 日	
授業科目名	日本語音声表現研究	学期・曜日・時限	前期・金曜日・2時限
授業区分	1. 教職基礎科目 ② 専門科目		
担当教員名	永田良太	回答者数	10 名

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
 [2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入]

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	8	1	1			
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	4	5	1			
3	授業の内容には一貫性があった。	8	2				
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	4	6				
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	6	3	1			
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	8	2				
7	授業の進む速さは適切であった。	9		1			
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	9	1				
9	受講生に授業への参加（質問，発言，討議など）をよく促した。	9	1				
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	-	-	-	-	-	-
11	視聴覚機器の使用は適切であった。	7	3				
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。	6	4				
13	受講生に分かりやすく説明した。	9	1				
14	教員の声は聞き取りやすかった。	9	1				
15	板書の文字は見やすかった。	5	5				
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	5				
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	8	2				

<分 析>

本授業においては、日本語の音声に関する網羅的かつ体系的な知識を身につけることを第一の目標として授業を行ったが、③を見ると、この点については概ね達成されたと言える。また、前年度の課題であった「知識の定着と授業の進捗とのバランス」に関しても、⑦や⑧を見ると、改善されたと言えよう。

今後の改善点としては、授業の内容と教育実践とを結びつけること(④)が挙げられる。学校教育の現場においては個別の対応や指導が求められる、日本語教育の現場においては学習者の母語によって指導の重点化が求められる中で、どのように理論と実践を結びつけていくかは研究上の課題であるが、学校教育と日本語教育のそれぞれの観点から、今後、授業の中でもこの問題について積極的に考えていきたい。

今回のアンケートによって、本授業で達成できた点と改善点とが明らかになったが、⑰が示すように、全体としては受講生にとって有意義な授業を展開できたと考える。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分析>

受講生からの回答は以下のようにまとめられる。

- (1) 日常、話している日本語の音について意識的に考えたい。
- (2) 自らの発音を向上させたい。
- (3) 今後の教育実践に役立てたい。

上記のように、本授業における受講生の問題意識は三つに大別されるが、ここでは(1)と(2)について分析を行い、(3)に関しては次項において分析を行う。

まず、(1)に関して、本授業においては、日本語の音がどのように作られるのかについて説明を行うとともに、聴解の練習を行い、産出と聴解の両面からそれぞれの音の特徴について考えた。これらのことを通じて、受講生は普段無意識に話している日本語の音について、意識化することができたように思われる。また、本クラスには留学生が参加していたが、他言語の音と日本語の音とを対照することで、日本語の音の特徴をより明らかにすることが出来た。このように他の言語と対照することが出来たことも日本語の音を意識化する上で有益であった。これらのことを通じて、(1)のような受講生のニーズに応えることができたと考える。

但し、上記のような活動を通じて、自分自身の発音に意識を向けても、それがどのような音であるかを判別するのは難しかったように思われる。そこで、今後は各受講生の発音を録音して、自らの発音の特徴を分析するなどの活動を取り入れることで、(2)「自らの発音に対する理解の促進と発音の改善」に努めていきたい。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分析>

受講生からの回答は以下のようにまとめられる。

- 現職の先生の話も交えることで、現場での問題も分かったことが良かった。
- 直接現場に役立つ内容ではなかったが、音の作られ方を学んだことで、今後、生徒と接する際や授業研究に役立つと思われる。

教育実践に臨む上で、重要なことの一つとして、問題を正確に認識するということが挙げられる。本授業では、多くの現職教員が参加しているという特長を生かして、まず、教育現場における音声に関する問題の把握に努めた。現職教員に自ら経験を発表してもらう中で、学校教育と日本語教育のいずれにおいても、音声面に問題を抱える学習者は少なくないという現状が明らかになった。この点は、現職教員のみならず、これから教職を目指す学生にとっても有意義であったと考えられる。

特に、学校現場における音声指導に関しては、今後、その指導の在り方が探究されなければならないが、上記の感想にもあるように、聴解と音の作られ方について学んだことで、学習者の問題点がどこにあるのかを見分け、それに応じた指導が可能になると考えられる。また、音声指導に際しては、テープやCDなどの視聴覚教材を用いて教育を行うことが有効であるが、本授業においてはこれらの視聴覚教材を用いることで、学習上どのような効果があるかを受講生自身に体験してもらい、今後、自らが教育を行う際に活用できる力を身につけることを目指した。

今後は様々な音声上の問題を抱える学習者にどのように対応するかについて、受講生とともに考えていきたい。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

受講生からの回答は以下の通りであった。

- 授業中に発言しやすい雰囲気であった。
- 聴解の練習問題に取り組んだのが良かった。
- ゲストを招いたことで、生の音声に触れられた点が良かった。
- 自分で発音するような演習ももっとやってみたかった。

本授業では、日本語の音声に関する知識について、活動を通して身につけることに重点を置いた。個々の音がどのように作られるのかを自らの調音器官を使って確認し、また、聴解してみることで、身につけることができたと思われる。授業に際しては、これらの活動に参加しやすい雰囲気作りに努めたが、上記の感想を見ると、この点については達成できたと言えよう。

また、本授業では日本語の地域方言におけるアクセントの説明に際して、当該地域の方言話者を招き、実際に発音してもらった。昨年度の授業では視聴覚教材を用いて説明を行ったが、実際に、方言話者に様々な文章を読んでもらうことで、日本語の音声的なバリエーションを実感することが出来た点は評価されるであろう。

今後は、2. で述べたように、様々な演習形式の方法を取り入れて、自らの発音に対する理解の促進と発音の改善にも取り組んでいきたい。

5 本授業の成果と今後の課題について

本授業における目標は、普段無意識に発している日本語の音を意識化してその特徴を客観的に捉えること、そしてそのような特徴を理解した上で日本語教育における教え方を身につけることという2点であった。アンケートおよび自由記述の結果を見ると、これらの目標は概ね達成することが出来たと考えられる。

1点目に関して、自らの音を意識化して客観的に捉えることに、当初は難しさを覚える受講生もいたが、日本語の音同士を比較することや他の言語の音と比較・対照することを通して、その特徴を捉えることが出来たようであった。これに際しては留学生の存在が大きかったように思われる。留学生の参加によって、様々な言語と日本語の音を比較することが出来た。

上記のような日本語の音の特徴を理解した上で、それをどのように日本語教育に生かすかを考えることが2点目の目標であったが、これにおいても留学生の存在が大きかったように思われる。日本語を学習する上で難しかった点や現在難しいと感じている点を聞くことで、音声指導の方法や留意点について考えることが出来た。

このように、本授業における二つの目標は達成することが出来た。これに加えて、本年度の授業では様々なコースの受講者の参加を得ることで、学校教育の現場にも音声指導を必要とする多くの子ども達が存在することを確認することが出来た。即ち、日本語の音に関する知識は、日本語教育のみならず、学校教育にとっても重要であるということである。本授業において、それぞれの立場から、学習者の調音上の問題点と今後の指導のあり方について意見交換が行われたことは、本授業における成果の一つである。今後は音声学的な知識がそれぞれの実践にどのような形で生かすことが出来るのかを探っていきたい。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評 価 実 施 日	平成 19 年 7 月 24 日		
授業科目名	現代日本語研究	学期・曜日・時限	前期	火曜日	1 時限
授業区分	1. 教職基礎科目 ②. 専門科目				
担当教員名	茂木 俊伸	回答者数	20 名		

1 アンケート [1] の集計と分析について

〔 5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない 〕
〔 2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入 〕

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	13	6	1			
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	12	8				
3	授業の内容には一貫性があった。	14	5	1			
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	9	8	3			
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	9	5	5			1
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	16	4				
7	授業の進む速さは適切であった。	12	7	1			
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	13	5	2			
9	受講生に授業への参加（質問，発言，討議など）をよく促した。	11	8	1			
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	9	9	2			
11	視聴覚機器の使用は適切であった。	-	-	-	-	-	-
12	配布された資料・文献等は，授業内容を理解する上で役に立った。	14	6				
13	受講生に分かりやすく説明した。	14	6				
14	教員の声は聞き取りやすかった。	12	8				
15	板書の文字は見やすかった。	10	8	2			
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	11	3			
17	この授業は，自分自身にとって満足できるものであった。	13	6	1			

<分 析>

この授業では、音声・語彙・表記・文法などの現代日本語に関する諸問題を概観・検討しながら、国語科学習指導において必要となる国語学（日本語学）の知識を再構成することを主な目標とし、講義を行った。受講者数は 21 名であった。

授業評価の全体の平均値は 4.52 である。評価項目のうち平均値が高かったのは項目 6 (4.8) および項目 12・13 (4.7) であり、配布資料に基づいて講義するという形式が評価されたと考えられる。一方、最も平均値が低かったのは項目 16 (4.15) であり、受講者の主体的な参加に課題があることを示している。また、項目 5 に関しても改善の余地がある。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

回答者 20 名全員の記入があった。記述をまとめると、受講の動機は概ね 4 種類に分けられる。それぞれの具体例と人数（重複を含む）を示す。

(1) 教育現場への還元 (3名) :

- ・ 現職の教員をしているので、子どもたちにわかりやすく、面白く興味を持ってもらえるような授業を行うためのヒントや手がかりを得るため。

(2) 国語学の知識の獲得・復習 (7名) :

- ・ 「日本語」が現在どのように分析・研究されているのか、その実状や問題点を学びたいと思いました。

(3) 日本語そのものへの関心 (13名) :

- ・ 自分の日常の言語生活を振り返り、「日本語」を見つめ直そうと思っていた。

(4) 自身の日本語能力の向上 (2名) :

- ・ 私自身が院まで来ておいて、文章もろくに書けず、会話もまともにできないので、これを受けたら勉強になることがたくさんあると思い、受けました。

このうち昨年度には見られなかった(4)は、受講者の専門や背景の多様化が影響していると考えられる。今年度も、一定の専門性は保ちつつ身近な問題を取り上げるという「概論」的な講義を取って大学院で試みたわけであるが、項目 17 の平均値が 4.6 であったことから、この授業のねらいと方向性は、評価されたものと考えている。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

項目 4 の評価の平均値は 4.3 である。回答者 20 名のうち、19 名の記入があった。具体的な記述の一部を、次に挙げる。

- ・ 何故生徒が間違いをおかしやすく、教師がどう手立てをし指導・助言を与えることで生徒自身の力が伸びるのか、またはばむのかについて、わずかながら理解できたように思える。
- ・ 漢字やことば使いを、どのような視点から教育に生かすのかということが、私から見ても興味のある視点で授業で取り上げていたので、そうしたとっかかりで実践でも役立つような気がしました。
- ・ 実際に学校現場での問題などに照らし合わせて考えたり、児童・生徒の様子も知ることができた。
- ・ 言葉や文法など、実際に使う時に役立つかなと思う内容もあったが、個人的におもしろいと思っても、役には立たないだろうと思うものもあったから。

4番目の意見に類似する記述は 3 名から得られた。授業の中では専門的知識と教育実践をつなげる発想についても触れたつもりであるが、具体的な手立ては、授業内容を踏まえて受講者自身に考えてもらわざるをえない面がある。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

回答者 20 名のうち、14 名の記入があった。

まず、「良かった点」に関する記述と考えられるものの一部を次に挙げる。

- ・ 計画が練られ、主張が一貫していたこと。資料が分かりやすいこと。資料が豊富なこと。紹介してくださる書籍が豊富で学習の深化に適切だったこと。そのときどきの受講生の声を引きとって、話題にしてくださったこと。等、以上が良かった点です。
- ・ 時事的なトピックを折りこみつつ、最新の日本語について教えていただいた点がよかった。

一方、「改善すべき点」に関する記述と考えられるものは次のとおりである。

- ・ 受講者同士の話し合いがあってもよかったように思う。
- ・ 現職の先生方の話をもっと聞きたかった。現場の様子も気になります。
- ・ もう少し、一つ一つの単元に時間をさいてほしかった。
- ・ 人数が多かったので、もっと広い教室がよかったです。

これらの点は、授業の形態上、仕方なかったところもあるが、受講者の参加意識に関わる点であるため、来年度に向けて検討したい。

5 本授業の成果と今後の課題について

今年度は、国語・日本語以外の領域を専門とする受講者が三分の一を占め、長期履修の学生も増加するなど、学生の予備知識や受講動機、受講姿勢の多様化がいつそう進んでいる。実際、授業の進度（速い／遅い）や教育実践への応用（役に立った／役に立たない）に関する評価が割れるなど、講義の内容や方法にさらに工夫が必要になっていると感じている。

ただし、アンケートの集計結果およびコメントから、シラバスに提示した本授業の目標のうち「国語学習指導において必要となる知識の再構成」「実践的言語能力の充実」という点は、概ね達成できたと判断している。

また、授業で繰り返し取り上げた、「普段は気付かないような身近な日本語の現象について不思議に思い、楽しみ、具体的に色々と調べ考えてみる」という視点の重要性については、受講者に伝わったのではないかと考える。

課題としては、昨年度からの継続課題となっているが、受講者の主体的な授業参加をより促す手立てを考える必要がある。この点に注意しつつ、より魅力ある授業作りを心がけていきたい。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評価実施日	平成19年7月20日		
授業科目名	英語科教育特論 I	学期・曜日・時限	前期	金曜日	1時限
授業区分	1. 教職基礎科目 ②. 専門科目				
担当教員名	伊東治己	回答者数	6名		

1 アンケート [1] の集計と分析について

(5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない)
 (2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 --- 未記入)

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	5	1				
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	3	3				
3	授業の内容には一貫性があった。	4	2				
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	6					
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	1	3	2			
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	3	1	2			
7	授業の進む速さは適切であった。	3	2	1			
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	3	1	2			
9	受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。	4	1	1			
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	3	2	1			
11	視聴覚機器の使用は適切であった。	3	3				
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。	5	1				
13	受講生に分かりやすく説明した。	3	3				
14	教員の声は聞き取りやすかった。	4	2				
15	板書の文字は見やすかった。	4	2				
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	3				
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	3	3				

<分 析>

まず、評価の対象となった17項目全体の評価平均値は4.50(昨年度は4.12)、最高が5.00、最低が3.83で、受講生からは概ね好意的な評価を得ることができたと言えるであろう。次に、評価項目ごとに結果を分析してみると、比較的高い評価が得られたのが

「4 教師の実践力の育成に役立つ内容であった」(5.00)、

「1 授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった」(4.83)

「12 配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った」(4.83)の3項目であった。

逆に、評価が相対的に芳しくなかったのは

「5 授業開始時や途中の成績評価の方法の説明は、具体的であった」(3.83)

「6 授業をよく準備し、熱心に教えた」(4.17)

「8 受講生の理解度を確認しながら授業を進めた」(4.17)の3項目で、これらは来年度への反省事項として押さえておきたい。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

この質問項目に対しては受講生全員（6名）から回答が得られた。具体的には、

- ・教育学を学びたかったから。
- ・実践的なコミュニケーションの授業をできるようになること。
- ・現場における実線に照らして、最新の理論、実践方法を学ぶこと。
- ・実践的な活動（マイクロティーチングなど）を通して、授業の組み立て方や教材の作り方を学んだり、論文を通してCLTの概念や流れなどを学べると考えて受講した。
- ・自分の英語を読む力が低下しているので、少しでも読む力をつけ、また英語教育の最近の理論を知りたかったので。
- ・指導案の書き方や授業の構成など不慣れな部分を改善したいという思いで、授業を受けました。CLTにも興味があり、どうすればコミュニケーション文法指導ができるのかという課題意識がありました。

というコメントが寄せられた。今回寄せられたコメントの殆どは授業シラバスに示された授業のテーマを十分意識したものであった。しかも実践的な指導法の習得が意識されており、授業実践力を育てるという要請に応える上でも、今後の授業の立案においては、この点を今以上に意識し、具体化していく必要性を感じている。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

この質問項目に対しても、受講生全員（6名）から回答が得られた。具体的には、

- ・マイクロティーチングで自分の授業について考えることができたので。
- ・実際に英語の授業を学生である私たちがやり、互いにそのやり方について良い点、改善すべき点などを話し合った。
- ・学生が順番に模擬授業を考案し、他の受講生に対して授業を展開するという内容で、実践的な方法を様々に得ることが出来、大変有意義であった。
- ・マイクロティーチングなどで実際に自分が授業を作ったり、他の受講生が行ったマイクロティーチングを通して、授業をどのように組み立てていくのか、実際にどのように授業を効果的に運営していくべきか、ということがよく分かりました。
- ・この授業を通じて英語を使ってみて、自分の未熟さを痛感するとともに、英語をもっと勉強しなければという気持ちになりました。
- ・実際にマイクロティーチングを自分がしたり、他の受講生がした後それについて話し合いが行われ、先生からアドバイスをいただけたので、大変勉強になり、また教師の実践力の育成にも役立つ内容であったと思います。

というコメントが寄せられた。いずれも授業の前半に行ったコミュニケーション活動を取り入れた模擬授業（マイクロティーチング）に対して好意的評価をしたものであり、実践力の育成する上での模擬授業の有効性を再認識させられた。今後も、模擬授業を核としながら理論と実践を融合させた授業改善に取り組んでいきたい。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

この質問項目に対しても、受講生全員（6名）から回答が得られた。良かった点としては、

- ・マイクロティーチングがとても良かった。
- ・実践力とそれを裏付けるであろう論文の読み込みができて、大変であったが、非常に有益な授業をしていただきました。
- ・自分の実践の大半の部分が理論的に研究されていることを知り、自身をもつことが出来ると同時に、多くの理論を学ばなくてはならないと感じた。
- ・一時間一時間の内容が密で、とても学ぶべきことがたくさんあり、為になりました。実践に役立つ教材の提示や例示を下さったので、実践にすぐに役立てられると思いました。
- ・マイクロティーチングをするという実践的な活動と論文紹介という理論を知るための活動の両方が一つの授業の中であり、実践的なことも理論的なことも学びたいと思っていた私にとっては大変良かったです。
- ・受講生が交代でマイクロティーチングや論文読解をする点がとても斬新でした。お互いに評価することで、良い点、改善点が明確になり、次回に生かすことが出来ました。何よりも現職の先生方からの授業を受けられて、とても役だったと思います。

というコメントが寄せられた。なお、今年度は受講生の人数が少なかったためか、特に改善意見は寄せられなかった。

5 本授業の成果と今後の課題について

本授業に寄せられた受講生からの授業評価の結果を総合的に判断する限りにおいては、受講生の教育実践力を高める上で一応の成果が得られたものと考えられる。具体的な成果としては、学習指導要領でもその重要性が強調されている「実践的コミュニケーション能力」を英語授業の中で育成していくための方略、特にコミュニケーション活動やタスク活動について一定の理解を受講者に授けることができたと思う。

なお、昨年度と比較した場合、基本的には同じ形式で授業を実施したにも拘わらず、かつ、受講生の構成（現職と学部からの進学者の割合）も昨年度とほぼ同じであるにも拘わらず、授業評価の数値は全体的にかなり上昇している。因みに、授業への満足度は昨年度は 4.07 であったが、本年度は 4.50 に上昇している。昨年度は、マイクロティーチングと論文講読を1時間の授業の中で行ったことに対して、負担が加重で不消化に終わってしまったという意見がいくつか寄せられたが、本年度はこの組み合わせをむしろ好意的に受け止める傾向が見られた。昨年度、授業への満足度が相対的に低くなった理由の一つとして、受講生の質的变化（従来は現職が過半数を占めていたが、昨年度からは現職と学部からの進学者の割合が拮抗するようになってきた）を挙げたが、この点は、もう少し時間をかけて慎重に見定める必要性を感じている。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評 価 実 施 日	平成19年7月27日	
授業科目名	教育課題探究 (英語科/英語教育基礎論)	学期・曜日・時限	前 期 金 曜 日 5 時 限	
授業区分	①. 教職基礎科目 2. 専門科目			
担当教員名	太田垣正義・前田一平・薮下克彦	回答者数	13 名	

1 アンケート [1] の集計と分析について

〔 5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない 〕
〔 2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入 〕

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	3	8	2			
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	2	8	2		1	
3	授業の内容には一貫性があった。	1	5	4	1	2	
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	1	8	2	2		
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	4	5	3		1	
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	1	9	2	1		
7	授業の進む速さは適切であった。	3	7	3			
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	1	6	5			
9	受講生に授業への参加（質問，発言，討議など）をよく促した。	3	8	1		1	
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	1	8	3		1	
11	視聴覚機器の使用は適切であった。	2	9	2			
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。	3	7	3			
13	受講生に分かりやすく説明した。	3	7	3		1	
14	教員の声は聞き取りやすかった。	3	8	1		1	
15	板書の文字は見やすかった。	3	7	2		1	
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。		8	5			
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	2	9	1			

<分 析>

領域の異なる3名の担当であり、当然、視点やテーマの統一という点で言えば、満足できるものとはならなかったであろう。しかし、逆に、英語を言語的に、文化的に、教育的に、論じるという多面性という点で言うなら、興味ある捉え方のヒントが得られたはずである。

受講生による授業評価で、ほとんどの項目に1を記入していたのは1名であった。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

次のような意見が記入されている。

- 3領域に関心を持つのは英語教師の義務だと思うから。
- 英語教師として課題設定の方法のヒントを得るため。
- 英語教育の諸問題への探究方法を知るため。
- 実践に役立つ情報などを得るため。
- 英語教育の現状を知るため。
- 広く英語教育の問題点を知るため。
- 海外の文化について知識を得るため。
- 論文作成のヒントを得るため。
- 教師になるためのスキルを得るため。
- 英語授業への取り組み方を知るため。
- 英語教育の分野でいまだのようなことが問題になっているのかを知るため。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

次のような意見が記入されている。

- 知らないことばかりで、得ることが多かった。
- 直接役立つ内容でなくともそのヒントになる事柄が多くあった。
- ものの見方を考えることができた。
- どのように指導すればいいのかという提案があり参考になった。
- 実践にどう結びつくのか分からない内容もあった。
- 教育現場でどのように生かすのか難しい内容もあった。
- 実際の指導法について述べられていた。
- 担当の先生の経験の話が参考になった。
- 教師になってから実践に生かしたい内容であった。
- 新しい見方を提供してくれた。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

次のような意見が記されている。

- 複数の教授スタッフによるTeam Teaching。
- 変化には富んでいたが、1つのことを深く掘り下げるため共通のトピックスを設定してはどうか。
- 3人の先生に一貫性がほしかった。
- 一貫性はなかったが、多様性を学ぶことができた。
- 様々な視点で捉える意義を学ぶことができた。

5 本授業の成果と今後の課題について

本科目を英語講座の3領域から、「いかにしたらコミュニケーションを円滑にすすめることができるか」というテーマで、それぞれが担当をした。言語の本来の存在意義を「コミュニケーション」ととらえ、3領域からアプローチしたわけである。

受講生からは、一貫性のなさが指摘されたが、それは予想できたことであった。一貫性を求めるなら、1人で担当するとか、1つの領域の先生方で担当すればよい。本科目は、英語教育の背景をなす3領域から敢えて異なった視点で迫り、教育実践に役立つ問題提起をすることが目的であった。

受講生は英語専攻ばかりでなく、他の専攻からきており、そのような多様性はむしろ望ましい姿であると思われる。問題は、そのような視点を理解し実践に生かす能力を受講生が持っているかどうかであろう。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評 価 実 施 日	平成 19 年 7 月 25 日		
授業科目名	英語科教育特論III	学期・曜日・時限	前 期 水曜日 2 時限		
授業区分	1. 教職基礎科目 ②. 専門科目				
担当教員名	太田垣正義	回答者数	6 名		

1 アンケート [1] の集計と分析について

〔 5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない 〕
〔 2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入 〕

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	1	4	1			
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	2	4				
3	授業の内容には一貫性があった。	3	3				
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	1	5				
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	2	2	2			
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	4	2				
7	授業の進む速さは適切であった。	3	3				
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	3	3				
9	受講生に授業への参加（質問，発言，討議など）をよく促した。	5	1				
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	2	4				
11	視聴覚機器の使用は適切であった。	—	—	—	—	—	—
12	配布された資料・文献等は，授業内容を理解する上で役に立った。	2	3	1			
13	受講生に分かりやすく説明した。	3	3				
14	教員の声は聞き取りやすかった。	3	3				
15	板書の文字は見やすかった。	4	2				
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	4	1			
17	この授業は，自分自身にとって満足できるものであった。	1	5				

<分 析>

本授業では、教材開発研究のうち語彙をとりあげた。語彙指導はともすれば単調になりがちで、学習者もその記憶に困難を感じる人が多い領域である。しかし、英語語彙を歴史的にあるいは共時的に研究すれば、興味深い事実を探ることができ、指導においても動機付けに利用できる。

指導者として、そのような語彙をどう扱うかは学習効果を左右すると言ってもよいであろう。受講生は、英語語彙の諸相を研究することで、今まで注意してこなかった単語の歴史などを掘り下げ、その内容に関心をもって授業に取り組み、今後の実践に生かす知見を得たと確信している。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

次のような意見が記されている。

- 多角的な視野で英語の構造を研究するため。
- よりよい授業実践のためのヒントを得るため。
- 英語学力を伸ばさせるため。
- 英語学の知識を広げ、自分の英語授業を向上させるため。
- 担当の先生からいろいろ経験をお聞きするため。
- 英語教師に必要な語彙知識をさまざまな角度から捉えるため。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

次のような意見が記されている。

- 受講生の担当部分は各自で選択できるようにしてもらえればもっとよかった。
- たくさんアドバイスをもらえてよかった。
- 受講生同士の討論の中で得るものが多かった。
- 現場で役立つ提示方法や教え方などがとりあげられた。
- 未知の内容を知ることができた。
- 実際の授業を想定した内容であった。
- 単に表面的なことだけでなく、英語の深層に迫れたこと。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点，改善してほしい点を具体的にお書きください。また，この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

次のような意見が記されている。

- 受講生同士で意見の交換ができたのは特によかった。
- 実践に即した内容であった。
- 現場に役立つ提案があった。
- 問題意識の持ち方を学ぶことができた。

5 本授業の成果と今後の課題について

当初の目標を達成できたと思っている。受講生の中に、本学を卒業しその後現職として働いた後大学院に入学してきた者がいたが、大学生の時に聞いたことと今回は全然印象が違うと言っていた。いったん現場で授業を経験することで、授業内容に深い関心を寄せることができるようになったからであろう。そういう意味で、いったん教員の経験をしてから研修の機会を持つことの意義が高いと思う。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評 価 実 施 日	平成 19年 7月 31日
授業科目名	英米文化研究Ⅱ	学期・曜日・時限	前期 火曜日 2時限
授業区分	1. 教職基礎科目 ②. 専門科目		
担当教員名	前田一平	回答者数	9名

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
 [2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入]

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	4	5				
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	7	2				
3	授業の内容には一貫性があった。	8	1				
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	5	4				
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	3	6				
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	6	3				
7	授業の進む速さは適切であった。	5	4				
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	6	2	1			
9	受講生に授業への参加（質問，発言，討議など）をよく促した。	6	3				
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	5	4				
11	視聴覚機器の使用は適切であった。						
12	配布された資料・文献等は，授業内容を理解する上で役に立った。	6	3				
13	受講生に分かりやすく説明した。	6	3				
14	教員の声は聞き取りやすかった。	6	3				
15	板書の文字は見やすかった。	4	4	1			
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	6	1			
17	この授業は，自分自身にとって満足できるものであった。	5	4				

<分 析>

全体的に高い評価を受けているので、今後の改善が求められるような項目はないと判断する。ただ、「4」という評価には「ある程度の不満足や批判」が含まれていると推測できるので、特に「4」という評価が多かった項目1、5、16については、今後の授業実施の参考にしたい。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

本授業では日系アメリカ人の文学を扱ったが、回答者9名のうち8名が「未知の分野である日系アメリカ人およびその文学に関心をもった」あるいは「異文化理解の視点に触れたかった」という回答であった。英語教員あるいは英語教員志望者にとって、異文化の問題がいかに魅力的であるかを再確認した。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

すべての回答が異文化理解や国際理解に有用であった、という内容であった。英語教育では文学は意図的に排除されるという傾向にあるが、教科書作成者（英語教育学者）と現場の間に認識の乖離があるのかもしれない。すくなくとも、私の英語教育観と現在の英語教育言説とは相容れない。この授業評価に信をおいて、今後も文学・文化理解を推進したい。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

5名の回答のうち3名が、資料とビデオ・DVDの使用を評価するものであった。残りの2名は、授業の進捗についていけなかった、という意見であった。後者の意見は、残念ながら、学力不足による学習能力の低さに起因するものであることは、容易に推察できる。大学院の授業として、これ以上許容できない低レベルの基準というものはあるはずで、その意味では、残念ながら、現在の授業進捗を改めるわけにはいかない。これは本学の抱えている根本的な問題の具体的な表出であろう。

5 本授業の成果と今後の課題について

本学赴任以来実施している日系アメリカ人の歴史・文化・文学研究と授業の実施が、学生の関心を引き、受講生の評判もよいことに鑑み、今後も継続して日系アメリカ人研究を推進する。今後は自らの研究の幅を広げて、アジア系アメリカ人研究へとシフトさせる予定であるので、中国や韓国はもちろん、フィリピン、ベトナムなどアジア諸国への視線をアメリカ経由で向ける計画をしている。英語教育学は脱アメリカ合衆国、脱文化の傾向にあるが、現実性と実現性を無視した美しい理念に口角泡を飛ばす専門家に無批判に付和雷同することなく、自らの研究に信念をもって授業を実施したい。なぜなら、アメリカ文学・文化・歴史研究は、もはや既に前世紀から脱・アメリカであるからである。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評価実施日	平成 20 年 2 月 13 日		
授業科目名	英語科教育演習Ⅱ	学期・曜日・時限	後 期	水曜日	1 時限
授業区分	1. 教職基礎科目 2. 専門科目				
担当教員名	山 森 直 人		回答者数	8 名	

1 アンケート [1] の集計と分析について

〔 5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない 〕
〔 2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入 〕

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	7	1				
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	6	1			1	
3	授業の内容には一貫性があった。	5	1		1	1	
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	6	1		1		
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	5	2			1	
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	7				1	
7	授業の進む速さは適切であった。	4	2	1		1	
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	3	3	1		1	
9	受講生に授業への参加（質問，発言，討議など）をよく促した。	4	2	1		1	
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	5	2		1		
11	視聴覚機器の使用は適切であった。	6	1		1		
12	配布された資料・文献等は，授業内容を理解する上で役に立った。	4	3			1	
13	受講生に分かりやすく説明した。	4	3			1	
14	教員の声は聞き取りやすかった。	5	2			1	
15	板書の文字は見やすかった。	4	2			1	1
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	2	1	1		
17	この授業は，自分自身にとって満足できるものであった。	6	1			1	

<分 析>

全体的な傾向としては評定4,5が多く、高評価を得たと考えたい。しかし、全質問項目において、評定3以下を与えた受講生も若干名あり、この結果を真摯に受けとめたい。各項目において、評定の得点(1-5)とそれを選んだ人数を掛け合わせた数値の総計を全体人数（8）で除し、各項目の平均得点を算出すると、相対的に評定の低い3点台であった項目は、「(8) 受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。」(3.9)と「(15)板書の文字は見やすかった。」(3.6)の2項目であった。昨年度は3点台の項目が6項目((1), (7), (8), (10), (13), (15))あったことを踏まえるとかなり改善された。特に、以下の自由記述の内容を踏まえて考えると、受講生の理解度の確認のあり方についてはさらに改善していく必要がある。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

- ・ 理論を実践にどう生かせるか
- ・ 学校現場で英語教育に取り組むにあたり、授業の見方、授業カリキュラム改善への生かし方、組織としての授業への取り組み方など、問題意識が大きかったので、山森先生の現場での実践を踏まえられた熱意のこもった授業は大変参考になりました。
- ・ 英語教育、特に、英語教育観について、そして、授業研究の目的・方法、英語教師の資質・力量を高める技能について学びたいと思い受講しました。
- ・ 修論に向けてのアプローチの方法と、教師になった時の英語教育観を学ぶことが、自分の目標。漠然としたことを明確にしたいという想いもあった。
- ・ 教師になったときの実践力。
- ・ 実践的な知識の習得。

受講生の問題意識や期待に関する記述には「理論」「実践」「技能」「資質・力量」といった用語が見受けられる。これらの用語の意味や関連について、さらに受講生にとって納得がいく授業が展開できるよう授業内容・方法の改善に努めたい。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

- ・ 教育現場での映像を視聴する機会があったため。
- ・ 授業についての理解—授業構成者である教師や学習者の世界に対する関係、他者との関係、自己内関係の意味理解・意味構築ととらえられるという内容に非常に合点がいました。また、授業をよりよいものにかえていくためには、このような理解の構えをもつことと、組織として英語科運営していくことが必要だということ、現場にかえて早速、改善に向けて取り組んでみたいと思いました。
- ・ 教師が、現場で自己の授業実践をふり返り、省察し、理解するためにアクションリサーチ等の研究がどのように役立つのかということが分かりました。また、自己の英語教育観を見直すきっかけになったと思います。
- ・ 形式知と暗黙知など今までの価値観を覆す発見があった。プロ野球の落合、イチローを例に分かりやすく解説していただいた。
- ・ 見えていないものが見えた。
- ・ 実体験がないので、学校現場がどうのこうのいわれてもわからない。内容があいまいでわからない。

授業内容について具体的なイメージがつかめるように、教育現場の事例と関連づけたり、比喩的な事例を用いたりした点が評価されている反面で、教職経験のない受講生には、今ひとつ分かりにくかった面もあったようである。必ずしも「分かりやすい」ことがすべてではないと思うが、受講生の思考に「価値葛藤」や「揺らぎ」を喚起するような題材設定を心がけたい。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

- ・ 毎日入念な準備をされ、毎年、新しい課題をもって授業に取り組まれていた山森先生の姿勢そのものが、よりよい授業をめざして向上される教師のモデルでした。毎回具体的な授業の場を思いうかべながら演習を受け、研究のヒントも与えてくれました。
- ・ 先生が、とても熱心に指導して下さったのが良かったです。時々、理解が難しいところがあったので、できれば、時間の最後5分くらい、質疑応答できる時間があっても良かったのかなと思いました。しかし、毎時間たくさんのことが学べて良かったです。
- ・ ラストの3週間はストレートには少し分かりづらかったようにおもう（現場での経験がないため）、もう少し違った授業展開の方が分かりやすかったかもしれない。
- ・ つめ込み授業のようでした。しんどいです。自分の意見を言う機会がなければ、全く大学院の授業だと思えない。

教職経験をもつ受講生と未経験の受講生のあいだに、授業内容に関する理解や満足感に大きなずれがあったようである。また、教職経験のない受講生に対して納得のいく指導をすることはこれまでの継続課題でもある。上記3で書いたこととも重なるが、特に教職経験のない受講生に対する指導アプローチを検討していきたい。

5 本授業の成果と今後の課題について

<本授業の成果>

全体としては高評価を得たように思う。また、昨年度の結果に比べても授業改善の成果が出ていると感じる。ただし、以下に示すように、まだまだ改善の余地がある。

<今後の課題>

- ・ 教職経験をもたない新卒大学院生に対しても、納得がいく授業を心がける。そのためにも、教職経験のある受講生と考えや意見を共有する場をふやすなどの工夫をする。
- ・ 授業内容についての、受講生の理解状況を確認しながら授業を進める。そのためにも、疑問点や不明な点について質問を受ける機会を授業のときだけでなく授業外でも可能な限り設け、受講生にも積極的に質問をするように促す。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評価実施日	平成 20 年 2 月 18 日			
授業科目名	歴史学研究 I	学期・曜日・時限	後 期 月 曜日 2 時限			
授業区分	1. 教職基礎科目 ② 専門科目					
担当教員名	大石 雅章	回答者数	10 名			

1 アンケート [1] の集計と分析について

(5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない)
 (2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 --- 未記入)

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	5	5				
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	8	2				
3	授業の内容には一貫性があった。	7	3				
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	7	2	1			
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	6	2	2			
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	9	1				
7	授業の進む速さは適切であった。	7	3				
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	7	3				
9	受講生に授業への参加（質問，発言，討議など）をよく促した。	5	5				
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	6	4				
11	視聴覚機器の使用は適切であった。	—	—	—	—	—	—
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。	8	2				
13	受講生に分かりやすく説明した。	8	2				
14	教員の声は聞き取りやすかった。	8	2				
15	板書の文字は見やすかった。	3	5	2			
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	4	1			
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	8	2				

<分 析>

全ての項目で5と4の評価が8割を超えた。さらに項目15の板書以外の項目で5が過半数を得た。
 なお今後は、板書の文字を見やすくするように改善をはかり、また学生が主体的・積極的に授業に参加できるように、学生に発言を求めるなど、授業の方法を考えていく必要がある。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

「古代・中世の仏教と世俗との関わりについて学びたかった」「中世の宗教や寺院が、中世の人々とのような関わりをもっていたのか」「中世の仏教についてくわしく知りたかった」など、中世仏教についてとくに民衆生活との関わりについて学習したいという内容が多い。仏教に関する現在の中・高の教科書の記述は、仏教美術の作品名、僧侶名やその著作についての名を上げて型どりの説明に終始し、人々の生活に仏教がどのように関わっていたかについてはほとんど触れられていない。中・高の歴史教育のなかでそのことを学ぶ機会がないことが、このアンケート結果に反映されているとみられる。

また「専門的に日本中世史を学ぶため」「新しい視点を得る為」など、新鮮な歴史学の成果により学問的を深めたいというねらいもあり、つねに新しい成果を取り入れた斬新な学問としての授業を行うように努める必要がある。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

「実際、教員になった時に教科書では教えられない部分も今回学習することができたので、とても参考となりました」「現在の歴史教育の問題点を意識することができた。この授業内容を将来に生きたい」「歴史を教える際に留意することについていろいろ考えさせられたから」「現行教科書記述に対する新しい視点・認識を得られた」「教科書に欠落している宗教の多様性について言及されたから」「日本史の教科書の記述で生徒が理解しづらいであろう点について解説してくれた」「教科書の問題点などを歴史史料をみながらできたため」などの記述から、受講生のほぼ全員が授業の内容を理解し、教師教育に役立つものであると評価している。なお3の評価した受講生の記述は「この授業は高校の日本史においては役に立つ内容であったが小学校の場合どちらともいえない」であった。小学校教員としても、日本史や地域の歴史を子どもたちに教え指導する上でその基礎的能力が重要であり、その学習を踏まえての授業内容である。したがって、その点が受講生に一人でも正確に伝わらないことがあったのは、今後授業方法・内容を含めて反省すべき点である。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点，改善してほしい点を具体的にお書きください。また，この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

「中世の日本社会と宗教とどのような関わりがあったのかについて詳しくわかったことがよかった」などの記述から、受講生が授業内容について理解し、満足したと評価できる。しかし「できれば板書もう少しをきれいにしたい」との記述があり、板書については反省し、改善しなければならない。

5 本授業の成果と今後の課題について

現在のまでの教科書における宗教（仏教）の記述は、古代・中世の文化の項に仏教美術の作品名・僧侶名・著作名などが列記され、その暗記的学習が中心であった。それをいかに改め、人々の生活のなかで宗教がいか存在したのか、社会と宗教の関係をわかりやすく説明し、古代中世の社会の特色、近代社会との違いを含めて説明したものである。それは学校現場で日本史や地域の歴史を教える上で大いに役立つものである。受講生はそのことについて、理解したものとみられる。

なお、板書についての改善、よりわかりやすく興味深く授業をすすめる方法、学生が主体的に授業に関わる方法など、今後検討する必要がある。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評価実施日	平成 19 年 8 月 3 日		
授業科目名	地理学研究 I	学期・曜日・時限	前期 火曜日 2 時限		
授業区分	1. 教職基礎科目 ② 専門科目				
担当教員名	木原 克司	回答者数	4名		

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
 [2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入]

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	3	1				
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	4					
3	授業の内容には一貫性があった。	3	1				
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	2		2			
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	2	2				
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	3	1				
7	授業の進む速さは適切であった。	3	1				
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	3	1				
9	受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。		2	2			
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	3	1				
11	視聴覚機器の使用は適切であった。		2	2			
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。	4					
13	受講生に分かりやすく説明した。	3	1				
14	教員の声は聞き取りやすかった。	3	1				
15	板書の文字は見やすかった。	3	1				
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	1				
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	3	1				

<分 析>

17項目全体の平均評価は4.6であり、きわめて高い評価を得た。また、17項目中14項目で4.75以上の評価が得られたことは満足し得る結果と言える。項目4と11では、評価5と3で4人の評価が分かれた。受講者4名の構成は現職教員とストレートマスター半々であったが、どちらがどのように評価したのか不明である。いずれにしてもこれらの項目については4以上の評価を得られるよう検討する必要がある。項目11についても、シラバスにも明記し、授業の最初にも質問を歓迎する旨受講生に伝えたつもりであるが、3の評価を与えた者が2人いることはさらに改善すべき余地があるかもしれない。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

受講者の中で当該質問に回答した者は4名中3名であり、記述内容も1行あるいは2行程度ときわめて少なかったが、その内容から判断すると、受講生の期待は考古学的な成果から古代の役所の構造や建物の具体的な構造を学ぶことであるように思う。授業の内容はこうした受講生の期待に充分答えるものであったと考えている。アンケート(1)の質問17での授業に対する満足度で3名が5評価を与え、他の1名が4評価を与えたことは、それを物語るものであろう。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

4名中2名から回答があった。そのうち1名は「知識として大変役に立つと思うが、内容が高度なため生徒に伝えるのは難しいと思われる。」と回答し、もう1名は「教科書の記述や資料を教える上で、よりイメージが具体化した。」という回答を寄せている。授業の中では、古代の建物について初心者にも理解できるよう構造的な解説をわかりやすく述べたつもりである。後者の学生は、おそらく現職の教員で古代に強い関心を持つ人であると推定される。アンケート評価の結果が5と3に2分されることを考えると、受講生の古代史に対する関心の程度の差が評価に反映されたものと理解できる。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

回答者は1名のみであったが、その内容はよかった点として「豊富な資料で理解を深めることができた」をあげている。講義を行う側から言えば、改善点や新たなアイデアを期待するのだが、それについては誰も指摘がなかったので残念である。次回からはこうした点について記述するようアンケート実施にあたってこちらから注文を出す必要があるように思える。

5 本授業の成果と今後の課題について

アンケート項目の全体の平均評価は4.6ときわめて高い評価を得、日本古代の地方行政の実態や行政組織、地方行政を推し進めた古代の役所の構造などを受講生に十分に理解させることができ、授業の目的をおおむね達成できたと判断できる。しかし、「教師の実践力の育成に役立つ内容」、「視聴覚機器の使用」や「受講生の授業への参加を促す」などの点では、3の評価を与えた受講生も若干見られたことは反省すべきであると思われる。今後はそうした点に関してさらに改善すべきと考えられる。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

	評価実施日	平成 19 年 7 月 27 日
授業科目名	哲学・倫理学研究	学期・曜日・時限
授業区分	1. 教職基礎科目 (2.) 専門科目	前期 金曜日 2 時限
担当教員名	齋木哲郎	回答者数
		8 名

1 アンケート [1] の集計と分析について

(5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない)
 (2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 --- 未記入)

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	2	4	2			
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	1	4	3			
3	授業の内容には一貫性があった。	3	5				
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	2	1	5			
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	1	5	2			
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	4	4				
7	授業の進む速さは適切であった。	2	4	1		1	
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。		6	1		1	
9	受講生に授業への参加（質問，発言，討議など）をよく促した。		4	2	2		
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	3	2	3			
11	視聴覚機器の使用は適切であった。						
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。	1	4	3			
13	受講生に分かりやすく説明した。	2	3	2			
14	教員の声は聞き取りやすかった。	2	3	3			
15	板書の文字は見やすかった。	4	3			1	
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	2	2		1	
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	3	4	1			

<分 析>

例年並みか、例年より評価が下がったという印象である。今回の特徴として受講生の層がこれまでと違う、という点に注意したい。受講生はもう少し多かったが、今回の場合、理科系からの受講生もあって、そういう人たちの適応力がどのレベルかを意識して授業を行うことができなかつた。この点は反省材料である。もう一つ、気になるのは授業を行っているある時期から得体の知れない反感が受講生の間から漂ってきて、それが授業を行う大変な妨げとなったということである。この反感は私の授業に向けられたものではなく、私に関する風聞によるものであったらしいが、結局私はそれが何なのかわからなかつた。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

哲学や倫理思想というのは、それを正確に理解し把握していないと、あたかも暗記の学のように教えがちで、自分でも教えている内容がどういうものか分かっていない場合がある。私は思想や倫理というものこそ、教える側が各人でその内容を正確に把握し、学生に正確に理解させる方法を模索すべきだと考えている。私の授業はそのための一例との意味合いもある。

解答として多かったのは、中国の歴史を思想史を通じてみたかった、というのが圧倒的に多く、哲学や倫理の授業はどうやったらいいかを学びたかったという類はなかった。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

現場でどれだけ中国の思想が教えられているか、また授業の内容と現場で教えるのとの間にどれだけ直接的な関係があるか分からない、といった意見があったが、これらは否定的な解答をされた人の意見であろう。逆に、思想よりも背景として語られた歴史が、授業を行う際に役に立つ、あるいは、思想の内容が現代にも通ずる部分があり、それが今後に生かせそうだ、という意見もあった。これは思想・哲学を実際に教壇に立って教えたことのない人で、それでいて今回の講義を今後の現場での授業に応用できるとみた肯定的な意見であろう。実際に教壇に立って哲学なり、思想なりを講じられた方の意見も求めたいものである。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点，改善してほしい点を具体的にお書きください。また，この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

難しい内容であったが分かり易く楽しかった、というのが二人、板書をもう少しゆっくりして欲しかったというのが一人、の三名からの意見が出されていた。

5 本授業の成果と今後の課題について

今回私にとって考えさせられたのは、なんと言っても人文系以外の領域からの受講生があつて、その人たちに向けた授業方法を考えなければならない、ということである。次年度以降は、特にこの点に留意して新しい授業方法を模索してゆきたいと思う。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

	評価実施日	平成 20年 2月 18日
授業科目名	地理学研究 II	学期・曜日・時限
授業区分	1. 教職基礎科目 ②. 専門科目	
担当教員名	立岡裕士	回答者数
		3名

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
 [2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入]

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	1		2			
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	1		2			
3	授業の内容には一貫性があった。	1	2				
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	1		2			
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	1		2			
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	1	2				
7	授業の進む速さは適切であった。	1		2			
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	1	2				
9	受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。	1	1	1			
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	1	2				
11	視聴覚機器の使用は適切であった。	1	2				
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。	1		2			
13	受講生に分かりやすく説明した。	1		2			
14	教員の声は聞き取りやすかった。	1	2				
15	板書の文字は見やすかった。	1	2				
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	2				
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	1	1	1			

<分 析>

配付資料も含めて授業内容が必ずしも理解しやすくはなかったと評価されたものと思われる。本年の講義のテーマの性格上、近世以前の史料をも利用せざるをえない。多くの場合そうした史料は事例紹介にすぎず精密に理解する必要はないものであり、そうしたことを断りながら内容を解説しているが、十分でなかったのかもしれない。講義の展開も含めて工夫したい。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

記入者は1名のみであった。「小学校及び中等教育において地理分野の専門分野の教養を深めようと思った」「地理の造詣を吸収したいと思った」ということである。

近代の郷土教育の流れは現代の社会科教育（特に「身の回りの地域」の学習）に直接つながりそれに対する思考材料を提供するものである。この点が明確になるような講義の展開をはかりたい。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

記入者は1名のみであった。「綿密な授業構成とき然とした講義など、授業づくりの参考となった」ということである。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点，改善してほしい点を具体的にお書きください。また，この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

記入者は1名のみであった。「要望や期待、知的好奇心にこたえて下さり、満足のいく内容であった」ということである。

5 本授業の成果と今後の課題について

上記のように講義の展開（ないし進度）について改善すること、および期末試験のほかに学期中に課題を課することで成績評価の機会を増やすようにしたいと考える。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評価実施日	平成 19年 7 月 25 日		
授業科目名	現代の諸課題と社会認識教育	学期・曜日・時限	前期 水 曜日 2 時限		
授業区分	1. 教職基礎科目 ②. 専門科目				
担当教員名	西村 公孝	回答者数	12 名		

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
 [2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	6	5	1	0	0	
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	7	5	0	0	0	
3	授業の内容には一貫性があった。	9	3	0	0	0	
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	6	4	2	0	0	
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	7	3	2	0	0	
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	8	3	1	0	0	
7	授業の進む速さは適切であった。	7	5	0	0	0	
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	5	4	3	0	0	
9	受講生に授業への参加（質問，発言，討議など）をよく促した。	10	2	0	0	0	
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	3	8	1	0	0	
11	視聴覚機器の使用は適切であった。						
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。	11	1	0	0	0	
13	受講生に分かりやすく説明した。	9	3	0	0	0	
14	教員の声は聞き取りやすかった。	6	6	0	0	0	
15	板書の文字は見やすかった。	4	5	3	0	0	
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	6	1	0	0	
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	5	7	0	0	0	

<分 析>

登録は18名であったが、ガイダンスから2名抜け途中から履修しない者が出て、最終的には13名になりアンケートは12名から得ることができた。全体的に受講生の満足度は高く授業評価も「5」と「4」がほとんどであった。特に、設問9と12での評価が高かった。受講生に積極的に参加してもらおうスタイルが受け入れられた成果であるが、発言には消極的な院生も見られた。配布した資料が授業内容の理解に役だったとの評価は、事前の教材準備がうまくいったと評価できる。

本講義は題目にあるように現代の諸課題であり、多種多様な課題がある。今年度取り上げた学校教育、国際理解、少子高齢社会、男女共同参画社会、格差社会以外にも社会認識として重要な問題が多々ある。受講生の要望に応える形で課題を設定しているが、限界もある。受講生の理解度や板書については、「3」の評価も見られる。来年度の改善に役立てたい。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

受講生の具体的な意見を紹介してみる。

- ・自分の生活の中の問題意識を社会教育論を通して見直してみたいと思ったから。
- ・現代社会において、どのような問題が内在し、社会にどう影響しているのか、その結果として今日の教育はまず何をしなければならないのか等について、学びたいと考え受講しました。
- ・講義のタイトル通り、現代社会の抱える問題について取り上げるものが、具体的にどのようなものか、それに対してフロアーの中でどのような認識がなされているか、ということから、教育へどう還元されるかということを知る、考えることができると考えていました。
- ・現代の諸課題と社会認識との関係性を考えるためのきっかけとして受講した。
- ・現代の諸課題について理解と認識を深めたかった。
- ・今日の日本にどのような課題がありそれをとりまく状況がどのようなものかを知りたかった。
- ・現代社会の諸問題について、多面的多角的な視点から分析し、今後の学校現場での実践に生かしたいと考え受講した。

上記の意見にあるようにタイトルが「現代の諸課題」をどのように「社会認識」として関連付け、学校教育の教材として分析していくかにあり、受講生の問題意識も同様な視点が述べられている。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

具体的に役立ったとされる意見を紹介してみたい。

- ・少子高齢社会の問題や格差社会の問題をどのように捉え問題解決したらよいか、様々な資料をもとに全員で考える活動が役に立った。
- ・個別的な知識だけでなく、その社会的背景や考え方等、また、KJ法など学習方法も示して頂いたこと。
- ・現代の諸課題であり自分自身の興味をもっていた内容がいくつもあり、これからの実践に役立つと思われたから。
- ・現代社会の諸問題を実践する上で効果的な研究課題が適切に選ばれていたと思うから。
- ・具体的な現代の問題から、何を捉えるかを現職の方や先生の見解も交えて知ることができました。
- ・現代社会の諸問題と教育との関連を学ぶことは、現場で非常に役立つ知識であると考えたため。
- ・いろいろな課題と学校教育を結び付けて、説明したり受講生を討論させたりしたことが理由です。

社会科教育は、現代社会の諸課題を教材とし子どもの社会認識を形成し、未来の国家・社会の形成者を育成する教科である。教師の実践力育成には、まず、教師の現代社会認識を広げ深める、多面的多角的見方考え方のポイントを考えてもらわなければならない。その点での評価が高かったことは本講義の成果といえる。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

具体的な受講生の良かった点と改善して欲しい点を紹介してみる。

(良かった点)

- ・受講生みんなの意見を言わせて討論させたことが良かったと思います。自分だけの考えではなく、他人の考えも聞いて考え方が広がったことがいいです。
- ・発言の機会が多く設けられていた。
- ・受講生に積極的に発言を求めていったところが良かった。
- ・新聞などで見る最近の問題をみんなで議論できたことが大変勉強になりました。

(改善して欲しい点)

- ・授業テーマの明確化をはっきりして欲しかった。また発表者のテーマを前の時間に知らせるなどの工夫が欲しかった。
- ・討論をしたくても問題が大きすぎて討論の問題点を焦点かして下さると意見が出やすく、一度、討論に火がつくとその後はもっと自然に討論が流れたと思います。

本授業は討論能力を育成しようと月ごとにミニ討論会を企画した。そのことが受講生の満足度に繋がったと思われる。しかし、テーマが大きく、現代社会の諸課題を討論するにはあまりにも基礎的な共通の認識が図られていない現状があり、一部の院生には消化不良の面があったため、改善点として指摘されたと思われる。

5 本授業の成果と今後の課題について

本授業の成果、3点と今後の課題を2点まとめておきたい。

第1の成果は、受講生の主体的な学びを保障する発表と討論を取り入れ、その評価において成果を確認できたことである。

第2の成果は、現職派遣の院生の受講によりストレートの院生が、現代の諸課題を学校教育の課題に関連付けて子どもの視点を入れながら認識し、討論に参加できたことである。

第3の成果は、KJ法やウェビングなどの活用により社会認識の概念や知識を分類する構造的な学び方を身に付けたことである。

今後の課題としては、第1に受講生の問題意識に関連付けた現代社会の諸課題のテーマ設定である。事前に授業アンケートを実施し、個々の要望からテーマを設定しているが、全員に満足のいく課題追究は難しい。しかし、少しでも対応したい。第2に現職派遣の教員の減少を見込んでどのように大学院のレベルとしての社会認識教育を成立させるかの課題がある。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

	評 価 実 施 日	平成 20年 3月 3日 (補講日)			
授業科目名	社会科授業研究	学期・曜日・時限	後期	月曜日	3時限
授業区分	1. 教職基礎科目 ②. 専門科目				
担当教員名	梅津 正美	回答者数	13名		

1 アンケート [1] の集計と分析について

(5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない)
 (2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 --- 未記入)

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	7	5	1			
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	7	4	2			
3	授業の内容には一貫性があった。	10	3				
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	10	3				
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	5	7	1			
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	11	2				
7	授業の進む速さは適切であった。	5	5	3			
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	6	6	1			
9	受講生に授業への参加（質問，発言，討議など）をよく促した。	8	5				
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	5	7	1			
11	視聴覚機器の使用は適切であった。						
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。	11	2				
13	受講生に分かりやすく説明した。	10	3				
14	教員の声は聞き取りやすかった。	12	1				
15	板書の文字は見やすかった。	9	4				
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	6	1			
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	9	4				

<分 析>

本講義は、受講学生の社会科授業研究能力、特に授業の事実を分析し評価し、改善案を提案できる能力の育成を目標に展開した。受講生は、全部で15名（アンケート提出13名）であった。上記の目標を達成するために、教員は社会科授業研究の方法論を実践の事実にもとづいて具体的に講じた。受講生はその方法論を活用して、授業論と実践の性格を異にする複数の授業研究事例（仮説を組み込んだ授業計画書）を分析し評価を加え、発表した。そして、教員と受講生がともにそれぞれの理論と実践の特質・課題・位置について討議していった。

受講生による授業評価の全体平均点は、4.6であった。本講義は、学校現場の授業研究（実践）を理論的に説明し議論していくように展開し、教師としての実践力育成に努めたが、それに直接的に関わる評価項目(3)(4)(17)の平均値は、(3)が4.8,(4)が4.8,(17)が4.7であった。本講義の目的と内容は、受講生から概ね意義あるものとして評価されたとみることができる。

教員の授業方法や態度についても概ね良い評価を得た。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

受講生からの主な回答には、次のようなものがあった。

- 社会科授業研究の方法を学び修士論文に活かしたいから。
 - 社会科授業についてどのような理論や実践があるか知りたかったから。
 - 社会科授業の類型とそのように分類できる視点を分かるようになりたいから。
 - 社会科の授業分析法を理解できるのではないかと思った。
 - 教育現場で実際に役立てたいと考えた。
 - 授業を分析しその特色を知って、実際の教壇で子どもに授業を展開していくことを念頭において受講した。
 - 社会科の教員として、児童・生徒にどのように教えていけば良いかという問題意識で受講した。
 - 現場教師として授業を構成する際に少しでも力になればと思い受講した。
- 本講義の目的と内容は、受講生の問題意識・ニーズと概ね合致していたと考えることができる。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

本項目に対する受講生評価の平均点は、4.8 である。そのように評価する理由については、次のような記述がみられた。

- 授業構成の方法論について学ぶことができた。
 - この講義で得た考え方にもとづいて、自分の教育実習の授業を再検討できる。
 - 修士論文の主題や現場に出てからの実践に非常に役立つと感じたから。修士論文研究で考察している自己の理論を見直すことができた。
 - 他の教師の授業を分析・検討していくための方法を学び、授業には様々な種類があることを理解して、それを現場での実践に役立てていくことができると思った。。
 - 授業分析の手法を学ぶことができ、自分の授業にも活用できると感じたから。
 - 授業の類型の明確化とその理論に対応する実践が示されたから。
 - 研究授業を見るポイントや、理論と実践を一体的に見る方法が参考になった。
 - 様々な社会科授業論を学ぶことで、実際に現場に立ったときにどの授業論がこの場面では適切であるかを吟味・検討できる能力が身についたと思う。
 - 今まで考えてもいなかった実践する上での技能を、その一端でも感じる事ができ、授業作りの難しさを感じると共に、その大切さを実感しました。
- 本講義は、受講生から教師の実践力形成に意義ある授業として評価されているとみることができる。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点，改善してほしい点を具体的にお書きください。また，この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

本講義に対する改善意見として，次のようなものが上がった。

○ドラフトはとても見やすかったが，少し言葉が難しいと思うところがある。

○祝日や担当教員の出張等で授業がとんだり補講があったりで落ち着かないところがあった。。

教科教育学の専門用語・概念については，具体的に分かりやすく説明していく努力と工夫をさらに重ねながら，その用語・概念をきちんと理解させたい。

5 本授業の成果と今後の課題について

本講義の成果は，社会科授業の分析と評価を中心とする授業研究能力育成をめざした授業展開が，学生による授業評価を通じてその意義を認められたことである。

今後とも，学校現場の実践に資する授業研究方法論の教授に努めていきたい。講義の方法として，現職教員とストレートマスターとをふくむ異なる経験知に支えられた受講生の議論の場をこれまで以上に組み込んでいきたい。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評 価 実 施 日	平成 19年 7月 25日		
授業科目名	社会科教育学研究	学期・曜日・時限	前期	水曜日	2時限
授業区分	1. 教職基礎科目 ②. 専門科目				
担当教官名	草原 和 博	回答者数	15 名		

1 アンケート [1] の集計と分析について

〔 5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない 〕
2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	13	2				
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	13	2				
3	授業の内容には一貫性があった。	15					
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	14	1				
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	11	4				
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	14	1				
7	授業の進む速さは適切であった。	5	8	2			
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	6	9				
9	受講生に授業への参加（質問，発言，討議など）をよく促した。	14	1				
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	12	3				
11	視聴覚機器の使用は適切であった。	14	1				
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。	13	2				
13	受講生に分かりやすく説明した。	14	1				
14	教員の声は聞き取りやすかった。	14	1				
15	板書の文字は見やすかった。	13	2				
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	9	5	1			
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	13	2				

<分 析>

おおむね受講生の満足度は高かった（問17）。すべての項目において評点5が8～9割近くを占めた。とくに授業内容の一貫性（項目3）では、全ての受講者が評点5を与えている。全般的な高評価は、①社会科授業論の体系（対立と相克の関係）をビデオや指導案等の資料に即して検討するとともに、②各論の得失をめぐって受講者のディスカッションを促したこと、③初回の講義時に学習資料を精選し編集したコースパッケージを配布したこと、などに起因すると解される。

他項目に比べて幾分評点4・3が多かったのは、進度の速さ（項目7）；理解度の確認（項目8）、授業への主体的な取組（項目16）だった。とくに項目7と8の低評価は、教員の授業展開のまずさに起因すると解される。来年度は、講義内容にゆとりを持たせる、受講生の理解度を丁寧に確かめるなどの工夫を凝らしたい。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

(回答の抜粋)

- ・ 社会科教育について知りたかった。先生の考え方や知識を知りたかった。
- ・ 社会科の根本原理を理解しようと思った。
- ・ 今回は、基礎的知識を学ぶために受講しました。
- ・ 社会科教育学研究の方法論について考えるきっかけとして受講しようと思った。
- ・ 社会科授業における実践力をつけたかったから。

いずれの院生も、学問的な関心をもって受講していることが読みとれる。

教科教育分野の授業では、とかく教育実践ないしは授業開発の側面が強調されやすい。しかし受講生は、実践力の養成だけではなく、自分たちが受けてきた授業、また自分が実践してきた授業を対象化して捉える「原理」「概念」ならびに「方法論」の学習を期待していることが伺える。

学問性を薄め、技術的な問題に終始しては、必ずしも学生の大学院教育に対するニーズに応えることはできない。本講義が一定の評価を得たのは、「教育実践の科学的研究」という受講生のアカデミックな要請に応じていたためと解される。また上述のような講義のねらいと展開をシラバスに詳述しておくことで、教員と受講生の意識のズレを避けることもできた。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

(回答の抜粋)

- ・ 社会科という教科の性格に気づくことができた。
- ・ 教科教育について学ぶことで、現場においても自分の研究に非常に役に立ちました。
- ・ これまで行ったことがなかった授業分析の方法や授業方法を学べて、勉強になりました。
- ・ 具体的な実践事例を紹介し、その課題と特質を明らかにした。
- ・ 授業実践を実際に分析したり、授業をつくったりと、毎回授業後に出される課題もそれぞれのレベルに合わせており、とても勉強になった。
- ・ グループ学習だったので、他者の意見も参考にできてよかった。

多くの受講生は、「実践力の育成」に役立つ内容を、①ケーススタディーと②課題発表（予習）に求めている。本講義では、（教員）次時の内容理解に役立つ課題を出し→（院生）その課題に指導記録や授業VTRの分析を通じて回答する→（院生）みんなの回答を参照して院生相互の議論を深め→（教員）教員の総括のもとに概念構築をはかる、というスタイルを採ってきた。このような課題発表とケーススタディーの有機的な連携が、本項目の高評価につながったと思われる。今後も、「社会科授業の分析論・開発論を、実践の事実在即して探求させる」の原則を洗練させていきたい。

なお、グループ学習での意見交換が、実践力の育成に役立つと答えた受講生もいた。受講生が考える「実践力」の幅はきわめて広い。実践力は、直接的な授業力だけでなく、間接的なコーディネート力・協働関係の構築力なども含めて、大きく捉えてゆかなくてはならない。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

(回答の分析)

- ・社会科教育学を様々な視点で考えるきっかけとなったことはよかった。
- ・先に課題を出されていたので、とても授業が聞きやすかった。
- ・課題をこなすことによって、授業内容に対する理解を深めることができた。
- ・授業でもちいた資料集は、今後も役立つものではないかと思った。
- ・パワーポイントがとても整理されていた。資料が分析の上で興味をもてるものだった。
- ・板書の内容をインターネット上でのせてあるのでよかった。
- ・授業のリズムやジョークが面白かった。
- ・課題がグループ形式ばかりだったので、個別の課題もあると個人の意見が反映されやすいのでは。

本講義に対する好印象は、以下の3点に整理できる。

- ① あらかじめ学習資料をコースパケットして配布し、予習・復習への便宜をはかった。
- ② 授業のアウトラインはパワーポイントに整理し、ウェブ上で閲覧できるようにした。
- ③ 授業は、学習資料と予習課題への回答を素材に、ディスカッションしてゆく形で展開した。

受講生には、このような授業展開が評価されたものと解される。なお、予習課題については、グループ学習にとらわれず、個人学習も取り入れて欲しい、との要望があった。

5 本授業の成果と今後の課題について

1～4の自己評価を踏まえ、成果と課題を箇条書きにまとめる。

(授業の成果)

- ・具体的な実践(指導案・VTR)の分析を通して、社会科の教科論・授業論を探求させることができた。受講生も、社会科教育学の研究成果を学ぶことに意義を見出していた。
- ・社会科の教科論・授業論の学習は、受講生がこれまでに実践してきた授業、あるいは、これまでに受けてきた授業の意義と課題を振り返らせる上で有益だった。
- ・とくに、受講生相互のディスカッション、及びウェブやメールを媒介にしたインターアクティブな指導が、教育効果をあげていた。

(今後の課題)

- ・授業進度の速さについて問題提起を受けた。受講生には、本講義ではじめて社会科教育学に接する院生も少なくない(とくに教員養成プログラムの院生)。どうしても短期間に多くの概念・スキルを盛り込みがちになる。来年度は、内容構成を再検討したい。
- ・現在のところ、受講生には、①グループ単位での課題への取り組み、②個人単位での課題への取り組み、それぞれに支持が見られる。引き続き受講生の意向を見きわめ、適切な学習活動を用意したい。
- ・今年度高く評価された箇所については、さらなる改善をはかりたい。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評 価 実 施 日	平成 19年 7月 25日
授業科目名	歴史学研究Ⅲ	学期・曜日・時限	前期 水曜日 3時限
授業区分	1. 教職基礎科目 ②. 専門科目		
担当教員名	原田 昌博	回答者数	16名

1 アンケート [1] の集計と分析について

〔 5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない 〕
〔 2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入 〕

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	11	5				
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	15	1				
3	授業の内容には一貫性があった。	16					
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	10	3	3			
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	11	5				
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	16					
7	授業の進む速さは適切であった。	11	3	2			
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	12	4				
9	受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。	13	2	1			
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	14	2				
11	視聴覚機器の使用は適切であった。	13	3				
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。	13	3				
13	受講生に分かりやすく説明した。	13	3				
14	教員の声は聞き取りやすかった。	15	1				
15	板書の文字は見やすかった。	9	6		1		
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	12	3	1			
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	12	4				

<分 析>

全体的に見て、各質問項目とも「5」に評価されており、授業担当者としては概ね目標を達成できたのではないかと考えている。とりわけ、回答した16名中、質問3および6では全員、質問2および14では15名、質問10では14名が「5」と評価しており、授業の一貫性、教員の熱意、テキスト・参考書の内容・使用あるいは教員の声の聞き取りやすさについてはとりわけ満足度が高い。質問4では「3」をつけた学生が3名いるが、これは歴史学という教科内容を扱う授業では現場の実践に直接結びかない部分もあるためこのような結果になったものと考えられる。しかし、この場合でも10名が「5」または「4」の評価をつけていることから、ある程度の成果はあったものと考えられる。質問17で全員が「5」または「4」と評価している点からも、学生は本授業に概ね満足していたと結論付けることができるだろう。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

受講者の回答

- ・歴史学と歴史教育について学びたかった。
- ・ナチス・ドイツについて興味があったから（2名）。
- ・近現代の（ドイツの）歴史について深く知りたかったから（5名）。
- ・外国史について不案内だったから。
- ・社会が苦手だったから。
- ・歴史の研究がどのようなものか知りたかったから（2名）。
- ・ナチズムの研究がどのようなものか知りたかったから（2名）。

上記の回答から、受講者の問題意識や期待は、大きく3種類に分類されるであろう。第1に、歴史の内容そのものに関心があり、それを知るために受講したものである。その際、本講義が対象としたドイツ史あるいはナチズムは題材としても関心が高いことが読み取れる。第2に、歴史の研究（方法）に関心があるというものである。第3に、歴史教育・社会科教育への関心からであるが、このグループは全体の中では少数のようである。アンケート結果から見る限り、これらの学生の問題意識・期待に対して、本講義は概ね応えることができたのではないかと考えられる。

この授業は「ナチズム」という現代史の1つの歴史事象をテーマに取り上げているが、その際には専門的で難解なまた殊更に細かい内容に深入りするのではなく、高等学校の教科書記述を入り口にナチズムを事例に関する研究史・研究状況が現場で使われる教科書にどのように影響を与えているのかという点を受講者が掴むことを目標とし、その旨をシラバスに記載した。教員養成大学の大学院での西洋史の授業という性格を考慮した場合、西洋史専攻の学生だけが受講するとは考えにくく、よってこのような配慮は学生の本授業に対する問題意識の涵養には不可欠ではないかと考えられる。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

受講者の回答

- ・歴史学の成果が教科書記述にいかん反映されているかを示していたから（2名）。
- ・教科書記述についての理解が深まったから。
- ・専門的・知識が豊富であったから（2名）。
- ・内容的に教師として知るべきものだから（2名）。
- ・歴史の（多様な）見方・考え方を学ぶことができたから（5名）。
- ・事実を解釈することを学んだから。
- ・歴史上の語句だけでなく、その社会的背景なども考えることができたから。
- ・専門的なため教科・校種によっては必ずしも役立つとはいえないから。

本講義は歴史学の専門的分野を扱っているため、1件だけとはいえ「実践には必ずしも役立つ」という回答が見られた。確かに、内容面から言うならば、一つの時代・地域をここまで詳しく扱うことは学校現場ではまずないだろう。しかし、本講義が目指したのは、「ナチズム」を事例（入り口）にして、一つの歴史事象には「複数の解釈」があり、現場に立つ教員にはこの多様なものの見方・考え方が必要とされる点を実感させることであり、このように授業を捉えた受講者からの評価は高かったようである。この意味で、大多数の回答がそれを実践力として役立つと評価してくれたことは授業者として大変うれしい限りである。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

受講者の回答

(良かった点)

- ・丁寧な説明で分かりやすく面白かった。
- ・非常に詳しく教えてもらい、最初の知識が無くても判りやすく理解を深めることができた(2名)。
- ・教師の経験などが織り交ぜられてとっつきやすかった。
- ・他の論文からいかに自らの論を構築するかが分かり、修論に有意義であった。
- ・歴史の見方を学ぶことができた。

(改善すべき点)

- ・もう少し講義の部分が多くても良かった。
- ・資料プリントとテキストレジュメを一緒に閉じてある方が便利である。
- ・内容が盛りだくさん過ぎて、進むのが早かった(2名)。

講義に関しては好意的な評価が多かった。世界史・ドイツ史・ナチズムに関してまったく知識を持たなくても理解できる講義を目指していたが、この点は概ね達成されているのではないかと思う。ただし、一部の学生にとっては講義内容が多く、また講義の進行が早く感じられたようであり、この点は配慮が必要である。もっとも、講義内容の量・講義の進行速度の感じ方・捉え方は個人差があり、どのレベルで進めていくかは全体の様子を注視して臨機に決定していくしかないのではないかといえる。

5 本授業の成果と今後の課題について

本講義の内容は次の3点に要約できる。

- ①現在の高等学校の世界史教科書の「ナチズム」に関する記述を10年前の教科書と比較し、その変化を確認する。
- ②この変化の背景にある研究の進展を最新の著書・研究から明らかにする。
- ③この作業とともに、講義での概説を通じて西洋現代史についての知見を深める。

本講義はこの3つの目標を達成するため、授業担当者による概説(講義)と受講者による報告を織り交ぜ、また受講者各人の積極的な意見発表を取り入れながら進められた。アンケートの諸結果からこの目標は概ね達成できたものと考えられる。また、講義の理解を促進するために事前に30頁のレジュメ集を作成・配布し、さらに各講義において補足資料を追加した。

授業の進め方としては世界史の内容を通史的に概説する授業も考えられるが、本講義は来年度以降も今年度と同様に特定の「歴史事象」に対してそれを多様な見方で捉えていく形で進めていきたい。今後の課題としては、レジュメおよび配布資料の改良、視覚資料の更なる充実を図ることであり、さらに歴史教育実践者として歴史教科書記述の背景に至る広範な理解を促すような授業作りを意識的に行っていきたい。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評価実施日	平成 20 年 2 月 14 日		
授業科目名	歴史学研究Ⅱ	学期・曜日・時限	後 期 木曜日 2時限		
授業区分	1. 教職基礎科目 (2) 専門科目				
担当教員名	町田 哲	回答者数	11名		

1 アンケート [1] の集計と分析について

(5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない)
 (2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 --- 未記入)

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	6	5				
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	10	1				
3	授業の内容には一貫性があった。	8	3				
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	7	2	2			
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	5	6				
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	10	1				
7	授業の進む速さは適切であった。	6	5				
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	4	6	1			
9	受講生に授業への参加（質問，発言，討議など）をよく促した。	6		4	1		
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	6	5				
11	視聴覚機器の使用は適切であった。	6	2	3			
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。	7	4				
13	受講生に分かりやすく説明した。	5	6				
14	教員の声は聞き取りやすかった。	6	3	2			
15	板書の文字は見やすかった。	4	5	2			
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	6	1			
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	7	4				

<分 析>

授業評価からは、本年は授業内容、授業方法ともにいずれも高い評価をえることができた。とくに本年のテキスト内容がわかりやすかつレベルも高いものであったこと、テキスト内容についての疑問点について答え解説をする、あるいは CD-R 等を使っての近世の絵巻物から都市や諸身分に関する授業など、工夫をした点がこうした評価につながったと考える。また、近世の身分や都市の社会構造、流通構造をいかに理解し、その上で教育実践に活かすかという点についても、多少なりとも踏み込んだ点も評価を得たようである。

院生もまた、事前の精読や授業に積極的に参加することができた。

ただ、授業内容やテキスト内容について質問とそれに答える時間については意識的に行ったが、集団で議論する時間については十分確保することができなかった。それ故か、9 について評価が分かれる結果となっている。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

「近世の新研究をふまえた上で、授業を構成しようと思い、毎回しっかり論文などにあたり、復習・発展をするつもりで受講した。また、最後に論文の一つ書くつもりで望んだ。」「近世日本史の特質について考えたかった」「近世歴史学を研究するにあたっての調査の方法、考察の視点（を深める）」等、受講生はいずれも授業目的をよく理解した上で、積極的に参加できたようである。

本授業の中では、具体的に近世の諸身分のとらえ方や都市の流通構造について、具体的な素材をもとに議論し、これを授業で教える場合に留意すべき点等について、議論を行い、あわせてレポート課題でそれを文章化するようにした。これによって、専門的知識をもとに授業実践にいかに関与させるかという重要な課題にいくらかでも答える内容になったと考える。こうした点の意識についても高めるよう努力したい。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

「日本史や世界史の研究成果をどのように教科書に反映させれば良いか考える機会を与えられた」「実際に近世の内容についての授業案を歴史学の研究をもとに構成したので、とても実践力がついたと思う」「教員の（歴史的な）視点を多角化するのに役立つ内容だった」「歴史教育に対する、様々な観点等を得ることができた」といった高い評価を得た。しかし一人だけであるが、「小中学校の実践ではあまり関係がないのではないかと思った」との感想も寄せられた。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点，改善してほしい点を具体的にお書きください。また，この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分析>

解答者は少なかった。「板書を丁寧に」については、努力したい。また「CD-Rをつかって資料をみたのがよかった。」という点は、やはり具体的な素材を提示することで、内容をつかみやすく工夫した点が評価されたものだろう。一方で「ディスカッションの時間をもっととればよいと思う」という意見については、授業者の方で解説や質問を喚起するだけでなく、受講生間での議論の必要を提起しているものだろう。この点、必要に応じて授業に盛り込めるよう今後努力したい。

5 本授業の成果と今後の課題について

この授業では、日本近世史、とりわけ地域史研究の新展開をふまえつつ、その方法を文献や実践例を通して理解し、あわせて日本近世史についての多角的な視野の修得を目標としている。

本年の前半は、吉田伸之『成熟する江戸』（日本の歴史 17、講談社）という、一般向けでありながら内容の濃いテキストを選び精読した。後半では授業者の研究をもとに阿波の藍流通の具体的な有り様を提示することで、近世社会の流通構造や仲間組織の特徴を提示する内容であった。

授業評価からは、本年は授業内容、授業方法ともにいずれも高い評価をえることができた。テキスト内容についての疑問点について答え解説をする、あるいは CD-R 等を使っての近世の絵巻物から都市や諸身分に関する授業など、工夫をした点がこうした評価につながったと考える。院生もまた、事前の精読や授業に積極的に参加することができたようである。

ただ、解説に力を入れるあまり、授業内容やテキスト内容について議論する時間については、十分確保することができなかった。この点は、今後改善していきたい。

第3部

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評価実施日	平成 19 年 7 月 24 日		
授業科目名	数学科教育学研究	学期・曜日・時限	前期 火曜日 4 時限		
授業区分	1. 教職基礎科目 ②. 専門科目				
担当教員名	齋藤 昇・秋田美代	回答者数	11 名		

1 アンケート [1] の集計と分析について

(5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない)
 (2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 --- 未記入)

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	3	8				
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	5	5	1			
3	授業の内容には一貫性があった。	4	7				
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	6	5				
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	3	8				
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	4	7				
7	授業の進む速さは適切であった。	3	7	1			
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	3	8				
9	受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。	3	7	1			
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。						
11	視聴覚機器の使用は適切であった。	5	6				
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。	4	7				
13	受講生に分かりやすく説明した。	6	5				
14	教員の声は聞き取りやすかった。	6	5				
15	板書の文字は見やすかった。						
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	6	2			
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	4	7				

<分 析>

この授業では、算数・数学学習において、児童・生徒が学習内容をしっかりと定着し創造的思考を活性化する原理と方法を概説し、その具体的な指導方法として「山登り式学習法」を取り上げ、小・中・高等学校における実践例と対応づけながら講義を行った。

この授業に対する評価は、ほとんどが「5と4」であり、評価平均値は4.35であった。回答から、特に「教師の実践力の育成に役立った」「受講生に分かりやすく説明した」「教員の声は聞き取りやすかった」こと等の様子がうかがわれた。11名の受講者のうち2名は留学生であったが、留学生はきわめて熱心であった。

受講者は、算数・数学の学習指導法の原理・教材の開発に興味・関心を高め、理解を深めたようである。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

受講者の主な回答は、次のようであった。

- ・ 現場に出たときに、役に立つ力を身につけたいと思ったから。
- ・ 創造性を高める学習指導法について学びたいと思ったから。
- ・ 数学の新しい学習指導法を学びたいと思ったから。
- ・ 数学教育の現状や動向を学びたいと思ったから。
- ・ 生徒の理解を深める数学の学習指導法を学びたいと思ったから。

これらの回答から、受講者は算数・数学の授業において、児童・生徒の関心・意欲や理解力、創造性等を高める指導方法が必要であることを認識していることが分かった。特に、そのための方法として「山登り式学習法」に強い関心・意欲をもって学習に取り組もうとしていた様子がうかがわれた。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

受講者の主な回答は、次のようであった。

- ・ 山登り式学習法を学び、それを学校現場に生かすことができると思ったから。
- ・ 数学教育の現状や創造性について、丁寧にわかりやすく説明してくれたから。
- ・ 中学校や高等学校の教員になったとき、生徒に山登り式学習法を使って教えたいと思ったから。
- ・ 自分が教師になったときに、どんな授業をしたらよいかを理解できたから。
- ・ 山登り式学習法の効果が分かり、現場でも試してみたいと思ったから。
- ・ 山登り式学習法は、自国の生徒の指導に役立つと思ったから（留学生）。
- ・ 山登り式学習法は、生徒の創造性を高めることができると思ったから（留学生）。

これらの回答から、受講者が「山登り式学習法」に強い関心を抱き、生徒の理解を深めたり創造性を活性化したりする指導方法を身に付け、教員としての資質や実践力を向上させたことが分かった。また、諸外国の教育事情を知ることにより、自国の教育の課題及び改善策等についての理解を深めたことが分かった。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

良かった点についての受講者の主な回答は、次のようであった。

- ・ データを提示し、それに基づいて具体的に説明してくれたので、とても分かりやすかった。
- ・ 受講生が理解できているのかを、きちんと把握しながら授業してくれた。
- ・ 学習構造チャートを、みんなで議論しながら実際に作り上げていくことができた。

改善してほしい点についての記述はなかったが、次のような要望があった。

- ・ 単位時間における児童・生徒の学習活動の展開のし方や単位時間の学習活動で大切にしていかなければいけないことがらについてもっと学びたかった。

この授業では、受講者が主体的に活動し自らの考えを発言する場面をできるだけ多く取り入れた。受講者たちは、「山登り式学習法」や「学習構造チャート」について理論や実践方法について議論する中で、学習指導方法についての理解を深めたようである。

現場での経験がない学生にとっては、教科書を基に「学習構造チャート」を作成するのは難しかったと思われる。時間があれば、コンピュータを利用して学習構造チャートをつくるソフトウェアを開発して、学生が学習構造チャートの作成を容易にできるような方策をとることも必要であると考えている。

5 本授業の成果と今後の課題について

この授業では、算数・数学学習において、児童・生徒が学習内容をしっかりと定着し創造的思考を活性化する原理と方法を概説し、その具体的な指導方法として「山登り式学習法」について、小・中・高等学校の実践例を混ぜながら説明をした。

受講者は、児童・生徒に学習内容の構造を理解させることが、算数・数学の学習内容をしっかりと理解させ、創造性を活性化させるために必要であることを理解したようである。受講者は、数学の0指導内容・指導方法についての認識を深め、教育実践力を高めたものと思われる。しかし、受講者の発表・討議を中心に授業を行ったため、多くの題材を取り扱うことはできなかった。次年度は、もう少し時間配分を工夫したいと考えている。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

	評価実施日	平成 20 年 2 月 15 日			
授業科目名	解析学研究	学期・曜日・時限	後 期 金 曜 日 4 時 限		
授業区分	1. 教職基礎科目 ②. 専門科目				
担当教員名	成川 公昭	回答者数	8 名		

1 アンケート [1] の集計と分析について

(5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない)
 (2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 --- 未記入)

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	3	4	0	1	0	0
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	2	3	3	0	0	0
3	授業の内容には一貫性があった。	4	4	0	0	0	0
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	3	5	0	0	0	0
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	3	3	2	0	0	0
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	4	4	0	0	0	0
7	授業の進む速さは適切であった。	5	3	0	0	0	0
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	5	3	0	0	0	0
9	受講生に授業への参加（質問，発言，討議など）をよく促した。	6	2	0	0	0	0
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	2	4	2	0	0	0
11	視聴覚機器の使用は適切であった。	—	—	—	—	—	—
12	配布された資料・文献等は，授業内容を理解する上で役に立った。	—	—	—	—	—	—
13	受講生に分かりやすく説明した。	6	2	0	0	0	0
14	教員の声は聞き取りやすかった。	5	3	0	0	0	0
15	板書の文字は見やすかった。	6	2	0	0	0	0
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	1	2	0	0	0
17	この授業は，自分自身にとって満足できるものであった。	3	5	0	0	0	0

<分 析>

授業内容を独自で考えながら手作りの授業を行ったため、テキストや参考書は使用しなかったし、推薦もしなかった。従って、評価項目の2、10では3のどちらともいえないとの回答が多かった。この質問項目を除いては、ほとんどが5または4の評価を得ており十分満足する結果であった。ただ、成績評価は試験によらず、出席状況とレポートによって評価したため、学生にとっては具体的な判断基準が捉えられなかったのかも知れない。そのことが質問項目5に於いて3の評価を出した学生が2名出てきた理由かも知れない。授業に於いては学生の理解と授業への参加を優先して行ったため、質問項目の7、8、9、13においてはいずれも5または4の評価が出ており、その意図が十分に学生に伝わっていることがうかがわれる。しかしその一方で、当初予定していた授業内容を削減せざるを得なかった。この相反する2つの事柄をどのようにバランスをとるかが今後の課題である。また、留学生が2名いたため、英語と日本語の両用による授業であったことも授業の内容を削減せざるを得なかった理由の一つである。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

以下のような意見であった。

- ・毎回興味のある内容だったので、どのように応用されるのかとか、どこに繋がるのかとかに期待しつつ受講しました。
- ・解析の知識をふやしたい。
- ・昔にやった数学にもう一度取り組んでみようという気持ちをもって受講しようと思いました。
- ・ I decided to take this course after discussing with the professor and gaining important insight into the contents. I took the course also to deepen my understanding in analysis.
- ・ I consider to take this course, because I think it is very important to know about mathematical analysis. I expected from the course to get knowledge about resolution of problems in mathematical analysis.

学部上がりの院生、現職教員、留学生とそれぞれに立場の違う学生が混在しており、それぞれの問題意識や期待に十分答えることが出来るか、どのように異なる目的を持って授業に参加しているのか心配していたが、この意見を見る限り、おおむね共通の目的を持っており、それには十分に答えることが出来たと思われる。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

以下のような回答であった。

- ・前で説明を英語で行うことは有意義でした。
- ・一つの問題をそれぞれのレベルにあわせた解法でアプローチしたから。
- ・楕円と最小値問題が同値であるところなどです。
- ・ I believe it was useful because it is important for teachers to understand deeply the contents of mathematics, because I believe that I helps with building self confidence.
- ・ The course was useful because in every class we solved problems, it is good the teachers can solve problems, think in mathematical way and develop abilities in problems resolution.

授業を行うに当たってはなるべく現場で現れる問題と密着した形となるよう努力した。理論だけでは終わらず、如何に現場で行われている数学と結びついているかがわかるような題材も選んだ。そのことが学生の興味を惹き積極的に授業に取り組ませたようである。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

以下のような回答であった。

- ・ 特になし。
- ・ 生徒の意見を取り入れ、柔軟に対応してくれたこと。
- ・ わかりやすい、おもしろい内容でよく理解できました。
- ・ I consider this course was very good. The teacher always explain very well about the topic. I felt very comfortable in the course.
- ・ The professor was very considerate of all students in the class, he made sure that all students understood the content presented. He ensured that he catered to the needs of international students also. It was a very productive class.

学生の意見を取り入れながら授業の構成を行ったことが好評であったようである。特に留学生に対しては、彼らが授業に積極的に取り組み、参加できるよう、十分な配慮をしたことが評価されたようである。

5 本授業の成果と今後の課題について

既に述べたことであるが、学生が興味を持ち、更に十分に理解できるよう丁寧に題材を選び解説したことが学生からの評価に繋がっている。このことは確かに意味深いことであるが、一方で、難解な内容を耐えて、苦しみながら理解するという訓練は行うことが出来なかった。本当の実力は、自らの力で苦しみながら切り開いて行くことによって養成される。学生が気に入った内容や、やり方を行うことのみがよい教育とは思えない。今回出来るだけ学生の要請に合うよう授業構成を行ったが、更に一段レベルの高い授業を目指して、簡単には理解不能だと思われるような講義を行う必要もあると考える。

今回は学部からの院生、現職教員、留学生、それぞれの意見や目的の違いがそれほど表には出なかった。しかし、本来これらの学生間の違いは授業に対しての姿勢や目的すべてに於いて異なるはずである。このことをしっかりと考え、それぞれにあった授業を考えなければならないと思われる。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評価実施日	平成 19 年 7 月 17 日		
授業科目名	代数学演習	学期・曜日・時限	前 期 火 曜 日 5 時 限		
授業区分	1. 教職基礎科目 ②. 専門科目				
担当教員名	平野 康之	回答者数	8 名		

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
[2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入]

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	2	4	2			
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	1	3	3			1
3	授業の内容には一貫性があった。	1	4	2	1		
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	3	4	1			
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	1	5	2			
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	1	3	4			
7	授業の進む速さは適切であった。	2	3	3			
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	2	4	2			
9	受講生に授業への参加（質問，発言，討議など）をよく促した。	3	3	1			1
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。		1	5			2
11	視聴覚機器の使用は適切であった。	2	5	1			
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。	2	2	4			
13	受講生に分かりやすく説明した。	2	3	3			
14	教員の声は聞き取りやすかった。	3	3	2			1
15	板書の文字は見やすかった。	3	1	4			2
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	4				
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	1	7				

<分 析>

学生自身が研究した話題を発表し、受講者全員が、それらについて質問し、コメントを述べる授業にしたため、教師の実践力の育成に役立つ内容であったと考える。国外から来た学生が2名も積極的に発表し、また、日本の学生も英語を用いて発表した。また、受講生自らが、十分理解した上で発表した後、活発に議論が交わされたので、受講生は主体的・積極的に取り組むことができ、理解度を確認しながら授業を進めることができた。しかし、テキストを決めず、受講生の発表に重きを置いたため、授業中にあまり、参考書をあまり使わなかったことは反省すべきかも知れない。「この授業は、自分自身にとって満足できるものであった」という項目17が5と4に集中したことから、受講者が概ね満足しているものと思われる。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

まず、受講生からは、次のような意見が述べられた：
様々な数学の分野を知りたいという興味・関心から。
代数学の演習ができると思った。
代数学の専門的知識を増やしたいと思った。
数学の学び方が勉強できると期待して受講した。
我々の日々の生活に活かせるような代数学が学べると期待して受講した。
この授業を通して専門的訓練が受けられることを期待した。

これらの意見から受講生達は代数学の演習を通して、専門的知識を身に付け、応用することを期待したことが窺える。学生自身による発表を中心に考えたため、多少専門性に欠けるところはあったかも知れないが、お互いが考えていることを理解できたと思われるので、多少でも受講者達の期待にそえていれば幸いである。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

受講生からは、次のような意見が述べられた：
発表という形の授業をとoshi、将来に必要な授業力に役立った。
実践というより、数学の楽しさを再確認するものであった。
様々な教材があることがわかり、楽しく授業することができた。
他の人の模擬授業も観れて良かったし、今後の選択数学に役立つ内容であった。
創造的かつ実践的で、今後の授業に役立つと思われる。

受講生自らが、十分理解した上で発表し、活発に議論が交わされたので、概ね、実践力の育成に役立ったと思われる。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

受講生からは、次のような意見が述べられた：
この授業は活気があり、様々なアイデアを学ぶ事ができた。
この授業は私にとって、楽しく、役立つものであった。
良かった点は他の人の授業が観れたことだ。
特にありません。

受講生自らの発表を通し、活発に議論が交わされたことが好評であったようである。

5 本授業の成果と今後の課題について

受講生自らが課題を選択し、調査研究を行い、発表するという形式の授業は、授業受講者の個性に依存しており、また2名の留学生もおおり、授業がどのように進んでいくのか、多少不安であった。ところが、むしろ、留学生達が授業の牽引役となり、視聴覚機器を用いて、積極的に発表してくれた事もあり、授業は活気のあるものとなった。欲を言えば、もう少し代数的専門性を持たせた発表になるようにアドバイスできれば、良かったように思う。より代数的専門性を持たせた授業にすることと受講者達の能力・個性のとバランスを考えることが今後の課題であると思われる。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評 価 実 施 日	平成 19 年 7 月 20 日		
授業科目名	教育課題探究 (数学教育の課題と探究)	学期・曜日・時限	前 期 金 曜 日 5 時 限		
授業区分	① 教職基礎科目 2. 専門科目				
担当教員名	○秋田美代, 齋藤 昇		回答者数	16 名	

1 アンケート [1] の集計と分析について

〔 5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない 〕
〔 2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入 〕

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	7	8	1			
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	3	9	4			
3	授業の内容には一貫性があった。	11	5				
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	11	5				
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	6	9	1			
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	10	6				
7	授業の進む速さは適切であった。	9	7				
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	8	8				
9	受講生に授業への参加（質問，発言，討議など）をよく促した。	8	6	2			
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	5	5	5			1
11	視聴覚機器の使用は適切であった。	8	8				
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。	6	10				
13	受講生に分かりやすく説明した。	11	5				
14	教員の声は聞き取りやすかった。	10	6				
15	板書の文字は見やすかった。	7	7	2			
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	10	5	1			
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	9	6	1			

<分 析>

この授業では、小学校・中学校・高等学校の学校現場における算数科・数学科教育の様々な実践上の課題を探り、それらの課題の生ずる原因を多様な視点から考察し、教育課題についての認識を深めること及びそれらの課題に対する解決方法を分析・考察することを行った。

この授業に対する評価は、おおむね「4と5」であった。回答から、特に「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」「受講生に分かりやすく説明した」「授業に主体的・積極的に取り組んだ」こと等の様子がうかがわれた。受講者は、算数科・数学科教育の実践上の課題やその背景・解決方法等に対する興味・関心を高め、理解を深めたようである。

テキスト、参考書、参考文献等に関する項目についての評価がやや低かった。本年度は、テキスト・教材は必要に応じて提示又は配布したが、次年度は、もっと受講者が活用しやすいように工夫する必要がある。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

受講者の主な回答は、次のようであった。

- ・ 現在の数学教育の現状・課題を知りたかったから。
- ・ 今の算数・数学教育を変える何かを見つけたいと思ったから。
- ・ 現在の教育の課題とその解決方法を理解したいと思ったから。
- ・ 自分の研究や論文を作成するためのアイデアが得られると思ったから。

これらの回答から、受講者は算数科・数学科教育の実践上の課題を理解することの必要性を認識し、強い関心・意欲をもって学習に取り組もうとしていた様子が見えられた。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

受講者の主な回答は、次のようであった。

- ・ 学校現場の問題を取り上げて調べたり、アンケートを使い調べたりしたので、現在の状況がよく分かり役に立った。
- ・ 現在の算数・数学教育の問題点・改善策が明らかになったように思う。
- ・ 自分の課題を明確にし、その解決に向けて考え、また、グループで討議し合うことで様々な視点から考えたり、より深く考えたりすることができた。
- ・ 様々な教育の問題を考えることによって、自分の将来組み立てるだろう授業に生かしたり活用したりすることができると思った。
- ・ 現在の数学教育における問題点を発表する機会があった。そのため自主的に多くの文献を読み、資料を集めることができたことは、実践力の育成に役立つと考える。

これらの回答から、受講者は算数・数学の課題探究に強い関心を抱き、教員としての資質や実践力の向上に役立てたことが分かった。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

受講者の主な回答は、次のようであった。

- ・ 自ら課題をもち取り組めた。
- ・ 留学生の国の現状も学ぶことができた。日本の現状と比較することで、それぞれの国の問題について考えることができた。
- ・ 自分で考え、グループで討議したことで、自分の考えが深まってよかった。
- ・ グループでの話し合いが、とても自主的に取り組めて楽しかった。
- ・ もし、次の機会が与えられて、この授業を受講することができたなら、研究というものほどのようになすべきものか、研究方法や評価方法、分析方法等を学びたい。

この授業では、受講者が主体的に活動し自らの考えを発言する場面をできるだけ多く取り入れた。受講者たちは、算数・数学教育現状と課題やその解決方法について議論する中で、他の受講者の考え・意見を聞き、自己の考えを一層練り上げていったようである。そのためか、さらに研究を深める方法を学びたいという要望はあったが、改善してほしい点についての記述はなかった。

回答から、受講者は互いの考えや意見を論議する活動を通じて、算数・数学教育の抱える課題等についての理解を深め、授業に対する充実感を得たものと思われる。

5 本授業の成果と今後の課題について

この授業では、小学校・中学校・高等学校の学校現場における算数科・数学科教育の様々な実践上の課題を探り、それらの課題の生ずる原因を、多様な視点から考察し、教育課題についての認識を深めること及びそれらの課題に対する解決方法を分析・考察することを行った。

受講者は、「考えが深まった」「実践力が向上した」等の感想を述べており、算数・数学教育の課題探究に対する認識を深め、課題についての分析力・考察力を高めたものと思われる。

分析の結果、受講者が活用しやすいテキスト、資料等の提示・配布の方法を工夫する必要があることが判明した。次年度は、この点を改善したい。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評価実施日	平成 19 年 7 月 18 日		
授業科目名	数学科教材開発研究	学期・曜日・時限	前 期 水 曜 日 2 時 限		
授業区分	1. 教職基礎科目 ② 専門科目				
担当教員名	○秋田美代, 齋藤 昇		回答者数	11 名	

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
 [2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入]

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	7	4				
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	4	4	3			
3	授業の内容には一貫性があった。	8	3				
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	9	2				
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	6	5				
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	7	4				
7	授業の進む速さは適切であった。	7	4				
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	7	3	1			
9	受講生に授業への参加（質問，発言，討議など）をよく促した。	6	5				
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	3	3	4			1
11	視聴覚機器の使用は適切であった。	4	4	1			2
12	配布された資料・文献等は，授業内容を理解する上で役に立った。	4	5	1			1
13	受講生に分かりやすく説明した。	8	2	1			
14	教員の声は聞き取りやすかった。	9	2				
15	板書の文字は見やすかった。	9	2				
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	3	2			
17	この授業は，自分自身にとって満足できるものであった。	7	4				

<分 析>

この授業では、算数・数学学習において指導目標を達成するための教材の活用方法・開発方法を概説し、それを基に受講者が学習教材の開発を行った。

この授業に対する評価は、おおむね「4と5」であった。回答から、特に「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」「受講生に分かりやすく説明した」「授業の進む速さは適切であった」こと等の様子がうかがわれた。受講者は、算数・数学の学習教材の開発に興味・関心を高め、理解を深めたようである。

テキスト、参考書、参考文献等に関する項目についての評価がやや低かった。本年度は、テキスト・教材は必要に応じて提示又は配布したが、次年度は、もっと受講者が活用しやすいよう工夫する必要がある。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

受講者の主な回答は、次のようであった。

- ・ よい教材は生徒の理解や数学に対する興味・関心を高めることができるので、この授業が数学の教師にとって必要であると思ったから。
- ・ 数学の指導で活用する教材・教具についての専門的な知識を高めて、自国の教育に役立てることができるようにしたかったから。
- ・ 実践に直結する具体的な内容や理論を身に付けることができるから。
- ・ よい教材の条件やポイントを学びたいと思ったから。
- ・ 教具を作るためにどうしたらいいかを知りたかったから。

これらの回答から、受講者は小・中学校において児童・生徒に分かりやすい算数・数学授業を実践するために、教材のもつ役割が大きいことを認識し、強い関心・意欲をもって学習に取り組もうとしていた様子がうかがわれた。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

受講者の主な回答は、次のようであった。

- ・ 討論や作業を通して実践的な内容で講義が進められ、現場での活用に生かせると考えた。
- ・ 教材作成のヒントがたくさんあった。
- ・ 教材について考えることは、教師の実践力につながるものだと感じた。
- ・ 教材の作成は、授業実践ではとても重要であり、常に考えていかなければいけないものである。それだけに、教材開発は実践力の育成にとっても役立つ内容だと思う。

これらの回答から、受講者は算数・数学の学習教材開発に強い関心を抱き、教員としての資質や実践力の向上に役立てたことが分かった。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点，改善してほしい点を具体的にお書きください。また，この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

受講者の主な回答は，次のようであった。

- ・ よい教材の条件を決定できたことがよかった。私自身で教材開発をして授業で使いたい。
- ・ よい教材の条件を話し合うことで，教材に対する新しい視点を持つことができた。
- ・ いろいろな意見が出て，意見交換し合うことで，新しい考え方にでることができた。
- ・ グループでの開発や研究の際に，グループ内での温度差が感じられ，人任せになっている状況が見られる。

この授業では，受講者が主体的に活動し自らの考えを発言する場面をできるだけ多く取り入れた。受講者たちは，理論や実践方法について議論する中で，他の受講者の考え・意見を聞き，自己の考えを一層練り上げていったようである。回答から，受講者は互いの考えや意見を論議し，学習教材を開発・改善する活動を通じて，学習内容の理解を深め，授業に対する充実感を得たものと思われる。

今後の改善点は，討議やグループ学習等の場面で，受講者に一層主体的・積極的な取り組みを促進することである。

5 本授業の成果と今後の課題について

この授業では，算数・数学学習において指導目標を達成するための教材の活用方法・開発方法を概説し，それを基に受講者が学習教材の開発を行った。

受講者は，今後「教材をよりよいものに改善したい」「教材開発について自分で考えたい」等の感想を述べており，教材開発に対する認識を深め，教材開発能力を高めたものと思われる。

分析の結果，受講者が活用しやすいテキスト，資料等の提示・配布の方法，受講者の主体的・積極的な取り組みを促進する方法を工夫する必要があることが判明した。次年度は，この点を改善したい。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評 価 実 施 日	平成 20 年 2 月 18 日		
授業科目名	数学科教材開発演習	学期・曜日・時限	後 期 月 曜日 2 時限		
授業区分	1. 教育基礎科目 2. 専門科目				
担当教員名	秋田美代, 齋藤 昇	回答者数	7 名		

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
 [2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入]

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	5	2				
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。						
3	授業の内容には一貫性があった。	6	1				
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	7					
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	4	2	1			
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	4	3				
7	授業の進む速さは適切であった。	6	1				
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	5	2				
9	受講生に授業への参加（質問，発言，討議など）をよく促した。	7					
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。						
11	視聴覚機器の使用は適切であった。						
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。	5	1	1			
13	受講生に分かりやすく説明した。	4	3				
14	教員の声は聞き取りやすかった。	6	1				
15	板書の文字は見やすかった。	6	1				
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	3	1			
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	4	3				

<分 析>

この授業では、前期の「数学科教材開発研究」の授業で獲得した、算数・数学学習において児童・生徒の興味・関心を高めたり、学習内容についての理解を深めたりするための教材についての知識を基に、受講者自身が数学学習教材の開発を行い、教材開発力を高めることを目的とした。

この授業に対する評価は、ほとんどの項目で「4または5」であった。回答から、特に「実践力の育成に役立った」「授業への参加をよく促した」「授業の内容に一貫性があった」「授業の進む速さが適当だった」こと等の様子がうかがわれた。

受講者は、算数・数学の学習教材の開発について理解を深め、教育実践力を高めたようである。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

受講者の主な回答は、次のようであった。

- ・ 教材の作り方や教材に対する考えが深まると思った。
- ・ 子どもの理解の助けになると思った。
- ・ よい教材をどのようにして作成するか知りたいと思った。
- ・ 数学概念を教えるための、新しく・興味を引く教材について学びたいと思った。

これらの回答から、受講者は児童・生徒に算数・数学の学習内容をしっかりと理解させるための算数・数学科担当教員としての資質・能力を身に付けるためには、教材開発力が必要であることを認識し、関心・意欲をもって授業に取り組もうとしていた様子がうかがわれた。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

受講者の主な回答は、次のようであった。

- ・ 教材を実際につくって、教材づくりの難しさを改めて実感した。
- ・ 実践に対してのみならず、より大局にたった意見、質問により、現場では得られない勉強をすることができた。
- ・ 自分が取り組んだ内容が、以前から考えていた教材であり、時間をかけて研究できた。また、これを利用し、他の分野にも応用できるもの、利用できる知識が身に付いた。
- ・ 教材は、学ぶこと及び教えることの中で重要な位置を占めている。生徒の関心を高める新しい教材を開発することの大切さを実感した。

これらの回答から、受講者は児童・生徒の算数・数学に対する興味・関心を高めたり、学習内容についての理解を深めたりするための教材の開発に強い関心を抱き、教員としての資質や実践力の向上に役立てたことが分かった。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点，改善してほしい点を具体的にお書きください。また，この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

授業のよかった点については，4名の受講者が「個人で教具を作ることができたので，他の人の教材観などをしることができてよかった」「教具についてあまり考える機会がなかったので良かった」「興味を持って取り組めた」「自分で新しいアイデアを見つけ出せたし，他の人のアイデアを知るチャンスに恵まれた」と回答していた。

授業の改善してほしい点については1名の受講生が「いろいろな教材・教具，また，それらの取り扱いを紹介してほしい」と回答していた。

この授業では，受講者が主体的に活動できるように，数学の授業で使用する教材に対しての考えを発表したり，自ら開発した教材を紹介したりする場面をできるだけ多く取り入れた。受講者たちは，児童・生徒の算数・数学に対する興味・関心を高めたり，学習内容についての理解を深めたりするための教材について議論し，新しい教材を開発する中で，他の受講者の考え・意見を聞き，自己の考えを一層練り上げていったようである。学習教材を開発・改善する活動を通じて，学習内容の理解を深め，授業に対する充実感を得たものと思われる。しかしながら，1つの題材の分析，及び教材開発に多くの時間を使うため，多くの題材を扱うことができなかった。

5 本授業の成果と今後の課題について

この授業では，受講者は，前期の「数学科教材開発研究」の授業で獲得した，算数・数学学習において，児童・生徒の興味・関心を高めたり，学習内容の理解を深めたりするための教材についての知識を基に，教材の開発を行った。

受講者は，今後「新しい教材を開発したい」「この授業で作成した教具や身に付けた知識を他の分野で生かしたい」との感想を述べており，教材開発に対する認識を深め，教材開発能力を高めたものと思われる。

発表・討議を中心として授業を行ったが，受講者は自分が選択した1つの単元の内容については深く研究することができ，他の受講者の他の受講者の教材に対する考え・意見も知ることができた。しかしながら，多くの単元を取り扱うことはできなかった。受講者が，1つの単元を深く研究することによって，そこで培った教材開発力を自分自身で他の単元における教材開発に応用できる力をどのようにして向上させるかが次年度の課題である。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評価実施日	平成 19 年 7 月 9 日		
授業科目名	数理科学研究	学期・曜日・時限	前 期 月 曜日 3 時限		
授業区分	1. 教職基礎科目 ②. 専門科目				
担当教員名	鳥巢 伊知郎	回答者数	11 名		

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
 [2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入]

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	3	1	4	3		
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	3	2	3	3		
3	授業の内容には一貫性があった。	3	2	3	3		
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	1	4	2	4		
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	4	2	1	3	1	
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	4	2	5			
7	授業の進む速さは適切であった。	4	6	1			
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	3	4	3	1		
9	受講生に授業への参加（質問，発言，討議など）をよく促した。	2	2	5	2		
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	4		6	1		
11	視聴覚機器の使用は適切であった。	2	3	5			1
12	配布された資料・文献等は，授業内容を理解する上で役に立った。	4	4	3			
13	受講生に分かりやすく説明した。	2	5	3		1	
14	教員の声は聞き取りやすかった。	4	7				
15	板書の文字は見やすかった。	4	4	2	1		
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	3	4	2		
17	この授業は，自分自身にとって満足できるものであった。	4	1	5	1		

<分 析>

抽象的な数学の考え方が身近なところでどのように浸透しているかという講義内容であった。約半数の受講者にとっては内容が目新しいような反応を示したが、残りの受講者にとって講義内容が十分に興味を引いたかどうかは今後検討を要すると思われる。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

一般的に数理科学という言葉自体への関心を示したものがいた。また、数学の専門性を高めることを期待している受講者もいた。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

講義内容が数学の具体的な題材を扱ったものであったが、実践力の育成に役立つと感じたかどうかの反応は受講者によってまちまちであった。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

「多くの数学的な考え方を学ぶことができた」という意見があった。多くの受講者も程度の差はあるとしても同様の感想を持ったことと思う。

5 本授業の成果と今後の課題について

日頃接することが少ないと思われる数学の具体的題材を受講者に多く示すことができた。今後は題材を更に吟味しながら数を増やす方向で講義内容を検討していく。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評 価 実 施 日	平成 19 年 7 月 31 日		
授業科目名	有機化学特論	学期・曜日・時限	前 期 火 曜 日 3 時 限		
授業区分	1. 教職基礎科目 2. 専門科目 (○)				
担当教員名	今倉 康宏	回答者数	5 名		

1 アンケート [1] の集計と分析について

〔 5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない 〕
〔 2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入 〕

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	3	1	1			
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	3	1	1			
3	授業の内容には一貫性があった。	4		1			
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	3		2			
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	1	2	1	1		
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	4		1			
7	授業の進む速さは適切であった。	2	2	1			
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	2	3				
9	受講生に授業への参加（質問，発言，討議など）をよく促した。	3	1	1			
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	1	1	3			
11	視聴覚機器の使用は適切であった。	4		1			
12	配布された資料・文献等は，授業内容を理解する上で役に立った。	3	1	1			
13	受講生に分かりやすく説明した。	3	1	1			
14	教員の声は聞き取りやすかった。	5					
15	板書の文字は見やすかった。	3	1	1			
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	2	1			
17	この授業は，自分自身にとって満足できるものであった。	3	1	1			

<分 析>

平均すると5人中，5の評価は3人，4の評価1人，3の評価は1人であった。

80%の院生が4以上の評価をしていることになる。

10) の教科書や参考書の使い方は適切であった。の項目が3の評価が3人いたがこれは，自前の資料を使用したことに起因していると思われる。

5人中，一人の院生が，本授業の内容にほとんど3の評価をしている。受講生が少ないのであるから，もう少し気配りをする必要があったと反省している。（ただし，本院生は，休む回数が多く，そのことも起因しているかもしれない。）

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

○有機化学の専門性と環境化学への応用力を身につけることを希望しており、授業内容もそれに答えように構成したつもりである。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

- 5の評価をした院生は、専門的な内容と教材開発がリンクされており、すぐに学校現場で役に立つ知識、考え方、教材の作成方法などを学ぶことができたと述べている。
- 3の評価をした院生は、内容がハイレベルと感じており、即実践にいかせられないと述べている。一方、教師としてのバックボーンが身に付いたとも感想を述べている。

「非常に難しい問題である。できればもう少し院生さんも内容を理解する努力をして頂きたいものである。理解できない場合は、授業中に質問などを積極的にして頂きたいと思う。」

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点，改善してほしい点を具体的にお書きください。また，この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

良かった点：

- 現場に行かせる内容であった。また，最新の分析機器を紹介してもらったこと
- NMR，I R，簡易比色計など具体的な装置，教材に触れながら体験的に学べた。

改善してほしい点：

- 講義中，最近の有機化学のトピックス，参考図書などをもっと紹介してほしい。
- 実践で活用できるような実験をもっと増やしてほしい。（この要望は，本特論の趣旨からして希望に答えるのは困難である。化学特別実験 I I で実施している）

5 本授業の成果と今後の課題について

授業の成果：

- 概ね授業のねらいは達成したと思われる。
- 簡易比色計の作成を通して教材を開発する際の考え方，実践方法等を取り入れた授業は評価が高く，さらに改良しながら発展させるつもりである。

今後の課題：

- 要望のあった講義中，最近の有機化学のトピックス，参考図書などをもっと紹介する予定である。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評価実施日	平成 19 年 9 月 10 日			
授業科目名	分子生物学特論	学期・曜日・時限	前 期 月 曜日 1 時限			
授業区分	1. 教職基礎科目 ②. 専門科目					
担当教員名	清水宏次	回答者数	1 名			

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う ④ かなりそう思う 3 どちらともいえない]
 [2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入]

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。		1				
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	1					
3	授業の内容には一貫性があった。	1					
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。		1				
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	1					
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	1					
7	授業の進む速さは適切であった。	1					
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	1					
9	受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。	1					
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	1					
11	視聴覚機器の使用は適切であった。		1				
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。	1					
13	受講生に分かりやすく説明した。	1					
14	教員の声は聞き取りやすかった。	1					
15	板書の文字は見やすかった。	1					
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1					
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	1					

<分 析>1名の受講者からはアンケート結果は事実上得られない。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分析>最新の分子生物学の理解が少しでもあれば日常生活および学校生活でどれほど役立つかをさぐる態度が受講者に見られるのはよい。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分析>最新の理解するのが困難な問題を理解できるようになれば当然これ以下の問題解決には容易に取り組める筈で、子どもたちの素直で回答困難な質問にも誠意をもってあたることが可能となる。つまり実践力がつく筈である。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点，改善してほしい点を具体的にお書きください。また，この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析> 受講者の基礎学力を適切にとらえることが重要で、これに基づいて分かりやすく最新の情報を身につくように説明することが教授する者の役目である。

5 本授業の成果と今後の課題について

あくまで基礎学力を身につけておくことと、最新の情報から目をそらさないように理解する努力を怠らないことである。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

	評 価 実 施 日	平成 20年 1月 20日
授業科目名	電磁気学特論	学期・曜日・時限 後期 火曜日 3時限
授業区分	1. 教職基礎科目 2. ○専門科目	
担当教員名	松川 徳雄	回答者数 2名

1 アンケート [1] の集計と分析について

〔 5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない 〕
〔 2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入 〕

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	2					
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	2					
3	授業の内容には一貫性があった。	1					
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	2					
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	2					
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	2					
7	授業の進む速さは適切であった。	2					
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	2					
9	受講生に授業への参加（質問，発言，討議など）をよく促した。	2					
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	2					
11	視聴覚機器の使用は適切であった。	2					
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。	2					
13	受講生に分かりやすく説明した。	2					
14	教員の声は聞き取りやすかった。	2					
15	板書の文字は見やすかった。	2					
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2					
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	2					

<分 析>

留学生向けの講義を想定していたが、留学生と日本人受講者で同時授業内容展開に自信を持てるものでなかった。

幸い兩人とも化学を専攻しており、化学の背後にある物理学的内容に興味を持っている事が分かり、授業を進めるにはあまり苦労しないですんだ。

日本人院生に英語授業はできるかとも危ぶんだが、教師が典型的ジャパングリッシュであったためか二人とも理解はできたようである。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

一人は理科教育の中の物理的知識を深ることを求めており、さらに兩人とも化学を専門としていた経験があり化学にあらわれる物理学的知識に関心をしめしていた。講義では同じような内容を、物理ではどう考えるかに重点をおいた内容にした。一方では、その分一貫性が失われた面はある。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

一人は当初から理科教師としての実践力向上を目的としており、もう一人は化学技術者であったが理科教師になる道を進むという目的がはっきりしていたので、受講者の期待に添えた講義ができたと思う。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

留学生へのサービスとして英語授業としたが、実際は教育論に関しては苦し紛れの表現が多くなり、教育実践まで水準を上げたとは言い難い。

留学生教育ではきわめて少数のゼミナール形式では質疑応答が増え、議論の発展が可能となるが、多人数を対象とした講義となると相当な負担になると思われる。

国際教育を目指すなら、理科教育分野に一人くらいは専任外人教師（または講師）をおくことを考えてはどうか。

5 本授業の成果と今後の課題について

留学生と日本人受講生の同時授業を初めて体験した。

本年度は同じ専攻分野での経験を持ち、同様な関心をもつ熱心な学生だけで授業を完遂できたが、専門分野や異なった関心をもった混成クラスでは安定した授業を展開する事は期待しがたいと思う。

留学生の日本語レベル向上か、または教員側の英語教育経験が相当に必要とされる。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評価実施日	平成 19 年 7 月 13 日
授業科目名	無機化学特論	学期・曜日・時限	前期 金曜日 3 時限
授業区分	1. 教職基礎科目 2. 専門科目		
担当教員名	打田 陽夫	回答者数	4 名

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
 [2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入]

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	2		2			
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	2	2				
3	授業の内容には一貫性があった。	1	1	2			
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	1	3				
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	1	1	2			
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	2	2				
7	授業の進む速さは適切であった。	2	2				
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	2	2				
9	受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。	1	1	2			
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	1	3				
11	視聴覚機器の使用は適切であった。	2	1	1			
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。	3	1				
13	受講生に分かりやすく説明した。	3	1				
14	教員の声は聞き取りやすかった。	2	1	1			
15	板書の文字は見やすかった。	1	3				
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	3				
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	2	2				

<分 析> 受講生の4名からの評価は、授業に対する評価は
 個別的的印象が強い。受講生の評価は、1, 3, 5, 9 が2名、
 番号11と14が1名いた。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分析>

もう少し専門性のレベルをあげてほしい、内容は
无机化学と関連した環境問題の存在とある
希望をもたれる。

5 本授業の成果と今後の課題について

もう少し、双方向の授業形態をとってほしい
と思われ。
おおむね満足である。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分析> 学部からの進級学生は、ハイレベルな講義を望み、
現職の教員は、授業に役立つような話題の
提供を希望していた様子。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分析>
ある程度、教員の実践力の育成に役立つ内容の
授業を希望している様子。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

	評価実施日	平成 19 年 7 月 26 日		
授業科目名	地球科学特論 I	学期・曜日・時限	前期	木曜日 5時限
授業区分	1. 教職基礎科目 v2. 専門科目			
担当教員名	○村田 守, 香西 武, 西村 宏		回答者数	9名

1. アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
 [2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入]

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	9					
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	7		2			
3	授業の内容には一貫性があった。	8	1				
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	8	1				
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	5	1	2			
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	8	1				
7	授業の進む速さは適切であった。	9					
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	9					
9	受講生に授業への参加（質問，発言，討議など）をよく促した。	5	2	2			
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	5	2	2			
11	視聴覚機器の使用は適切であった。	8	1				
12	配布された資料・文献等は，授業内容を理解する上で役に立った。	8	1				
13	受講生に分かりやすく説明した。	8	1				
14	教員の声は聞き取りやすかった。	7	1	1			
15	板書の文字は見やすかった。	6	2	1			
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	3				
17	この授業は，自分自身にとって満足できるものであった。	9					

<分 析>

大学院生（含現職教員）にもノートがとれない者がいるので、極力図の配布やパワーポイントでの説明を止め、図を板書すること、内容もできるだけ板書することで、受講生に図と説明が一体化したノートができるように努めた。彼等のノートは、今後の教育現場の授業に際し、良い参考書となるであろう。

9名が熱心に受講してくれたので、講義内容は深く・広くなり、説明の説明が必要になるなど時間的に余裕がなく、残念であった。講義時間が5減ということもあり、講義後も数多くの質問を受け、できるだけ詳しく説明した。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

- 地学の一般的な教養を得るため。
- 地震がきた時にどうするか。
- 地震についての知識を再確認し、学校現場で防災教育が実践できるようにしたいと思い受講しました。
- 地震について詳しく知りたい。
- 学校現場で子ども達を守るために必要なことを科学的に理解したいと思った。
- 実生活や教育につなげていこうと考え受講しました。
- 地学の基礎知識を学ぶために受講した。
- 地震というのは、日本に住んでいる限り避けることのできない災害なので、詳しく勉強し、知識を身に付けたいと思い、受講しました。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

- 地震が起こった際に如何に子どもを守るか。また、どのように防災を行えば良いのか具体的に分かったから。
- 学校で地震がきたらどうするかについて役だった。
- 具体的な内容を示しながら、説明していただいたので。
- 学校で授業をしている時に地震がきたとしても、あわてずに対応することができるから。
- 防災教育は、普通の教員養成プログラム（必修）では学ぶことができない。しかし、本授業では、学校現場で教師がすべきことや知っておくべきことを学ぶことができると感じた。
- 災害についてなど、避難訓練などで教えるべきことがまだまだあると気付いた。
- 地震が起きたときにどう避難すればよいか。2次災害などの説明、地震のメカニズムなど現場に出たときに役に立つ内容だった。
- 防災教育については、すぐにでも行うことのできる内容であった。
- 学校にいる時間に地震が来た場合、子ども達をどう誘導するかや、防災教育について勉強できたから。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点，改善してほしい点を具体的にお書きください。また，この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

- 授業の内容の全てが良かった。
- 難しい内容をわかりやすく説明していただいた点が良かったです。
- 地震について詳しく知ることができ，よかったと思う。また，その対策についても学ぶことができた。
- 野外実習（フィールドワーク）を取り入れたら，もっとよいと思った。
- 使った図を，配布していただくと，復習時に活用できる。2年間で重なっている内容が少しあったので，異なる資料や説明もあるとより広がりをもてたが，2回聴いて確実に理解できたので，私にとってはよかった。

5 本授業の成果と今後の課題について

理科コースの現職教員，他コースの現職教員，理科コースの院生，他コースの院生，長期履修院生と，その経歴も多様な受講生に最大公約数的な講義を行った。アンケートの自由表記欄3項目全て白紙という結果がなく，全員が各項目に真面目に答えてくれたことから分かるように，彼等の満足度が高かったことが伺える。今後も，この講義方式でやっていきたい。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評 価 実 施 日	平成 19 年 7 月 27 日		
授業科目名	エネルギー・物質と環境特論	学期・曜日・時限	前 期	金 曜 日	1 時 限
授業区分	1. 教職基礎科目 2. 専門科目				
担当教員名	理科教育講座 栗田 高明		回答者数	1 名	

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
 [2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入]

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。		1				
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。		1				
3	授業の内容には一貫性があった。		1				
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。		1				
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。		1				
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	1					
7	授業の進む速さは適切であった。	1					
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	1					
9	受講生に授業への参加（質問，発言，討議など）をよく促した。		1				
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。		1				
11	視聴覚機器の使用は適切であった。		1				
12	配布された資料・文献等は，授業内容を理解する上で役に立った。		1				
13	受講生に分かりやすく説明した。		1				
14	教員の声は聞き取りやすかった。		1				
15	板書の文字は見やすかった。		1				
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。			1			
17	この授業は，自分自身にとって満足できるものであった。		1				

<分 析>

受講者1名であったので、ゼミ形式をやめて、講義と数回、教科書の章を決めてレジメを作り発表してもらった。完全にマンツーマンであったので、比較的幅広い分野に関して時間をかけて、フォローできたと考えられる。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

「環境問題を具体的に知識として得たかった。」という回答であった。

環境問題をエネルギーの観点から議論したので、一定の理解は得られたと考えられる。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

「紹介された（エネルギー等に関する）仕組みは中学校でも使えそう。」という回答であった。

中学校での副読本を内容に取り入れたので、そのような評価になったと考えられる。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点，改善してほしい点を具体的にお書きください。また，この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

「気楽に参加できた。」との回答であった。

受講生の人数の関係で，完全にマンツーマンの講義であったので，講義の進み具合や質問など気楽にできたのであろう。

5 本授業の成果と今後の課題について

来年度のカリキュラム改正でこの授業自体どのようなようになるか分からないが，本年同様のシラバスの方法で進めていきたいと思う。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評 価 実 施 日	平成	年	月	日
授業科目名	教育課題探究（理科）	学期・曜日・時限	前期	金曜日	5時限	
授業区分	①. 教職基礎科目 ②. 専門科目					
担当教員名	香西武, 佐藤勝幸, 本田亮, 武田清	回答者数	9 名			

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5. まったくそう思う 4. かなりそう思う 3. どちらともいえない]
 [2. あまりそう思わない 1. まったくそう思わない 無 未記入]

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	4	5				
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	2	5	2			
3	授業の内容には一貫性があった。	5	3	1			
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	6	3				
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	5	3	1			
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	5	2	2			
7	授業の進む速さは適切であった。	4	2	1	2		
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	4	3	2			
9	受講生に授業への参加（質問，発言，討議など）をよく促した。	4	4	1			
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	2	3	4			
11	視聴覚機器の使用は適切であった。	6	1	2			
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。	5	2	2			
13	受講生に分かりやすく説明した。	5	3	1			
14	教員の声は聞き取りやすかった。	6	2	1			
15	板書の文字は見やすかった。	2	4	3			
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	4				
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	6	1	2			

授業については、概ね満足のいくものであったようであるが、問題点としては、時間の確保があげられている。実験を伴うため、金曜日5限だけでは研究ができないために、授業の多い学生にとっては、授業の調整が難しかったようだ。今後、シラバスにそのことを明記しておく必要がある。板書の文字が見やすいとは思わなかったというコメントもあったが、小学校から高等学校、外国の例と幅広い内容であったために、難しい点があったのではないかと思う。外国人留学生の評価は大変良かった。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

それぞれの受講生がそれぞれの目的、例えば「自分のやりたい実験をおこないたいから」、「日常の教育実践での悩みの解決」、「教材開発」など全員が目的を持って、受講ができていた。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

「意見を交換した」、「受講生同士が研究した内容を発表することで自分の分野以外にも深く知ることができた」など、グループで開発した実験、研究した内容について意見交換をすることで受講生自身が様々なことが学べたようである。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点，改善してほしい点を具体的にお書きください。また，この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

受講生の交流が盛んだったところが非常に良かったようである。時間設定が難しく，担当教員との連絡調整が今後の課題である。

5 本授業の成果と今後の課題について

理科講座にある人的・機器的資材は全て使って良いという発想の元に展開している授業である。授業の形式は，一人一人の問題を，個人またはグループで解決することをメインにして，最初の問題提起と成果発表を全体討議でおこなうという形式をとっている。そのために，受講生同士の議論も活発になっているようだ。反面，金5限だけでは実験ができず，他の時間を使う必要があるため，グループ内での足並みがそろわない結果も生じているようである。授業科目の多い学生にとっては，致し方ないことで，今後どのような配慮をするかについて考えておく必要もあろう。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評価実施日	平成 19 年 7 月 26 日		
授業科目名	進化生物学特論	学期・曜日・時限	前期	木曜日	2時限
授業区分	1. 教職基礎科目 (2) 専門科目				
担当教員名	工藤慎一	回答者数	3名		

1 アンケート [1] の集計と分析について

[
5 まったくそう思う
4 かなりそう思う
3 どちらともいえない
]
2 あまりそう思わない
1 まったくそう思わない
無 未記入

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	2	1				
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	3					
3	授業の内容には一貫性があった。	3					
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	2	1				
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	2	1				
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	3					
7	授業の進む速さは適切であった。	2	1				
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	1	2				
9	受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。	2	1				
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	-	-	-	-	-	-
11	視聴覚機器の使用は適切であった。	1	2				
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。	2	1				
13	受講生に分かりやすく説明した。	3					
14	教員の声は聞き取りやすかった。	1	2				
15	板書の文字は見やすかった。	2	1				
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3					
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	3					

<分 析>

わずか3名の受講者で評点の分析・評価は困難である。授業内容や方法に大きな不満はなかったようである。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

「学問内容自体への興味」が受講の主な動機だったようである。授業概要で内容は確認済みだろうから、当然、その範囲内で各人期待することは多様であろう

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

「学問を深め伝える上で教師に必要なものを学ぶことができた」という内容のコメントが複数あった。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

「充実した授業だった」、「英語による説明で理解が容易だった（留学生）」というコメントがあった。一方、「もう少しゆっくりと話してほしい」という要望もあった。

5 本授業の成果と今後の課題について

講義内容や方法に大きな問題は無いと判断している。理解の程度は受講生各人異なるだろうが、（進化生物学の基礎知識習得に加えて）素朴な一般知識を鵜呑みにする危険性、物事を論理的に考え真偽を判断することの重要性に気づいてもらえれば、この講義の目的は達せられたと考えている。

本年度は留学生と日本人院生が受講したため、留学生向けに別途時間を割いて二重に授業を行わざるを得ない状況となった。これは、本学大学院システム上の重大な問題であり、早急な改善が必要である。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評価実施日	平成 20 年 2 月 15 日		
授業科目名	物理化学特論	学期・曜日・時限	後 期 金 曜 日 3 時 限		
授業区分	1. 教職基礎科目 2. 専門科目				
担当教員名	武田 清	回答者数	4 名		

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
 [2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入]

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	3	1				
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	3	1				
3	授業の内容には一貫性があった。	4					
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	2	1	1			
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	3	1				
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	4					
7	授業の進む速さは適切であった。	4					
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	4					
9	受講生に授業への参加（質問，発言，討議など）をよく促した。	4					
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	3	1				
11	視聴覚機器の使用は適切であった。	3		1			
12	配布された資料・文献等は，授業内容を理解する上で役に立った。	3	1				
13	受講生に分かりやすく説明した。	3	1				
14	教員の声は聞き取りやすかった。	4					
15	板書の文字は見やすかった。	4					
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	2				
17	この授業は，自分自身にとって満足できるものであった。	3	1				

<分 析>

少人数なので、特に分析するようなものではないが、問4は、理科の専門科目であったため、実践力（をどのようにとらえるかによるが）育成に役立つはずがないものと考えている。この授業で得た知識は、より深い物質理解への入り口でしかない。授業終了後・大学院修了後・現場に出て教壇に立った際、受講者のさらなる努力によって血となり肉となっていくものである。その時には実践力と結びついた実力となっているであろう。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

本科目は専門科目のため、受講者は物理化学としての内容に興味を持って受講している。昨今の環境への興味の高まりの中、授業内容に環境に関する内容をふくめたため、そこに興味を持つものもいた。受講者が少ないにもかかわらず、例年受講者のレベルの幅は大変広く、授業内容の設定に苦慮している。あまり高度な内容に走らないように注意しているが、むしろその結果「本当の意味で」全員に満足してもらえるような内容を提供できているかどうかは疑問が残っている。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

そもそもこの設問は本科目において意味をなしていないと考えている。回答には、本講義で取り扱った内容が、高等学校の内容とつながりがあるということで本質問において高評価しているものもあれば、そもそも質問中の“実践力”ということの意味を問う回答もあった。ひよっとすると回答者としては、この質問に対していかにして高評価を出すか、ということに苦慮してくれた結果そのような回答をしているのかもしれない。ただし、大学院の専門科目を担当しているつもりとしては、高等学校の内容との関わりについて評価されるのは実は心外である。内容及びそのレベルの見直しの必要性を感じる。また、実践力の定義については、議論し始めるときりがないが、質問を作った方たちはどのようにお考えなのか聞きたいところでもある。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

授業の最後に、各受講者に物理化学の関連するほんの一部をそれぞれ割り当て、その内容を説明してもらった。その内容をもう少しよく説明してもらえれば、より勉強になったという回答があった。実際、担当者によりその発表のレベルはバラバラで、内容を十分に説明できていたとはいえなものもあった。私としては、成績をその発表内容を元に付けることを目的としていたので、内容の出来不出来は、各発表者の成績に反映するものと考えていたが、あまり発表に差があると、その他の受講者のためにならないことは考えられる。この点、考え直すべき事があるかもしれない。

また、本授業は、同内容を英語と日本語を織り交ぜた形での実施した。英語での化学の授業は、授業者の英語レベルの問題もあって、簡単な文章で話すことしかできないため、返って日本人にも理解しやすい英語になっていたようである。この点は、英語コミュニケーション能力の育成には、(十分とはいえなくても)むしろベターに働いていたかもしれない。

5 本授業の成果と今後の課題について

授業の成果は、将来各受講者がここで学んだことをいかにして生かすことができるかにかかっている。その意味で、現段階で成果云々を述べることは無意味である。授業方法・内容の設定に関して、毎回、受講者の顔ぶれと習熟度を勘案して内容を変えているという現実から、シラバスの記述方法を変更することが必要であるとの結論に達した。シラバスを公開し、それに従って授業を進めていては、本学のような大学院生の実情にあった授業を行うのは全く困難である。特に本学の大学院では、工学部の学部教育にあるJABEEのような強い縛りを伴うカリキュラムを実施する必要があるわけではない。このような教育機関で、厳密なシラバスを用意することに意味があるとは思えない。今後、シラバスの記述方法を検討する。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評 価 実 施 日	平成 19 年 7 月 25 日
授業科目名	物性物理学特論	学期・曜日・時限	前期・水曜日・1時限
授業区分	1. 教職基礎科目 2 . 専門科目		
担当教員名	本 田 亮	回答者数	7 名

1 アンケート [1] の集計と分析について

[
5 まったくそう思う
4 かなりそう思う
3 どちらともいえない
]
2 あまりそう思わない
1 まったくそう思わない
無 未記入

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	2	5				
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	3	4				
3	授業の内容には一貫性があった。	5	2				
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	2	3	2			
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	5	1	1			
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	4	3				
7	授業の進む速さは適切であった。	3	4				
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	6	1				
9	受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。	1	3	3			
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	4	3				
11	視聴覚機器の使用は適切であった。						
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。	3	3	1			
13	受講生に分かりやすく説明した。	6	1				
14	教員の声は聞き取りやすかった。	7					
15	板書の文字は見やすかった。	2	4	1			
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	2	3			
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	2	3	2			

<分 析>

受講生が少ないという利点をいかして、受講生の様子をうかがいながら授業を行なった。毎年のことであるが、アンケート[2]-[4]に対する回答内容が乏しいため、どの項目についても詳細な分析は不可能である。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

授業に対する問題意識や期待の程度は受講者によって異なるものなので、そのことに関して細かいコメントすることは意味をなさない。ただし、「物理に対する理解度を向上させたい」という願いを全員が持っていたことは喜ばしいことである。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

受講担当者は、質問事項にある「教師の実践力」とは具体的に何を意味してこのアンケートが作成されたかを理解していないので、分析は不可能である。学校教育において教師が授業を行うにあたって最も重要なことは、その教科内容を深く理解していることであるという観点からすれば、学問内容に関する授業を大学院で開講されることは大切なことである。受講者はこの点を理解していた。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

前述内容とは異なる記述をしたものはないので、特にコメントすることはない。

5 本授業の成果と今後の課題について

過去に記載した内容と同じで、受講生の物理の既得情報を考慮し、授業内容を柔軟に変えてきた。今後も同様な方法をとる。

第4部

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評 価 実 施 日	平成 19年 10月 29日
授業科目名	音楽劇総合演習	学期・曜日・時限	前期 火曜日 5時限
授業区分	1. 教職基礎科目 ②. 専門科目		
担当教員名	草下 實	回答者数	15名

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
 [2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入]

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	8	6	1			
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	7	5	3			
3	授業の内容には一貫性があった。	10	3	2			
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	10	3	2			
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	3	3	8	1		
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	10	4	1			
7	授業の進む速さは適切であった。	7	5	3			
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	6	5	4			
9	受講生に授業への参加（質問，発言，討議など）をよく促した。	9	5	1			
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	7	2	5			
11	視聴覚機器の使用は適切であった。	10	4	1			
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。	10	4	1			
13	受講生に分かりやすく説明した。	10	3	2			
14	教員の声は聞き取りやすかった。	13	2				
15	板書の文字は見やすかった。	4	3	6			
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	11	3	1			
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	9	5	1			

<分 析>授業評価は概ね良い評価を得られている。しかしながら、5の設問「授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。」については、3「どちらともいえない」が多く、授業開始時のガイダンスでシラバスに示した成績評価の方法を説明したが、当該授業の特質、授業への積極的な態度や発表までのプロセスを総括的に評価する方法が良く理解されていなかったと考えられる。次年度では、成績評価の方法をより具体的な観点からの評価をするようにシラバス上にて改善する。また、板書の文字が見にくいようである。この点については板書は丁寧に書くよう心がけたい。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

記述された意見は、音楽劇を通して学校教育に役立たせること、また、個々の表現力を高めることの二点に集約されていることから、当該授業の目的を良く理解した上で履修していることがわかる。以下に学生からの意見を抜粋して掲載する。

- ミュージカルが好きだったので、専門的なことを学びたいと思った。
- 演じることを学ぶ。恥ずかしさを克服する。
- 少しでも表現の巾を広げようと思った。自身をもって演じること。
- 小学校で音楽劇を指導できるように、技術と理論を学ぶ。
- 表現力をつけること。また、仲間同士が協力することを知ること。
- 音楽劇を作り上げていくということだったので期待して受講した。期待通りでした。
- 学校の学習発表会などで役立つと思い受講した。
- 表現を通して子どもを育てるため。
- 幼稚園の授業に役立つ。声の出し方や顔の表情などのテクニックを学ぶこと。
- 演じることを自ら学ぶことで授業や課題学習にどのように生かせるかを探究するため。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

履修者の意見（抜粋）を以下に掲げる

- 表現活動を学べた。
- 相手に合わせたりといった協調を学び、また、声の出し方や表情の作り方など教師の実践力にすぐ役立つ。
- こどもたちが自分を表現する方法として用いることができる。
- 小学校の教師をする上で、子どもの学習発表会や演劇指導をする上で役立つと思った。
- ミュージカルの台本、曲のCD、楽譜が全て役に立つと思った。また、演出も大変勉強になった。
- 指導していた人には力がつくし、演じているものはそれを知った上で練習できれば実践力につながる。
- 授業の中での実践力につながった。また、生徒の表現活動の指導にも役立つと思います。
- 演技・発声・討論等、様々なことが学べた。発表に至る準備（プロセス）のあり方。
- 同じ目的をもった院生や教育に携わった現職教員の方々が仲間となって、互いに刺激しあい、励ましあえたことで、最も印象深い経験の一つとなった。先生や仲間から学んだこと、経験したことが信頼へと、さらに指導力へとつながると思う。
- 現場（小学校）では、芝居、ミュージカルの発表が多く、その稽古の参考になりました。

履修者からの意見から、音楽劇を作り上げる過程で学んだ多くの体験が学校教育における授業実践に大いに役立っていることがわかる。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

履修者からの意見（抜粋）を以下に掲げる

- みんなで一つになって「ピーターパンの冒険物語」ができたことが良かった。
- 音楽コースや音楽経験者から音楽について学び、踊りや演技が特異な人からはそれらを学び、各自の特性や良さを発見、認め合う授業であり、素晴らしかった。
- ピアノ以外の楽器を取り入れたかった（時間的に無理でしょうが）。
- 個人で練習する意欲をもっている人が受講するようにシラバスに書いておいてもいいのではないのでしょうか。
- （発表会に）たくさんの人が見に来てくれてよかった。子どもが少なかったのもっと宣伝するといい。
- シナリオを受講者の創意工夫で練ることができれば、もう少しオリジナリティのある作品ができるのではないかと思います。
- 練習の期間が短かったので、もっと練習する時間があればと思いました。

履修者から多様な意見があるが、それらの意見を反映できる授業にしたいものである。15回というコマの制約の中で発表までに至る本授業はこうした熱心な履修生の努力に支えられていることを実感する。

5 本授業の成果と今後の課題について

本授業を通して学ばれた内容が学校教育や社会において大いに役立てていただきたいと思う。毎年、履修者の個性がこの授業の展開を意味づける。受講生各自がもつ能力を出すことで一つの音楽劇作品をみつめ、強調し、協力して創りあげるプロセスこそ授業の目的でもあり、得られる成果でもある。

本授業の今後の課題は履修者の授業に対する期待を可能な限り、早い時期に把握するために授業開始時にアンケート調査を実施し、本授業の目的に沿って、それらの期待に応えられるような授業展開に心がけるとともに、学習の達成感を重視したい。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評価実施日	平成 19年 7月 24日		
授業科目名	声乐発声法	学期・曜日・時限	前期 火曜日 3時限		
授業区分	1. 教職基礎科目 (2) 専門科目				
担当教員名	頃安 利秀	回答者数	19名		

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
 [2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入]

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	18	1	0	0	0	0
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	15	4	0	0	0	0
3	授業の内容には一貫性があった。	18	1	0	0	0	0
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	19	0	0	0	0	0
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	15	3	0	0	0	1
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	19	0	0	0	0	0
7	授業の進む速さは適切であった。	15	4	0	0	0	0
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	18	0	1	0	0	0
9	受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。	15	2	1	0	0	1
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	13	4	2	0	0	0
11	視聴覚機器の使用は適切であった。	13	4	2	0	0	0
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。	18	1	0	0	0	0
13	受講生に分かりやすく説明した。	19	0	0	0	0	0
14	教員の声は聞き取りやすかった。	19	0	0	0	0	0
15	プレゼンテーションは見やすかった。	19	0	0	0	0	0
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	18	1	0	0	0	0
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	18	0	1	0	0	0

<分 析>

全体の平均ポイントは4.88であり、昨年の4.68を上回った。中でも授業の内容について「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」が全員評価5で、さらに授業の進め方については「授業をよく準備し、熱心に教えた。」「受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。」「受講生に分かりやすく説明した。」「教員の声は聞き取りやすかった。」「プレゼンテーションは見やすかった。」といずれも全員から評価5をもらったことは、授業者として満足のいく結果が出たと考えている。

今後の改善点としては、参考書等の紹介や視聴覚機器の更なる活用が必要であろう。しかし授業をすすめる速さについては、実技のこともあり全員に適切な速さで教えることは難しい。成績の評価の方法については、もっと詳しく説明する必要があるように思う。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

多くの受講生が、まず自分自身が自然で無理のない声で歌えるようになることを目的として受講している。その上で、それを子どもたちに教えることができる実践力を身に付けることが目的になっている。それ以外には音楽や歌うことに興味があり、教養として声楽を学びたい学生もいた。またヴォイストレーニングとか「こんにやく体操」ということに興味を持って受講した学生も数人いた。

全体的にはシラバスに書いてある内容どおりのことを期待して受講していたように思う。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

アンケートの4「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」については、全員が評価5を付けており、授業内容もそれに則したものであったように思う。意見の中では、「こんにやく体操や発声練習のさせ方などが子どもたちにもそのまま使える。」「具体的で現場で役に立つ。」「言葉をイメージにして体感できるように授業が進められ理解しやすかった。」が多くあった。また「子どもたちにも分かりやすい発想や論理を提示しながら、確かな理論と実践に基づいた丁寧な指導であった。」というような感想も得られた。理論に偏ることなく、頭で理解したことをからだで実感することを目標に授業を進めてきた結果が現れたように思う。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点，改善してほしい点を具体的にお書きください。また，この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

特に改善点の指摘はなかったので，受講生の意見と感想をそのまま書いておく。「単位関係なくでもとりたい。」「歌に始まり歌に終わるのが良かった。個人レッスン形式も良かった。」「最後の発表会が良かったが，これほど緊張する授業は他にない。」「個人レッスンは力に応じた指導をしてもらえた。」「科学的に解説されたので腑に落ちた。すべてよかった。」「前半は発声について後半はからだを使った実技でよく考えられていた。」「前半に講義が多く後半が実技ばかりだったのでもう少しバランスを取ってほしかった。」「手取り足取りのレッスンをしてもらえてよかった。」「半年間という短い時間であったので残念。1年あれば何とか発声法を身に付けられたのでは。」「個人レッスンがあり全体の授業ではわからないことが分かった。」「あまり知らない人たちと授業を受け恥ずかしかったが，楽しい授業内容で最後は楽しく歌えた。」「もう少しみんなで合唱がしたかった。」「野口体操，地球からのエネルギーなど今まで考えたこともないようなことが学べてよかった。」「からだが軽く声も出やすくなった。」「自分の内部を探るといふ主張は勇気がいり，それを貫徹された先生の考えに出会えてよかった。」「声を出すこと歌うことが楽しくなった。みんなで歌って素敵な歌声が教室に響いたときには感動した。」「音楽の素晴らしさに出会えた。」等々。

5 本授業の成果と今後の課題について

昨年以上の良い結果が出ており満足している。内容的にも昨年よりさらに分かりやすくなっていると思う。自然で無理のない声の出し方に対する理解が深まり，さらに自分のからだでそれを実感できるようになることがこの授業の目標である。そのためにはまず授業者である私自身が，つねに頭とからだを使って学んで行く必要がある。そのことが，内容的にも指導上でも，生きた知識として受講生に伝わる要因となっているように感じた。

今後の課題としては，評価の問題がある。受講開始時点における各学生の音楽的な能力に開きがあり，音楽の技術面だけで評価することはできない。これまでは出席点，レポートを中心に評価してきた。今後もっと技術面でも公平に評価できるような方法も考えていく必要があるように思う。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評 価 実 施 日	平成 19年 7 月 27 日		
授業科目名	楽曲分析研究	学期・曜日・時限	前期	金曜日	4 時限
授業区分	2. 専門科目				
担当教員名	松岡 貴史	回答者数	12 名		

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
 [2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入]

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	7	4	1	0	0	0
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	10	1	1	0	0	0
3	授業の内容には一貫性があった。	10	0	2	0	0	0
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	7	4	0	1	0	0
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	7	4	1	0	0	0
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	11	1	0	0	0	0
7	授業の進む速さは適切であった。	6	4	2	0	0	0
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	7	4	0	1	0	0
9	受講生に授業への参加（質問，発言，討議など）をよく促した。	9	3	0	0	0	0
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	0	0	0	0	0	11
11	視聴覚機器の使用は適切であった。	9	3	0	0	0	0
12	配布された資料・文献等は，授業内容を理解する上で役に立った。	10	1	1	0	0	0
13	受講生に分かりやすく説明した。	8	3	1	0	0	0
14	教員の声は聞き取りやすかった。	10	2	0	0	0	0
15	板書の文字は見やすかった。	8	4	0	0	0	0
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	9	3	0	0	0	0
17	この授業は，自分自身にとって満足できるものであった。	10	1	1	0	0	0

<分 析>

受講者14名（音楽コース以外の受講者5名）のうち2名が当日欠席し，12名の回答を得た。概ね良好な結果が出ている。授業者・受講者とも熱心に取り組み，授業は盛り上がりのある展開となった。

この授業で取り扱う内容は，音楽的基礎の十分でない受講者にとってはむずかしく感じられる面があり，今回もそうした受講者がわずかにあるものの，全体としては，受講者の満足度が高かったようである。それでも，様々な受講者の立場に立って考えるという授業への姿勢は，ずっと維持していくつもりである。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分析>

寄せられた問題意識や期待は、次のようであった。

- ・ 楽曲分析の方法を具体的に知りたかった。(2)
- ・ 現場経験で、子どもたちが歌おうとしない歌があったので、なぜか、どうしたらいいのか、楽曲分析をとおして研究したかった。
- ・ 現場で指導していく上で、教材解釈の力をつけたいと思った。(2)
- ・ 音楽科の授業や部活動の指導で扱う曲について、基礎的な分析方法を学びたい。
- ・ 楽曲分析により、音楽の構造について知り、表現を深めていきたいと思った。
- ・ 作曲という方向から分析すると、演奏という立場からでは考えつかない表現や理解を得ることができると期待した。
- ・ これまで音楽へは技術的アプローチばかりだったので、理論的な思考力を身につけたかった。
- ・ 和声についての理解ができていないので、その点が理解できたらと思い、受講した。
- ・ 小学校で音楽を教えられるように、音楽についての深い理解に少しでも触れ、自身の教養を深めるとともに実践ができるようになりたい。
- ・ 趣味でずっと楽器をやったり大学の時に指揮をしたこともあったので、どのように曲を分析すればいいのか知りたかった。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分析>

多くの記述があったが、概ね以下のようにまとめることができる。分析する楽曲については、学校教材をはじめ、様々な時代、様式、地域、ジャンルにまたがりつつも、受講者の希望に添うようにした。

- ・ どういう作りの曲なのか、考えるヒントを得ることができた。
- ・ 曲を分析して聴くことで、違った聞こえ方がすることが分かって、授業で使えそうと思った。
- ・ スコアリーディングのために必要な知識を学ぶことができた。
- ・ 理論的裏付けがあると、楽曲の表現に自信がもてる。
- ・ 教材分析や曲の見方が、少しわかったように思う。
- ・ 分析能力を身につけることで学校教材を分析し、子どもたちに、よりくわしく教えることができる。
- ・ 非常に細やかで鋭い分析をする授業で、音楽の見方が何面も増えたところが良かった。
- ・ 様々なジャンルの楽曲を取り上げてそれぞれの音楽の魅力について気付かせてもらうことができた。また、指導していく上で、教材についてきちんと解釈していくことの大切さを学んだ。
- ・ 様々なジャンルの曲について具体的に分かりやすく説明があったのでとても理解しやすく、また現場での実践に生かすことのできる内容だった。何より、今まで考えたこともなかった楽曲分析についての見方や考え方を示して下さり、毎時間とても有意義で、一番楽しみにしていた授業だった。
- ・ 音楽についての深い理解をもとに学校現場で活用できる工夫を提案されたこと。また、学生の知的関心を刺激し、励まし続けたこと。
- ・ 少し難しかったが、このように曲を分析したのは初めてだったので、自分がいろいろな曲を使う時に、その曲を少しは意識できるようになったと思う。
- ・ 教師の実践力の育成には役立つとは思わなかった。むしろ専門的過ぎて、難しかった。レベルが高い。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

記述は、以下のようであった。

良かった点

- ・ すべてが良かったし分かりやすかった。先生の作曲された曲もお聴きすることができ、嬉しかった。
- ・ 和音の響きや仕組みを以前よりは考えれるようになった。
- ・ 先生のピアノがきけたこと。
- ・ 素晴らしい授業でした。
- ・ 音楽コースの院生でも新たに学ぶことを、音楽を学んだこともない自分でも分かるように、熱意をもって丁寧に指導された点はすぐれていた。このような機会は得がたい経験であった。
- ・ 難しかったけど、それが楽しい授業だった。

改善して欲しい点

- ・ 専門的すぎてついていけないので、もう少しわかりやすくしてほしい。

受講者のニーズや学習段階に大きな開きがあるので、ひとつのクラスの中で授業を展開する難しさはあるが、また逆にそれが様々な視点や感性を提供することになり、受講者にとっても授業者にとっても新たな発見があり、クラスとしての活力を高めることにもなる。こうした授業を長年やってきて思うことは、これは大学院の授業なので、受講者にはもっと高いところを目指して切磋琢磨して欲しいということである。

5 本授業の成果と今後の課題について

楽曲分析を通して音楽への知的好奇心を刺激し、広い意味での教育実践に生かすというこの授業の目的は、ほぼ満たされていると言えよう。特に感覚的側面と理論的側面を関連づけたことで理解が進んだものと思われる。それでも、少数ではあるが、和声等の説明になるとついていけない者もあり、次年度からは、基礎をもっと身につけたい受講者たちのために、キーボードハーモニーを含めた、実践的な和声の補習を、毎週、別途設けるつもりである。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評 価 実 施 日	平成 19年 7月 19日
授業科目名	ピアノ演奏基礎演習	学期・曜日・時限	前期 木曜日 2時限
授業区分	1. 教職基礎科目 <input type="checkbox"/> 2. 専門科目 <input checked="" type="checkbox"/>		
担当教員名	村澤 由利子、森 正	回答者数	11名

1 アンケート [1] の集計と分析について

[
5 まったくそう思う
4 かなりそう思う
3 どちらともいえない
2 あまりそう思わない
1 まったくそう思わない
無 未記入
]

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	7	3				
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	6	2	2			
3	授業の内容には一貫性があった。	8	3				
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	8	2	1			
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	6	2	2	1		
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	7	3	1			
7	授業の進む速さは適切であった。	8	3				
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	8	3				
9	受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。	6	2	3			
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。						
11	視聴覚機器の使用は適切であった。						
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。						
13	受講生に分かりやすく説明した。	7	3	1			
14	教員の声は聞き取りやすかった。	10	1				
15	板書の文字は見やすかった。						
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	8	3				
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	9	2				

<分 析>

概ね受講した学生から評価された授業であると考えますが、修了演奏試験の準備として受講した学生もいれば、教育現場において少しでも役に立つピアノの演奏方法を身につけることを目的に受講した学生、教員採用試験の対策のために受講した学生、このような受講生の立場の違いから多少の評価のばらつきがあったと思われる。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

学校現場でも役に立つ基礎技能を習得する、または以前に学習した内容を基礎から再確認し、より高い技術することを期待するなど多様な受講生が多く、その点では個人レッスンやグループ・レッスンが中心となるので、各受講生の状況に応じた授業を行うことができた。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

学校現場での音楽の授業におけるピアノの演奏能力の必要性を感じている受講生が大部分であり、そのような学生の要望に応じることのできた授業であった。しかし、やはり演奏技術の基礎的な部分において課題を抱える学生もおり、特にそのような場合にはどのような課題、教材を与えていくかは今後研究する必要があると考える。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

個人指導及びグループレッスンの長所を指摘した受講生が多く、このような授業形態を維持しつつ、さらに有効な方法を研究したい。

5 本授業の成果と今後の課題について

個人の状況に応じた指導が高く評価された授業であった。今回は現職教員の受講生も多く、現場の状況に応じた授業となったようである。教員採用試験を目指して受講した学生もいたが、まずはピアノをきちんと弾く、ということから考えさせることにし、これは試験を目指した今後の学習に通じるものであると思う。

学生ひとりひとりの日頃の練習が、授業を進める際には非常に重要な要点となるので、今後はこのような状況も踏まえて授業を計画、実行する必要があると考える。また授業概要の段階でも、その点を考慮した記述を行いたい。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評価実施日	平成 19 年 7 月 17 日		
授業科目名	学校教材ピアノ伴奏法	学期・曜日・時限	前期 火曜日 1時限		
授業区分	1. 教職基礎科目 〇2. 専門科目				
担当教員名	村澤 由利子	回答者数	9 名		

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
 [2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入]

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	7	1	1			
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	—	—	—	—	—	
3	授業の内容には一貫性があった。	8	1				
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	9					
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	5	3	1			
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	8	1				
7	授業の進む速さは適切であった。	8	1				
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	8	1				
9	受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。	9					
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	6	1	2			
11	視聴覚機器の使用は適切であった。	—	—	—	—	—	
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。	—	—	—	—	—	
13	受講生に分かりやすく説明した。	8	1				
14	教員の声は聞き取りやすかった。	9					
15	板書の文字は見やすかった。	—	—	—	—	—	
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	8	1				
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	9					

<分 析>

特に、(4) 教師の実践力の育成に役立つ内容であった。の項目及び、(17) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。の項目において全員5を選び、その他の項目についてもだいたい満足しているようであった。(5) 授業開始時や途中の成績評価の方法は適切であった。及び(10) 教科書や参考書の使い方は適切であった。の項目については5を選んだ受講者が、それぞれ5人、6人と他の項目より若干少なかった。成績評価に関しては、もっと具体的に、説明をしばしば行った方が、良かったと思われる。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分析>

- ・ 学校現場でピアノ伴奏が必要とされるために、より実技の習得を目指し受講した。
- ・ 学校教材のピアノ伴奏がこれまで足りなかったので、伴奏技術の向上を目指した。
- ・ 現場に復帰したときに、ピアノ伴奏に自信を持ってきちんと弾きたいため受講した。
- ・ 現場での授業で、伴奏に課題があると思っていたので、それを克服したいために受講した。
- ・ 小学校に帰って、ピアノ伴奏をいままでより自信を持って豊かに表現したかったため受講した。
- ・ 現場に出て、すぐ即戦力になれるようにしようと思った。
- ・ ピアノを弾く上で、独奏と伴奏の違う面を勉強したかった。
- ・ 人前で、ピアノ伴奏がしっかりと弾けるようになるため。
- ・ 現場で、たくさんのピアノ伴奏曲をどのように弾けば良いか、レパートリーを増やしたいため。

以上のように、全員が現場での、ピアノ伴奏の実力をつけたいために、受講したのが良く分かった。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分析>

- ・ どのように伴奏すれば、歌う人が歌いやすいか、どのような心構えで伴奏すべきかを具体的に指導した。
- ・ ピアノ伴奏は、音楽科の授業以外にも行事や学級経営においても、教師が持っている強みになる「技術・わざ・武器」の1つであり、具体的な演奏法の指導1つ1つが現場の実践で役立つ。また優れた演奏家のCDを聴いたのも参考になった。
- ・ 受講者同士で持ち寄った課題（楽譜）は、現場でも有用で役に立つものばかりであり、授業の進め方が、現場での授業にすぐ結びつくものだと考えた。
- ・ 伴奏は、個人のレベルにより、受講生が個人的に皆の前で適切に指導を受けることが出来た。人前でピアノを弾くことに慣れることも出来る。
- ・ 採用試験の課題曲も弾けて歌えるようになっただけでなく、記号の意味や様々な有名な曲などを知ることが出来た。現場へ出ても、この講義で学んだことを十分生かすことが出来る。
- ・ 1人ずつ丁寧に指導したので、スキルアップになった。他の受講生の演奏が聴けて学びあになった。
- ・ ピアノが得意でない人達もみるみる上達した点。毎週多くの教材を使う点で多いに役立つ。
- ・ 毎回自分が用意する曲だけでなく、他の受講生が用意した曲も配布され、レパートリーが広がり実践において大きな力となった。伴奏だけでなく、歌唱や指揮も同時に勉強できたので、合唱指導にも役立つと思った。とても分かりやすく細かく丁寧に指導した。

等、全員が役に立つと感じている。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分析>

良かった点

- ・ ピアノ伴奏に加えて歌唱や指揮を学べたこと。自分の知らない曲を他の受講生が持ってきて、自分のレパートリーの幅が増えたこと。声楽やピアノを聴いたりオペラを見ることが出来たこと。
- ・ 一人一人丁寧に指導していて、そのまま実践に役立つ授業だと思う
- ・ DVDやCDを見たのがとても良かった。オペラなど今まで自分が聴いたことのない曲ばかりであったが、素晴らしい作品に触れることで自分の感性が磨かれた気がする。講義を通して多くのことを学べたし、自分の自信にも繋がったと思う。
- ・ たくさんの曲を持ち寄り、たくさんの曲を知ることが出来た。
- ・ 伴奏だけでなく、音楽鑑賞も取り入れたことが参考になった。皆の前で演奏する緊張感があり、毎回、準備して授業に望むことが出来た。
- ・ 伴奏だけでなく、指揮や合唱の勉強も出来たので、とても有意義であった。

改善して欲しい点

- ・ 朝1時限目の授業はきついで、2時限目以降にして欲しい。
- ・ 教科書の伴奏譜が図書館に少ないので、講座で用意して欲しい。
- ・ 共通で皆が取り組むような曲があると、もっと良かった。

以上、時間割を変更するのは難しいが、伴奏譜については今後検討したい。

5 本授業の成果と今後の課題について

全員が、授業の内容や進め方について満足している。

特に、教師の実践力の育成については、現場に戻って即戦力になる・ピアノ伴奏に自信がついた・たくさんの教材の伴奏譜を知ることが出来たため、レパートリーが増えた・音楽鑑賞をしたことで自分の感性が磨かれた・人前で自信を持って弾くことが出来るようになった・ピアノ伴奏だけでなく、指揮や合唱も授業の中で勉強出来たので、合唱指導にも約に立つ、等受講生には様々な成果があったことが分かった。

今後、伴奏譜を揃えるなどの点を考慮し、より良い授業としたい。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評 価 実 施 日	平成 19年 7月 26日
授業科目名	音楽科教育研究	学期・曜日・時限	前期 木曜日 3時限
授業区分	1. 教職基礎科目 ②. 専門科目		
担当教員名	長 島 真 人	回答者数	10名

1 アンケート [1] の集計と分析について

(5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない)
 (2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 --- 未記入)

番 号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	9	1				
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	8	2				
3	授業の内容には一貫性があった。	9	1				
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	8	2				
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	8	2				
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	9	1				
7	授業の進む速さは適切であった。	9	1				
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	7	3				
9	受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。	3	3	3	1		
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	7	2				1
11	視聴覚機器の使用は適切であった。	7	3				
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。	9	1				
13	受講生に分かりやすく説明した。	9	1				
14	教員の声は聞き取りやすかった。	10					
15	板書の文字は見やすかった。	10					
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	4				
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	9	1				

<分 析>

院生たちの多数がこの授業に対して満足を示しているように思える。評価の見解が分かれたのは、「9. 受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した」に関する項目である。「授業への参加を促す」という文言のとらえ方をこの授業の内容に即して説明しておくべきであった。「主体的な思考活動を促す」という意味であることを、今回は説明していなかった。そのため、混乱が生じたように思われる。「(質問、発言、討議など)」という記述から「質問、発言、討議を促した」という意味で把握した院生がいるように思われる。今後は、この項目に関する説明を的確に行った上で評価アンケートを依頼するようにしたい。また、この授業が音楽科教育学の基礎的な知識の習得をめざすために講義スタイルに徹底してきたことを院生たちに再度確認しておくべきであった。知識ベースの拡大を目的とした講義スタイルの授業の在り方をいっそう考えていきたい。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが、具体的に書きください。

<分析>

次のような8件の記述があった。「シラバスに記載されている内容に興味をもったので受講した」、「現場での教育実践に必要なと考え受講した」、「音楽教育について、どのように捉え、どのように展開していくかなど、音楽教育の在り方を考えたいと思い受講した」、「授業実践に役立てたいと思った（指導方法や教材提示の仕方等）」、「授業実践のための何らかの Hint を得たいという気持ちで受講した」、「私は学校の教師ではなく、音楽教室での教師になりたいと思っていますが、現在の学校音楽の問題点や課題はよく理解したいと思って受講した」、「音楽を教科としてとらえた勉強をしてなかったので、音楽とはいったいどういうものなのか、何がどう分かっていないのかを知りたくて受講した」、「音楽科教育の概要をつかむ」。これらの指摘から、ほとんどの院生がこの授業の目的にそった問題意識や興味に基づいて授業に参加していたこと確認することができる。そして、「17. この授業は、自分自身にとって満足できるものであった」の項目に関して、評定「5」が9名、評定「4」が1名であったから、この授業は、目的を達成することができていたと思われる。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的に書きください。

<分析>

次のような10件の記述があった。「先生は熱心であった」、「こんなに内容の深い授業を初めて受けた」、「音楽教師としての哲学的な教養の必要性を実感した」、「音楽というものを、ここまで深く考えることがなかったので、自分のこれからの音楽教師として、授業や生徒に臨むにあたっての心構えのようなものを得ることができた」、「具体的な教材を取り上げた授業内容だったので、現場で生かせることが多かった」、「音楽の学び、教え方の論理について、わかりやすく教えていただくことができた」、「具体的な教材を提示され、音楽の美しさを教えることのすばらしさや楽しさについて学ぶことができた」、「音楽というものの捉え方について、今まで知らなかった見方や考え方ができたと思う」、「教材分析の方法など、実践に役立つ授業であった」、「教材解釈の仕方や教材提示の工夫、授業において子どもたちにどのように接するべきか等、具体的にわかった」。この授業は、音楽科教育の原理を扱う講義で、音楽や音楽科教育の哲学的な論考や心理学的な知見を多数紹介することを目的としているが、具体的な教材や指導事例を資料として取り上げながら、抽象的な概念に迫る授業から、子ども観や音楽観、音楽科教育観、指導観を意識し、自分なりに成果を見いだすことができたことを報告しているように思われる。受講した院生たちによって、具体的な音楽授業の実践事例から音楽科教育の抽象的な概念を探究し、さらに、自分自身の具体的な授業実践の課題に応用させていく思考が一層展開されるように、今後も、例示する資料や作業課題を改善していきたい。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

「この授業の良かった点」として、「すばらしい授業でした」、「音楽を今までとは違った面からも見ることができるようになったと思う」という全体的な感想が指摘された。また、「改善してほしい点」として「小学校の内容だけでなく、中、高の教材提示があればよかった」という指摘があった。この授業は、音楽科教育の本質を原理的に理解することが目的なので、例示する資料は、参加するすべての院生が精通している小学校の教材を中心に扱ってきた。(ただ、中学校の教材も、扱ってきている。)この基本的な方針は、今後も継続していくつもりである。この要望は、この授業のねらいに沿っているとは思えないが、中、高の教材でこの授業の内容に適したものがあるかどうかに関して、今後、考えていきたい。

5 本授業の成果と今後の課題について

この授業は、哲学的な概念や心理学の知見を援用しながら、音楽科教育の本質を原理的に究明し、院生たち一人ひとりが音楽科教育の根底的な論理から自分自身の授業実践力の向上に向けての課題を再認識することを願って展開している。そのために、音楽科教育の学術的な知識ベースを拡大させ、この拡大された知識ベースを具体的な実践の場に応用することができるような思考の展開をねらっている。したがって、演習や実習スタイルの授業ではなく、講義スタイルの授業として改善を試みている。このような講義スタイルの授業を展開していく場合、改善を進めていくために何よりも必要なことは、講義の目的を院生たちと共有し、目的にそった思考の展開が生じるような作業課題を適正に提供していくことであろうと思う。今年度も、原理的な究明のために具体的な例示を提供し、事物事象の分析を促すような作業課題を提示していくと、例示された教材や指導事例にとらわれて、本来の思考を見失う院生が若干いるように思われる。このような院生も、例示された事象から自分なりに満足のできる知識の獲得は展開できたようではあるが、やはり、作業課題の内容や提示の方法を検討し、本来の授業の目的を院生たちが見失うことがないように配慮していく必要を感じている。混沌とした教育実践の場で、様々な問題の所在と解決への道筋を究明していく「目」を院生たちが育んでいくことができるように、この本質的な原理を扱う授業の改善を一層深めていきたい。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評 価 実 施 日	平成 19年 7月 25日
授業科目名	指揮法基礎演習	学期・曜日・時限	前期 水曜日 2 時限
授業区分	1. 教職基礎科目 2○専門科目		
担当教員名	山田啓明	回答者数	名

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
 [2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入]

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	7	1				
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	5	3				
3	授業の内容には一貫性があった。	7	1				
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	7	1				
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	5	1	2			
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	7	1				
7	授業の進む速さは適切であった。	6	1		1		
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	6	2				
9	受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。	5	2	1			
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	5	3				
11	視聴覚機器の使用は適切であった。	7	1				
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。	6	2				
13	受講生に分かりやすく説明した。	7	1				
14	教員の声は聞き取りやすかった。	8					
15	板書の文字は見やすかった。	6	2				
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	3	1			
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	7	1				

<分 析>

概ね好評価だったと思いたい。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

受講生には1：指揮法の基礎を学びたい。2：現場を経験した結果、より実践的な指揮法を学びたい。

3：指揮法にこだわらず、音楽一般に関する視野を広めたい。のほぼ3とおりの傾向がみられる。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

これは、指揮法という内容そのものが、現場で子どもと直接触れ合う場のみで発揮されるものなので、当然そのことに関わる記述が多かった。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

学校教材を取り上げて欲しいという意見が1名あった。

5 本授業の成果と今後の課題について

実は、この授業では、奇数年度にはオーケストラなどの名曲をピアノ連弾を使って振ることを通して、指揮のテクニックを学び、偶数年度には主に教育現場で用いられる合唱曲を用いてプロローベ・テクニックについて実践的な技能を習得するというやりかたをしている。したがって、できることならば2年間受講してほしいというのが本音である。このことをいかに学生にアピールするかが課題だといえるだろう。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評価実施日	平成 19 年 7 月 30 日		
授業科目名	塑造制作演習	学期・曜日・時限	前 期	月 曜 日	3 時 限
授業区分	1. 教職基礎科目 2. 専門科目				
担当教員名	長 岡 強	回答者数	6 名		

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
 [2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入]

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	5	1				
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	2	3	1			
3	授業の内容には一貫性があった。	5	1				
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	4	2				
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	1	4	1			
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	6					
7	授業の進む速さは適切であった。	2	3	1			
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	3	3				
9	受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。	3	2	1			
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。						
11	視聴覚機器の使用は適切であった。						
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。	5	1				
13	受講生に分かりやすく説明した。	5	1				
14	教員の声は聞き取りやすかった。	6					
15	板書の文字は見やすかった。						
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	1				
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	6					

<分 析>

受講生の人数は、モデル制作中心の人体彫刻の授業としては限界に近い7名であった。制作途中においては、出来るだけ個人的なアドバイスを重視しながら指導内容を徹底するようにした。

受講生は、学部時代に人体彫刻の授業を履修した人は皆無で、指導の面ではかなり苦慮した。

この授業に関しては、概ね肯定的な評価を得た。

実技による制作中心の授業のため、評価項目の10, 11, 15は削除した。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

全ての回答を列記すると以下の通りである。

- ・ 塑造の基本的な方法や知識など身につけたかった。
- ・ 絵画とは違った空間感や視点で造形していく感覚を身につけたかった。
- ・ 彫刻の分野を学ぶため
- ・ 塑造を自分の作品と言えるレベルまで、自分の実技力をさせたかった。

受講生は塑造の基本的な技術を修得することを目的としており、専門性の強い内容に対する要望が見られないのが実情である。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

全ての回答を列記すると以下の通りである。

- ・ 彫刻の知識を学び、実践力を深められたから。
- ・ 作品づくりの過程がとても分かりやすく、指導者となったときに生かせると思ったので。
- ・ 絵画とは違った空間感や視点で造形していく感覚を身につける内容で、スキルを身につけることが出来た。

この授業は、水着モデルを使っての人体彫刻の授業であるので、かなり専門性の高い授業といえる。

そのため教育現場では扱いにくい内容となっており、なかなか教師の実践力の育成に役立ちにくい面がある。

しかし、授業に対する取り組み方、教師の授業に対する準備の在り方、具体的な指導の方法などの面においては教師の実践力の育成に役立つ内容であったようである。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点，改善してほしい点を具体的にお書きください。また，この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

2時間連続の授業を要望する提案があった。細切れの制作よりダイナミックな制作展開が求められるのだが，現実的には無理な要望といえる。

5 本授業の成果と今後の課題について

この授業では，粘土による原型の制作に加えて，石膏による型取りやFRPによる成型など多岐にわたる制作過程に長時間を要し，とうてい授業時間だけでは作品は完成しない。

シラバスにも「授業以外に制作が必要」と4プロセスにおいて明記している。

例年のことではあるが，制作時間は，授業時間以外に授業時間の倍以上に及ぶ。受講生には強い根気と体力を必要とする。

本授業の受講生全員が初めて人体彫刻を経験することもあって，この授業は想像以上にきつかったようだ。

しかしながら，肯定的な評価が意味するように，受講生にとっては十分満足のいく授業であったようだ。

本授業では，単に彫刻作品が完成したという喜びを得るだけでなく，図画工作・美術教育の根幹となるべき新鮮な感動，創造の喜び，作品に対する情熱や心情，仕事への責任など実技制作の本質を学ばせることが出来たように思っている。

受講生にとっては，かなりのオーバーワークを強いるけれども，今後もこの授業を定着させていきたい。

これからも意欲的に取り組んでくれる受講生に期待を寄せながら，塑造分野の充実した授業として展開していきたいと考えている。

さらに充実した授業となるように，授業改善を図りながら進めていきたいと考える。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評価実施日	平成 19年 7月 18日
授業科目名	美術科教育学研究	学期・曜日・時限	前期 水曜日 2時限
授業区分	1. 教職基礎科目 ② 専門科目		
担当教員名	橋本泰幸	回答者数	18 名

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
 [2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入]

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	5	8	5			
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	6	7	4	1		
3	授業の内容には一貫性があった。	8	7	3			
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	5	7	6			
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	4	6	7		1	
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	5	8	4	1		
7	授業の進む速さは適切であった。	8	7	3			
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	6	8	3	1		
9	受講生に授業への参加（質問，発言，討議など）をよく促した。	6	6	4	1	1	
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	6	6	5			
11	視聴覚機器の使用は適切であった。	8	8	2			
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。	6	10	2			
13	受講生に分かりやすく説明した。	9	6	3			
14	教員の声は聞き取りやすかった。	9	6	3			
15	板書の文字は見やすかった。	6	4	7	1		
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7	5	6			
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	9	4	5			

<分 析>

全体に良好であるとの回答を得た。今回、授業は「視覚」をテーマにしたが、このことが新しい視点からの考察として、関心を生んだと考える。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

美術教育史の知識を得たいと答えた者が8人、美術教育の知識を得たいと答えた者が2人、残りの者無回答。いずれにしても、美術教育を教科の歴史（今回は「視覚」の歴史）から考え直してみたいとの希望のように見え、今後ともこのような視点から美術教育を学ぶ機会を設けるべきと考える。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

「役立つ」とはっきり答えないものの「肯定的」な回答をした者9人、否定的に捉えた者1人、他は無回答であった。肯定的な回答の多くは、「大学時代に学んでいなかった分野」「知識が増えた」と答えていた。授業は「視覚」をテーマにしたが、テーマを明確にしたことが良好な結果につながったと考える。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点，改善してほしい点を具体的にお書きください。また，この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

特になし

5 本授業の成果と今後の課題について

美術館や学校現場を研究の場としてすすめるが、現状の時間割の中では一向に実現できない。研究の場としての大学らしい、余裕あるカリキュラムであってほしい。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評価実施日	平成 20 年 2 月 27 日		
授業科目名	油画制作演習	学期・曜日・時限	後期	木曜日	5時限
授業区分	1. 教職基礎科目 ②. 専門科目				
担当教員名	鈴木久人	回答者数	8名		

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
 [2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入]

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	3	3	2			
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	-	-	-	-	-	-
3	授業の内容には一貫性があった。	3	4		1		
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	2	3	3			
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	3	3	1	1		
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	2	4	1	1		
7	授業の進む速さは適切であった。	4	2	2			
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	3	3	1	1		
9	受講生に授業への参加（質問，発言，討議など）をよく促した。	3	4			1	
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	-	-	-	-	-	-
11	視聴覚機器の使用は適切であった。	-	-	-	-	-	-
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。	-	-	-	-	-	-
13	受講生に分かりやすく説明した。	3	4	1			
14	教員の声は聞き取りやすかった。	5	3				
15	板書の文字は見やすかった。	2	2	3			1
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	7				
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	4	4				

<分 析>

概ね、好意的評価と言える。目立つ評価項目は15であろう。本授業は制作研究に対しての個別指導や討議を中心としたものであえて板書はしなかった結果と思われる。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

- ・ 先生に絵画の指導をしていただけたと思い受講した。
- ・ 今まで気になっていた素材や道具を使って表現したかったことが実現してよかったと思います。ドローイングとは？という根本に返って考えることができた。
- ・ 自分の見つめ直し。
- ・ 技術力向上，感性進深。
- ・ モデルを使い写実的な表現について考える。
- ・ 絵画の制作法について知る。
- ・ いつもとちがったことがしたかった。勉強になると思った。

(以上はすべての記述内容を原文のまま記載)

例年言えることであるが、普段とは違う描画材による絵画制作や技法体験を受講目的にあげている。また絵画制作自体を動機としている。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

- ・ 教員にならないためわからない。
- ・ 実践力がつく。
- ・ 様々な描画方法を探求できたため。
- ・ 教師力というよりも描くものとしては良い機会になる授業であった。
- ・ 内容に対する先生の事例がいつもわかりやすく今後の生徒への指導に役立てると思います。
- ・ 実技指導がとても具体的で、美術の教師になるということや描くということに関してとても役立った。

(以上はすべての記述内容を原文のまま記載)

授業内容の現場での展開の可能性や方法について意識して取り扱ってきたことで授業評価が始まった頃と比べると改善が見られる。今後ともよりこのことについては意識して取り扱っていきたい。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点，改善してほしい点を具体的にお書きください。また，この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

- ・ なかなか人物を描く機会がなかったのもとても良かった。教員を目指す人にも役立つと思う。
- ・ 前半は毎週，後半は集中講義になりましたが，ちょうどよかったと思います。
- ・ ストップウォッチ（キッチンタイマー）があるとスムーズだと思う。

（以上はすべての記述内容を原文のまま記載）

まず半数以下のものしか記述がないのが気にかかる。モチーフについて今年度は学生の希望により通して人物コスチュームとしたが途中でのモデル変更，後半の雇いあげたモデルの都合からの集中講義化と多くの問題が生じた。今回は受講学生への変更に対する理解に時間をかけ，それほどの問題とはならなかったようであるが，モチーフに人物を扱う場合，季節の変化など半年にわたる授業では解決しなければならぬ問題が多く存在する。

5 本授業の成果と今後の課題について

本授業の履修者は，例年，授業期間の前半は紙を支持体とした制作，後半はタブローを支持体としたものとし，履修学生にその希望などを聞き，なるべく個々の学生のニーズに応えることを基本とした。こうしたことから前述のようにモチーフを人物とし，それ自体は多くの受講生が評価しているが，生身の人物を週一度開講する授業で扱うリスク，モデルの負担が存在することは事実であり，このことを解決することも今後の課題である。また今後とも引き続き本授業内容の現場での展開の可能性や方法，児童・生徒の作品の鑑賞方法や評価法についてもより学生とディスカッションなどを通して深めていきたい。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評 価 実 施 日	平成 20 年 3 月 3 日		
授業科目名	映像デザイン演習	学期・曜日・時限	後 期 月 曜日 3 時限		
授業区分	1. 教職基礎科目 ②. 専門科目				
担当教員名	内藤 隆	回答者数	13 名		

1 アンケート [1] の集計と分析について

[
5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない
]
2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	7	6	0	0	0	
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	6	5	2	0	0	
3	授業の内容には一貫性があった。	7	6	0	0	0	
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	5	5	3	0	0	
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	7	5	1	0	0	
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	8	4	1	0	0	
7	授業の進む速さは適切であった。	5	7	1	0	0	
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	10	2	1	0	0	
9	受講生に授業への参加（質問，発言，討議など）をよく促した。	5	4	4	0	0	
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	6	4	2	1	0	
11	視聴覚機器の使用は適切であった。	7	6	0	0	0	
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。	9	3	1	0	0	
13	受講生に分かりやすく説明した。	7	6	0	0	0	
14	教員の声は聞き取りやすかった。	9	4	0	0	0	
15	板書の文字は見やすかった。	5	6	2	0	0	
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	7	1	0	0	
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	7	5	1	0	0	

<分 析>

本年度の受講者は19名（うち3名が他講座からの受講生）と大変多かった。アンケートの回答者はそのうち13名。本年度は昨年に準じ、段ボールと虫眼鏡でカメラ自体（印画紙を装填し撮影できる）を制作する内容と、デジタルカメラでの撮影実習とを主な内容とした。段ボールカメラ制作においては昨年度の反省をふまえ、設計図への詳細サイズを明記や、宿題も課すなど運営を改めた。この成果もあってかとりあえず全ての受講者が印画作品の提出に至った。前半の内容は極端に映像原理にかたよるため不満が多いかと思いきや、幸い大方の好評を得たようである。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

以下に記述内容を列記する。「自分の専門外の勉強のため、学べる点は全て学ぶという姿勢で受講した」「画像の制作の仕組みやその基礎を学ぶ」「映像機材の活用方法を知る」「実習、具体的なものづくり」「エコカメラとも呼べるカメラを作ることができて良かった」「カメラの知識を増やすため」「単位取得のため」「カメラの性質についての考察」「映像についての技術的なスキルアップ」

やはり基本的に、こちらが意図した内容（ガイダンスで行った説明）を理解した上で受講してくれているのが判る。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

以下に点数と記述内容を順次列記する。「3：教育現場においては、あまり…少し高度で設備等の問題で使えないと思うが、面白い内容であった。」「4：機器の構造を知ること、教材理解となり、楽しめる内容を知れた。」「4：映像やカメラは、現代社会の中、必要不可欠なものであるため」「4：高校生くらいなら作れそうだ」「5：実際に製作し、難しさ、楽しさが自分自身より理解できた」「5：一見普段の生活とは関係ないと思える内容なのだが、非常に生活と密着しており、興味深い授業内容でした」

本授業の内容が、基本的に教育向けとしてもある程度理解されているようである。現状では暗室に頼らざるを得ないが将来的に別の方法も模索したい。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

以下に記述内容を列記する。「内容が明確で判りやすいものだった」「写真だけでなく、動画についても、課題を通して学べるとよかった」「生徒による作品賞」「紙カメラを撮りに行く時間も余裕があれば作ってほしいです」「教員がとても熱心で、寿号外でも快く教えてくれた」

「生徒による作品賞当然」というのは展示のことを意味するのだろうか。このあたりは取り入れやすそうである。一方、（授業内でもレクチャーの形で若干動画について触れるのだが）動画制作の時間も入れると、他の内容を大幅に削る必要が出て来る。今後ともこの評価を見ながら変更のタイミングを探りたい。

5 本授業の成果と今後の課題について

今回の授業も、昨年に引き続き「全て紙素材で、撮影のできるカメラを作る」と「デジタルカメラの実習」を目標とした。アンケート評価内容からは、とりあえず両方の目的が理解され、さらに現場教育への応用も期待できる様子である。授業の目標から言うとある程度計画通りに達成できていると考えられる。

本年は、昨年の「段ボールカメラの制作に当初計画したスケジュールを大幅に越えた制作時間が必要となった」経験から、配布資料の詳細を変更し運営方法を変えた。

今後もこのアンケート等を参考に授業改善を図って行きたい。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評 価 実 施 日	平成 19年 7月 20日
授業科目名	石彫制作演習	学期・曜日・時限	前期 金曜日 2時限
授業区分	1. 教職基礎科目 2. 専門科目		
担当教員名	野崎 窮	回答者数	11 名

1 アンケート [1] の集計と分析について

(5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない)
(2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 --- 未記入)

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	5	6				
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	—	—	—	—	—	—
3	授業の内容には一貫性があった。	7	4				
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	2	8			1	
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	5	3	2	1		
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	7	2	2			
7	授業の進む速さは適切であった。	5	2	2	2		
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	5	6				
9	受講生に授業への参加（質問，発言，討議など）をよく促した。	1	7	3			
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	—	—	—	—	—	—
11	視聴覚機器の使用は適切であった。	4	6	1			
12	配布された資料・文献等は，授業内容を理解する上で役に立った。	—	—	—	—	—	—
13	受講生に分かりやすく説明した。	6	4	1			
14	教員の声は聞き取りやすかった。	4	5	2			
15	板書の文字は見やすかった。	2	6	3			
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	8	2			
17	この授業は，自分自身にとって満足できるものであった。	5	6				

<分 析>

全体の評価における平均は 4.2 であった。その中で特に反省せねばならない項目は9番である。受講生に質問や発言を求める機会を授業の中で少し増やしていきたい。
 評価が良かったのは3番と6番である。纏めると授業内容に一貫性があり，授業をよく準備し，熱心に教えたことになる。また何よりうれしかったのはドイツ人の特別聴講生が他の院生の協力もあり授業に満足してくれたことである。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

石彫の技法や石という素材に興味をもって受講した院生が多かった。
また絵画専攻の院生であると思われるが、立体表現を経験したく臨んだようである。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

立体表現（彫造彫刻）の制作手順がわかって実践力がついた。それから、立体表現のみならず、制作するときの心構えや姿勢といった点で役に立ったとの回答があった。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点，改善してほしい点を具体的にお書きください。また，この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

回答の中に前年度に制作された作品がどの程度の制作時間を必要としたのか等を説明した方が制作する上で参考になるというアドバイスがあった。ある程度，この点を自分なりに授業中，説明したつもりであったが，不十分だったので，次年度以降留意していきたい。

5 本授業の成果と今後の課題について

本授業の目的は，石彫技法の習得を図りながら彫造彫刻の特性を考察する等であるが，それは立体表現の魅力を石彫実技を通して伝えることでもあった。その意味では明確ではないにしても，アンケート項目17番を見ると，ある程度の成果があったものと考えている。

今後の課題として，石彫制作における環境の整備，具体的には制作のための台の工夫と電動工具の安全な使用等が挙げられる。

第5部

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評 価 実 施 日	平成 19年 7月 20日
授業科目名	体育・スポーツ心理学研究	学期・曜日・時限	前期 金曜日 3時限
授業区分	1. 教職基礎科目 ② 専門科目		
担当教員名	賀 川 昌 明	回答者数	5 名

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
 [2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入]

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	3	1	1			
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	2	2	1			
3	授業の内容には一貫性があった。	3	2				
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	2	3				
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	3	2				
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	4	1				
7	授業の進む速さは適切であった。	3	2				
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	1	3		1		
9	受講生に授業への参加（質問，発言，討議など）をよく促した。	3	1	1			
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。						5
11	視聴覚機器の使用は適切であった。	3	1	1			
12	配布された資料・文献等は，授業内容を理解する上で役に立った。	3	2				
13	受講生に分かりやすく説明した。	2	2	1			
14	教員の声は聞き取りやすかった。	2	3				
15	板書の文字は見やすかった。						5
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	4				
17	この授業は，自分自身にとって満足できるものであった。	3	2				

<分 析>

この授業を実施するにあたり、講義内容及びその中核を為すデータや資料をパワーポイントに取り込んで提示した。この点については、いずれの受講生も認めているようであり、質問項目「授業をよく準備し、熱心に教えた。」では4人が5、1人が4という評価をしている。一方、質問項目「受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。」や「受講生に分かりやすく説明した。」では、他の質問項目に対する回答よりも相対的に低い評価を示した。しかしながら、質問項目「授業に主体的・積極的に取り組んだ。」に対して、5と答えたのはたった1人であり、他の4人は4と答えている。このような受講生の認識と行動のギャップをどう解決するか、今後の課題である。

ただ、最終的な評価とも言える「この授業は，自分自身にとって満足できるものであった。」という質問項目に対して3人が5、2人が4と答えていることは大きな励みとなる。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

全体の評価点が高いものから順に、その記述内容を示すことにする。

「心理学というものを今まで自分が深く関わってきたスポーツ・体育を通して理解したかった。スポーツや体育の心理と言ったものが、実際に研究されている中ではどのようにいわれているのかを知りたいと思った。」

「学級現場におけるいじめや自殺など、心理的ストレスや人間関係などの点から原因を究明しようと思いました。」

「教職に役立つと考えたから」

「子どもの心理状況を理解し、授業に生かす。」

「スポーツ指導力の向上を目指し受講を決めました。中でも『モチベーション』や『集中力』について学びたいと考えていました。」

いずれの受講生も、それなりの目的意識を持って参加していたことが分かる。しかしながら、その目的意識がより明確化されている者ほど、授業に対する評価も高くなる傾向が認められた。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

5の評価をしたものの記述内容は、次のようなものであった。

「子どもたちの心理を知ることにより、これからの体育学習の計画をする上での大きな指針となった。統計をするためにはどのようにすることが必要なのかの基本を知ることができた。」

「アンケートを使った研究方法や学生自ら問題意識を持ち発表して討議することは有効だと思いました。」

4の評価をしたものの記述内容は、次のようなものであった。

「授業中の話し合いの中で、現職の先生方の話を聞くことができたから。」

「体育授業嫌いの生徒の実態をつかむことができました。」

「分かりやすく、体育のことを深く学べたから。」

今回の受講生で現職教員は1名であったが、この受講生による様々な発言が現場経験のない受講生に対して大きな影響力を与えたようである。そういった意味では、ただ単に講義内容を伝えるだけではなく、それらを基にした討議が有効であることを再確認した。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点，改善してほしい点を具体的にお書きください。また，この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

4人の者が「特になし」と回答している。

残りの1名は、良かった点としては質問[3]に書いたことをあげ、改善してほしい点としては「学生に分かりやすく説明して下さっていたと思うのですが、ビデオを見たときに、その内容についてもう少し知りたかったです。」と記述している。これは、講義内容に関わるビデオを視聴したとき、時間切れのために途中で打ち切ったことに原因があるように思われる。

今後、せっかく準備したもなので、ゆとりを持って視聴できるように配慮したい。

5 本授業の成果と今後の課題について

授業目的に照らして、今回の授業はほぼ満足のいく成果が得られたものと考えられる。

ただ、授業者としては、できるだけ分かりやすく説明し、また質問があれば答えるという態度を示したつもりであるが、一部の受講生に対してはまだ不十分であったようである。

今後こういった点に配慮し、少々授業の進度が遅れても受講生の理解を確かめながら進めていきたいと考えている。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評価実施日	平成 19 年 7 月 30 日		
授業科目名	運動生理学研究	学期・曜日・時限	前期	月曜日	1時限
授業区分	1. 教職基礎科目 ②. 専門科目				
担当教員名	田 中 弘 之		回答者数	13 名	

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
 2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	8	4	1			
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	-	-	-	-	-	-
3	授業の内容には一貫性があった。	8	5				
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	10	2	1			
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	7	6				
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	10	2	1			
7	授業の進む速さは適切であった。	4	6	0	3		
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	6	4	3			
9	受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。	11	2				
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	-	-	-	-	-	-
11	視聴覚機器の使用は適切であった。	8	3	1	1		
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。	-	-	-	-	-	-
13	受講生に分かりやすく説明した。	6	6	1			
14	教員の声は聞き取りやすかった。	10	3				
15	板書の文字は見やすかった。	8	4	1			
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7	6				
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	9	3	1			

<分 析>

平均値の概観から、評価が低かった項目は、『7. 授業の進む速さは適切であった。』だけであり、総平均値は4.5と、概ね高い評価が得られたものと考えている。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが、具体的にお書きください。

<分 析>

- ・ 生理学的な面で、スポーツ場面で、必要となる知識を身につけたい
- ・ 運動、栄養、休養に関する知見から、それらがどのように関連しているか知りたかった
- ・ 運動を科学的にとらえる必要性を感じ、体育指導をするために必須の知識を得たかった
- ・ 現場での教育活動が少しでも理論的なものへと向上させるため
- ・ 人体の構造と機能に興味があった
- ・ 運動生理学とはどのようなものか知りたかった

上記のような要旨の自由記述が得られたが、評価結果を勘案して、受講目的は概ね達成されたと考えられる。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

- ・ 子どもの問題に対する意識が高まった
- ・ 学校保健に活かせる
- ・ 科学的な知識が取り入れられた
- ・ とても有用であった
- ・ 事例に基づく丁寧な説明があった
- ・ 『考える』ことの大切さを学んだ

上記のような要旨の自由記述が得られ、評価結果を勘案して、所期の講義目的は概ね達成されたと考えられる。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点，改善してほしい点を具体的にお書きください。また，この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

- ・ 発問が多いので集中して受講できた
- ・ 受講生に授業への参加をよく促していた
- ・ スピードが速い
- ・ 板書をもう少し見直して欲しい
- ・ よい意味で緊張感のある授業だった
- ・ 特にありません
- ・ 学校現場で活用できる授業だった
- ・ スライドの一部に見えにくい色の字があった

上記のような要旨の自由記述が得られ，授業改善に関する強い要望は認められなかった。

5 本授業の成果と今後の課題について

昨年よりも評価は高まったが，例年通り，多岐にわたる専攻分野の大学院生を対象とする講義には限界があるものと想定され，受講条件の問題も視野に含めつつ，授業の効率的運営については今後も継続して検討を重ねたい。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評価実施日	平成 19 年 7 月 24 日
授業科目名	学校保健学研究	学期・曜日・時限	前期 火曜日 3 時限
授業区分	1. 教職基礎科目 ② 専門科目		
担当教員名	吉本佐雅子	回答者数	3名

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
 [2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入]

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	2	1				
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	2	1				
3	授業の内容には一貫性があった。	1	2				
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	2	1				
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	1	1	1			
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	2	1				
7	授業の進む速さは適切であった。	3					
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	3					
9	受講生に授業への参加（質問，発言，討議など）をよく促した。	1	2				
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	1	1	1			
11	視聴覚機器の使用は適切であった。						
12	配布された資料・文献等は，授業内容を理解する上で役に立った。	2	1				
13	受講生に分かりやすく説明した。	2	1				
14	教員の声は聞き取りやすかった。	3					
15	板書の文字は見やすかった。	3					
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2		1			
17	この授業は，自分自身にとって満足できるものであった。	1	2				

<分 析>

受講者はストレート進学の名で3名であった。当初の授業で受講者の要望，基礎知識の状態を把握し，予定していたシラバスの内容を，より実務的に役立つ内容へと方針を変更して授業を行った。その結果，授業法，進め方に関してはほぼ高い評価を得たと考える。しかし，質問17の満足度に関しては二人が評価4を記し，本授業さらには学校保健の重要性を認識させるには若干至らなかったと感じる。本年は同一の背景をもつ受講生であったため，例年より一貫性のある授業を行い易かった。しかし，このことは例年の課題である多種多様な背景を持つ受講者に対する授業の進め方が，さらに憂慮すべき問題となると考える。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

- 目指している養護教諭についてより深く勉強したかった。
- 保健体育の中での保健の位置づけ，社会と学校教育の関連や学校保健の考え方を学ぶため。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について，その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

- 評価5 選択者：保健についての知識や情報，また現代における児童生徒の問題等への対応の仕方など自分が思っていた以上に勉強できた。
- 評価4 選択者：学校保健の考え方を学ぶことが出来たと思うから。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

- 少人数なので、授業が静かだから、もっと活発な意見が出せる雰囲気作りに努める必要がみんなにあった。少人数の授業な分、一人ひとりの意見が授業に反映されている点は良かったと思う。
- 先生が良かった。

5 本授業の成果と今後の課題について

本年度の授業では、受講者の構成が均一で、人数も3人と少なかったため、シラバス記載の内容を変更し、受講者の関心に沿うよう、より実務的、演習的な内容を取り入れた。このため、概ね評価は良かったと思われる。しかし、授業の満足度に関しては二人が評価4を記し、本授業さらには学校保健の重要性を認識させるには若干至らなかったと感じた。これより各論の内容を全体的な保健の位置づけ、保健活動の内容・理論とかみ合わせながら授業を進めることが今後の課題として考えられた。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評価実施日	平成 19 年 7 月 27 日		
授業科目名	スポーツ社会学研究	学期・曜日・時限	前 期 金 曜 日 1 時 限		
授業区分	1. 教職基礎科目 ②. 専門科目				
担当教員名	木 原 資 裕	回答者数	7 名		

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
[2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入]

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	4	2	1			
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	6	1				
3	授業の内容には一貫性があった。	4	2	1			
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	2	2	3			
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	4	1	1	1		
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	6	1				
7	授業の進む速さは適切であった。	3	2	2			
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	1	5	1			
9	受講生に授業への参加（質問，発言，討議など）をよく促した。	4	3				
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	4	3				
11	視聴覚機器の使用は適切であった。	6	1				
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。	5	2				
13	受講生に分かりやすく説明した。	4	3				
14	教員の声は聞き取りやすかった。	5	2				
15	板書の文字は見やすかった。	5	2				
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	5				
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	6	1				

<分 析>

「5 まったくそう思う」の評価数 71 (59.7%)

「4 かなりそう思う」の評価数 38 (31.9%)

「3 どちらともいえない」の評価数 9 (7.6%)

「2 あまりそう思わない」の評価数 1 (0.8%)

「1 まったくそう思わない」の評価数 0 (0%)

全体的に「5 まったくそう思う」「4 かなりそう思う」の評価数が、109 (91.6%) であり、まずまずの評価を得ている。ただ、「4. 教師の実践力の育成に役立つ内容であった。」に関しては評価が分かれており、私自身の授業への取り組みの工夫と試行錯誤が必要と考えている。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

受講者の自由記述と授業の満足度をまとめると以下のようなになる。

- ・スポーツに興味があったし、また教職に関連する講義だったから(満足度5)
- ・先輩に柔道・剣道・プロレスがテーマになると聞いていたので、期待を持ち受講した(満足度4)
- ・武道とはどういうものなのか。武道の意味(満足度5)
- ・柔道に興味があったので、学校で教える動機付けとなることを期待した(満足度5)
- ・現代のスポーツと武道の関連性や発展の仕方(満足度5)
- ・スポーツの変遷を通してどのようにルールや枠が変わったか(満足度5)
- ・武術から武道への歴史的経緯を明らかにしたい(満足度5)

満足度との関連で受講者の問題意識や期待をみてみるとほぼ問題意識や期待が充足できていたように思われる。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

受講者の自由記述とその評価をまとめると以下のようなになる。

- ・この授業においてレポートの書き方について学んだことが1番のためになった。
- ・レポートの内容・構成などについてよく勉強させてもらった。
- ・授業としては興味深い内容であったが、教師の実践力の育成に役立つかどうかは疑問である。
- ・問題意識や自分の考えをまとめるプロセスが役立つと思った。
- ・スポーツ武道を知ることは今後、授業を実践していく上でのよい予備知識となる。
- ・視聴覚機器を通して、理論だけでなく実際の動きを見ることができた。

今回の授業では、課題レポートに対して厳しい評価で対応しており、一定レベルに達していないレポートに対しては、コメントを提示し、再提出・再々提出をさせるようにした。このレポート指導が、実践力育成に役立つと評価した者と役立つかどうかは疑問と評価した者に分かれている。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点，改善してほしい点を具体的にお書きください。また，この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

良かった点としては「レポート指導」「問題意識を表現する実践力」との記述があった。また、授業に取り入れてほしい事項として「西欧諸国における武術との比較文化論的な視点」があり、今後、比較文化的な視点を大いに授業に取り入れていきたいと考えている。

5 本授業の成果と今後の課題について

今回の授業では、課題を2回出し、その評価を成績の最重要ポイントとした。また、課題レポートの内容で合格レベルに達していない者に関しては、コメントをつけ、再提出を義務づけた。1課題に対して、多い者で4回、少ない者でも2回の再提出となり、レポートの内容が深まり、レポート作成の意欲が高まったと思われる。

レポートのコメント作成等にかなりの労力が必要であるが、修士論文作成にもつながる重要な訓練と位置づけ、来年度もレポート指導の強化をしていきたいと考えている。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評 価 実 施 日	平成 20 年 2 月 15 日		
授業科目名	スポーツ社会学演習	学期・曜日・時限	前 期 金 曜 日 3 時 限		
授業区分	1. 教職基礎科目 ②. 専門科目				
担当教員名	木 原 資 裕	回答者数	6 名		

1 アンケート [1] の集計と分析について

〔 5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない 〕
〔 2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入 〕

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	2	3	1			
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	1	4	1			
3	授業の内容には一貫性があった。	4	2				
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	1	4	1			
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	2	3	1			
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	5		1			
7	授業の進む速さは適切であった。	5		1			
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	5		1			
9	受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。	4	2				
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	3	2	1			
11	視聴覚機器の使用は適切であった。	2		3			
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。	3	3				
13	受講生に分かりやすく説明した。	5		1			
14	教員の声は聞き取りやすかった。	5	1				
15	板書の文字は見やすかった。	2	4				
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	1				
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	3	3				

<分 析>

「5 まったくそう思う」の評価数 57 (56.4%)

「4 かなりそう思う」の評価数 32 (31.7%)

「3 どちらともいえない」の評価数 12 (11.9%)

「2 あまりそう思わない」の評価数 0 (0%)

「1 まったくそう思わない」の評価数 0 (0%)

全体的に「5 まったくそう思う」「4 かなりそう思う」の評価数が、89 (88.1%) であり、よい評価を得ている。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

受講者の自由記述と授業の満足度をまとめると以下のようなになる。

- ・ スポーツが社会的にどのような見方がされているか。(満足度5)
- ・ 剣道や柔道に関心を持っていたから(満足度5)

スポーツや日本の武道について、問題意識を持って受講していることが伺え、授業後の満足度も平均4.5であった。しかし、6名という少人数での授業であったことを考慮すると、さらに満足度をあげる授業展開を多く取り入れる工夫が必要であったと思う。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

受講者の自由記述とその評価をまとめると以下のようなになる。

- ・ 自分の知らないスポーツを知ることができた(評価4)
- ・ 自分のプレゼン能力の向上が課題だと気づいた(評価4)

平均評価4となっている。私自身、直接的に教師の実践力に役立つ授業内容とはなっていないと思うが、教育指導面で考えなければならない事に通じる授業内容をある程度理解してくれたと思われる。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

受講者の記述なし

5 本授業の成果と今後の課題について

今回の授業では、レポート発表を受講者全員が行い、その内容を成績評価の要件にした。内容的に不十分であれば、再発表および再々発表を行わせた。発表内容を互いに批評する時間を設け、授業の活性化を図ることがある程度できたと思う。

「教師の実践力の育成に役立つ内容」については、授業内容だけではなく、私自身がこの授業にたいする教える気力や教師としての構えの体現を受講生に見せることも重要ではないかと考えている。授業内容を含め、さらなる試行錯誤を実施したいと思う。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評価実施日	平成 19 年 7 月 24 日		
授業科目名	学校体育経営研究	学期・曜日・時限	前 期 火 曜 日 1 時 限		
授業区分	1. 教職基礎科目 ○ 2. 専門科目				
担当教員名	藤 田 雅 文	回答者数	1 1 名		

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
 [2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入]

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	8	3				
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	5	6				
3	授業の内容には一貫性があった。	8	3				
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	9	2				
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	6	5				
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	9	2				
7	授業の進む速さは適切であった。	7	3	1			
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	6	5				
9	受講生に授業への参加（質問，発言，討議など）をよく促した。	8	1	2			
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	7	2	2			
11	視聴覚機器の使用は適切であった。						11
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。	5	6				
13	受講生に分かりやすく説明した。	8	3				
14	教員の声は聞き取りやすかった。	8	3				
15	板書の文字は見やすかった。	5	5	1			
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	5	1			
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	7	4				

<分 析>

視聴覚機器を使用しないで講義を展開したため、項目11は削除して評価をしてもらった。

16項目の平均評価点は4.36～4.82で、総平均は4.59であることから、高い評価を得たと考えている。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

講義のねらいに添った問題意識をもつ意欲的な受講生であった。具体的な回答は以下の通りである。

- 1) 保健体育教師になるために必要な講義だと考えたから。
- 2) 体育主任の仕事の内容について知りたかったから。
- 3) 理論を学んでしっかりした体育経営をしたいから。
- 4) 体育授業における安全管理について学びたかったから。
- 5) 学校体育経営の現状と課題，理論を学びたかったから。
- 6) 今までの現場実践をふり返り，まとめるため。また，他県の先生方の実践を聞いたかったから。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について，その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

この項目の回答は，5が9名，4が2名であった。具体的な回答は以下の通りである。

- 1) 現職の先生方の発表で，授業以外での体育主任の仕事について理解でき有益であった。
- 2) 体育主任になった時に対応できる内容であったから。
- 3) 私が実践してきた以外にも，こんなにも体育主任の仕事があるのかと驚かされた。
- 4) きめ細やかに教えていただき，反省すべき点がありました。
- 5) 運動部や体育授業の実践について学ぶ機会になった。
- 6) 他校の年間計画は活用できると思った。体育施設の整備の仕方がよく分かった。
- 7) 体育主任の仕事の内容が明確に理解できた。
- 8) 現場に出てから生きて働く知識を得られた。
- 9) 法律や基本的なことをしっかりと教えていただき，体育経営の実践に役立つと感じた。
- 10) 内容がすごく具体的で，どのようなことをすれば学校体育がよくなっていくか理解できた
- 11) 学校の体育経営に関する知識や情報が豊富に得られた。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点，改善してほしい点を具体的にお書きください。また，この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

良かった点についての回答が多く寄せられた。要望に対しては，今後取り組みたいと考えている。具体的な回答は以下の通りである。

- 1) 話が分かりやすく，現場に近い内容だったのでよかった。
- 2) 内容に一貫性があり，分かりやすく現場で役立つ内容であった。
- 3) 現職教員の実践発表は，学部卒の院生や他県の現職教員にとっても興味深く，とても良かった。
- 4) 豊富な事例をもとに話をしていただいたので，とても参考になった。
- 5) 具体的な学校の体育経営の現状を知ることができ，実践につながる内容であった。
- 6) 体育施設管理を実地で経験してみたい。
- 7) このままでよい。
- 8) 現職教員の話を聞いたのが良かった。
- 9) いろいろな県や校種の体育について話が聞けてよかった。できれば高校やさらに多くの地域の実情について聞きたかった。
- 10) 受講生が発表する機会が多くあり，自分の体験と他の受講生の体験を比較することで，新たな発見があったりしてよかった。
- 11) もっと受講生に授業への参加を促してほしかった。

5 本授業の成果と今後の課題について

本年度の受講生は，小学校現職教員1名，中学校現職教員2名，学部卒院生7名，社会人院生1名であったため，小・中学校の体育経営に焦点をしばって講義を進めた。

講義の後半には，現職教員による学校体育経営の事例発表を毎年行っており，授業中においても各自の体験を話してもらうように心がけている。このような取り組みが「4.6」という高い評価の要因になっていると考えている。

なお，今後もビデオ教材などを準備し，よりよい講義に改善して行きたいと考えている。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

	評価実施日	平成 19 年 7 月 8 日			
授業科目名	スポーツバイオメカニクス研究	学期・曜日・時限	前 期	月 曜日	3 時限
授業区分	1. 教職基礎科目 (2.) 専門科目				
担当教員名	松井 敦典		回答者数	10 名	

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
 [2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入]

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	3	5	2			
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	1	5	3	1		
3	授業の内容には一貫性があった。	5	3				
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	4	5	1			
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	8	1	1			
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	6	4				
7	授業の進む速さは適切であった。	3	7				
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	4	3	2	1		
9	受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。	4	3	2	1		
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	1	4	4	1		
11	視聴覚機器の使用は適切であった。	4	4	2			
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。	3	5	2			
13	受講生に分かりやすく説明した。	3	7				
14	教員の声は聞き取りやすかった。	6	4				
15	板書の文字は見やすかった。	5	5				
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	3	2			
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	5	4		1		

<分 析>

本年度は受講生全員が生活・健康系（保健体育）コースに所属しており大学院1年次（M1）が9名、長期履修学生2年次（L2）が2名であった。保健体育を専門とする現職教員は2名であった。個々の受講生の興味や指向に合わせた授業が展開できるように心がけた。本年度は授業のプレゼンテーション資料を大幅に更新し、見やすく・判りやすい教材提示に務めた。授業中の反応も比較的良好であった。また、受講生によるプレゼンテーションや小実験も組み入れ、具体的・実践的な学習機会を確保した。しかし、本授業の内容や進行に合致した教科書類が選定できず、これに関する評価項目の改善が今後の課題となる。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

- ・ スポーツをしたり指導する場面で、活用できる知識を身につけたい。
- ・ 走・跳・投を基本とする身体の部分的な動きが、パフォーマンスを高めるためにどう関わっているかを知りたかった。
- ・ 運動に関わる動きを科学的に知り、動きに対しての疑問を理解できるようにする。
- ・ 現場に生かせるようにと、生徒に教える時を想定し、課題を置き換えて受講しました。
- ・ バイオメカニクスの専門的な知識を自分の体験等を用いて理解しようとした。
- ・ 様々な運動を表や計算式を使って細かく分析し、運動はどのように行われているかということの解明を学ぶことによって、効率の良い動きを学び取ろうと思った。

体育やスポーツの指導を実施する上で、それを支える理論的な学習を望む回答が多い。今までの教員養成の教育課程にあって、体育・スポーツの肝心な理論教育が十分とはいえない現状を反映しているようだ。受講生がこのような運動理論を求めることは、職業上当然のことである。教育機関としてこのような需要にしっかり応えていきたい。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

- ・ 体育で扱う運動種目は、そのメカニズムを教師が把握し、上手になるコツを的確に教える必要があるから。
- ・ 保健体育の授業だけでなく、学校行事など様々なところに活かすことができるから。
- ・ 靴の性能をプレゼンテーションすることは、競技に対して怪我や疲労の予防につながるものだった。
- ・ 日常生活にも使えるものがあり、すぐにでもできそうなものがあったから。
- ・ 授業で学んだ様々な知識が、スポーツの指導など、体育や部活動といった場面で活用できるものばかりだったから。
- ・ 運動を教授するとき、何となくこういった感じというような感覚的なことも大切であるが、もっと理論的に説明することができるようになる授業内容だったと思う。

授業内容を理解していればこそその望ましい反応と考えられる。反面、今まで受講生がこのような内容の学習機会に恵まれていなかったことも推察できる。しかし、

- ・ 物理的な計算式が多くて、現場では直接用いることは少ないかもしれない。
- ・ 内容が難しい。

という回答もみられ、応用する方法などについても言及する必要があるようだ。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

- ・ 分かり易く、本当に楽しく学ばせていただきました。
- ・ 調べてきたことを全員が発表するという類の宿題が多く、学生が学習したことを実感できる内容だった。
- ・ 身近なことを違う視点から見て、いろいろ気づくことができたこと
- ・ プレゼンテーションが苦勞した分、これからも取り入れていくと教師の実践力の育成につながるのではないかと思った。
- ・ 自分の体験を通して学ぶことができ、身近なものを用いて取り組むことができた。
- ・ コンピュータの利用が苦手な自分にとって、プレゼンテーションを駆使されたこの授業はとても参考になりました。
- ・ いろいろな種目について役立つ情報を提供してほしい。
- ・ 私は授業中一度も発言する機会がなかった。

ここ数年来、一方的に講義を聴かせる方法を改め、受講生が自ら学びそれを発表する形式の機会を増やしている。授業の進行は一時停滞するものの、受講生の獲得した知識を確認し、達成感を高める作用があるようだ。全体計画に支障がない範囲で、このような形式を確保していきたい。

5 本授業の成果と今後の課題について

受講生には、スポーツや体育の指導に活かすための身体運動の理論を学びたいという欲求や熱意がみられる。それは職業・職責上の理由から生ずるものである。現職教員や将来の教員を多く受け入れる本学にあって、そのような期待に答えるカリキュラムを整備しその授業を実施することは、当然かつ必要なことである。

反面、身体運動の教育に関するプロフェッショナルである受講生の、運動理論に関わる知識や理解力が、人によっては十分で無い場合も多い。それに気づき、理論研究やその応用をするためのきっかけとしても、本授業はそれに貢献できると考える。

今後は、受講生の受講の目的や保健体育科教員にふさわしい知識と理解の度合いを考慮し、授業内容と方法をさらに改善し充実させていきたい。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評価実施日	平成 19 年 7 月 26 日		
授業科目名	スポーツ・トレーニング研究	学期・曜日・時限	前期	木曜日	3 時限
授業区分	1. 教職基礎科目 ○ 2. 専門科目				
担当教員名	南 隆尚	回答者数	14 名		

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
 [2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入]

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	7	6	1			
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	8	3	3			
3	授業の内容には一貫性があった。	9	3	2			
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	9	5				
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	10	2	2			
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	11	3				
7	授業の進む速さは適切であった。	8	5	1			
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	7	4	3			
9	受講生に授業への参加（質問，発言，討議など）をよく促した。	5	2	3	3	1	
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	5	3	5			1
11	視聴覚機器の使用は適切であった。	6	6	1		1	
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。	8	3	2		1	
13	受講生に分かりやすく説明した。	8	4	2			
14	教員の声は聞き取りやすかった。	11	1	2			
15	板書の文字は見やすかった。	7	2	3	1		1
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	5	3			
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	6	7	1			

<分 析>

問3「授業の内容には一貫性があった」や問8「受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。」の評価が概ね「5」「4」の評価を頂いてる点から、授業の内容については学生の要望に対応していたと考えられる。また問17「この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。」では「5」が6名、「4」が7名と例年より低い評価であったが、問16に見るように「授業に主体的・積極的に取り組んだ。」も半数で来年以降改善点としたい。またプロジェクターの不備等もあり操作方法で改善が必要である。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが、具体的に書きください。

<分析>

この回答のほとんどが「現場で生かしていくためのトレーニングの知識と技能の習得」「トレーニングの具体的な計画と方法・内容」「トレーニング怪我や応急処置」が受講理由であった。

授業全般にわたって競技スポーツのためのトレーニング情報を配置したが、授業の前半、解剖学や運動生理学、バイオメカニクスなどのトレーニングに関わる学際的領域に話が及ぶ事も多く、一部学生の要望に応えることができなかった。

実技や討議を含めた演習形式授業展開を行った方が学生の要望に応えられることもある。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的に書きください。

<分析>

授業内容として。競技スポーツを対象と授業を展開したこともあり、保健体育科の授業より、運動クラブ活動における実績的な知識を習得できたとの意見が多かった。こちらもその点を意識して、テーピングや栄養、適性年齢等に触れたことが、「役立った」との評価に繋がったものとする。しかし、一部競技に特化しすぎた面も否めない。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

大きく3つの要望があった。まずは「講義の授業とはいえ、実際に身体を動かす演習形式の授業にしてほしい」。これは実際に身体で理解できることもあり、実際に自分がまずやってみることで、より具体的に児童・生徒に伝えることが出来るだろうとの期待からの提案である。

次に問9「受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。」で評価が分かれたように、学生の発言機会が少なかったためと考えられる。毎時間からの質問を紙に書いて提出してもらい、次週に、受講生全員にフィードバックが必要と思われる質問については必ず返答した。この方法が良かったと応える受講生と毎時間実技時間を設けることが良いとする者がいた。来年は学生の発言・発問の時間を十分とれるよう注意したい。

最後に、授業内容が難しいとの回答もあった。保健体育科以外の受講生も約半数を占め、その専門的な知識や専門用語について戸惑いを感じたようであった。この点もより配慮が必要と考える。

5 本授業の成果と今後の課題について

概ね授業評価は良好であったと考える。しかし、例年に比べ授業評価が落ちているように感じる。特に今年度はプロジェクターの操作が上手く以下なったことが2、3度あり、授業方法について十分な準備ができていなかったように思う。

また、スポーツの内容を取り上げた授業であるため、受講生も演習形式の実際に身体を動かす体験することに期待を寄せている。後期に演習の授業があるものの、その内容はテーピングや救急法が中心となる。よりトレーニング場面に近い実際のトレーニングを実施・体験することも取り入れることも課題となる。

また学生からの初門や意見の徴集等、一斉講義形式授業の割合を減らすことも考える必要がある。特に体育以外の専攻学生が如何に授業の中で、存在感を示し、現場での指導力・実践力を育成するかが今後の課題である。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評価実施日	平成 19 年 7 月 24 日		
授業科目名	情報処理研究	学期・曜日・時限	前期	火曜日	4時限
授業区分	1. 教職基礎科目 ②. 専門科目				
担当教員名	菊地 章	回答者数	6 名		

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
 [2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入]

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	2	4				
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	3	2	1			
3	授業の内容には一貫性があった。	3	3				
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	4	2				
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	2	3	1			
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	3	3				
7	授業の進む速さは適切であった。	2	4				
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	3	3				
9	受講生に授業への参加（質問，発言，討議など）をよく促した。	3	3				
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	3	3				
11	視聴覚機器の使用は適切であった。	4	2				
12	配布された資料・文献等は，授業内容を理解する上で役に立った。	4	1	1			
13	受講生に分かりやすく説明した。	4	2				
14	教員の声は聞き取りやすかった。	4	1	1			
15	板書の文字は見やすかった。	4	2				
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	1				
17	この授業は，自分自身にとって満足できるものであった。	4	2				

<分 析>

概ね評価が高く、学生に好感を持たれる授業であったものと思える。特に最後の項目として、受講者自身に満足できるとの評価が多かったことは好意的に評価されたものと思える。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

「コンピュータの歴史や仕組みを知りたい」、「情報処理の歴史と今後を把握したい」、「情報機器の歴史を知りこれからの情報教育を考える機会を得たい」、「中学校で活かせる内容を学びたいと思った」の記載があり、授業内容と希望が合致していると思える。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

「コンピュータの歴史や仕組みがよく分かった」、「具体的な内容で専門知識が高まった」、「現在の最新テクノロジーが一体どんな意味や意義を持っているのか眺める視点を得ることができ、教育に活かすことができる」、「コンピュータの授業といえば扱い方を学ぶことが多いが、この授業ではコンピュータの発達の歴史を学ぶことができ、自分の知識を広げることができ、学んだことを子供たちに教えていきたいと思った」のコメントがあった。受講者は専門的な視点と教育的な視点の両方から見て教育実践力に役立つ内容を必要としていることが把握できた。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点，改善してほしい点を具体的にお書きください。また，この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

「実際の道具を使い非常に役立った」，「現物を多く見せて貰い，大変分かりやすく興味を持つことができる授業であり，ありがたく思っている」とのコメントがあった。現職教員から見て実物の紹介を伴った授業は教育現場の活動との関連性があり，授業に親近感を抱いたようである。

5 本授業の成果と今後の課題について

今年度の受講生は前向きな学生が多く，授業自体も順調に進んだ傾向がある。特に，計算機器の変遷を教える際に古いコンピュータや手回し計算器を実際に操作しての情報処理の概念の理解は逆に新鮮味があったようである。授業内容はかなりの量であり理解不足に陥る危険もあるが，事例を伴った学習のため理解が深まったようである。また，紀元前からの計算機器の紹介も外国出張の事例を含めながら紹介したため他人事ではなく親しみが湧いたようである。ただ，本授業は大量の教具を使用するため，教具の運搬が大変であり，実験室の確保等の教育環境面での改善が期待される場所である。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評 価 実 施 日	平成 19 年 7 月 27 日		
授業科目名	エネルギー工学研究	学期・曜日・時限	前 期 金 曜 日 2 時 限		
授業区分	1. 教職基礎科目 ②. 専門科目				
担当教員名	木 下 凱 文	回答者数	4 名		

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
 [2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入]

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	3	1				
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	4					
3	授業の内容には一貫性があった。	3	1				
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	4					
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	3	1				
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	4					
7	授業の進む速さは適切であった。	4					
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	3	1				
9	受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。	3	1				
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	3	1				
11	視聴覚機器の使用は適切であった。	4					
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。	3	1				
13	受講生に分かりやすく説明した。	4					
14	教員の声は聞き取りやすかった。	3	1				
15	板書の文字は見やすかった。	2	2				
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	1				
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	4					

<分 析>

受講生からの評価の平均点は5点満点で4.84であった。特に3以下の評価が皆無であった。この評価点から受講生はこの講義に大変満足していることが判る。毎年4.5以上の評価が得られているが、それに満足することなく、授業内容等を見直し、新しい教材を用意して、その年度の受講生が求めるものを聞き、講義を行った結果が現れたものと考えられる。ただ、アンケート15での板書については反省する必要がある。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

受講生からの回答

1. 先生の持っている知識を少しでも自分のものにしたいと思い努力した。流体については初めて聞く内容であり、すばらしい内容であった。
2. エネルギーの分野に興味があったので新しい技術について知りたいと思っていた。
3. エネルギーの分野に興味があったので技術について勉強したいと思いました。
4. タービンの回し方

受講生はエネルギーの分野に大変興味を持ち、それについての新しい技術について知りたい、勉強したいと思っていることが判った。本講義ではまず最初にエネルギーの現状と未来について話し、その後、エネルギーとは何か、また新しいエネルギー技術や省エネルギー技術、真のエネルギー利用とは等について、受講生に教材を用いて講義を行うことにした。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

受講生からの回答

1. エネルギー変換や省エネルギー、バイオマスエネルギー等については中学校の技術の時間でぜひ子供たちに話したあげたい内容であり、自分が得た知識を子供たちに伝えたいと思います。
2. これからのエネルギー教育について学ぶことができたから、生徒に教える時のポイントを教えてくれた。
3. これからのエネルギー教育について学ぶことができたから。
4. ものづくりを教育の現場で実際に使える内容であった。

アンケートに対する回答から明らかなように、エネルギー技術だけでなく、教育現場でのエネルギー教育に大変役立つ講義内容であり、大変満足していることが判る。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点，改善してほしい点を具体的にお書きください。また，この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

受講生からの回答

1. 特になし
2. 特になし
3. 特になし
4. よく効くエアコンが欲しい。

受講生からは特に改善して欲しいとの要望はなかったが、今後とも今年度の講義内容に満足することなく、さらに改善を。加えていきたい。

5 本授業の成果と今後の課題について

受講生からの評価点、アンケートに対する回答から明らかなように、本講義に大変満足していることが判る。今後ともこの評価に満足することなく、例年通り、更なる努力を重ねて行く所存である。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評 価 実 施 日	平成 20年 2月 21日		
授業科目名	画像情報処理研究	学期・曜日・時限	後期 木曜日 2時限		
授業区分	1. 教職基礎科目 2. 専門科目				
担当教員名	伊藤陽介	回答者数	2名		

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
 [2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入]

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	1	1				
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	1	1				
3	授業の内容には一貫性があった。	1	1				
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	1	1				
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	2					
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	2					
7	授業の進む速さは適切であった。	2					
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	2					
9	受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。	2					
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	2					
11	視聴覚機器の使用は適切であった。	2					
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。	2					
13	受講生に分かりやすく説明した。	1	1				
14	教員の声は聞き取りやすかった。	2					
15	板書の文字は見やすかった。	2					
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	1				
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	1	1				

<分 析>

今年度は受講者が2名と少なく客観的な授業評価は難しいが、画像情報処理の理論的な面を理解しやすい図を交えた解説と、実習用プログラムを用いて具体的な処理例を示すことにより、授業概要に示した目的を達成できたと推測できる。また、教師の実践力の育成に関する内容の評価では、専門的な内容と学校教育で取り扱う内容の関連を詳細に説明することによって高い評価を得ている。

今年度から新たな教材としてC++による画像処理プログラム・ライブラリを導入したが、受講生にとってやや難しく感じた面もあるようなので、授業の導入部においてC++の初歩的な内容を解説する必要がある。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

受講生からの回答は、画像情報処理の原理に関する探究心、画像情報処理の適用範囲、高等学校の情報科における画像情報の取り扱いなどであり、本授業の目的である画像情報処理に関する基本事項の理解と合致している。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

受講生からの回答は、学校教育で指導する画像情報の増加や、現場での教材化を踏まえた内容を考えることができ、新学習指導要領に対応する学習内容を授業実践する場合のヒントを習得などであった。

本授業では、画像情報の加工に関する操作方法を取り使うのではなく、画像情報の本質的な特徴や処理方法の原理を取り扱ったため、直接的に教師の実践力の育成に役立つものではなかった。しかし、教師となって画像情報を取り扱う場合、単にその処理を行う操作方法を教える場合でも、その本質を知っていることによって、より教師としての実践力がつくことを受講者は理解できていると推測できる。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点，改善してほしい点を具体的にお書きください。また，この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

本授業の良かった点として，授業中に実際に画像情報処理を実行し，その結果を比較・考察し議論する時間を取ることによって理解が進んだことなどがあつた。改善点に関する指摘はなく授業内容ならびに授業方法について問題は少ないと考えられる。

5 本授業の成果と今後の課題について

本授業によって，情報科学の一分野である画像情報処理に関する基礎的な知識と処理アルゴリズムを授業と演習などを通して，受講生は深く理解したと考えられる。しかし，画像情報を取り扱うためのC++などのプログラム言語に関する予備知識がない受講生にとっては，概念をかなり詳細に解説したとしても，本授業で取り扱った内容のすべてを習得できなかったかも知れない。大学院生なりに自宅学習などで自己フォローを期待したい。

今後とも，身近になった画像情報の構成と処理方法に関する課題を中心にして，教師としての実践力を育成するという観点から，単に画像情報に関する専門的な知識のみを教授するにとどまらず，専門的な内容に基づいてどのような形で教師としての実践力と結びつくかについても折に折に触れる必要がある。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評価実施日	平成 19 年 7 月 27 日
授業科目名	木質材料加工法演習	学期・曜日・時限	前期 金曜日 4 時限
授業区分	1. 教職基礎科目 ②. 専門科目		
担当教員名	米延仁志	回答者数	6 名

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
 [2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入]

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	6					
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。						
3	授業の内容には一貫性があった。	6					
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	6					
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	6					
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	6					
7	授業の進む速さは適切であった。	6					
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	6					
9	受講生に授業への参加（質問，発言，討議など）をよく促した。	6					
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	6					
11	視聴覚機器の使用は適切であった。						
12	配布された資料・文献等は，授業内容を理解する上で役に立った。	6					
13	受講生に分かりやすく説明した。	6					
14	教員の声は聞き取りやすかった。	6					
15	板書の文字は見やすかった。						
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6					
17	この授業は，自分自身にとって満足できるものであった。	6					

<分 析> 本演習では受講者がそれぞれに全く異なる題材の制作を行った。個々の受講生の進捗と制作手法を常に見極めながら、助言と相談および制作方法の指導を行ったことで、講義を提供する側としては非常に“きつい”仕事となった。しかしながら今回の評価結果は受講生の満足度が極めて高いことを示しており、今回の授業実践方法は正しかったと確信している。また本講義終了後も受講生がものづくりの方法についての助言や自らの制作発表への招待などで研究室を訪ねてくるようになったことは非常に喜ばしい。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分析>本講義では、木材加工に関わる基礎知識を座学として提供せず、個々の受講者が演習中にその必要性和直面した場面でものづくりの技能の向上に役立つような説明をこころがけた。これはアンケートの中で受講者から具体的に挙げられているニーズ（「実際のものづくりを体験したい」、「制作したいものが会ったので受講した」、「実践力の育成」など）と合致するものと思われる。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分析>回答として「実践的なものづくりが行われた」「想像以上に良い作品ができた」、「具体的な実践力身についた」などが挙げられた。アンケート項目2に関連して、実際のものづくりを通して、単なる知識だけではなく、ものづくりの技能面と直接関連した演習内容を提供できたと考えている。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点，改善してほしい点を具体的にお書きください。また，この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析> 「予算が増えると良い機材が購入でき、さらに良い制作に励むことができる」との回答が1件寄せられた。現状としては演習室の面積や基盤整備予算の確保が難しいが、より多彩な加工具、加工機械を購入して、実習環境の整備に努力していきたい。

5 本授業の成果と今後の課題について

非常に高い評価を得たと考えている。受講生が全て異なる制作課題を完成させることができたことは本授業の大きな成果であり、細やかな指導を行う上で困難を伴うが今後とも続けていきたい。また課題としては、演習室の環境整備を行う必要があることが挙げられる。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評 価 実 施 日	平成 19 年 7 月 31 日		
授業科目名	家庭科教育学研究	学期・曜日・時限	前 期 木 曜 日 3 時 限		
授業区分	1. 教職基礎科目 ②. 専門科目				
担当教員名	鳥 井 葉 子	回答者数	3 名		

1 アンケート [1] の集計と分析について

[
5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない
]
2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	1	2				
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	2	1				
3	授業の内容には一貫性があった。	2	1				
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	2	1				
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	2	1				
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	3					
7	授業の進む速さは適切であった。	3					
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	3					
9	受講生に授業への参加（質問，発言，討議など）をよく促した。	3					
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	2					1
11	視聴覚機器の使用は適切であった。	1		1			1
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。	2	1				
13	受講生に分かりやすく説明した。	3					
14	教員の声は聞き取りやすかった。	2	1				
15	板書の文字は見やすかった。	1					2
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	1				
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	2	1				

<分 析>

受講生が3人と少なかったため、受講生は授業に主体的・積極的に取り組んでいた。

授業概要にはテキストを示していたが、今回は一部のみ抜粋した資料を参考文献として配布して授業を進めた。また、少人数のため授業はゼミ形式で行い、視聴覚機器や黒板は活用しなかった。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

受講生の記述は次の通りであった。

- ・「家庭科の教員になるために、知識だけでなく、どのような教養と姿勢が大切かを学びたかった。」
- ・「家庭科の教員になるために必要な知識を得たいと思い。」
- ・「家庭科が不得意分野であり、先生のお考えにふれることで家庭科の教育的価値について理解と関心を深めたいと思ったから。」

<分 析>

本授業の目的は「家庭科教育の現代的課題を把握し、その課題達成のための教育研究方法を理解し、研究課題を設定して考究する。また、その成果を発表・討議することにより家庭科の教育実践力を高める。」である。

過年度までの受講生は、家庭コース修士2年課程の家庭科教員免許取得者のみであったが、今年度の受講生は家庭コース外の大学院生・家庭コース修士3年課程の大学院生・家庭コース修士2年課程家庭科教員免許取得者であった。各受講生の既習内容の違いを背景に、本授業への期待にも違いがみられる。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

受講生の記述は次の通りであった。

- ・「どのような教育実践がなされているか実践例を研究でき、その例を発展させて自分のオリジナルのよりよい授業を組み立てられそうだから。」
- ・「具体的な指導をきくことができ将来に役立ちそうだからです。」
- ・「院生の関心のある分野について適切な助言と指導によって、教師の実践力の育成を図られた内容については申し分のないものであった。示された論文や実践例は数多く、充実していた。」

<分 析>

今年度は、家庭科教育実践事例の分析という共通の問題意識に基づいて、各受講生が研究課題を設定し、収集した授業事例について考察を進めたために、今後の授業実践に役立ちそうだという意識を受講生が持ったと思われる。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

受講生の記述は次の通りであった。

- ・「修論のテーマに添っていて、意欲的に取り組みました。」
- ・「私は他の専門分野であり、家庭科の分野についての認識が甘かったものの、前期をじっくりかけて丁寧な指導を受けられた。この分野は広いので、全体像については、もっと自分でリサーチしておくべきだったと反省している。」
- ・「特になし」

<分 析>

家庭コース外の専攻の受講生にとって、家庭科教育学の全体像を理解できないままに授業が進行していったことが窺える。家庭科教育学の基本的な内容を位置付ける必要があったと反省している。

5 本授業の成果と今後の課題について

今年度は受講生3人という少人数だったために討議しやすく、受講生も主体的に取り組んでいた。

作年度までの家庭コース受講生のみを対象とした内容と同じように授業を進めたため、はじめて今年度受講がみられた家庭コース外の大学院生にとって理解しにくい点があったと思われる。来年度は基本的な家庭科教育学に関する内容を位置づけた上で授業を進めたい。

各受講生が設定した家庭科教育研究課題を追求する今年度の活動では、参考文献が少なかったことが要因にあげられるが、かなりの期間を要し、結果として研究発表の場を授業時間内に設定できなかったことが反省点である。

来年度は、第1週の授業で家庭科研究課題の設定と追求に関する進行計画を立案する場を設け、課題追求を段階的に進展できるようにし、各受講生の研究内容の改善・充実のために各課題研究の成果発表と討議の場を確保するように努めたい。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評 価 実 施 日	平成 19年 7月 30日
授業科目名	生活経営学研究	学期・曜日・時限	前期 月曜日 4時限
授業区分	1. 教職基礎科目 ② 専門科目		
担当教員名	渡邊 廣二	回答者数	4名

1 アンケート [1] の集計と分析について

(5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない)
 (2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 --- 未記入)

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	2	2				
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	—	—	—	—	—	
3	授業の内容には一貫性があった。	2	2				
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	2	1	1			
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	1	2	1			
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	4					
7	授業の進む速さは適切であった。	3	1				
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	2	2				
9	受講生に授業への参加（質問，発言，討議など）をよく促した。	2		2			
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	2	1	1			
11	視聴覚機器の使用は適切であった。	—	—	—	—	—	
12	配布された資料・文献等は，授業内容を理解する上で役に立った。	2	1	1			
13	受講生に分かりやすく説明した。	2	2				
14	教員の声は聞き取りやすかった。	3	1				
15	板書の文字は見やすかった。	3	1				
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	3				
17	この授業は，自分自身にとって満足できるものであった。	1	2	1			

<分 析>

生活経営学研究の授業では，生活経営の本質と方法，家計や家事労働の家庭管理，および消費者問題等の現代的課題という3つの内容で説明した。

用意した内容が多く，したがって説明に多くの時間を要したので，授業中に質問したり受講生の発言を促すなど，受講生に授業への参加を促す点で不十分であった。それにもかかわらず，受講生は意識を集中して授業に積極的に取り組んでいるように見えた。

次年度は，説明する内容を少し減らして，受講生に質問したり，受講生の発言を求めて，受講生が参加できる授業にしたいと思う。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

受講生の問題意識や期待をみると、「消費者問題に対して、知識が浅かったので、受講した」、「消費者教育に関連する授業内容であったので受講した」、「生活設計や、現代社会で問題視されている消費者問題について、家庭科教育でどこに重心をおくかを学ぼうと思った」、「現代の社会生活に役立つような具体例や対応策など知りたいと思った」、とあるように、消費者問題と消費者教育の内容に対する期待が大きい。

次年度は、消費者問題と消費者教育の内容のウェイトをやや高めたいと思う。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

5の評価の理由は、「具体的な資料の配付など分かりやすい内容であったから」、「授業で話されたことが教採の問題にも出題されており、これらを授業で取扱い、子どもに消費について教えることは大切だと実感したから」

4の評価の理由は、「近年、生活経営に関する学力は現場で必要だと思ったから」

3の評価の理由は、「資料や事例を多く出してくれたが実践するには量が多く、具体的にどうすればよいか迷うところがある」

多くの内容について、多くの参考資料を配付した。授業内容の理解に役立ってだけでなく、受講生自らが授業をするときに教材開発の参考資料として活用してもらえればありがたい。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

「もう少し、個人の意見の発表などがあればいいと思った」という意見があった。この点は、今回のこの授業全体を通じた問題である。先にも記述したが、この授業は内容が多くて説明に時間を要したため、受講生に授業への参加を促すという点で不十分だった。次年度は改めたい。

5 本授業の成果と今後の課題について

本授業の目的は、「家庭科の教員に必要な生活経営に関する専門的知識を深めること」（シラバス授業の目的及び主旨）である。本授業では、第1に生活経営の本質、その対象および方法等の生活経営の方法論、第2に家計、家事労働および生活時間の家庭管理論、そして第3に消費者問題等の現代的課題という3次元で生活経営論を説明した。本授業を受講することにより、生活経営に関する家庭科の授業を行うのに必要な専門的知識を習得することができたと思う。

今後の課題としては、一つは、各授業時間内に説明する事項を精選し、ゆとりのある授業を構成することにより、受講生が授業に参加することができるようにすることである。もう一つは、受講生からの期待が多い消費者問題と消費者教育の内容をもう少し増やすことである。本授業の目的と授業計画全体の整合性もあるので大きくは変えられないが、さしあたり次年度は、現代的課題の「少子化問題」1時間分を消費者問題に振り替えたい。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

	評価実施日	平成 19 年 7 月 30 日			
授業科目名	住生活学研究	学期・曜日・時限	前 期 月 曜日 2 時限		
授業区分	1. 教職基礎科目 ②. 専門科目				
担当教員名	金 貞均	回答者数	2 名		

1 アンケート [1] の集計と分析について

5 [まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
 2 [あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	1	1				
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	1	1				
3	授業の内容には一貫性があった。	1	1				
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	1	1				
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	1	1				
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	2					
7	授業の進む速さは適切であった。	1	1				
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	2					
9	受講生に授業への参加（質問，発言，討議など）をよく促した。	1	1				
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。						
11	視聴覚機器の使用は適切であった。	1	1				
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。	1	1				
13	受講生に分かりやすく説明した。	1	1				
14	教員の声は聞き取りやすかった。	2					
15	板書の文字は見やすかった。		1				1
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	1				
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	1	1				

<分 析>

受講生2名の少人数授業で評価しにくい状況とは言えるが、互いに真摯な態度で授業に望んでいたため、上記の評価は一人ひとりのありのままの評価として受け止めたい。受講生の本授業に対する希望は毎年学生の専攻により異なり対応が難しいところであるが、住生活能力の向上は授業実践力にもつながるといった考えを持って授業を行った。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

○受講生側から

- ・ 住生活について知識を深めたいと思って受講した。
- ・ 住居の歴史や空間の捉え方を考えるきっかけになればと思って受講した。

○意見に対して

受講生は住まいや住生活の全般に関して関心を持って受講している。受講生の中には学部で住居学を勉強していない人もおり、基本的知識に対する要望がまずベースにある。住教育の実践方法などに関心が高い学生がいる反面、教育的側面には関心が無く、自分自身の専門的素養を高めることが主な受講目的であるなど、受講生の個人差に対応しながら授業内容を工夫する必要がある。今年度は特に空間の理論と計画をテーマに取り上げ、時間軸から見た空間の変遷史や空間計画を通して理論と考え（空間像）を具現化した。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

○受講生側から

ペーパークラフトで家をつくったのが楽しかった。今後生かせそうと思った。

○意見に対して

大学院の講義型授業で実習課題をこなすのは時間関係上大変難しい面もあるが、たとえば住まいの形や空間を説明するよりは、模型をもって制作し、見て感じるのがより効果的である。受講生の満足度も高いので、今後もこうした実習・実践課題を取り入れたい。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

○受講生側から

- ・ 実例を教えてほしいと思いました。
- ・ 間取りの移り変わりや時代ごとに変化していく様子がとても勉強になった。また間取りを自分の手で書くことで見えてくるものがあったので、このような実習も大切にしていきたいです。

○意見に対して

実例とは授業実践例であると思うが、15回の授業を通して現代社会の居住問題を時間軸と空間軸で分け考究し、その上授業における実践例まで取り上げることはなかなか時間上の制限でむずかしい。各テーマ別話題を実際の生活に生かし、授業実践に結び付けるようにヒントを与えアドバイスしたつもりであるが、充分ではなかったようだ。今後授業をより工夫し、実例をもっと紹介できるようにしたい。

5 本授業の成果と今後の課題について

本授業は「どう住むかを考えることは個人・家族の生き方を考えること」という本質から出発し、今日の住まいをめぐる状況と問題に向かわせ、社会や環境問題と関連させながら解決方法を探ることを中心に行われた。居住問題は家族と社会の変化や環境問題などに関わることが多く、学際的視点が求められる。授業を通して住まいをめぐる様々な問題や見方を学び、また意見を述べ合うことで知識の統合化をはかることができた。

前年度に引き続き授業を通して、①住まいをめぐる様々な問題や見方を学び知識を確かなものにしたこと、②様々な居住問題を身近な問題として認識し、住意識の向上がみられたことを成果として捉えたい。授業から得た知識と知見が生活に還元され、住生活の向上（生活実践力）や住教育実践力につなげることができれば学問としての役割は果たせたと考える。

今後の課題として、各テーマ別に捉えた話題が授業実践力に結び付けるように、関連教材や授業実践例をもっと紹介していきたい。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評価実施日	平成 19 年 7 月 27 日		
授業科目名	食生活学研究	学期・曜日・時限	前 期 金 曜 日 4 時 限		
授業区分	1. 教職基礎科目 ②. 専門科目				
担当教員名	西川和孝、前田英雄		回答者数	6 名	

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
[2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入]

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	3	3				
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	4	2				
3	授業の内容には一貫性があった。	3	3				
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	3	3				
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	2	2	1			1
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	5	1				
7	授業の進む速さは適切であった。	4	2				
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	5	1				
9	受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。	4	2				
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	4	1	1			
11	視聴覚機器の使用は適切であった。	3	3				
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。	4	2				
13	受講生に分かりやすく説明した。	5	1				
14	教員の声は聞き取りやすかった。	4	2				
15	板書の文字は見やすかった。	5	1				
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	2				
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	4	2				

<分 析>

受講者6名（留学生2名を含む）から分析した学生評価の単純平均値は4.6であり、前年度の単純平均値4.2より上昇した。

・ 評価項目5., 10., に関して受講生の一部から「3. どちらともいえない」という評価があったが、それ以外の項目に関しては「5. まったくそう思う」、「4. かなりそう思う」という評価であった。本年度の本授業科目においてはオムニバスの授業展開が出張や会議等の関係で2人の授業がモザイク的に行ったためにこの評価につながったのではないかと推論している。また、4. の項目の評価については、前年度と同様、実習等を入れた講義内容と最新の食物関係の基礎的な授業内容とのギャップを狭める授業展開がこの評価に関係していると思われる。

・ 他の項目については、概ね担当教員が意図した講義内容が評価されていると考える。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが、具体的にお書きください。

<分 析>

下記のような意識をもって学生は受講したようである。

- ・ 食生活に興味をもっているため、食に対する知識や理解を深めるため。(2名)
- ・ 中学校や高等学校の教育現場に立った時に役立つような知識を得るため。

これらの意見からこの授業により教科の専門的な知識を得るために受講しているものが大半で、シラバスで案内している内容にそった受講意識であった。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

回答例としては下記のようにであった。

- ・ 受講前には栄養のバランスということは気になっていなかったが、この授業からその重要性を教わった。(2名)
- ・ 家庭科の授業を行うために必要な知識について学ぶことができた。(2名)
- ・ 授業の内容を深めるための内容や実習実験を取り入れてくれたから。
- ・ カロリー計算をしたり、簡単な実習をしたりすることは実践で使える内容だった。
- ・ 間違っって知っていたり、名前しか知らなかったことをたくさん知ることができ、知識が身についた。

この授業が実際の教育実践にどのようにつながるかは未知数であるが、概ね授業内容を評価していると考えた。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点，改善してほしい点を具体的にお書きください。また，この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

回答例としては下記のようにであった。

よかった点：

- ・少人数であったので質問しやすく授業の雰囲気よかった。また，一人ひとりの状況を確認しながらの進行だった点がよかった。（4名）。
- ・大学構内のヤマモモを使って調理実習を取り入れたこともよかった。
- ・栄養素，食事バランス，生活習慣病など私たちの健康にかかわる内容がたくさん入っているのがよかった。
- ・バランスガイドの学習，実習等，終わってみればあつという間の15週で，有意義な授業だった。

改善点：

- ・特になし。

5 本授業の成果と今後の課題について

成果

かなり積極的な評価を得たのは，実習や実験等を組み合わせた授業展開である。体験的に授業を行うことの重要性が改めて認識された。この授業形式は次年度も継続する予定である。

課題

- 1) 学部授業で専門的知識を習得していない留学生に授業内容をどのレベルで教授するかを検討する必要がある。
- 2) 視聴覚機器，資料の配付，参考書の有効な使用方法については，今後さらに検討していきたい。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評 価 実 施 日	平成 19 年 7 月 31 日		
授業科目名	衣生活学研究	学期・曜日・時限	前 期	火曜日	2時限
授業区分	1. 教職基礎科目 ②. 専門科目				
担当教員名	福井 典代		回答者数	2 名	

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
 [2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入]

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。		2				
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	2					
3	授業の内容には一貫性があった。		2				
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	2					
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。		1	1			
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	1	1				
7	授業の進む速さは適切であった。	1	1				
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	1	1				
9	受講生に授業への参加（質問，発言，討議など）をよく促した。	1	1				
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	1	1				
11	視聴覚機器の使用は適切であった。	2					
12	配布された資料・文献等は，授業内容を理解する上で役に立った。	2					
13	受講生に分かりやすく説明した。	2					
14	教員の声は聞き取りやすかった。	2					
15	板書の文字は見やすかった。		1				1
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	1				
17	この授業は，自分自身にとって満足できるものであった。	2					

<分 析>

本授業科目は家庭科の専門科目のため，所属する家庭科コースの学生の受講が多い。本年度は2名
 のみの受講となり，授業評価としてまとめるのは困難である。傾向としては，おおむね受講生にとっ
 てわかりやすい授業であったといえる。しかしながら成績評価の方法について若干の不満があったこ
 とが伺える。授業の最初と授業の途中において繰り返し説明したことがうまく伝わっていなかった。
 次年度において授業評価の方法について理解できるまで繰り返し説明していきたい。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

- ・ 「衣」についての知識が浅く、勉強したいと思ったから。
- ・ 衣に対してスペシャリストになりたいと思って…。

他大学からの進学者の場合、被服に関する知識のばらつきが大きく、授業内容をどのようにするかについて悩む。第1回目の授業時に今まで受けてきた被服の学習内容を聞き、なるべく重複しないように工夫している。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

- ・ 将来教壇に立ったときに役立つ具体的な実験ができ、また、データ処理の勉強もでき、今後活用していけそうだから。
- ・ 実践的な実験ばかりで現場でもすぐに使えるものばかりだったから

今年度の授業内容として、前半部分をアンケート調査の分析方法のうち最低限知っていて欲しい内容について教示した。後半部分は、教育現場で実際に活用可能な衣生活に関する実験を行い、簡単な実験の手法と、衣生活の基本的な知識を身に付けてもらった。例年より盛りだくさんの内容となったため、授業時間に追われる部分があったにもかかわらず、実験についての感想が寄せられた。来年度以降も、学生の意見を聞きながら授業内容を検討する予定である。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

- ・ 特にない。全体を通して楽しく受講できました。
- ・ 特になし。ありがとうございました。

授業の最初に、衣生活に関する内容のうち何を学びたいのかを調査したため、授業内容についてはおおむね満足したようである。

5 本授業の成果と今後の課題について

昨年度の授業内容を改善して、受講生の要望に応じて、今年度は簡単な統計分析の手法と衣生活に関する実験教材の提供を行い、半期の授業としては盛りだくさんの内容になった。そのため授業内容が深まりにくい場面も見られた。学校現場で最低限必要な衣生活分野の内容について、受講生が知っておくべき内容は非常に多いが、厳選した内容をわかりやすく教示できるように、これからも工夫を続けたい。

附属教育研究施設等

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評価実施日	平成 19 年 7 月 18 日			
授業科目名	体育授業計画研究	学期・曜日・時限	前期	期水	曜日	2 時限
授業区分	1. 教職基礎科目 ○ 2. 専門科目					
担当教員名	坂本和丈	回答者数	5 名			

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
 [2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入]

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	1	4				
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	1	3	1			
3	授業の内容には一貫性があった。	3	2				
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	1	3	1			
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	3	1	1			
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	3	2				
7	授業の進む速さは適切であった。	3	2				
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	3	1	1			
9	受講生に授業への参加（質問，発言，討議など）をよく促した。	3	1		1		
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。		2	3			
11	視聴覚機器の使用は適切であった。		1	3		1	
12	配布された資料・文献等は，授業内容を理解する上で役に立った。	2	2	1			
13	受講生に分かりやすく説明した。	4	1				
14	教員の声は聞き取りやすかった。	5					
15	板書の文字は見やすかった。	3	2				
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3		1	1		
17	この授業は，自分自身にとって満足できるものであった。	2	3				

<分 析>

本体育授業計画研究は講義形式であり，受講生は5名であった。受講生の中には修士論文作成の調査等のために数回欠席した者もみられた。各評価段階の合計をみると，評価番号5では40，評価番号4では30，評価番号3では12，評価番号2では2，評価番号1では1，という結果であった。この結果から，受講生は比較的高い評価を行っていることがわかる。しかし，評価番号3，2，1の低い評価も認められ，特に視聴覚機器の使用や受講生への質問・討議等については今後工夫し改善する必要がある。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

主な回答内容について以下に記述する。

- 1) 体育の授業を計画して行くに当たって、その体系や留意点を見いだす方法を学びたいと考え、受講した。
- 2) 実習などで、自分が授業を行う時に参考にできるような授業の組み立て方などを学び取ろうと思った。
- 3) 教員として最も大切な仕事の1つである授業計画について、その基礎となる理論を体育科の授業を通して知りたいと思った。
- 4) 体育に関する知識や情報について学べると思って受講した。
- 5) 体育科の授業をするに当たり、その前提条件として必要不可欠な授業計画についての理論を知りたかった。その上で独善的ではなく学習者にとって有意義な授業づくりができると思い受講した。

以上のような記述から、受講生は授業計画の理論や仕組みについて学習することを期待していることがわかる。特に、授業実践において授業計画が極めて重要であると認識しており、その具体的な内容や考え方についての知識・情報を求めている。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

主な回答内容について以下に記述する。

- 1) 授業をその場その場で行わず、しっかりとした計画を立てて実践していかなければならないことが理解できた。
- 2) 細かく授業内容の流れを区切って説明していただけた、とてもわかりやすかった。
- 3) 授業を計画する上での本当に根本となる部分を丁寧に教えてもらったので、他教科の授業を考える上でもためになった。
- 4) 役立つ内容ではあったが、理解しにくい部分もあった。
- 5) いざ授業ををするとしても、計画がなければ時間を無駄に使うだけで終わってしまう。この講義では、授業計画がどのような組み立てになっていて、どういう手続きでつくればいいのかわかったので、これからの実践力に繋がると思った。

以上のような記述から、受講生は本授業内容が「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」と比較的高い評価を行っている。しかし、理解度の低い受講生が見受けられることから、さらに具体的な授業実践例や授業システムの説明を行う必要があると考えられる。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点，改善してほしい点を具体的にお書きください。また，この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

主な回答内容について以下に記述する。

- 1) 少人数で密に授業を受けることができた。
- 2) 資料・文献等をもっと配布して欲しかった。
- 3) 丁寧にわかりやすく教えて下さったので良かった。

以上の記述から，本授業に対する受講生の受け止め方には差異がみられると同時に，「特記なし」の受講生もみられた。授業の改善点としては資料の配布や文献の紹介について指摘があり，この点については来年度から配慮しなければならないと考えている。受講生からのアイデアについては記述がみられなかったが，来年度からは授業オリエンテーションにおいてアイデア提案を求めることにしたい。

5 本授業の成果と今後の課題について

1) 本授業の成果

本授業において，受講生が授業実践において体育授業計画の重要性を認識し，目標－授業計画－実践－評価という一連の過程を相互に関連づけて理解していることは成果の1つである。レポート課題の提出から伺われることであるが，単元計画と各授業計画を立案する際に，その相互関連性と学習行動の体系について理解を深めていることも成果であった。

2) 今後の課題

評価項目の評定から伺われるように，資料配付や文献紹介を充実することが求められており，来年度から実行したいと考えている。また，視聴覚機器等の使用についても，授業内容との関連において適宜取り入れたい。さらに，受講生が授業へ積極的に取り組むことができるように学習動機を高めるよう努力したい。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評価実施日	平成 19 年 7 月 30 日		
授業科目名	版画制作演習	学期・曜日・時限	前期	月曜日	2時限
授業区分	専門科目				
担当教員名	武市 勝	回答者数	10名		

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
 [2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入]

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	3	6	1			
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	2	3	2			3
3	授業の内容には一貫性があった。	5	3	2			
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	4	5	1			
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	3	4	3			
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	3	5	2			
7	授業の進む速さは適切であった。	1	8	1			
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	2	8				
9	受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。	3	5	2			
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	1	5	1			3
11	視聴覚機器の使用は適切であった。	1	4	3			2
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。	1	7	2			
13	受講生に分かりやすく説明した。	4	6				
14	教員の声は聞き取りやすかった。	4	6				
15	板書の文字は見やすかった。	1	7	1			1
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	4				
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	4	6				

<分 析>・

- ・ 授業内容としては変わらないのだが、専門研究（ゼミ）生を6名抱えている年度であったため、機器の使用に関して授業と専門制作との隔てを作らざるを得なかった。
- ・ 授業では小品に絞ったが、それでも進度の差は出ていた。改善を考えたい。
- ・ これまではテキストを指定せず、その都度コピーなどの配布を行ってきたが、今後はテキストの制作配布を考えている。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分析>

「幅広い技法の習得」、「作品作り」、「基礎的技法の習得」、「多様性の理解」、「版画表現の意義の学習」、などの答えがあがっていた。「思いの表現が癒しになる」という言葉もあった。

- ・ 大学院が「基礎的技法の習得」の場という答えにはややとまどいを覚える。本学の院生の領域専門の経験は多様であるため、本当に基礎的技法の習得が必要な場合も多々ある。だが逆に学部で培った基礎的技法をさらに展開させたいと思って受講している院生もいる。この二種の学生にどう答えるかはこれまでのアンケート分析で出しており、それが現在の授業内容である。
- ・ 本授業の目的は、本年度の院生たちの書いた言葉そのものであり、それ以上の内容（展覧会への応募も含めた構成など）にはスペースや態勢の関係上、現在はブレーキをかけている。それをはずせば受講生の満足度は高まるだろうが、現状ではその必要はないと考えている。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分析>

「新しい版画技法について具体的知識技能を習得できた」、「現場での指導に役立つ技法を知ったり体験することができた」、「木版は実践に役立つと感じた」、「多色刷り技法が理解できた」、「技法の種類、方法、注意点を具体的に指導して頂けた」、「材料感やコンセプトについて理解できたので指導の際に以前より深みのある内容でできると思う」、「小学校では一部を取り入れ、工夫する余地はあると感じた」などが上がった。

- ・ 小中高校すべてに共通する内容を出すのは難しい。さらに本授業は教材研究ではなく、領域に関する技法習得である。この意味では、たとえば幼稚園への就職希望者が本授業の実技制作を行ってもほとんど現場につながらない。
- ・ ただ、「版画とは木版と紙版しかない」と思っている概念を崩し、技法体験として認識をひろげることには有用と考える。この意味では、本授業は学ぶものの経験と目的によって大きく受け取りは異なる。評価もまたそれを加味して行う必要はあるかと感じている。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分析>

「時間的に困難なのでプレスをもう一台ほしい」、「凸版や孔版なども作りたい」、「週1時間は少ない」、などがあがっている。

- ・ プレスについてはゼミ生が多い現状では無理である。
- ・ 凸版はコラグラフの中でやっている。孔版は10名以上の受講生では指導が行き届かない。
- ・ 美大系の院生の気持ちはよくわかるが、週1時間は大学の事情である。

5 本授業の成果と今後の課題について

- ・ 内容としては現状でいいと考えているが、受講生には「凹版だけ」ととらえさせず、適宜凸版や孔版の活用も考えたい。
- ・ 少しずつであるが、テキストの制作配布を行っていききたい。
- ・ 院生には一般に制作を短時間で終わらせたくない習性がある。制作時間を確保するためにはどうすればいいか課題として検討したい。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評 価 実 施 日	平成 20 年 2 月 22 日		
授業科目名	情報応用演習	学期・曜日・時限	後 期	金曜日	3 時限
授業区分	1. 教職基礎科目 ②. 専門科目				
担当教員名	曾根 直人	回答者数	3 名		

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
 [2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入]

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	1	1	1			
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	1	2				
3	授業の内容には一貫性があった。	3					
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	2	1				
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	1	2				
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	3					
7	授業の進む速さは適切であった。	3					
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	3					
9	受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。	2		1			
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	2	1				
11	視聴覚機器の使用は適切であった。	3					
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。	2	1				
13	受講生に分かりやすく説明した。	2	1				
14	教員の声は聞き取りやすかった。	2	1				
15	板書の文字は見やすかった。	2	1				
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	2				
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	2	1				

<分 析>

少ないサンプルではあるが、高い評価を得られた。受講者も少なく普段は触れることのない実際のネットワーク機器を使いながら実験を行うといった工夫が評価につながったのではないかと思う。しかし機材のほとんどがパソコンなど既に標準化したようなものではなく、特殊な操作が必要になるものが多かったため、実際に操作を体験してもらう機会が少なかった。今後はより学生が中心となって実験できるよう教材の工夫をしていきたい。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

- ・特に学校におけるネットワーク環境の改善などに参考になる内容を期待しました。
- ・小学校でのLAN管理者としての資質力量を高めたかった。
- ・教員になることで必要な知識を得ようという期待を持って。

学生はネットワークに関する知識を得ようと受講している。LAN管理者にはネットワークの基本的な考えに加えて、実際の機材の設定やトラブル解決のための問題切り分け方法など様々な知識が必要になるため、うまくバランスを取りながら授業で扱っていきたい。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

- ・新しい技術を紹介していただくに限らず、ネットワーク音基本的な考え方や構築の実習を通して実践的な知識を得ることが出来ました。
- ・実際の学校現場の状況に即した事例を取り上げたり、使える技術を紹介していただけた。
- ・今後利用するといいという題材だったので活用していききたいと思えたから。

ネットワーク分野では、様々な技術が開発されており、数年前では不可能であったことが可能になっていることも多い。学校現場で実際に役立ちそうな新技術を紹介したことが評価されたと考える。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

- ・一つの学校のネットワークなどのシステムの理想像を何時間かかけて作ってみることが出来ると、現場での活用がよりしやすく系統的になるかもしれない。
- ・教室のマジックを新しいものにしてほしい。書けなくて困ることが多かったので。

提案のあった「システムの理想像を構築する」事については今後の授業で取り入れたいと思う。またホワイトボードのマーカが書けない事が多いという指摘については、授業時にマイマーカを持ち込むことで改善したい。

5 本授業の成果と今後の課題について

ネットワークの管理を行うために必要な能力は、様々なトラブルの経験や基本的な技術を十分理解し、知識を構築する必要がある。授業だけでは十分な能力を身につけることは難しいが、問題が発生したときの判断やネットワーク構築のための基本的な考え方は理解されたのではないかと考える。基本的な知識と応用のバランスが難しいが、受講生からの提案であったように仮想のネットワーク構築を考え、それに基づいて必要な知識を習得できるような授業構成も効果的だと思われるので、今後の授業内容で検討したい。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評 価 実 施 日	平成 19 年 7 月 17 日		
授業科目名	数学科授業研究	学期・曜日・時限	前 期 火 曜 日 2 時 限		
授業区分	1. 教職基礎科目 (2). 専門科目				
担当教員名	服 部 勝 憲	回答者数	13 名		

1 アンケート [1] の集計と分析について

(5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない)
 (2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 --- 未記入)

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	6	3	4			
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	6	7				
3	授業の内容には一貫性があった。	8	3	2			
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	10	3				
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	5	5	3			
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	5	3	5			
7	授業の進む速さは適切であった。	6	5	2			
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	8	3	2			
9	受講生に授業への参加（質問，発言，討議など）をよく促した。	7	2	3		1	
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	5	3	5			
11	視聴覚機器の使用は適切であった。	4	4	5			
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。	6	2	5			
13	受講生に分かりやすく説明した。	8	4	1			
14	教員の声は聞き取りやすかった。	8	3	2			
15	板書の文字は見やすかった。	6	5	2			
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	8	4	1			
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	6	7				

<分 析>

- ・ 全般的にかなり積極的な授業評価がなされていると考えられる。
- ・ 13名の受講生の中に、諸外国からの院生、教員研修留学生 5名が受講しており、今回の授業評価では、3名が回答している。中には、言語の問題から「受講生に授業への参加（質問，発言，討議など）」に課題を残している学生がいる。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが？ 具体的にお書きください。

<分 析>

- ・授業計画、授業展開についての知識、技能を得るため。
- ・生徒の活動の組織の仕方を知るため。
- ・問題・課題の提示の方法を学ぶため。
- ・実践的な内容とその理論的な裏付けの関係を捉え、授業の再構成を考えるため。
- ・授業力を身につけるため。
- ・授業計画のポイント、留意点と授業展開のテクニックの理解のため。
- ・他校種現職教員の授業観や技術を知るため。
- ・よい授業記録(VTR)に接することができると思ったから。
- ・多様な教材の活用と授業展開の方法について理解できると考えたから。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

- ・受講生全員が模擬授業を経験できたから。
- ・具体的な指導内容を知ることができたから。
- ・各自が授業計画を立て、実際に発表する機会を持てたから。
- ・模擬授業とその後の討論の大切さが分かったから。
- ・多校種の内容を網羅し、広い視野で算数・数学の授業を考えることができたから。
- ・毎回の模擬授業を通して自分の授業力、観察力、批判力を高めることができたから。
- ・模擬授業後の解説で新たな視野を得ることができたから。
- ・授業観察、授業計画、授業展開を通して授業改善の考え方・方法を深めることができたから。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点、改善してほしい点を具体的にお書きください。また、この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

- ・模擬授業を通して、改善すべき点が見えてきた。
- ・全員が模擬授業を経験する機会があり、多様な展開を見ることができたのはよかった。
- ・もう少し時間があり、エキスパートの授業(VTR 等)を多く見ることができればよかった。

5 本授業の成果と今後の課題について

- ・全般的には、授業計画、授業準備、授業展開の一連の授業研究の過程を模擬授業の形態で実施し、授業改善の内容と方法を身に付けるというねらいに近づくことができつつある
- ・一部の受講生(現職教員)の中には、更に高い目標を持っている者もあり、全員が満足できるような展開はかなり難しいものもある。
- ・外国人留学生もいて、日本語、英語を適宜使用したが、留学生には言語能力にバラツキが大きく、細やかな対応が難しいこともあった。

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評価実施日	平成 19 年 7 月 20 日		
授業科目名	健康科学研究	学期・曜日・時限	前 期 金 曜 日 4 時 限		
授業区分	1. 教職基礎科目 ○ 2. 専門科目				
担当教員名	廣瀬 政雄	回答者数	5 名		

1 アンケート [1] の集計と分析について

[5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
 [2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入]

番号	評 価 項 目	評 価 番 号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	4		1			
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	3	1	1			
3	授業の内容には一貫性があった。	3	2				
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	3	2				
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	3	1	1			
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	4	1				
7	授業の進む速さは適切であった。	3	2				
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	3		2			
9	受講生に授業への参加（質問、発言、討議など）をよく促した。	3	1	1			
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。		2	2			
11	視聴覚機器の使用は適切であった。	3	1	1			
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。	2	3				
13	受講生に分かりやすく説明した。	3	2				
14	教員の声は聞き取りやすかった。	4		1			
15	板書の文字は見やすかった。	2	3				
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	3				
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	4	1				

<分 析>

概ね肯定的な回答であるが、全般的に良いと考えたものとそうでないものに分かれた。

2 アンケート [2] の分析について

質問： あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが、具体的に書きください。

<分析>

学生の回答した内容は

- ・ 今流行のメタボリックについて聴いてみたかった。
- ・ 学校保健を中心に社会で取り上げられている情報や医学や教育のあり方を考えてゆきたいと思って受講した。
- ・ 教職に役立つと思って受講した。
- ・ 体の仕組みを学びたい。

などであった。

3 アンケート [3] の分析について

質問： 「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的に書きください。

<分析>

学生の回答した内容は

- ・ 教師の影響力はすごいということを学んだ。
- ・ 日本の教育の在り方を広い視野にたって教えてくれた。
- ・ 自身が専門としていることを深く学べた。
- ・ 保健分野において、いろいろな専門知識を学べて、以後の資料として非常に役立つ。
- ・ 体験談から授業に興味を持てた。

などであり、期待した医学知識以上の回答が得られた。

4 アンケート [4] の分析について

質問： この授業の良かった点，改善してほしい点を具体的にお書きください。また，この授業に取り入れられるあなたのアイデアがありましたらお聞かせください。

<分 析>

学生の回答した内容は

- ・ なんでも教えてくれたのがよかった。
- ・ これからも実践例を紹介してほしいし、授業中に聴いた経験談や知識は教育に携わる人にもそうでない人にも有用である。
- ・ 一人ひとりに発言を促し、とても満足の行く授業であった。
- ・ 話が上手で、医者でありながら一般人にも理解しやすく図示説明してくれた。内容が豊富でかつユニークで楽しく有意義であった。

など、学生は授業のあり方と講義内容を楽しんだと回答した。

5 本授業の成果と今後の課題について

健康は誰にとっても大切なもので、出来るだけ多くの学生に参加してもらい、授業を楽しんでもらえるようにしたい。

鳴門教育大学大学院学校教育研究科教務委員会 委員名簿
(平成19年度)

委員長	田中雄三	理事	
副委員長	頃安利秀	第4部	(教授)
委員	木村直子	第1部	(講師) (大学院生による授業評価専門部会委員)
"	山下一夫	第1部	(教授)
"	赤松万里	第2部	(教授)
"	原田昌博	第2部	(准教授) (大学院生による授業評価専門部会委員)
"	鳥巢伊知郎	第3部	(准教授)
"	清水宏次	第3部	(教授) (大学院生による授業評価専門部会委員)
"	鈴木久人	第4部	(准教授) (大学院生による授業評価専門部会委員)
"	松井敦典	第5部	(准教授)
"	前田英雄	第5部	(教授)
"	大堀耕嗣	教務課長	
"	八幡ゆかり	研究科長指名	(教授)
"	村川雅弘	研究科長指名	(教授)
"	藪下克彦	研究科長指名	(准教授)
"	伊藤陽介	研究科長指名	(准教授) (大学院生による授業評価専門部会委員)

平成19年度 大学院生による授業評価実施報告書

平成20年9月発行

編集 鳴門教育大学大学院学校教育研究科教務委員会
発行 鳴門教育大学
〒772-8502 鳴門市鳴門町高島字中島748番地
電話 088-687-6097
FAX 088-687-6107



国立大学法人
鳴門教育大学

〒772-8502 鳴門市鳴門町高島字中島748番地
<http://www.naruto-u.ac.jp/>